

# 下水道設計標準図

令和8年4月

福岡市道路下水道局

目 次  
一 般 開 削 編

**【管規格図】**

下水道用硬質塩化ビニル管規格図	1
下水道用強化プラスチック複合管規格図	9
下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図	13
下水道用鉄筋コンクリート管規格図	25
下水道用レジンコンクリート管規格図	27
CSB管規格図	28

**【側溝規格図】**

F S型側溝（F型）	29
F S型側溝用RC蓋	30
自由勾配側溝	31
浸透側溝（自由勾配型）	32
浸透側溝（管渠型）	33
浸透側溝用透水プレート（参考図）	34
自由勾配側溝用コンクリート蓋	35
自由勾配側溝用グレーチング蓋	36
UB型側溝	37
騒音防止コンクリート蓋	38
横断暗渠	39

**【管布設工】**

塩ビ管類布設図	40
鉄筋コンクリート管布設図	42
鉄筋コンクリート管構造寸法表	43
鉄筋コンクリート管布設図	44
遠心力鉄筋コンクリート管B形はしご胴木基礎布設図	49
レジンコンクリート管布設図	50

レジンコンクリート管構造寸法表	52
ボックスカルバート布設図	53

**【土工】**

塩ビ管掘削幅算定表	54
鉄筋コンクリート管掘削幅算定基準	55

**【土留工】**

埋設矢板（側溝布設用）	56
建込土留工早見表（軽量鋼矢板）	57
土留工構造図（参考）	58
土留工構造図	61
支保工材料表	62

**【路面覆工】**

路面覆工（参考図）	63
覆工材料表（参考）	64

**【舗装工】**

道路用ブロック構造図	65
舗装復旧タイプ別構造図	66
埋戻構造基準	70
試掘箇所復旧基準	71

## 【マンホール工】

福岡市型0号及び1号組立マンホール	72
0号及び1号組立マンホール構造図	73
形状寸法	74
特殊モルタル充填量	75
福岡市型特0号マンホール	76
特0号組立マンホール構造図	77
福岡市型マシンホール	79
マシンホール上部・中間壁構造図	80
マシンホールインバート構造図	81
インバート構造図φ150用1方向流入	82
インバート構造図φ200用1方向流入	83
インバート構造図φ250用1方向流入	84
小マンホール(内径600)構造図	85
特1号マンホール(内径600×900)構造図	86
1号マンホール(内径900)構造図	87
2号マンホール(内径1200)構造図	89
3号マンホール(内径1500)構造図	92
4号マンホール(内径1800)構造図	94
5号マンホール(内径2000)構造図	96
マンホールスラブ構造詳細および配筋図	98
マンホール副管構造図	100
マンホール内副管構造図	103
足掛金物設置図	104
現場打ち用足掛金物(参考図)	105
インバート図	106
汚水枳A型(H=1.0m)標準構造図	107
汚水枳B型(H=1.0m)標準構造図	108

## 【ます及び取付管工】

福岡市型小口径汚水枳(φ200mm)及び取付管施工図	109
標準雨水枳構造図 T-14	110
埋設標識テープと埋設標示テープの施工位置例	112
取付管掘削標準断面図(汚水)	113
取付管掘削標準断面図(雨水)	114
標準取付管構造図	115
支管取り付け工	120
取付管閉塞工	121

## 【ふた】

次世代型マンホールふた(φ600)	122
下水道用鋳鉄製マンホールふた(φ600)	123
下水道用鋳鉄製汚水枳鉄ふた(φ450)	124
下水道用鋳鉄製マシンホールふた(φ300)	125
小口径汚水枳ふた関連構造図	126

目 次  
推 進 工 法 編

**【推進管規格図】**

1. 小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管の規格	127
2. 中口径管推進工法用鉄筋コンクリート管の規格	128
3. 推進用鋼管の規格	129
4. 推進用塩ビ管の規格（1）	130
5. 推進用塩ビ管の規格（2）	131
6. 推進工法用レジンコンクリート管RS形の規格	132
7. 推進工法用レジンコンクリート管RT形の規格	133
8. 推進工法用レジンコンクリート管RM形の規格	135
9. 推進用コンクリート管用空伏せ構造図（1）	137
10. 推進用コンクリート管用空伏せ構造図（2）	138
11. 鋼管用空伏せ構造図	139
12. 推進用塩ビ管空伏せ構造図（1）	140
13. 推進用レジンコンクリート管用空伏せ構造図（1）	141
14. 推進用レジンコンクリート管用空伏せ構造図（2）	142

**【地盤改良工標準図】**

1. 薬注用観測井標準図	144
--------------	-----

**【付帯工等】**

1. 路面覆工タイプ①構造図 [発進立坑①]	145
2. 路面覆工タイプ②A構造図 [発進立坑②]	146
2. 路面覆工タイプ②B構造図 [発進立坑②]	147
3. 路面覆工タイプ③構造図 [到達立坑①]	148
4. 路面覆工タイプ④構造図 [到達立坑②]	149
鋼製ケーシング式立坑用円形覆工板（参考図）（タイプ⑤）	150

目 次  
維 持 管 理 編

**【布設図】**

陶管布設図（参考図）	152
ヒューム管布設図	153
ヒューム管構造寸法表	154
ヒューム管布設図（砕石基礎）	155
ヒューム管布設図（全巻 内径200～1,000mm）	156
レジンコンクリート管布設図	157
レジンコンクリート管構造寸法表	158
取付管構造図	159

《その他》

**【保安施設】**

下水道用工事現場における保安施設設置基準	165
施設の説明	166
建設工事公衆災害防止対策要綱（抜粋）	178
保安施設配置図（参考）の運用説明	180
保安施設タイプ	181

**【その他】**

材料表	184
公共下水道台帳凡例	
公共下水道台帳凡例（施設平面図）	
処理区域～雨水ます	186
特殊雨水ます～陶管	187
硬質塩化ビニル管～病院	188
駐在所、派出所～番地	189

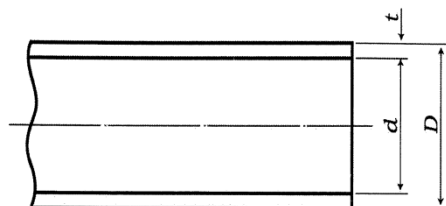
《一般開削編》

## 【管規格図】

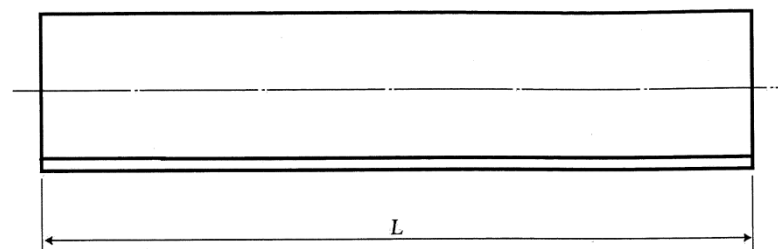
# 下水道用硬質塩化ビニル管規格図 (1)

(J S W A S K - 1 - 2010)

直管部共通寸法



プレーンエンド直管



(単位:mm)

呼び径	外 径 $D$		厚 さ $t$		参 考	
	基準寸法	平均外径の許容差	最小	許容差	内径 $d$	1 m 当たりの質量 (kg)
75	89.0	±0.3	2.7	+0.6	83.0	1.159
100	114.0	±0.4	3.1	+0.8	107.0	1.737
125	140.0	±0.5	4.1	+0.8	131.0	2.739
150	165.0	±0.5	5.1	+0.8	154.0	3.941
200	216.0	±0.7	6.5	+1.0	202.0	6.572
250	267.0	±0.9	7.8	+1.2	250.2	9.758
300	318.0	±1.0	9.2	+1.4	298.2	13.701
350	370.0	±1.2	10.5	+1.4	347.6	18.051
400	420.0	±1.3	11.8	+1.6	394.8	23.059
450	470.0	±1.5	13.2	+1.8	441.8	28.875
500	520.0	±1.6	14.6	+2.0	488.8	35.346
600	630.0	±3.2	17.8	+2.8	591.6	52.679

備考 本表は、JIS K 6741 の VU (呼び径75~600) と同一である。

(単位:mm)

呼び径	$L$
75	4 000 ± 10
100	
125	
150	
200	
250	
300	
350	
400	
450	
500	
600	

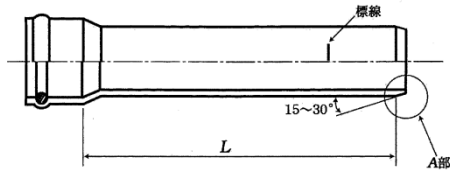
- 注 1. 平均外径の許容差とは、任意断面における直角2方向以上の外径測定値の平均値 (平均外径) と基準寸法との差をいう。
2. 表中 1 m 当たりの質量は、密度  $1.43 \text{ g/cm}^3$  で算出したものである。
3. 内径は、管の厚さを  $t$  (最小) +  $\frac{\text{許容差}}{2}$  として算出したものである。

※取付管としては、プレーンエンド直管を標準とする。

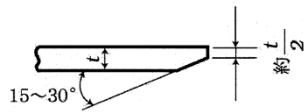
# 下水道用硬質塩化ビニル管規格図 (2)

(J S W A S K - 1 - 2010)

ゴム輪受口片受け直管 (略号 SRA)



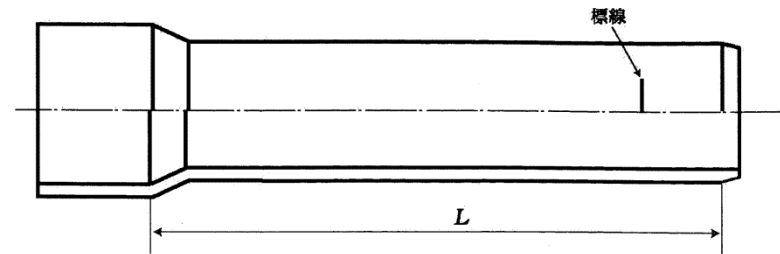
A部詳細



(単位:mm)

呼び径	L
100	4 000 ± 15
125	
150	
200	
250	
300	
350	
400	
450	
500	
600	

接着受口片受け直管 (略号 ST)



(単位:mm)

呼び径	L
100	4 000 ± 15
125	
150	
200	
250	
300	
350	
400	
450	
500	
600	

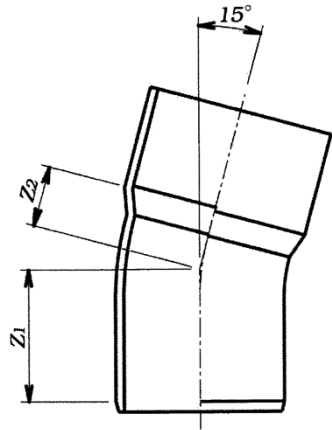
※本管は、ゴム受口片受け直管 (略号SRA) を標準とする。  
尚、接着受口片受け直管 (略号ST) は、小口径推進の鋼管内挿入管とする。

注 面取りの形状は、規定しない。

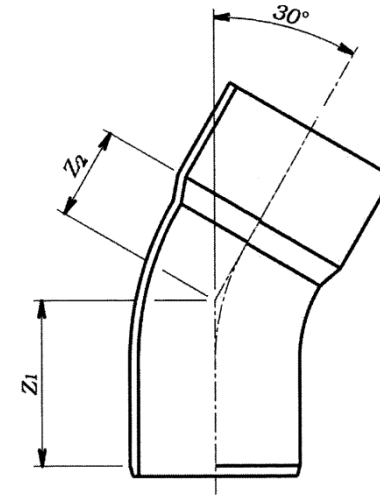
# 下水道用硬質塩化ビニル管規格図 (3)

(J S W A S K - 1 - 2010)

15度曲線 接着受口 (略号 15ST)



30度曲管 接着受口 (略号 30ST)



(単位:mm)

呼び径	$Z_1$	$Z_2$ (最小)
100	110	5
125	118	10
150	129	15
200	149	25

- 注 1.  $Z_1$ の許容差は、±15mmとする。  
 2. ゴム輪受口は、取付け管形とする。  
 3. 面取りの形状は、規定しない。

(単位:mm)

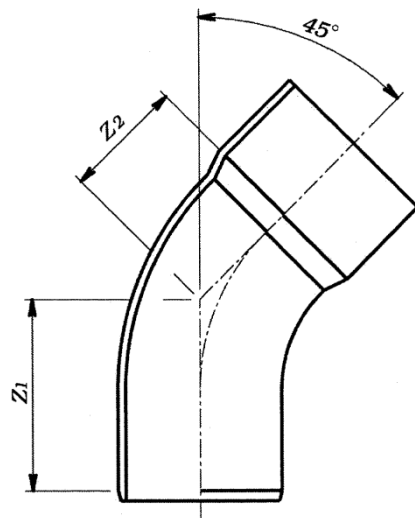
呼び径	$Z_1$	$Z_2$ (最小)
100	138	5
125	146	10
150	159	15
200	187	25

- 注 1.  $Z_1$ の許容差は、±15mmとする。  
 2. ゴム輪受口は、取付け管形とする。  
 3. 面取りの形状は、規定しない。

# 下水道用硬質塩化ビニル管規格図 (4)

## (J S W A S K - 1 - 2010)

45度曲管 接着受口 (略号 45ST)

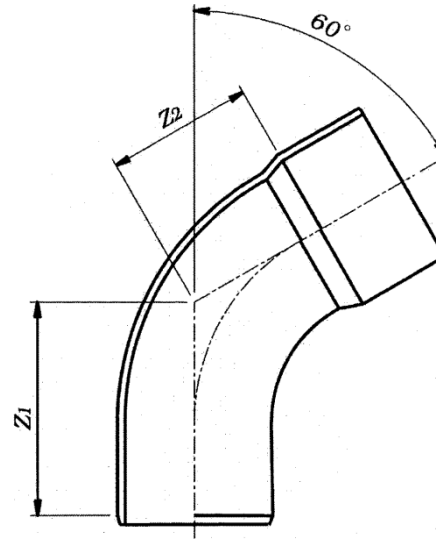


(単位:mm)

呼び径	$Z_1$	$Z_2$ (最小)
100	167	35
125	175	35
150	191	40
200	228	55

- 注 1.  $Z_1$ の許容差は、±15mmとする。  
 2. ゴム輪受口は、取付け管形とする。  
 3. 面取りの形状は、規定しない。

60度曲管 接着受口 (略号 60ST)

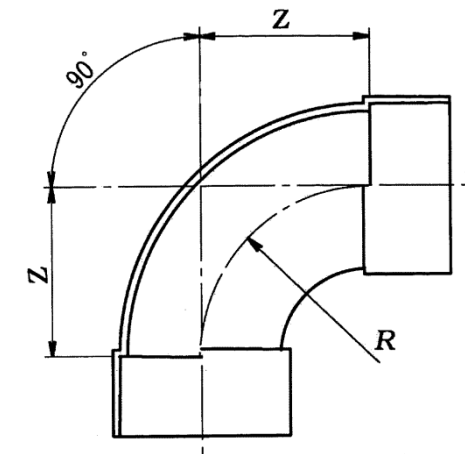


(単位:mm)

呼び径	$Z_1$	$Z_2$ (最小)
100	199	55
125	207	55
150	227	60
200	274	75

- 注 1.  $Z_1$ の許容差は、±15mmとする。  
 2. ゴム輪受口は、取付け管形とする。  
 3. 面取りの形状は、規定しない。

90度曲管 (略号 90ST)



(単位:mm)

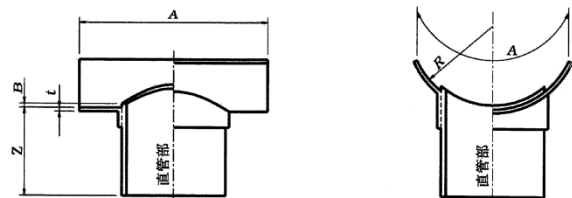
呼び径	$Z$	$R$ (参考)
75	100	100
100	128	128
125	140	140
150	170	170
200	196	196
250	225	225
300	250	250

- 注  $Z$ の許容差は、±15mmとする。

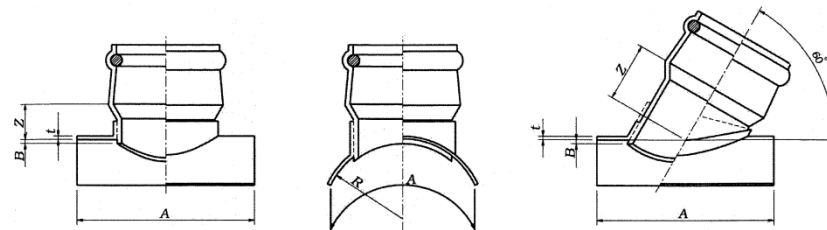
# 下水道用硬質塩化ビニル管規格図 (5)

(J S W A S K - 1 - 2010)

硬質塩化ビニル管用副管90度支管  
(略号 VS)



硬質塩化ビニル管用90度及び管軸60度支管  
90度 (略号 90SVR) 管軸60度 (略号 K60SVR)



(単位:mm)

呼び径	Z	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R
150-100	120	4	250	5.1	82.5
200-125	120	4	300	6.5	108
200-150	140				
250-125	120	4	300	7.8	133.5
250-150	140				
250-200	160				
300-150	140	4	300	9.2	159
300-200	160				
350-150	140	4	300	10.5	185
350-200	160				
400-200	160	4	300	11.8	210
400-250	200				
450-200	160				
450-250	200	4	300	13.2	235
500-250	200				
500-300	220	4	350	14.6	260
600-300	220				
600-300	220	4	350	17.8	315

(単位:mm)

呼び径	Z		t (最小)	A (最小)	B (最大)	R	呼び径	Z		t (最小)	A (最小)	B (最大)	R
	90度	60度						90度	60度				
150-100	45	80	4	230	5.1	82.5	400-100	45	80	4	300	11.8	210
200-100	45	80	4	300	6.5	108	400-125	45	85				
200-125	45	85					400-150	50	95				
200-150	50	95					400-200	50	110				
250-100	45	80					4	300	7.8	133.5	450-100	45	80
250-125	45	85	450-125	45	85								
250-150	50	95	450-150	50	95								
250-200	50	110	450-200	50	110								
300-100	45	80	4	300	9.2	159					500-100	45	80
300-125	45	85					500-125	45	85				
300-150	50	95					500-150	50	95				
300-200	50	110					500-200	50	110				
350-100	45	80					4	300	10.5	185	600-100	45	80
350-125	45	85	600-125	45	85								
350-150	50	95	600-150	50	95								
350-200	50	110	600-200	50	110								

- 注 1. 呼び径は、「本管呼び径-副管呼び径」である。  
 2. Zの許容差は、±10mmとする。  
 3. Rは、標準値を示す。  
 4. 破線で示す形状にすることもできる。  
 5. 直管部の寸法は、図-1による。

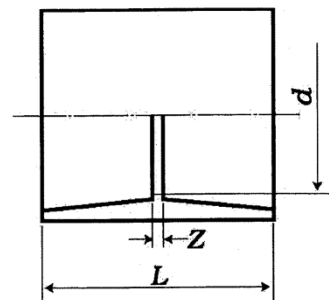
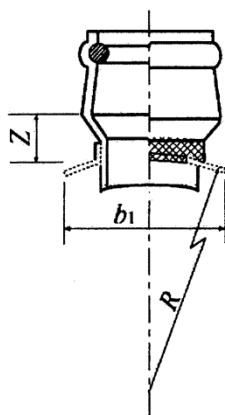
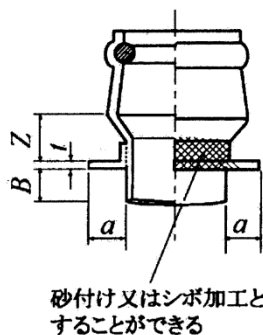
- 注 1. 呼び径は、「本管呼び径-取付け管呼び径」である。  
 2. t、A、B、Rは、90度及び管軸60度支管に共通の寸法とする。  
 3. Zの許容差は、±15mmとする。  
 4. Rは、標準値を示す。  
 5. 破線で示す形状にすることもできる。  
 6. ゴム輪受口は、取付け管形とする。

# 下水道用硬質塩化ビニル管規格図 (6)

(J S W A S K-1-2010)

鉄筋コンクリート管及び陶管用A形90度支管  
A形90度 (略号 A90SHR)

接着受口カラー (略号 WTB)



(単位:mm)

呼び径	Z	t (最小)	a (最小)	b <sub>1</sub> (最小)	B (最大)
100	45	4	35	70	25
125	45	4	35	90	25
150	50	4	35	100	25
200	50	4	35	140	25

- 注 1. Zの許容差は、±15mmとする。  
 2. Rは、本管の呼び径 500 以下は 200mm、呼び径 600 以上は 600mm を標準値とする。  
 3. 破線で示す形状にすることもできる。  
 4. ゴム輪受口は、取付け管形とする。  
 5. シボ加工とは、プラスチックの表面 (裏面) に水玉模様あるいは梨地などの浅い凹凸を付ける加工をいう。

(単位:mm)

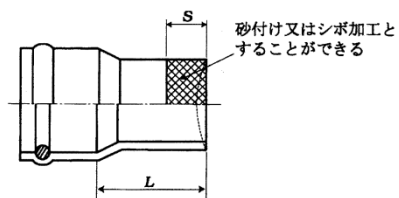
呼び径	L	Z	d (参考)
75	84	4	83
100	105	5	107
125	135	5	131
150	165	5	154
200	235	5	202
250	276	5	250
300	307	5	298

- 注 1. Lの許容差は、呼び径 75~150 は±10mm、呼び径 200~300 は±20mm とする。  
 2. Zの許容差は、±2mm とする。

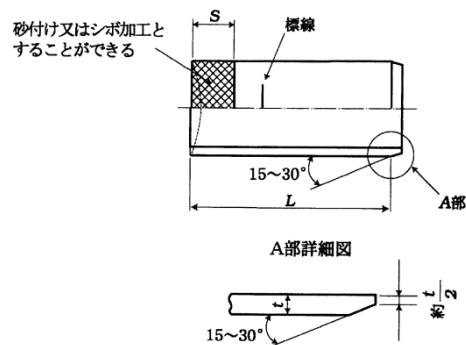
# 下水道用硬質塩化ビニル管規格図 (7)

(J S W A S K - 1 - 2010)

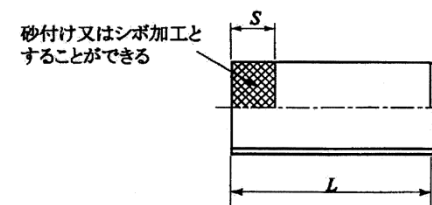
上流用マンホール継手 (略号 MR)



下流用マンホール継手 (略号 MSA)



ます取付け継手 (略号 MSB)



(単位:mm)

呼び径	L	S (参考)	
100	500 ± 15	200	
125			
150			
200			
250		250	
300			
350			
400			
450			300
500			
600	350		

- 注 1. マンホールの内径に合わせて、破線で示す形状にすることもできる。  
 2. ゴム輪受口は、本管形とする。  
 3. シボ加工とは、プラスチックの表面に水玉模様あるいは梨地などの浅い凹凸を付ける加工をいう。

(単位:mm)

呼び径	L	S (参考)	
100	500 ± 15	200	
125			
150			
200			
250			
300	750 ± 15	250	
350			
400			
450	1 000 ± 15	300	
500			
600			350
600			

- 注 1. マンホールの内径に合わせて、破線で示す形状にすることもできる。  
 2. シボ加工とは、プラスチックの表面に水玉模様あるいは梨地などの浅い凹凸を付ける加工をいう。

(単位:mm)

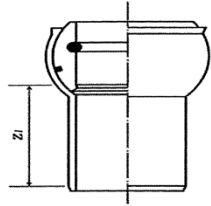
呼び径	L	S (参考)
100	500 ± 15	200
125		
150		
200		

- 注 1. 面取りの形状は、規定しない。  
 2. シボ加工とは、プラスチックの表面に水玉模様あるいは梨地などの浅い凹凸を付ける加工をいう。

# 下水道用硬質塩化ビニル管規格図 (8)

## (J S W A S K - 1 - 2010)

0度自在曲管 (略号 0SRF)

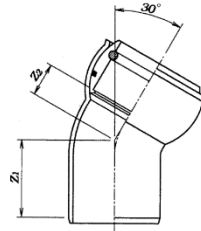


(単位:mm)

呼び径	Z <sub>1</sub> (最小)
100	90
125	100
150	110
200	125

- 注1. ゴム輪受口は、取付け管形 (自在) とする。  
 2. 面取りの形状は、規定しない。

30度自在曲管 (略号 30SRF)

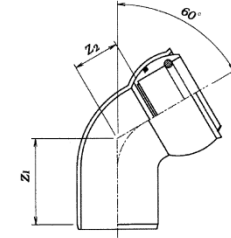


(単位:mm)

呼び径	Z <sub>1</sub> (最小)	Z <sub>2</sub> (最小)
100	98	30
125	110	41
150	117	50
200	140	75

- 注1. ゴム輪受口は、取付け管形 (自在) とする。  
 2. 面取りの形状は、規定しない。

60度自在曲管 (略号 60SRF)

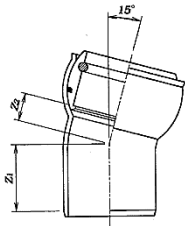


(単位:mm)

呼び径	Z <sub>1</sub> (最小)	Z <sub>2</sub> (最小)
100	112	50
125	126	61
150	134	75
200	175	121

- 注1. ゴム輪受口は、取付け管形 (自在) とする。  
 2. 面取りの形状は、規定しない。

15度自在曲管 (略号 15SRF)

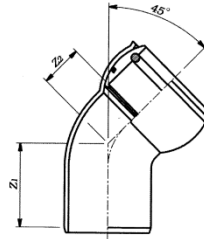


(単位:mm)

呼び径	Z <sub>1</sub> (最小)	Z <sub>2</sub> (最小)
100	90	30
125	100	31
150	101	40
200	121	54

- 注1. ゴム輪受口は、取付け管形 (自在) とする。  
 2. 面取りの形状は、規定しない。

45度自在曲管 (略号 45SRF)

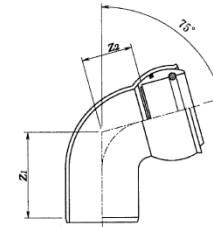


(単位:mm)

呼び径	Z <sub>1</sub> (最小)	Z <sub>2</sub> (最小)
100	107	40
125	120	51
150	130	68
200	155	93

- 注1. ゴム輪受口は、取付け管形 (自在) とする。  
 2. 面取りの形状は、規定しない。

75度自在曲管 (略号 75SRF)



(単位:mm)

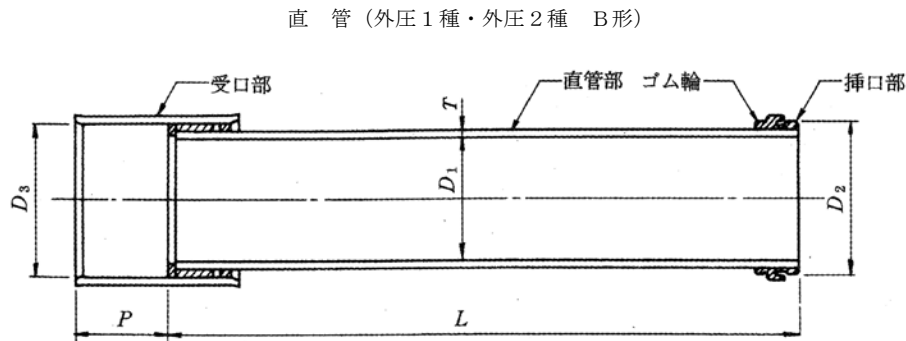
呼び径	Z <sub>1</sub> (最小)	Z <sub>2</sub> (最小)
100	123	60
125	140	75
150	155	95
200	195	135

- 注1. ゴム輪受口は、取付け管形 (自在) とする。  
 2. 面取りの形状は、規定しない。

# 下水道用強化プラスチック複合管規格図 (1)

(J S W A S K - 2 - 2023)

(単位: mm)



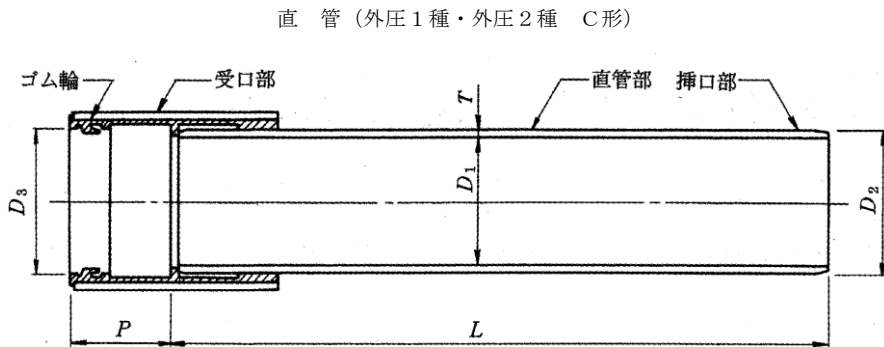
呼び径	厚さ		有効長		内径		挿口部 外径		受口部						
	T	許容差	L	許容差	D <sub>1</sub>	許容差	D <sub>2</sub>	許容差	D <sub>3</sub>	許容差	P	許容差			
200	7.0	+3 -0	4000	+30 -10	200	±1.5	229	±1.0	230.5	±1.0	140	±5			
250	7.5				250		280		281.5		150				
300	8.0				300		331		332.5		160				
350	8.5				350		382		383.5		200				
400	9.0				400		434		435.5		±1.5		220		
450	9.5				450		485		486.5				±1.5		
500	10.0	500			541	542.5	±1.5								
600	12.0	600			645	646.5		±1.5							
700	14.0	700			749	750.5			±1.5						
800	16.0	800			856	857.5				±1.5					
900	18.0	900			960	961.5					±1.5				
1 000	20.0	1 000			1 068	1 069.5						±1.5			
1 100	22.0	1 100			1 172	1 173.5	±1.5								
1 200	24.0	1 200			1 276	1 277.5		±1.5							
1 350	27.0	1 350			1 432	1 433.5			±1.5						
1 500	30.0	1 500			1 588	1 589.5				±1.5					
1 650	33.0	1 650			1 748	1 749.5					±1.5				
1 800	36.0	1 800			1 904	1 905.5						±1.5			
2 000	40.0	2 000	2 112	2 113.5	±1.5										
2 200	44.0	2 200	2 320	2 321.5		±1.5									
2 400	48.0	2 400	2 532	2 533.5			±1.5								
2 600	52.0	2 600	2 740	2 741.5				±1.5							
2 800	56.0	2 800	2 948	2 949.5					±1.5						
3 000	60.0	3 000	3 156	3 157.5						±1.5					

- 注 1. 有効長 (L) は、4 000mm 以下の他の長さとする事ができる。  
 2. 内径 (D<sub>1</sub>) および受口部内径 (D<sub>3</sub>) は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の内径測定値の算術平均値とする。  
 3. 挿口部外径 (D<sub>2</sub>) は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の外径測定値の算術平均値あるいは円周長を円周率 3.1416 で除した値とする。  
 4. 上図はB形の代表例を示す。

# 下水道用強化プラスチック複合管規格図 (2)

(J S W A S K - 2 - 2023)

(単位: mm)



直管 (外圧1種・外圧2種 C形)

呼び径	厚さ		有効長		内径		挿口部 外径		受口部			
	T	許容差	L	許容差	D <sub>1</sub>	許容差	D <sub>2</sub>	許容差	D <sub>3</sub>	許容差	P	許容差
200	7.0	+3 -0	4000	+30 -10	200	±1.5	217	±1.0	218.5	±1.0	140	±5
250	7.5				250		268		269.5			
300	8.0				300		319		320.5			
350	8.5				350		370		371.5			
400	9.0				400		421		422.5			
450	9.5				450		472		473.5			
500	10.0				500		523		524.5			
600	12.0	+5 -0			±1.5	600	627	628.5	±1.5	200		
700	14.0					700	731	732.5				
800	16.0					800	835	836.5				
900	18.0					900	939	940.5				
1 000	20.0					1 000	1 043	1 044.5				
1 100	22.0					1 100	1 147	1 148.5				
1 200	24.0					1 200	1 251	1 252.5				
1 350	27.0					1 350	1 407	1 408.5				
1 500	30.0					1 500	±3.0	1 563			1 564.5	±10
1 650	33.0					1 650	1 721	1 722.5				
1 800	36.0	+7 -0			±2.0	1 800	1 877	1 878.5	±2.0	300		
2 000	40.0					2 000	2 085	2 086.5				
2 200	44.0					2 200	2 293	2 294.5				
2 400	48.0					2 400	2 502	2 503.5				
2 600	52.0					2 600	2 710	2 711.5				
2 800	56.0					2 800	2 918	2 919.5				
3 000	60.0					3 000	3 126	3 127.5			430	

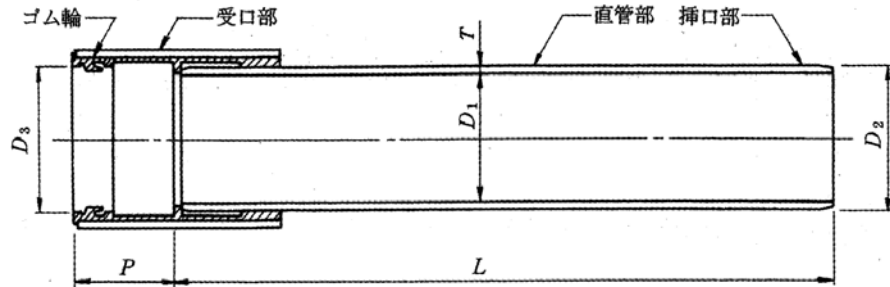
- 注 1. ゴム輪は、分割形であってもよい。  
 2. 有効長 (L) は、4 000mm 以下の他の長さとする事ができる。  
 3. 内径 (D<sub>1</sub>) および受口部内径 (D<sub>3</sub>) は、任意箇所における相互に等間隔な 2 方向以上の内径測定値の算術平均値とする。  
 4. 挿口部外径 (D<sub>2</sub>) は、任意箇所における相互に等間隔な 2 方向以上の外径測定値の算術平均値あるいは円周長を円周率 3.1416 で除した値とする。  
 5. 上図は C 形の代表例を示す。

# 下水道用強化プラスチック複合管規格図 (3)

(J S W A S K - 2 - 2023)

(単位: mm)

直管 (雨水3種 C形)



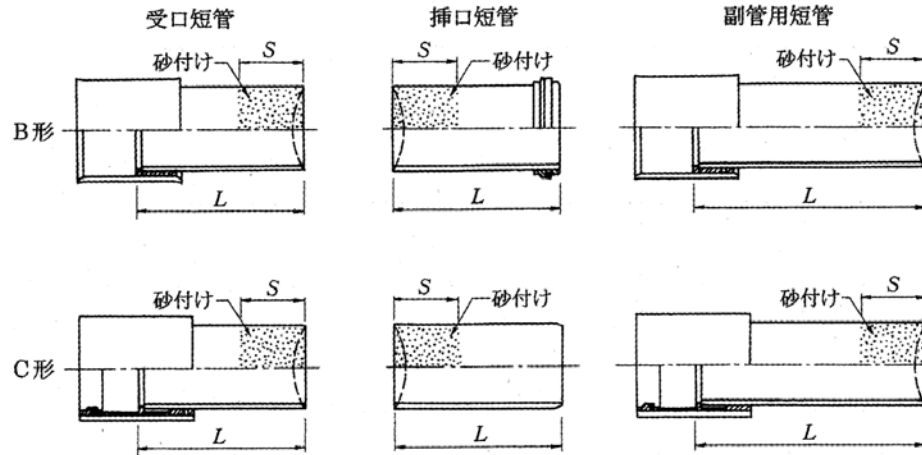
呼び径	タイプ	厚さ		有効長		内径		挿口部径		受口部													
		T	許容差	L	許容差	D <sub>1</sub>	許容差	D <sub>2</sub>	許容差	内径		長さ											
										D <sub>3</sub>	許容差	P	許容差										
500	1	8.5	+3 -0	4000	+30 -10	500	±1.5	520	±1.5	521.5	±1.5	155	-0										
	2					503				524.5													
	3	10.0	500			523	524.5																
600	1	10.5	+3 -0			4000	+30 -10	600	±1.5	624	±1.5			625.5	±1.5	155	-0						
	2							603						627				628.5					
	3	12.0	600					627	628.5														
700	1	12.0	+3 -0					4000	+30 -10	700	±1.5	727		±1.5	728.5			±1.5	175	-0			
	2									704					731						732.5		
	3	14.0	700							731	732.5												
800	1	14.0	+3 -0							4000	+30 -10	800		±1.5	831	±1.5		832.5			±1.5	175	-0
	2											804						835					
	3	16.0	800									835		836.5									
900	1	15.5	+5 -0	4000	+30 -10							900	±3.0	934	±1.5	935.5		±1.5	160		-0		
	2											905				939							
	3	18.0	900									939	940.5										
1 000	1	17.0	+5 -0			4000	+30 -10					1 000	±3.0	1 037	±1.5	1 038.5	±1.5	160				-0	
	2											1 006				1 043							
	3	20.0	1 000									1 043	1 044.5										
1 100	1	19.0	+5 -0					4000	+30 -10			1 100	±3.0	1 141	±1.5	1 142.5	±1.5		160	-0			
	2											1 106				1 147							
	3	22.0	1 100									1 147	1 148.5										
1 200	1	20.5	+5 -0							4000	+30 -10	1 200	±3.0	1 244	±1.5	1 245.5	±1.5	160					-0
	2											1 207				1 251							
	3	24.0	1 200									1 251	1 252.5										
1 350	1	23.0	+5 -0	4000	+30 -10							1 350	±3.0	1 399	±1.5	1 400.5	±1.5		160		-0		
	2											1 358				1 407							
	3	27.0	1 350									1 407	1 408.5										

- 注 1. ゴム輪は、分割形であってもよい。  
 2. 厚さ (T) は呼び径の 1.7% と 2.0% の 2 種類あるが、強度などの性能は同一である。  
 3. 有効長 (L) は、4 000mm 以下の他の長さとする事ができる。  
 4. 内径 (D<sub>1</sub>) および受口部内径 (D<sub>3</sub>) は、任意箇所における相互に等間隔な 2 方向以上の内径測定値の算術平均値とする。  
 5. 挿口部外径 (D<sub>2</sub>) は、任意箇所における相互に等間隔な 2 方向以上の外径測定値の算術平均値あるいは円周長を円周率 3.1416 で除した値とする。  
 6. 上図は C 形の代表例を示す。  
 7. 雨水 3 種は 3 タイプあるが外圧強さは同一であることから、タイプ別の選定基準は特に設けなくてよい。

# 下水道用強化プラスチック複合管規格図 (4)

(J S W A S K - 2 - 2023)

マンホール短管



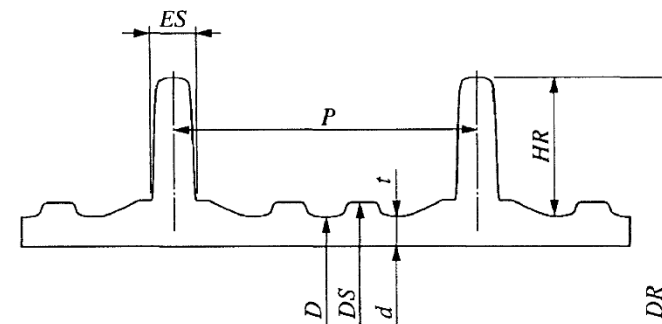
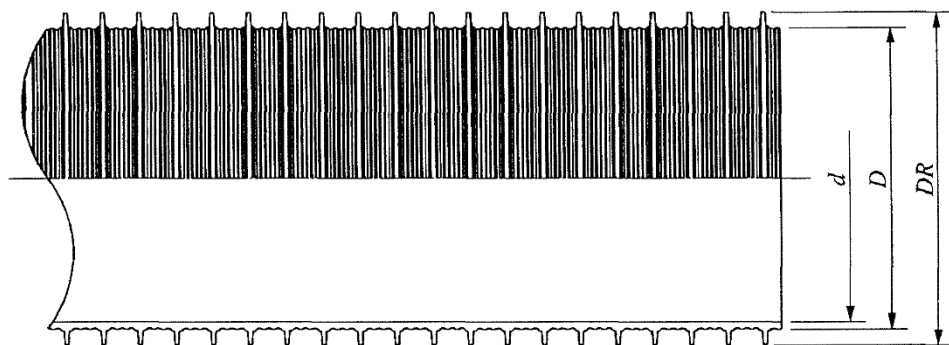
(単位：mm)

呼び径	受口短管		挿口短管		副管用短管	
	有効長 (標準) <i>L</i>	砂付け長さ (参考) <i>S</i>	有効長 (標準) <i>L</i>	砂付け長さ (参考) <i>S</i>	有効長 (標準) <i>L</i>	砂付け長さ (参考) <i>S</i>
200～350	500	250	500	250	1 000	250
400～700	750	300	750	300	1 250	300
800～1 350	1 000	400	1 000	400	1 500	400
1 500～2 000	1 500	600	1 500	600	2 000	600
2 200～3 000	2 000	800	2 000	800	—	

注 厚さ (*T*)、内径 (*D<sub>1</sub>*)、挿口部外径 (*D<sub>2</sub>*)、受口部内径 (*D<sub>3</sub>*) および受口部長さ (*P*) は、直管の同じ呼び径の寸法とする。

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (1)

(J S W A S K - 1 3 - 2003)



(単位 : mm)

呼び径	シール部外径 DS		厚 さ t		リブ間隔 P		標準値				参 考	
	基準寸法	許容差	最小	許容差	基準寸法	許容差	外 径 D	リブ外径 DR	リブ高さ HR	リブ幅 ES	近似内径 d	1m 当りの質量(kg)
150	157.5	±0.6	2.4	+0.8 0	19.1	±0.6	155.5	171.0	7.7	3.1	150	3.000
200	207.7	±0.7	2.4		25.4	±0.8	205.5	228.8	11.6	3.6	200	4.350
250	258.5	±0.9	2.7		30.5	±0.9	256.1	286.2	15.0	4.4	250	6.380
300	309.7	±1.0	3.0	+1.2 0	38.1	±1.1	307.1	343.6	18.2	5.4	300	9.020
350	360.2	±1.1	3.1		38.1	±1.1	357.4	400.6	21.6	5.9	350	12.030
400	411.0	±1.3	3.3	+1.4 0	38.1	±1.1	407.6	448.4	20.4	5.8	400	13.860
450	461.8	±1.4	3.5		38.1	±1.1	457.8	502.0	22.1	6.8	450	17.360

注1. 外径及びリブ外径は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の外径測定値及びリブ外径測定値の平均値をいう。

2. 表中 1m 当りの質量は、密度 1.43 g/cm<sup>3</sup> で算出したものである。

3. リブ根元部分の詳細形状については、規定しない。

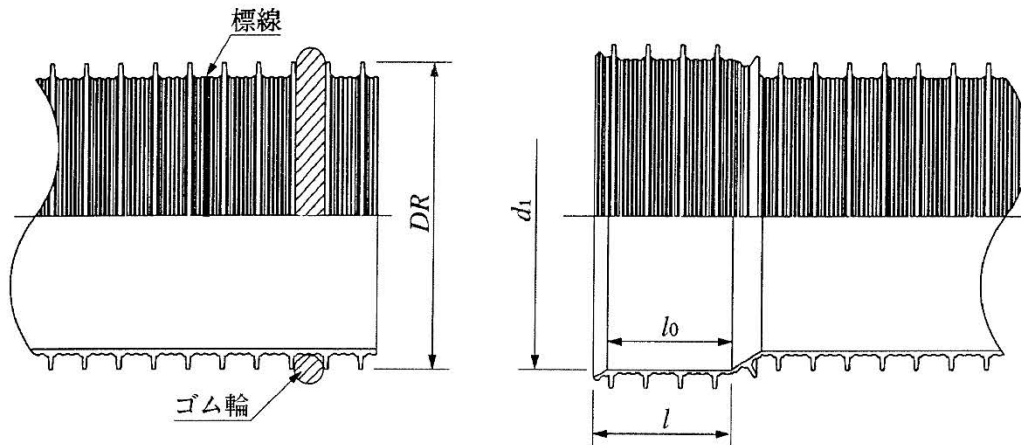
直管部共通寸法

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (2)

(J S W A S K - 1 3 - 2003)

直管、異形管受口及びゴム輪差し口共通寸法

(単位: mm)



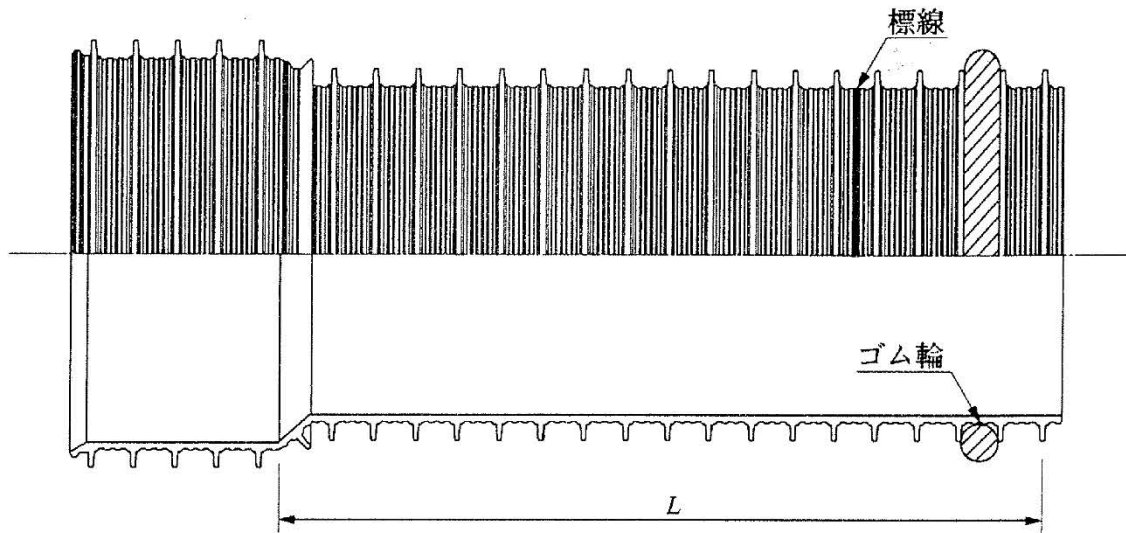
呼び径	差し口部	受口部			
	リップ外径 $DR$ (標準値)	受口内径 $d_1$ (最小)	平行部長さ $l_0$ (最小)	受口長さ $l$ (標準値)	接合長さ $e$ (参考)
150	171.0	171.7	90	100	61.3
200	228.8	229.7	100	115	61.9
250	286.2	287.3	115	140	69.2
300	343.6	344.9	135	170	77.8
350	400.6	402.1	135	170	77.8
400	448.4	450.2	135	170	77.8
450	502.0	504.0	135	170	77.8

- 注 1. 受口部内径  $d_1$  は、任意箇所における相互に等間隔な 2 方向以上の内径測定値の平均値とする。
2. ゴム輪の形状は、規定しない。
3. ゴム輪差し口でのゴム輪取付け位置は、管端より第 2 番目と第 3 番目のリップの間とする。
4. 標線位置は、呼び径 150 の場合は管端より第 6 番目と第 7 番目のリップの間、呼び径 200 以上の場合は第 5 番目と第 6 番目のリップの間とする。
5. 接合長さ  $e$  は、平行部長さ  $l_0$  (最小) -  $(1.5 \times \text{リップ間隔 } P)$  として算出したものである。

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (3)

(J S W A S K - 1 3 - 2003)

片受け直管  
(略号 PRP)



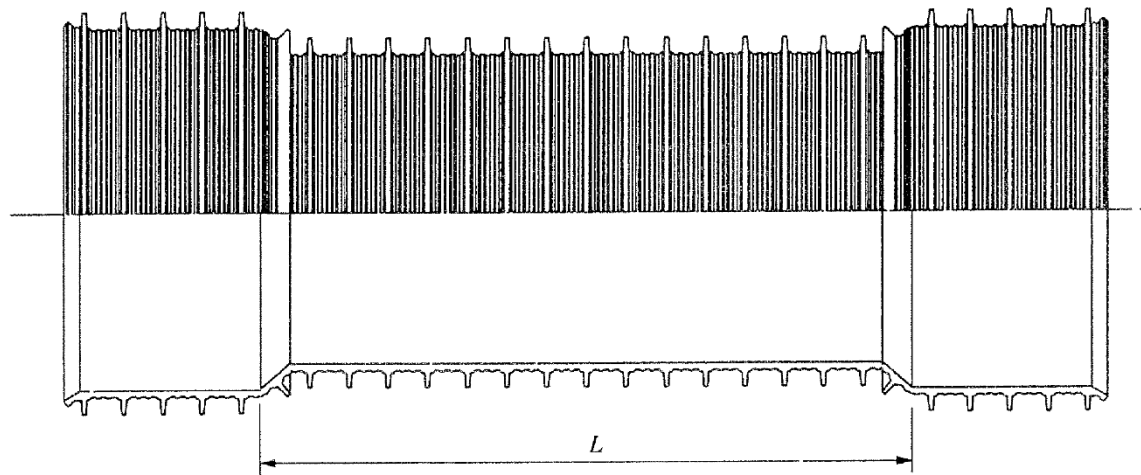
(単位 : mm)

呼び径	L
150	4000 <sup>+30</sup> <sub>-10</sub>
200	
250	
300	4000 <sup>+40</sup> <sub>-10</sub>
350	
400	
450	

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (4)

(J S W A S K - 1 3 - 2003)

両受け直管  
(略号 WPRP)



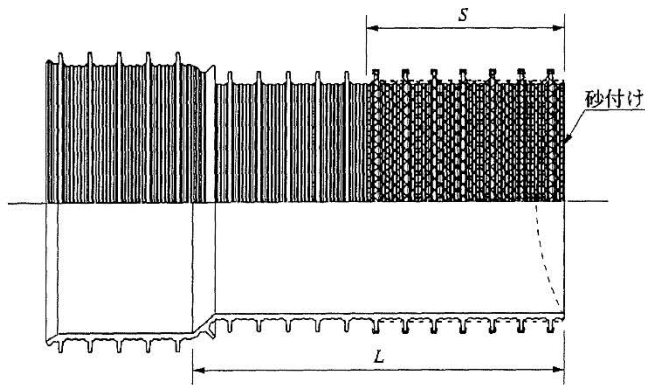
(単位 : mm)

呼 び 径	$L$ (最 小)
150	3800
200	
250	
300	3750
350	
400	
450	

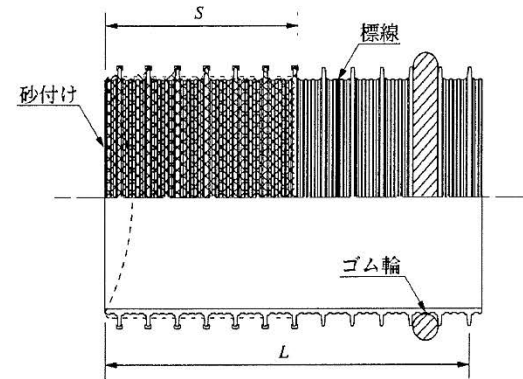
# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (5)

(J S W A S K - 1 3 - 2003)

上流用マンホール継手  
(略号 MR-PRP)



下流用マンホール継手  
(略号 MSA-PRP)



(単位: mm)

呼び径	L	S (参考)
150	500 +30 -10	250
200		
250		
300	500 +40 -10	
350		
400		
450		

注 マンホールの内径に合わせて破線で示す形状にすることができる。

(単位: mm)

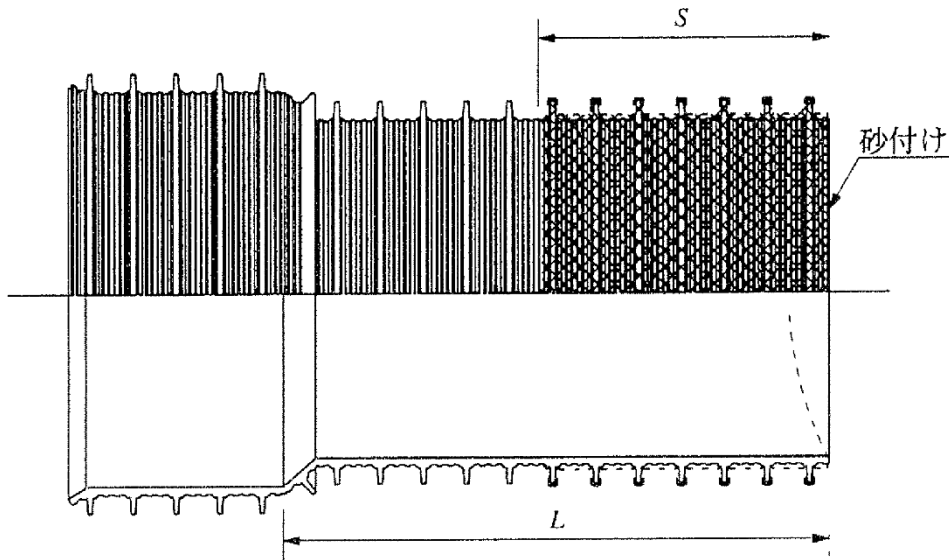
呼び径	L	S (参考)
150	500 +30 -10	250
200		
250		
300	500 +40 -10	
350		
400		
450		

注 マンホールの内径に合わせて破線で示す形状にすることができる。

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (6)

(J S W A S K - 1 3 - 2 0 0 3)

副管分岐用マンホール継手  
(略号 MRL-PRP)



(単位: mm)

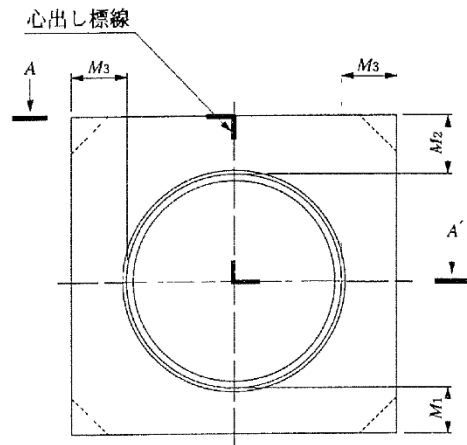
呼び径	L	S (参考)
150	1000 <sup>+30</sup> <sub>-10</sub>	250
200		
250		
300	1000 <sup>+40</sup> <sub>-10</sub>	
350		
400		
450		

注 マンホールの内径に合わせて破線で示す形状にすることができる。

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (7)

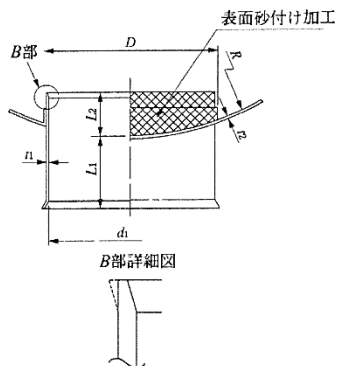
(J S W A S K - 1 3 - 2003)

くら型マンホール継手  
(略号 MRK-PRP)



円形マンホール用

A-A'断面



円形マンホール用

(単位: mm)

呼び径	$d_1$ (最小)	$D$ (参考)	$L_1$ (参考)	$L_2$ (参考)	$M_1$ (参考)	$M_2$ (参考)	$M_3$ (参考)	$t_1$ (最小)	$t_2$ (最小)	$R$
150-900	171.7	200	100	75				4.5		450
200-900	229.7	260	108					5.8		
250-900	287.3	325	126					7.0		
150-1050	171.7	200	100	75	50	80	75	4.5	4	525
200-1050	229.7	260	108					5.8		
250-1050	287.3	325	126					7.0		
300-1050	344.9	385	149	100				8.2		700
350-1050	402.1	440	154					9.4		
150-1400	171.7	200	100					4.5		
200-1400	229.7	260	108	100				5.8		700
250-1400	287.3	325	126					7.0		
300-1400	344.9	385	149					8.2		
350-1400	402.1	440	154	100				9.4		700
400-1400	450.2	505	190					10.6		
450-1400	504.0	565	195					11.8		

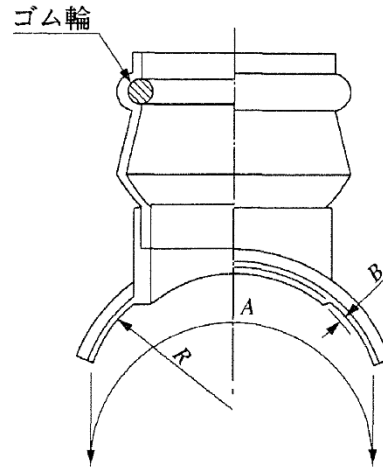
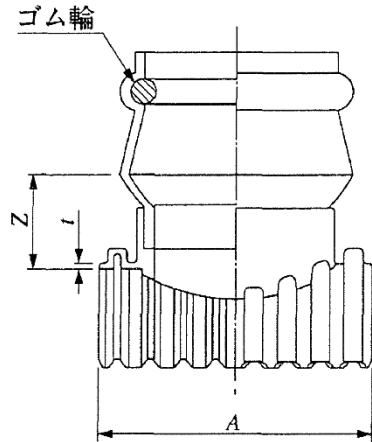
- 注1. 呼び径は、「本管呼び径-マンホール外径」とする。  
 注2. 形状は、破線で示すものとしてすることができる。  
 注3.  $D$  及び  $d_1$  は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の直径測定値の平均値をいう。  
 注4.  $R$  は標準値を示すものであり、許容差は規定しない。

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 ( 8 )

( J S W A S K - 1 3 - 2003 )

(単位 : mm)

90度支管(取付け管用)  
(略号 90SVR-PRP)



呼び径	Z	A (最小)	B (最大)	t (最小)	R
150-100	68	195	4.5	4	79
200-100	68	205	4.6		104
200-125	68	255			
200-150	73	255			
250-100	71	190	5.0		129
250-125	71	250			
250-150	76	250			
250-200	91	310			
300-100	75	240	5.5		155
300-150	80	300			
300-200	95	315			
350-100	78	240	5.8		180
350-150	83	285			
350-200	98	315			
400-100	81	240	6.5		206
400-150	86	285			
400-200	101	315			
450-100	84	240	6.7	231	
450-150	89	285			
450-200	104	315			

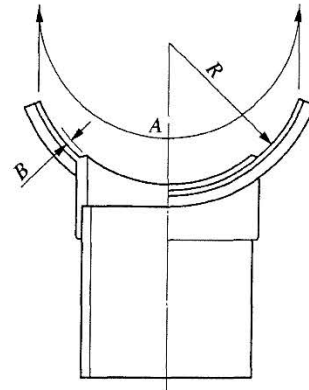
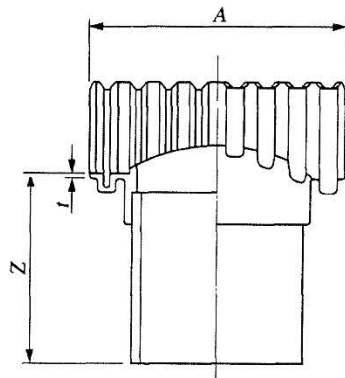
- 注 1. 呼び径は、「本管呼び径-取付け管呼び径」である。  
 2. Zの許容差は、±15mmとする。  
 3. Rは標準値を示すものであり、許容差は規定しない。  
 4. ゴム輪の形状及びサドルと短管の接合部の詳細は、規定しない。

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (9)

(J S W A S K - 1 3 - 2003)

副管用 90 度支管  
(略号 VS-PRP)

(単位 : mm)



呼び径	Z	A (最 小)	B (最 大)	t (最 小)	R
150-100	124	195	4.5	4	79
200-125	143	255	4.6		104
200-150	163	255	5.0		129
250-125	146	250			
250-150	166	250	5.5		155
250-200	201	310			
300-150	170	300	5.8		180
300-200	205	315			
350-150	173	285	6.5		206
350-200	208	315			
400-200	211	315	6.7		231
450-200	214	315			

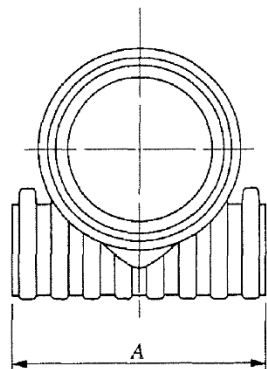
- 注 1. 呼び径は、「本管呼び径-取付け管呼び径」である。  
 注 2. Zの許容差は、±10mmとする。  
 注 3. Rは標準値を示すものであり、許容差は規定しない。  
 注 4. サドルと短管の接合部の詳細は、規定しない。

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 (10)

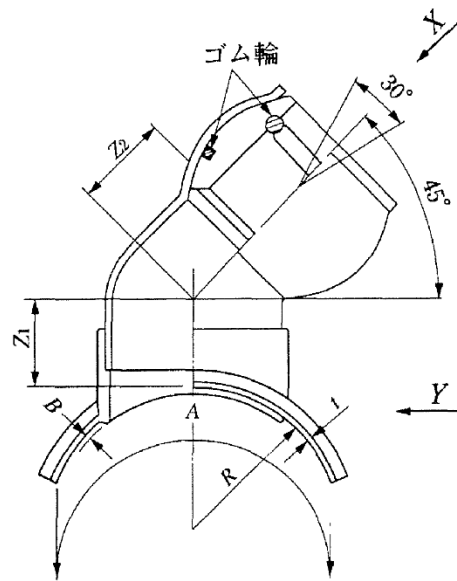
(J S W A S K - 1 3 - 2003)

45度自在支管(取付け管用)  
(略号 45SVRF-PRP)

(単位: mm)



上部: X矢視図  
下部: Y矢視図



呼び径	Z <sub>1</sub> (最小)	Z <sub>2</sub> (最小)	A (最小)	B (最大)	t (最小)	R
150-100	62	40	195	4.5	4	79
200-100	62	40	205	4.6		104
200-125	67	51	255			
200-150	75	68	255			
250-100	65	40	190	5.0	4	129
250-125	70	51	250			
250-150	78	68	250			
250-200	88	93	310			
300-100	69	40	240	5.5	4	155
300-150	82	68	300			
300-200	92	93	315			
350-100	72	40	240	5.8	4	180
350-150	85	68	285			
350-200	95	93	315			
400-100	70	70	240	6.5	4	206
400-150	83	98	285			
400-200	90	123	315			
450-100	73	73	240	6.7	4	231
450-150	86	101	285			
450-200	93	126	315			

- 注1. 呼び径は、「本管呼び径-取付け管呼び径」である。  
 注2. Rは標準値を示すものであり、許容差は規定しない。  
 注3. ゴム輪の形状及びサドルと短管の接合部の詳細は、規定しない。

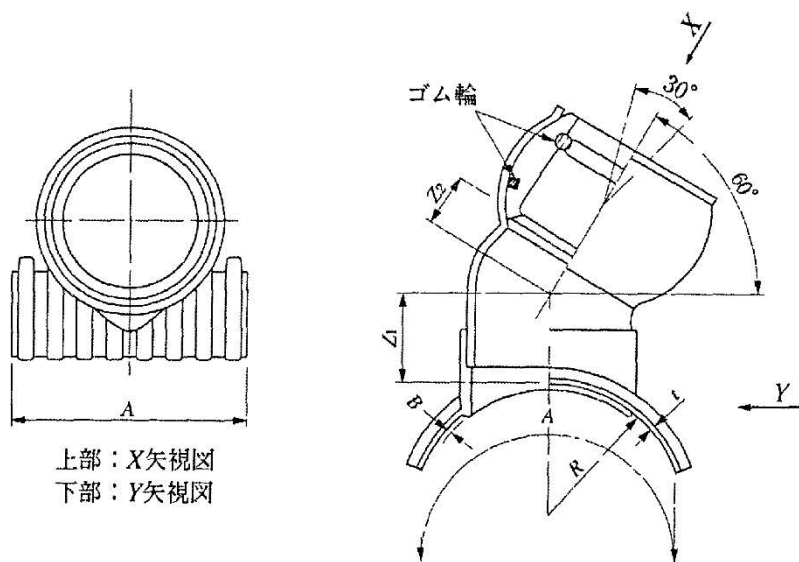
# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 ( 1 1 )

( J S W A S K - 1 3 - 2003 )

60度自在支管(取付け管用)

(略号 60SVRF-PRP)

(単位: mm)



上部: X矢視図  
下部: Y矢視図

呼び径	Z <sub>1</sub> (最小)	Z <sub>2</sub> (最小)	A (最小)	B (最大)	t (最小)	R	
150-100	52	30	195	4.5	4	79	
200-100	52	30	205	4.6		104	
200-125	57	41	255				
200-150	62	50	255				
250-100	55	30	190	5.0			129
250-125	60	41	250				
250-150	65	50	250				
250-200	70	86	310	5.5			155
300-100	58	30	240				
300-150	68	50	300				
300-200	73	86	315	5.8	180		
350-100	61	30	240				
350-150	71	50	285				
350-200	76	86	315	6.5	206		
400-100	64	30	240				
400-150	74	50	285				
400-200	79	86	315	6.7	231		
450-100	67	30	240				
450-150	77	50	285				
450-200	82	86	315				

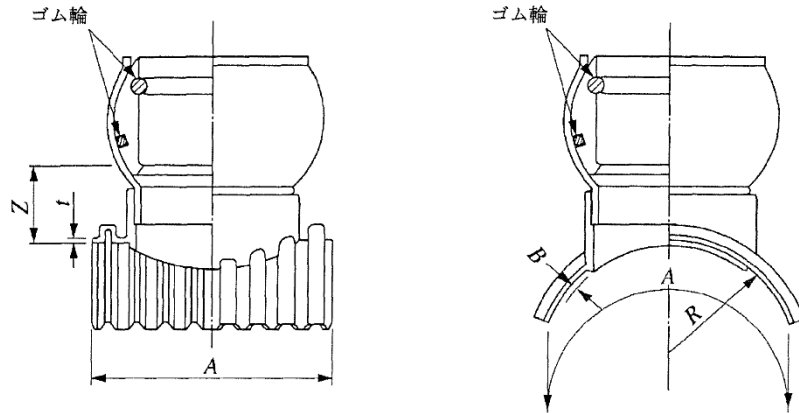
- 注 1. 呼び径は、「本管呼び径-取付け管呼び径」である。  
 2. R は標準値を示すものであり、許容差は規定しない。  
 3. ゴム輪の形状及びサドルと短管の接合部の詳細は、規定しない。

# 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管規格図 ( 1 2 )

( J S W A S K - 1 3 - 2003 )

90度自在支管(取付け管用)  
(略号 90SVRF-PRP)

(単位:mm)

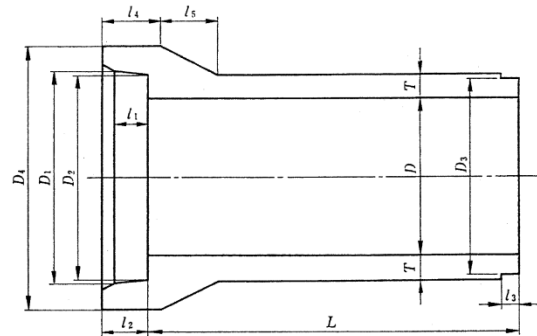


呼び径	Z	A (最小)	B (最大)	t (最小)	R
150-100	55	195	4.5	4	79
200-100	55	205	4.6		104
200-125	60	255			
200-150	65	255			
250-100	60	190	5.0		129
250-125	65	250			
250-150	70	250			
250-200	75	310			
300-100	65	240	5.5		155
300-150	75	300			
300-200	80	315	5.8		180
350-100	65	240			
350-150	75	285			
350-200	80	315	6.5		206
400-100	70	240			
400-150	80	285			
400-200	85	315			
450-100	70	240	6.7		231
450-150	80	285			
450-200	85	315			

- 注 1. 呼び径は、「本管呼び径-取付け管呼び径」である。  
 2. Rは標準値を示すものであり、許容差は規定しない。  
 3. ゴム輪の形状及びサドルと短管の接合部の詳細は、規定しない。

# 下水道用鉄筋コンクリート管規格図 (1)

(J S W A S A-1-2011)



(単位: mm)

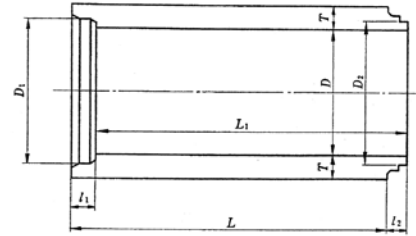
呼び径	内径 D	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	D <sub>3</sub>	D <sub>4</sub>	厚さ T	l <sub>1</sub>	l <sub>2</sub>	l <sub>3</sub>	l <sub>4</sub>	l <sub>5</sub>	有効長 L		
150	150±3	210±2	206	194±2	262	26 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	65	90±5	32±4	115	50	2 000 <sup>+10</sup> <sub>-5</sub>		
200	200±3	262±2	258	246±2	316	27 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>				55				
250	250±3	314±2	310	298±2	370	28 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>				60				
300	300±4	368±2	364	350±2	424	30 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>			120	65				
350	350±4	422±2	418	404±2	482	32 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>				70				
400	400±4	478±2	474	460±2	544	35 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>	70	95±5	36±4	125	75	2 430 <sup>+10</sup> <sub>-5</sub>		
450	450±4	534±2	530	516±2	606	38 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>				85				
500	500±4	592±2	588	574±2	672	42 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>				100				
600	600±4	708±2	704	690±2	804	50 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>			75	105±5	135		100	
700	700±4	824 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	820	802 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	936	58 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>					110±5		140	115
800	800±4	940 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	936	918 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 068	66 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>	80	110±5	40±5	150	130	2 430 <sup>+10</sup> <sub>-5</sub>		
900	900±4	1 058 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 054	1 036 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 204	75 <sup>+4</sup> <sub>-2</sub>				115±5	160		150	
1 000	1 000±6	1 172 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 168	1 150 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 332	82 <sup>+6</sup> <sub>-3</sub>				120±5	165		165	
1 100	1 100±6	1 286 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 282	1 260 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 458	88 <sup>+6</sup> <sub>-3</sub>			100	125±5	42±5		175	175
1 200	1 200±6	1 400 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 396	1 374 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 586	95 <sup>+6</sup> <sub>-3</sub>							104	130±5
1 350	1 350±6	1 566 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 562	1 540 <sup>+3</sup> <sub>-2</sub>	1 768	103 <sup>+6</sup> <sub>-3</sub>	108	135±5	195	205				

注 呼び径 150 及び 200 の管の有効長(L)は 500mm 又は 1 000mm、呼び径 250～350 の管の有効長(L)は 1 000mm、  
呼び径 400～1 350 の管の有効長(L)は 1 200mm とすることができる。

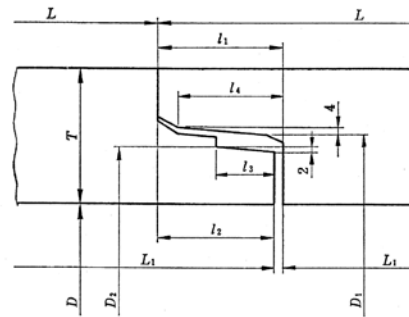
B形の形状、寸法及び寸法の許容差

# 下水道用鉄筋コンクリート管規格図 (2)

(J S W A S A-1-2011)



(継手部詳細図)



(単位: mm)

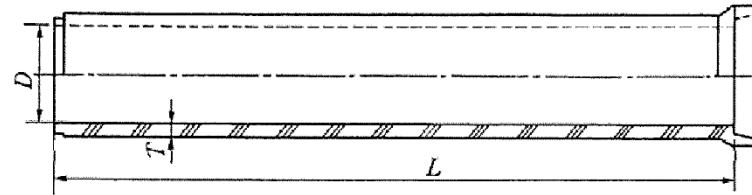
呼び径	内径 $D$	$D_1$	$D_2$	厚さ $T$	$l_1$	$l_2$	$l_3$	$l_4$	有効長 $L$	$L_1$
1 500	1 500±8	1 632±3	1 598±2	140 <sup>+8</sup> <sub>-4</sub>						
1 650	1 650±8	1 792±3	1 758±2	150 <sup>+8</sup> <sub>-4</sub>						
1 800	1 800±8	1 950±3	1 916±2	160 <sup>+8</sup> <sub>-4</sub>	120±2	115±2	55	105		
2 000	2 000±10	2 164±3	2 130±2	175 <sup>+10</sup> <sub>-5</sub>						
2 200	2 200±10	2 378±3	2 344±2	190 <sup>+10</sup> <sub>-5</sub>					2 300 <sup>+10</sup> <sub>-5</sub>	2 295
2 400	2 400±10	2 594±3	2 550±2	205 <sup>+10</sup> <sub>-5</sub>						
2 600	2 600±12	2 808±4	2 764±3	220 <sup>+12</sup> <sub>-6</sub>						
2 800	2 800±12	3 022±4	2 978±3	235 <sup>+12</sup> <sub>-6</sub>	135±2	130±2	65	120		
3 000	3 000±12	3 236±4	3 192±3	250 <sup>+12</sup> <sub>-6</sub>						

NC形の形状、寸法及び寸法の許容差

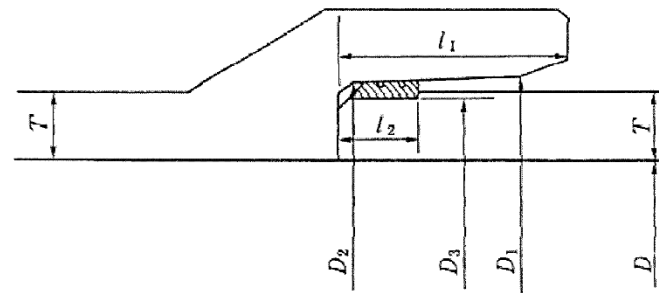
# 下水道用レジンコンクリート管規格図

(J S W A S K - 1 1 - 2 0 1 0)

B形の形状、寸法及び寸法の許容差



(継手部詳細図)

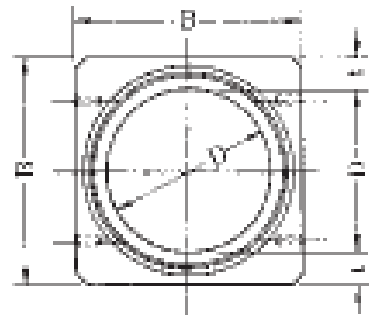


(単位：mm)

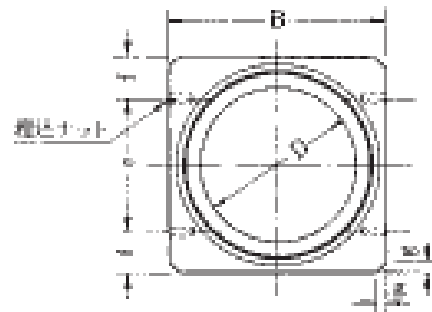
呼び径	内径 $D$	$D_1$	$D_2$	$D_3$	管厚 $T$	$l_1$	$l_2$	有効長 $L$	参考質量 (kg)
150	150	192	188	176	15 +3	70	27	2000	36
200	200 ± 3	242	238	226	15 -2				50
250	250	296	292	280	17				69
300	300	352	348	333	19	75	± 2	± 5	92
350	350	408 ± 2	404	390	23				129
400	400 ± 4	468	464	450	28 +4				216
450	450	520	516	502	30 -2	80	30	2430	259
500	500	580	576	560	34	85			326
600	600	690	686	670	40				460

注 呼び径150～350の管の有効長(L)は1000mm、呼び径400～600の管の有効長(L)は1200mmにすることができる。

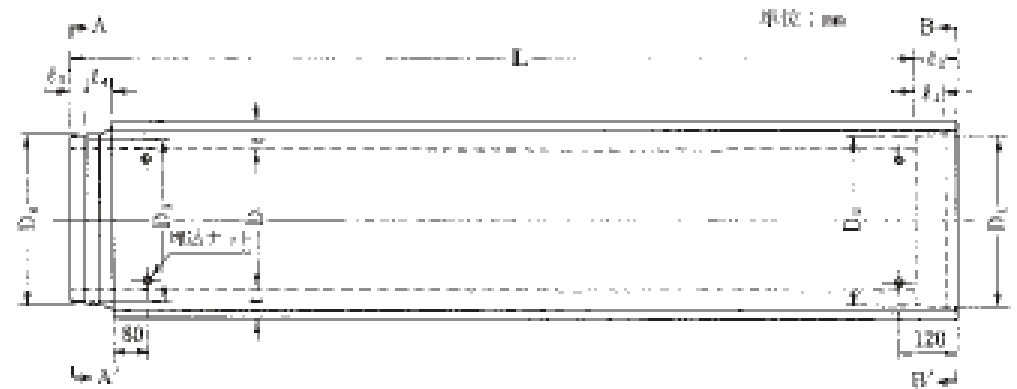
# CSB管規格図



A 断面



B 断面



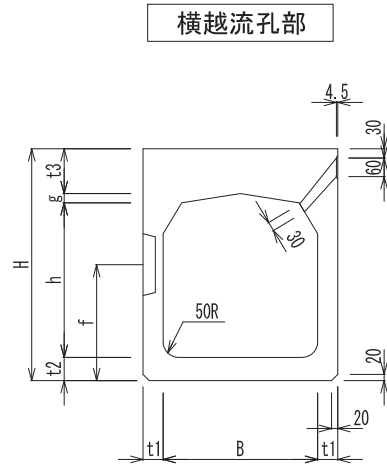
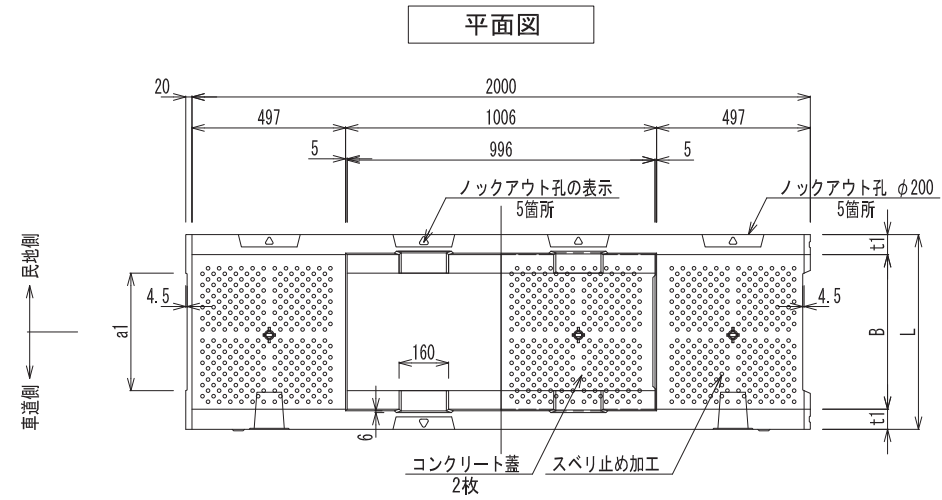
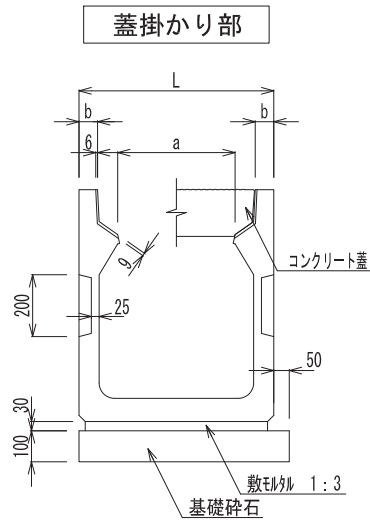
単位：mm

単位：mm																
呼び径	内径 D	高さ・幅 B	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	D <sub>3</sub>	D <sub>4</sub>	厚さ t	ℓ <sub>1</sub>	ℓ <sub>2</sub>	ℓ <sub>3</sub>	ℓ <sub>4</sub>	e	f	g	有効長 L	参考質量 (kg)
150	150	254	210	206	194	202	52	65	90	32	58	124	65	30	2000	220
200	200	308	262	258	246	254	54	65	90	32	58	178	65	30	2000	301
250	250	362	314	310	298	306	56	65	90	32	58	202	80	30	2400	470
300	300	420	368	364	350	360	60	65	90	36	54	260	80	30	2400	610
350	350	478	422	418	404	414	64	65	90	36	54	308	85	30	2400	766
400	400	540	478	474	460	470	70	70	95	36	59	370	85	30	2400	963
450	450	604	534	530	516	526	77	70	95	36	59	414	95	30	2400	1200
500	500	666	592	588	574	584	83	70	95	36	59	476	95	30	2400	1440
600	600	786	708	704	690	700	93	75	100	36	64	566	110	30	2400	1960
700	700	910	824	820	802	816	105	75	105	40	65	680	115	30	2400	2590
800	800	1032	940	936	918	932	116	80	110	40	70	792	120	30	2400	3270
900	900	1152	1058	1054	1036	1050	126	85	115	40	75	882	135	30	2400	4030
1000	1000	1270	1172	1168	1150	1164	135	96	120	40	80	980	145	30	2400	4830
1100	1100	1400	1286	1282	1260	1276	150	100	125	42	83	1000	200	50	2400	5900

- 注1. 継手部を緊結する必要がある場合は、緊結金具を用います。  
 注2. 継手部を緊結しない場合は、下部のインサートを省くことができます。  
 注3. 自動車荷重T-25に耐えるものです。  
 注4. 寸法は、一部変更することもあります。

## 【側溝規格図】

# F S 型側溝 (F 型)

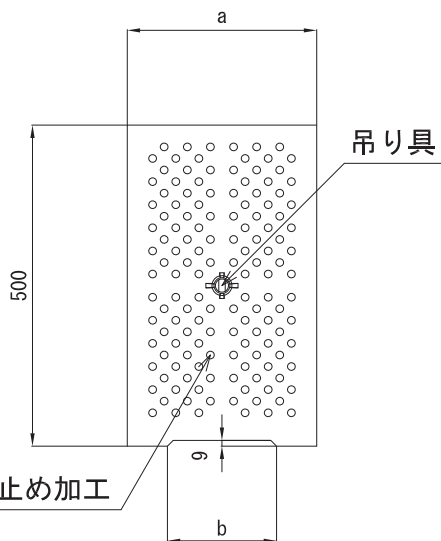
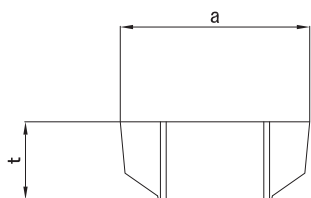


種別 (B × h)	寸法表 (mm)										材 料 表 (10m当り)			摘 要
											側溝本体 (個)	敷モルタル 参考重量 (kg/個)	基礎材 (m <sup>3</sup> )	
	FS- 300 × 300	410	500	55	65	115	180	180	55	200	20	5	481	
FS- 300 × 400	420	605	60	70	60				270	571			0.114	1.47
FS- 300 × 500	430	710	65	75	65				375	671			0.117	0.48
FS- 300 × 600	440	820	70	85	125	280	280	70	485	20	791		0.120	0.49
FS- 400 × 400	510	615	55	70				55	270		621		0.141	0.56
FS- 400 × 500	520	715	60	70				60	370		706		0.144	0.57
FS- 400 × 600	540	825	70	80	145	380	380	70	480	30	865		0.150	0.59
FS- 500 × 500	630	750	65	75				60	375		870		0.177	0.68

基礎材は特に指示がない場合は、再生クラッシャーランを標準とする。  
 ※F S型側溝蓋は10m(5本)当り10枚(L=500mm/枚)を別途計上するものとする。

# F S 型側溝用 R C 蓋

## コンクリート蓋

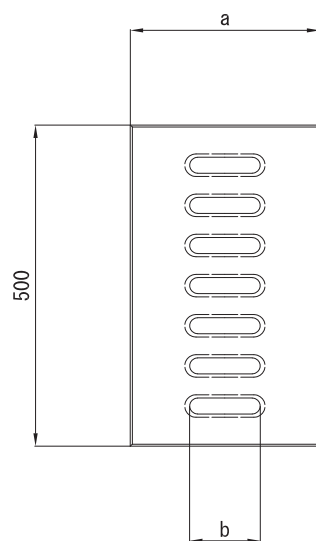
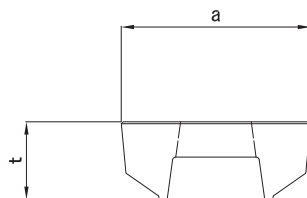


10m当り

種別	寸法表			材料表		摘要
	a	b	t	側溝蓋		
				(枚)	(kg/枚)	
B-300	295	170	121	20	38	
B-400	395	270	131		57	
B-500	505	370	151		86	

## レジン蓋

### 集水蓋(普通目)

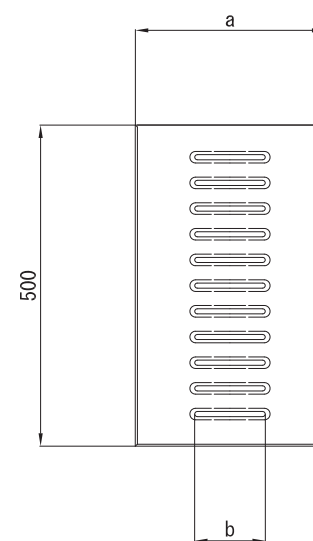
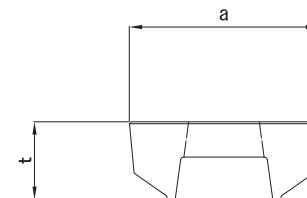


10m当り

種別	寸法表			材料表		摘要
	a	b	t	側溝蓋		
				(枚)	(kg/枚)	
B-300	295	110	121	20	25	
B-400	395	212	131		33	
B-500	505	311	151		45	

10mに1箇所レジン蓋を設置すること。

### 集水蓋(細目)

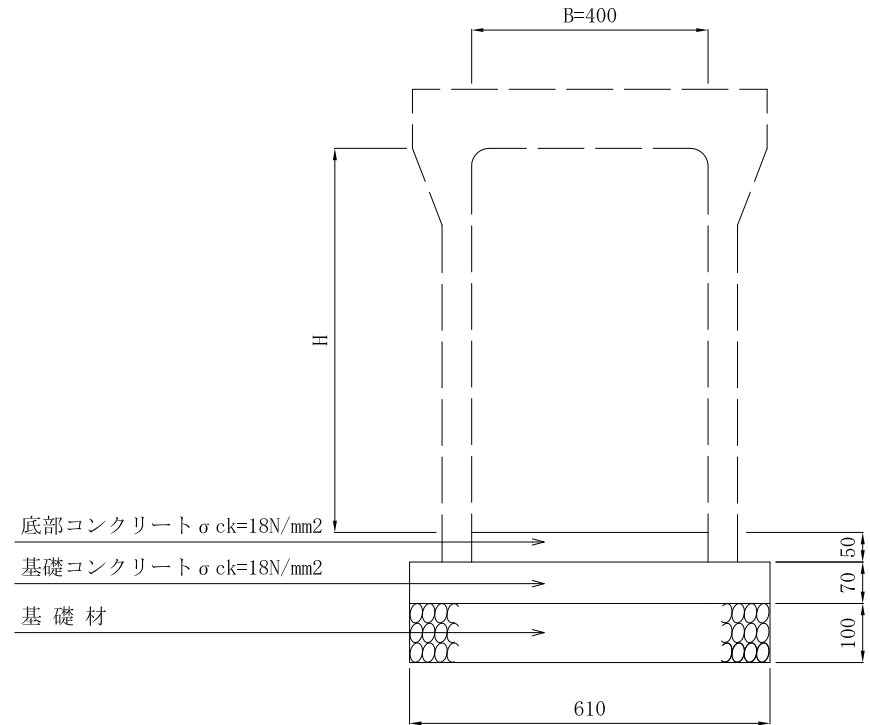
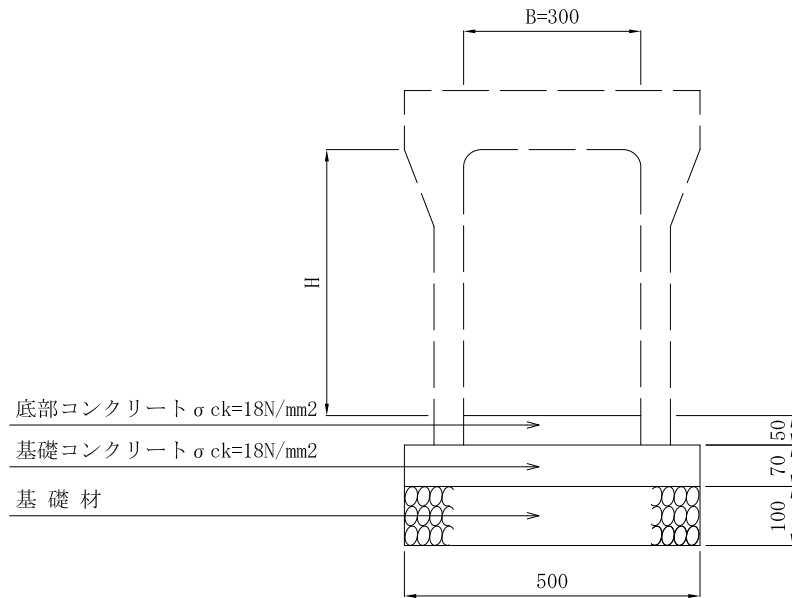


10m当り

種別	寸法表			材料表		摘要
	a	b	t	側溝蓋		
				(枚)	(kg/枚)	
B-300	295	110	121	20	26	
B-400	395	212	131		40	
B-500	505	311	151		49	

レジン蓋は、歩道部には細目タイプを使用する。

# 自由勾配側溝



10m当り

種別 (呼び名) (B×H)	材 料 表					摘 要
	側 溝 (個)	底部コンクリート (m3)	基礎コンクリート (m3)	基礎型枠 (m2)	基礎材 (m3)	
300×300	5	0.15	0.35	1.40	0.50	
300×400						
300×500						
300×600						
300×700						
300×800						
300×900						
300×1000						

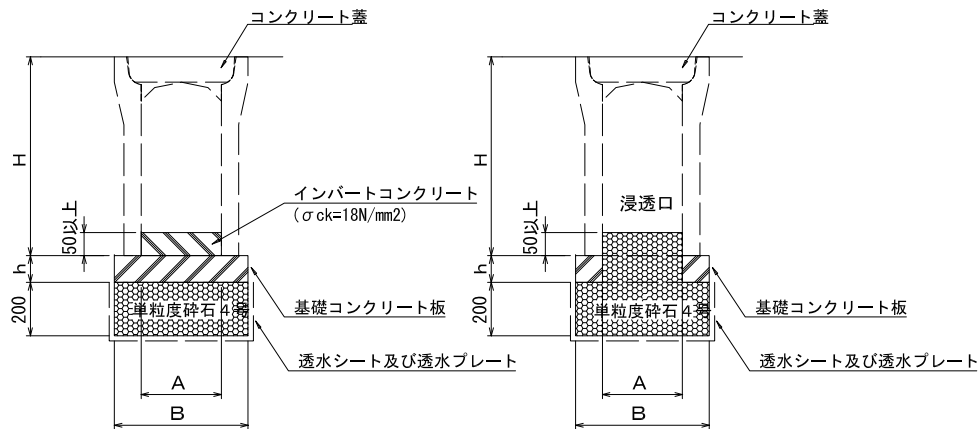
10m当り

種別 (呼び名) (B×H)	材 料 表					摘 要
	側 溝 (個)	底部コンクリート (m3)	基礎コンクリート (m3)	基礎型枠 (m2)	基礎材 (m3)	
400×400	5	0.20	0.43	1.40	0.61	
400×500						
400×600						
400×700						
400×800						
400×900						
400×1000						

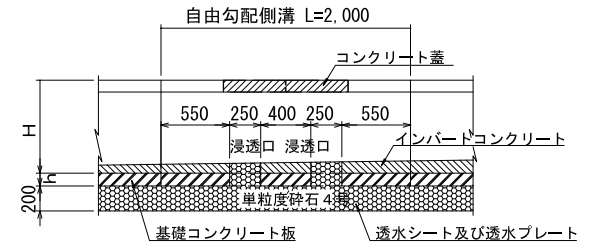
基礎材は特に指示がない場合は、再生クラッシャーランを標準とする。  
製品形状は代表的な形状を示すもので、採用にあたっては、監督員と協議のうえ決定する。

# 浸透側溝（自由勾配型）

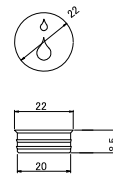
断面図



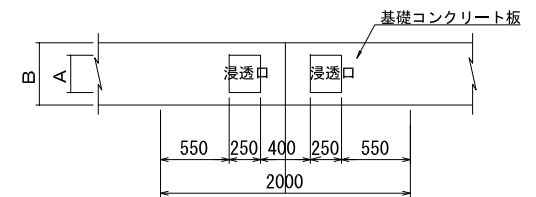
側面図  
(参考図)



標示キャップ



コンクリート基礎板構造図  
(参考図)



10m当り

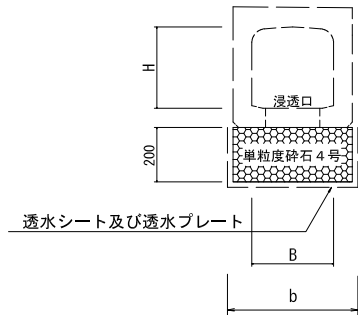
呼び名	寸法表			摘要
	A (mm)	B (mm)	h (mm)	
300	300	550	70	
400	400	660	85	
500	500	790	100	

部品名	部品サイズ	材質
表示キャップ	φ22 H=8.5	SUS304

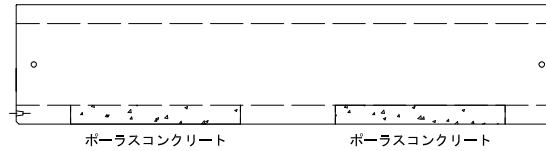
側溝延長2mごとに50cmの浸透部を設置することを標準とする。  
 なお、浸透部は側溝蓋の真下に設置することを原則とする。  
 透水シートの透水係数は、 $1.0 \times 10^{-7} (\text{cm}^2/\text{s})$ 以上とする。  
 また、シートの幅5cm当たりの引っ張り強さは294(N)以上とする。  
 透水シート、透水プレートの継ぎ目は50mm以上被らせること。  
 表示キャップは側溝延長2mごとに1箇所、かつ起終点の端部に設置すること。

# 浸透側溝（管渠型）

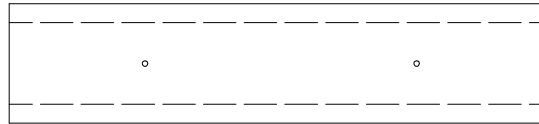
断面図



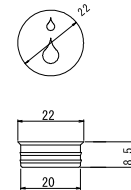
側面図



平面図（頂版）



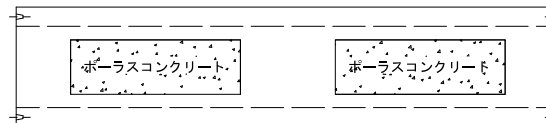
標示キャップ



(10m当り)

種別 (呼び名) (B×H)	材 料 表			摘 要
	側溝 (個)	単粒度碎石 (m3)	透水シート (m2)	
300×300	5.00	0.80	8.00	b=400の場合
300×400		0.80	8.00	b=400の場合
300×500		0.80	8.00	b=400の場合
400×400		1.00	9.00	b=500の場合
500×500		1.24	10.20	b=620の場合

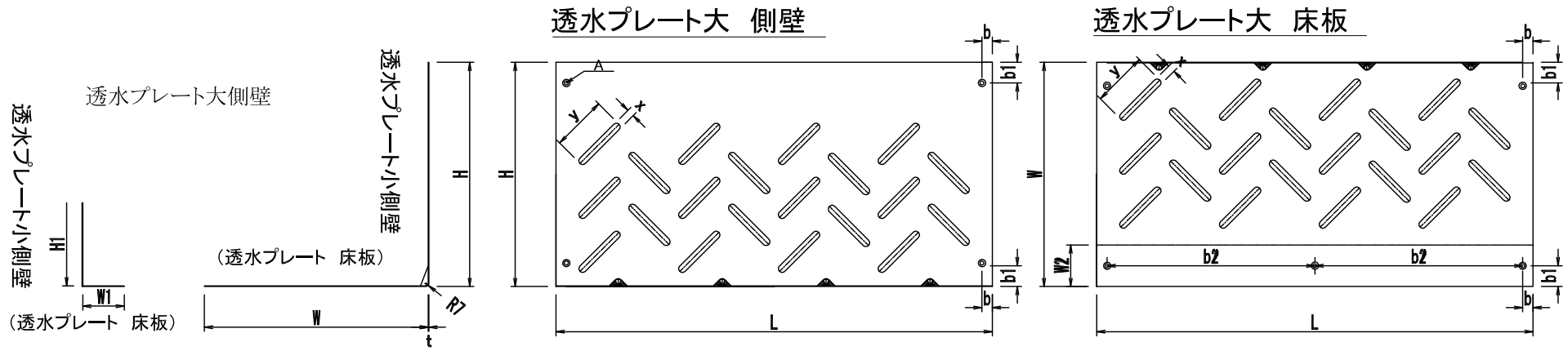
底面図（底版）



部品名	部品サイズ	材質
表示キャップ	φ22 H=8.5	SUS304

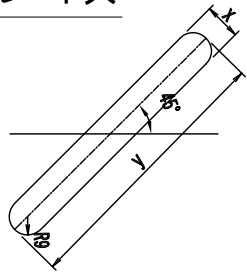
- ・ 側溝延長2mごとに50cmの浸透部を設置することを標準とする。
- ・ 浸透部は側溝蓋の真下に設置することを原則とする。
- ・ 透水シートの透水係数は、 $1.0 \times 1.0^{-2}$  (cm/s) 以上とする。
- ・ シートの幅5cm当たりの引っ張り強さは294(N)以上とする。
- ・ 透水シート、透水プレートの継ぎ目は50mm以上被らせること。
- ・ 表示キャップは側溝延長2mごとに1箇所、かつ起終点の端部に設置すること。

# 浸透側溝用透水プレート (参考図)

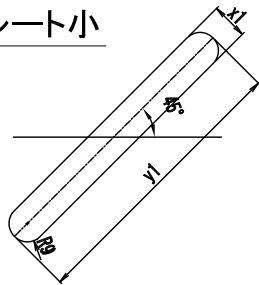


開口詳細図

透水プレート大



透水プレート小



各種寸法表

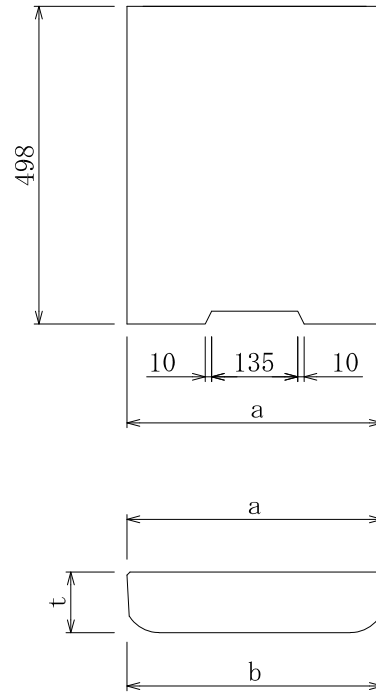
規格(mm)	L	H	W	W1	W2	H1	x	y	x1	y1	A(φ)	b	b1	b2
300	1050	540	550	100	100	200	18	133	18	138	10	25	50	500
400	1050	540	670	100	100	200	18	133	18	138	10	25	50	500
500	1050	540	800	100	100	200	18	133	18	138	10	25	50	500

各種面積／開口率

種別	面積(m <sup>2</sup> )	開口箇所	開口面積(m <sup>2</sup> )	開口率(%)	
300	側壁	0.567	20	0.046	8.11
	床板	0.567	20	0.046	8.11
400	側壁	0.703	26	0.059	8.39
	床板	0.682	24	0.055	8.06
500	側壁	0.840	30	0.069	8.21
	床板	0.808	24	0.069	8.53
透水プレート小側壁	0.210	7	0.016	8.00	

透水プレートの開口率は、側面部・底面部ともに8.0(%)以上とする。

# 自由勾配側溝用コンクリート蓋



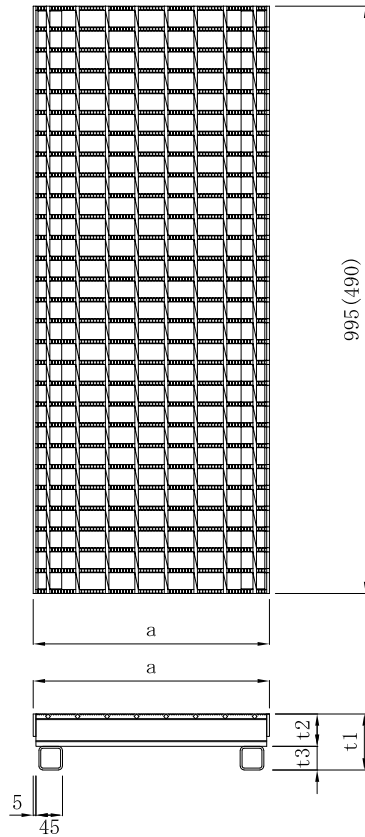
10m当り

種別	寸法表			材料表		摘要
	a	b	t	側溝蓋		
				(枚)	(kg/枚)	
B-300	400	385	95	20	43	
B-400	500	485	110		63	

製品形状は代表的な形状を示すもので、採用あたっては監督員と協議のうえ決定する。

# 自由勾配側溝用グレーチング蓋

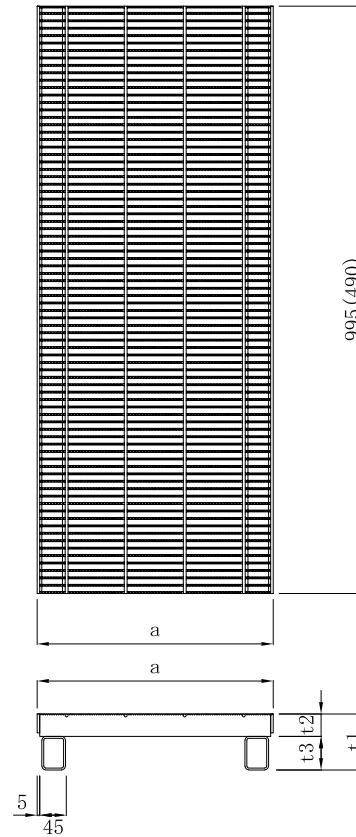
一般



10m当り

種別	寸法表				材料表		摘要
	a	t1	t2	t3	側溝蓋 (枚)		
T-25	B-300	400	95	55	40	10	( )は0.5m用
	B-400	500	110	75	35	(20)	
T-6	B-300	400	95	38	57	10	
	B-400	500	110	44	66	(20)	

細目

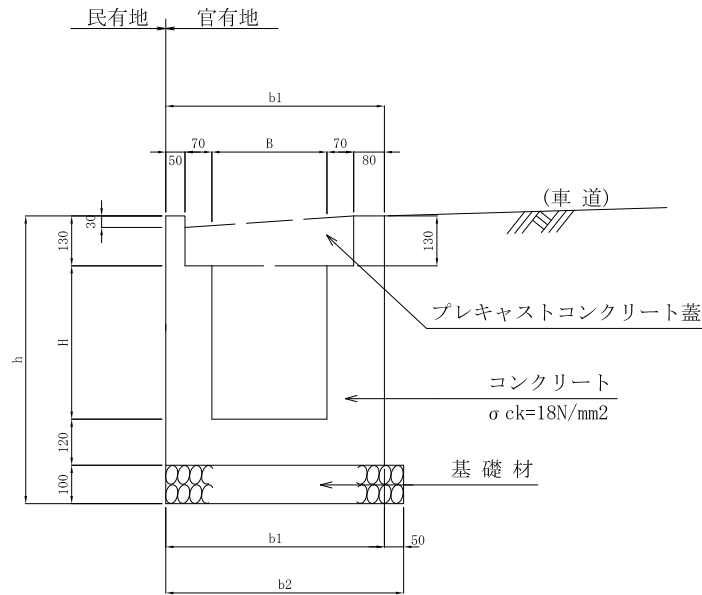


10m当り

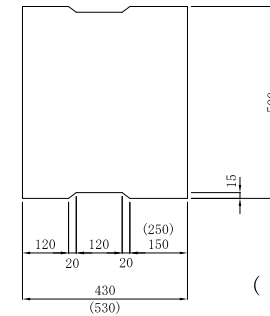
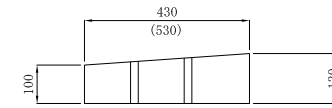
種別	寸法表				材料表		摘要
	a	t1	t2	t3	側溝蓋 (枚)		
T-25	B-300	400	95	38	57	10	( )は0.5m用
	B-400	500	110	50	60	(20)	
T-6	B-300	400	95	32	63	10	
	B-400	500	110	38	72	(20)	

G 1型は一般用グレーチング蓋、G 2型は細目グレーチング蓋とし、スベリ止め加工としたものを使用する。  
車両が通行する箇所を設置する場合、ボルト固定式を原則とする。

# U B 型側溝



プレキャストコンクリート蓋 (FB1)



( )はB=400

10m当り

種別 (B×H)	寸法表			材料表					摘要
	b 1	b 2	h	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型 枠 (m <sup>2</sup> )	基礎材 (m <sup>3</sup> )	側 溝 蓋		
							(枚)	(kg/枚)	
UB-300×250	570	620	600	1.53	20.00(15.00)	0.62	20	60	( )は 裏型枠なし
UB-300×300			650	1.66	22.00(16.50)				
UB-300×350			700	1.80	24.00(18.00)				
UB-300×400			750	1.93	26.00(19.50)				
UB-300×450			800	2.07	28.00(21.00)				
UB-300×500			850	2.20	30.00(22.50)				
UB-400×400	670	720	750	2.05	26.00(19.50)	0.72	20	75	
UB-400×500			850	2.32	30.00(22.50)				

民地と車道境界に使用。

基礎材は特に指示がない場合は、再生クラッシャーランを標準とする。

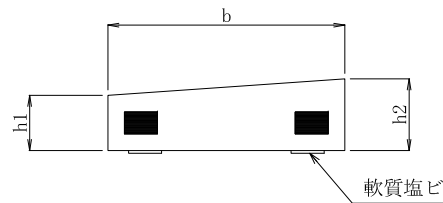
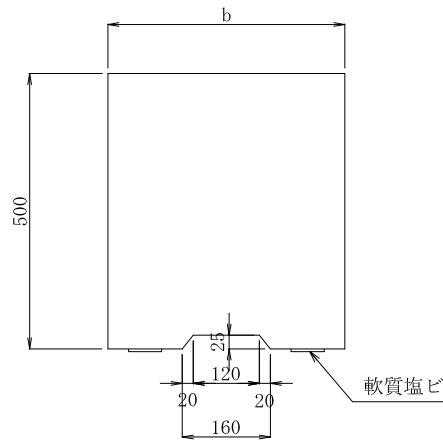
伸縮目地(エラストイト)を20m程度に1箇所設ける。

H=500以上は国土交通省制定「土木構造物標準設計」を使用すること。

吊上げ金具付のコンクリート蓋を10mに1箇所設ける。

# 騒音防止コンクリート蓋

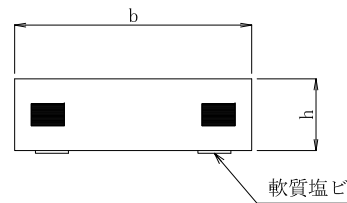
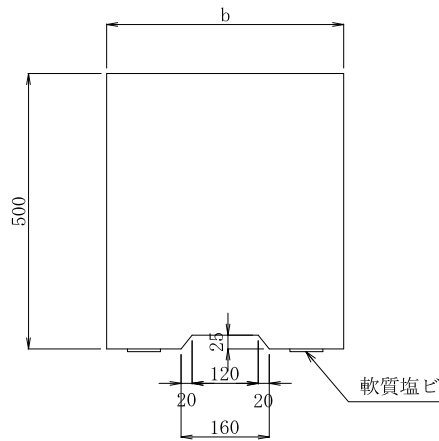
2 型



10m当り

種別	寸法表			材料表		摘要
	b	h 1	h 2	側溝蓋		
				(枚)	(kg/枚)	
B-300	430	100	130	20	60	
B-400	530				75	
B-450	580				82	

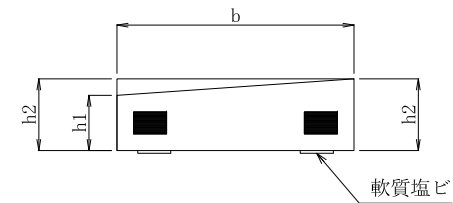
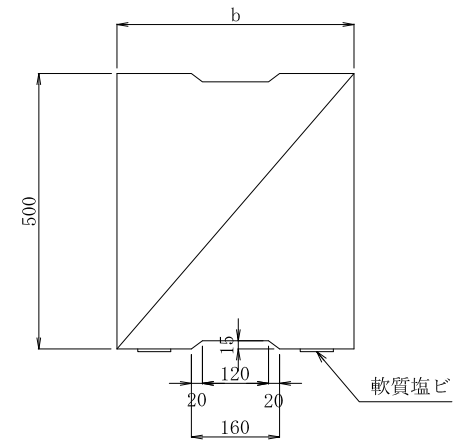
1 型



10m当り

種別	寸法表		材料表		摘要
	b	h	側溝蓋		
			(枚)	(kg/枚)	
B-300	430	130	20	68	
B-400	530			84	
B-450	580			92	

調整用

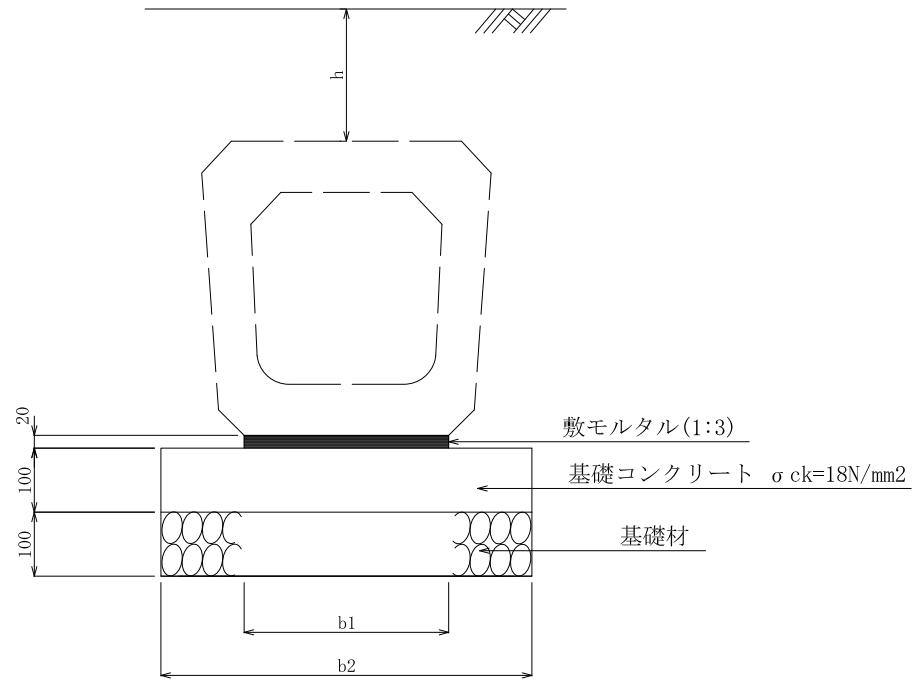


10m当り

種別	寸法表			材料表		摘要
	b	h 1	h 2	側溝蓋		
				(枚)	(kg/枚)	
B-300	430	100	130	20	65	
B-400	530				80	
B-450	580				88	

端尺部を切断しての使用は極力避けることとし、特に斜め切断は行わないこと。

# 横断暗渠



10m当り

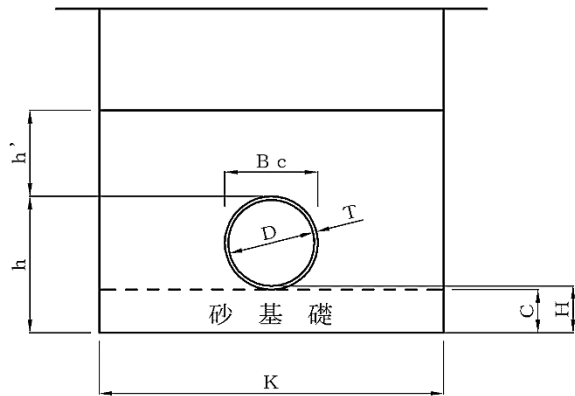
種別 (呼び径)	寸法表			材 料 表				摘 要
	b 1	b 2	h	敷モルタル (m <sup>3</sup> )	基礎コンクリート (m <sup>3</sup> )	基礎型枠 (m <sup>2</sup> )	基礎材 (m <sup>3</sup> )	
300	300	460	5 m以下	0.06	0.46	2.00	0.46	
400	300	560	5 m以下	0.06	0.56		0.56	
500	400	670	4 m以下	0.08	0.67		0.67	
600	450	770	2.5m以下	0.09	0.77		0.77	

基礎材は特に指示がない場合は、再生クラッシャーランを標準とする。  
製品はT-25対応とする。

# 【管布設工】

# 塩ビ管類布設図 ( 1 )

(内径200~1000m/m)



呼び径	内径 D	硬質塩化ビニル管						強化プラスチック複合管						
		管厚 T	外径 Bc	基礎厚 C	H	h	h'	管厚 T		外径 Bc	基礎 C	H ※2	h ※2	h'
								外圧1種・ 外圧2種	雨水3種 ※1					
200	200	8.0	216	100	108	316	200	7.0	—	214	100	107	314	200
250	250	8.5	267	150	159	417	〃	7.5	—	265	150	158	415	〃
300	300	9.0	318	〃	〃	468	〃	8.0	—	316	〃	〃	466	〃
350	350	10.0	370	〃	160	520	〃	8.5	—	367	〃	159	517	〃
400	400	〃	420	〃	〃	570	〃	9.0	—	418	〃	〃	568	〃
450	450	〃	470	〃	〃	620	〃	9.5	—	469	〃	160	619	〃
500	500	〃	520	200	210	720	〃	10.0	8.5	520	200	210	720	〃
600	600	15.0	630	〃	215	830	〃	12.0	10.5	624	〃	212	824	〃
700	—	—	—	—	—	—	—	14.0	12.0	728	〃	214	928	〃
800	—	—	—	—	—	—	—	16.0	14.0	832	〃	216	1032	〃
900	—	—	—	—	—	—	—	18.0	15.5	936	〃	218	1136	〃
1000	—	—	—	—	—	—	—	20.0	17.0	1040	〃	220	1240	〃

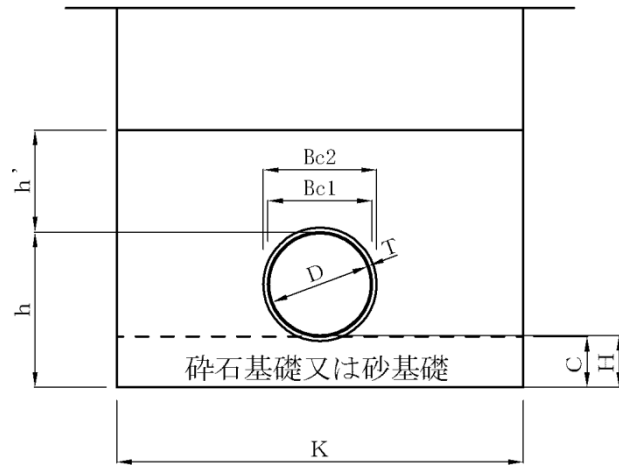
注) 塩ビ管の場合の管まわりは、再生砂又は良質な発生土を標準とする。

※1: 雨水3種管は、外圧1種・2種管と同管厚のタイプもある。

※2: 雨水3種管は、タイプによってH・hが異なる。上記は同管厚を示す。

## 塩ビ管類布設図 ( 2 )

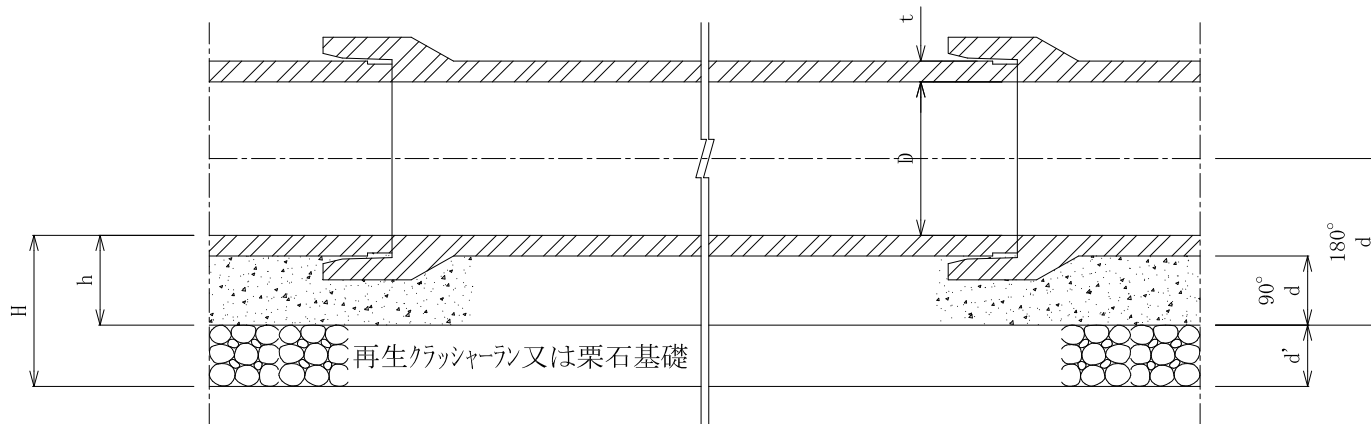
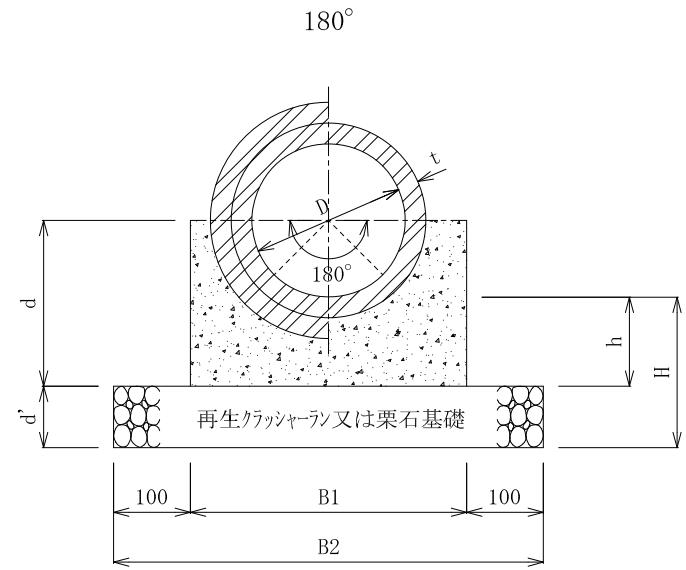
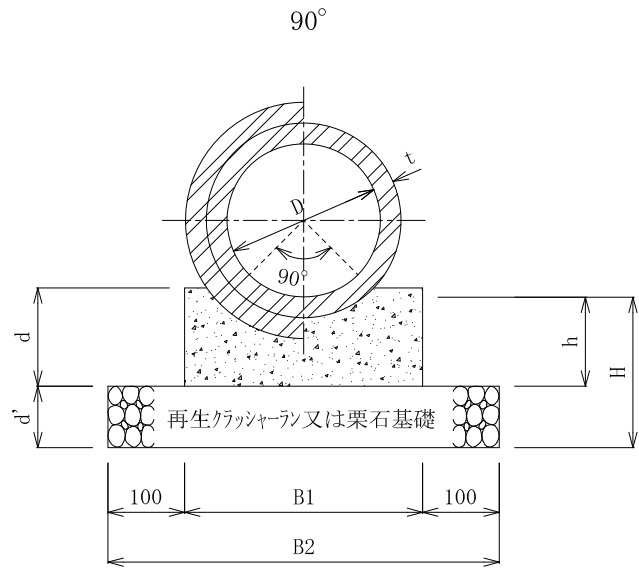
(内径200~450m/m)



呼び径	内径 D	リブ付硬質塩化ビニル管						
		管厚 T	外径 B c 1	リブ外径 B c 2	基礎厚 C	H	h	h'
200	200	2.75	205.5	222.8	100	102.75	305.5	200
250	250	3.05	256.1	286.2	150	153.05	406.1	〃
300	300	3.55	307.1	343.6	〃	153.55	457.1	〃
350	350	3.70	357.4	400.6	〃	153.70	507.4	〃
400	400	3.80	407.6	448.4	〃	153.80	557.6	〃
450	450	3.90	457.8	502.0	〃	153.90	607.8	〃

注) 管まわりは、砕石、再生砂又は良質な発生土を標準とする。

# 鉄筋コンクリート管布設図 (内径200~2,000mm)



# 鉄筋コンクリート管構造寸法表

国土交通省制定 土木構造物標準設計第1巻  
平成12年9月版 暗きょーパイプカルバート

(単位：mm)

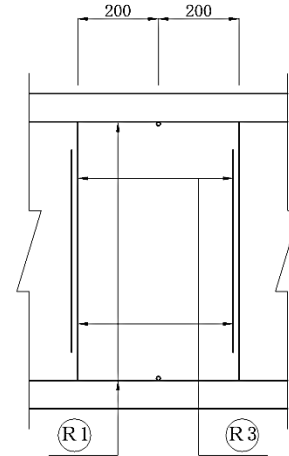
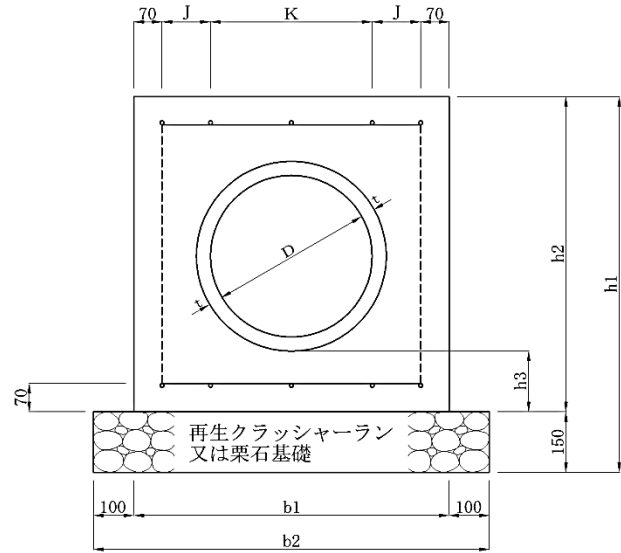
90°

180°

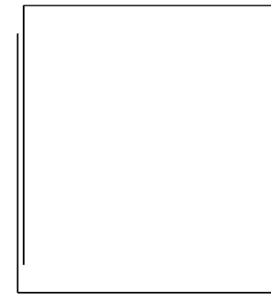
D	l	t	d	d'	B1	B2	h	H	残土係数 (m <sup>3</sup> /m)	d	d'	B1	B2	h	H	残土係数 (m <sup>3</sup> /m)
200	2,000	27	140	150	400	600	127	277	0.1921	230	150	500	700	127	277	0.2453
250	"	28	150	150	450	650	128	278	0.2319	260	150	550	750	128	278	0.2923
300	"	30	160	150	500	700	130	280	0.2775	280	150	600	800	130	280	0.3389
350	"	32	170	150	550	750	132	282	0.3284	310	150	650	850	132	282	0.3963
400	"	35	220	150	550	750	185	335	0.3912	390	150	700	900	185	335	0.4947
450	2,430	38	230	150	600	800	188	338	0.4556	420	150	750	950	188	338	0.5662
500	"	42	240	150	650	850	192	342	0.5270	450	150	800	1,000	192	342	0.6439
600	"	50	260	150	750	950	200	350	0.6874	500	150	900	1,100	200	350	0.8074
700	"	58	320	150	850	1,050	258	408	0.9050	610	150	1,050	1,250	258	408	1.0895
800	"	66	340	150	950	1,150	266	416	1.1157	670	150	1,200	1,400	266	416	1.3551
900	2,360	75	360	150	1,050	1,250	275	425	1.3527	730	150	1,350	1,550	275	425	1.6510
1,000	"	82	380	200	1,200	1,400	282	482	1.7035	790	200	1,450	1,650	282	482	2.0076
1,100	"	88	440	200	1,300	1,500	338	538	2.0346	890	200	1,600	1,800	338	538	2.4234
1,200	"	95	460	200	1,400	1,600	345	545	2.3436	950	200	1,750	1,950	345	545	2.8112
1,350	"	103	480	200	1,600	1,800	353	553	2.8568	1,030	200	1,900	2,100	353	553	3.3278
1,500	"	112	510	200	1,750	1,950	362	562	3.4048	1,120	200	2,100	2,300	362	562	3.9792
1,650	"	120	580	200	1,900	2,100	420	620	4.0727	1,250	200	2,350	2,550	420	620	4.8503
1,800	"	127	610	200	2,100	2,300	427	627	4.7535	1,330	200	2,500	2,700	427	627	5.5218
2,000	"	145	640	200	2,300	2,500	445	645	5.7165	1,450	200	2,800	3,000	445	645	6.7194

# 鉄筋コンクリート管布設図

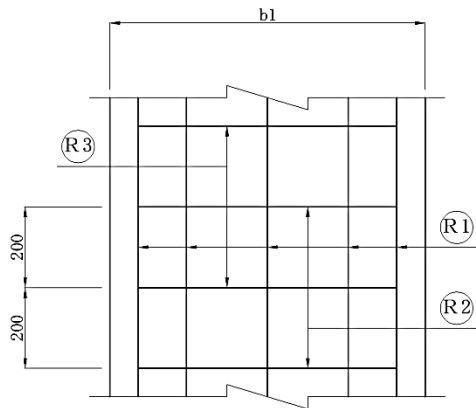
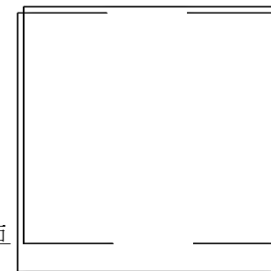
(360° 巻内径200~500mm)



鉄筋組立図 (D400以上)



鉄筋組立図 (D350以上)



# 鉄筋コンクリート管布設図

(360° 巻内径200~500mm)

360° 固定基礎寸法及び材料表

(10m当たり)

呼び径	寸 法 表										材 料 表			
	D (mm)	t (mm)	b1 (mm)	b2 (mm)	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	J (mm)	L (mm)	K (mm)	コンクリート $\sigma_{ck}=18N/mm^2$ (m <sup>3</sup> )	型枠 小型構造物 (m <sup>2</sup> )	基礎材 RC-40 (m <sup>2</sup> )	RC管 (本)
200	200	27	460	660	610	460	100	—	2000	320(=2×160)	1.609	9.200	6.600	5.0
250	250	28	520	720	670	520		—		380(=2×190)	1.969	10.400	7.200	
300	300	30	560	760	710	560		—		420(=2×210)	2.118	11.200	7.600	
350	350	32	620	820	770	620		140		200	2.498	12.400	8.200	
400	400	35	780	980	930	780	150	120	2430	400(=2×200)	4.349	15.600	9.800	4.1
450	450	38	840	1040	990	840		150		400(=2×200)	4.883	16.800	10.400	
500	500	42	900	1100	1050	900		180		400(=2×200)	5.421	18.000	11.000	

360° 固定基礎鉄筋材料表

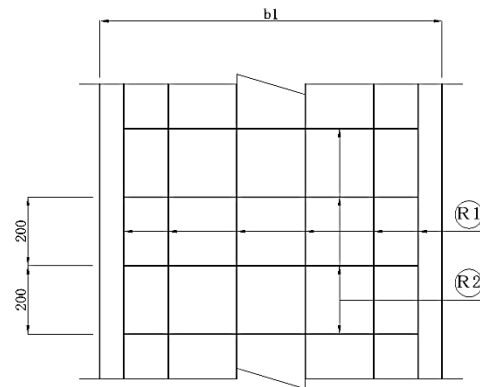
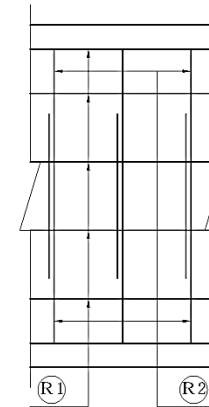
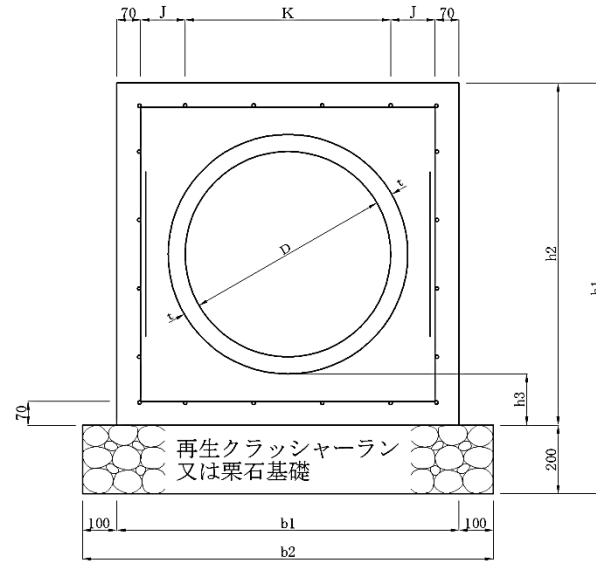
(1m当たり)

呼び径	縦方向鉄筋 R1 SD345				縦方向鉄筋 R2 SD345					縦方向鉄筋 R3 SD345					鉄筋 総質量 (kg)	
	鉄筋径	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	鉄筋径	本数 (本)	長さ (mm/本)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	鉄筋径	本数 (本)	長さ (mm/本)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)		形状
200	D13	6	0.995	5.970	D13	5	320	0.995	1.592	D13	5	1110	0.995	5.522		13.084
250	D13	6	0.995	5.970	D13	5	380	0.995	1.891	D13	5	1230	0.995	6.119		13.980
300	D13	6	0.995	5.970	D13	5	420	0.995	2.090	D13	5	1310	0.995	6.517		14.577
350	D13	8	0.995	7.960	D13	5	480	0.995	2.388	D13	5	1430	0.995	7.114		17.462
400	D13	10	0.995	9.950	D13	5	640	0.995	3.184	D13	5	1750	0.995	8.706		21.840
450	D13	10	0.995	9.950	D13	5	700	0.995	3.483	D13	5	1870	0.995	9.303		22.736
500	D16	10	1.560	15.600	D13	5	760	0.995	3.781	D13	5	1990	0.995	9.900		29.281

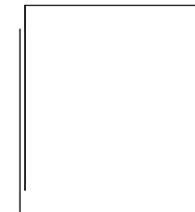
国土交通省制定 土木構造物標準設計第1巻 平成12年9月版 暗きょーパイプカルバート

# 鉄筋コンクリート管布設図

(360° 巻内径600~1000mm)



鉄筋組立図



# 鉄筋コンクリート管布設図

(360° 巻内径600~1000mm)

360° 固定基礎：遠心力鉄筋コンクリート管 寸法及び材料表

(10m当たり)

呼び径	寸 法 表										材 料 表			
	D (mm)	t (mm)	b1 (mm)	b2 (mm)	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	J (mm)	L (mm)	K (mm)	コンクリート $\sigma_{ck}=18N/mm^2$ (m <sup>3</sup> )	型枠 小型構造物 (m <sup>2</sup> )	基礎材 RC-40 (m <sup>2</sup> )	RC管 (本)
600	600	50	1000	1200	1200	1000	150	130	2430	600(=3×200)	6.152	20.000	12.000	4.1
700	700	58	1220	1420	1420	1220	140	800(=4×200)		9.654	24.400	14.200		
800	800	66	1340	1540	1540	1340	—	1200(=6×200)		11.134	26.800	15.400		
900	900	75	1460	1660	1660	1460	160	1000(=5×200)		12.657	29.200	16.600		
1000	1000	82	1580	1780	1780	1580	120	1200(=6×200)		14.323	31.600	17.800		

360° 固定基礎：遠心力鉄筋コンクリート管 鉄筋材料表

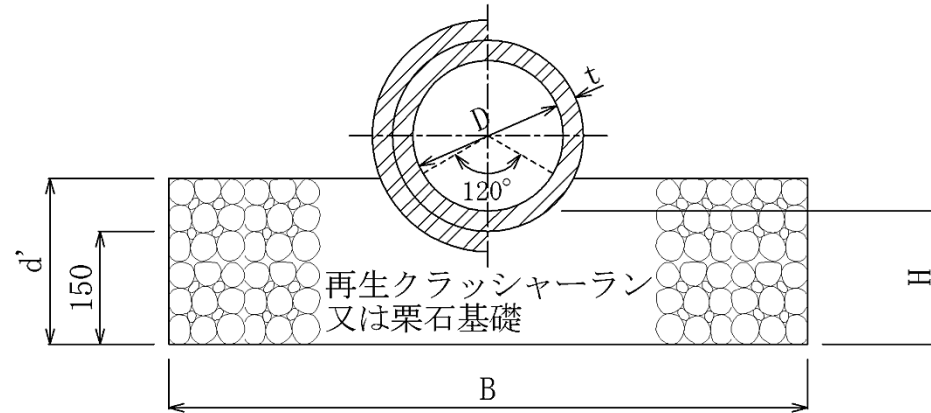
(1m当たり)

呼び径	縦方向鉄筋 R1 SD345				縦方向鉄筋 R2 SD345						鉄筋 総質量 (kg)
	鉄筋径	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	鉄筋径	本数 (本)	長さ (mm/本)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	形状	
600	D13	20	0.995	19.900	D13	10	2190	0.995	21.791		41.691
700	D13	24	0.995	23.880	D13	10	2630	0.995	26.169		50.049
800	D16	24	1.560	37.440	D13	10	2870	0.995	28.557		65.997
900	D16	28	1.560	43.680	D13	10	3110	0.995	30.945		74.625
1000	D16	32	1.560	49.920	D13	10	3350	0.995	33.333		83.253

国土交通省制定 土木構造物標準設計第1巻 平成12年9月版 暗きょパイプカルバート

# 鉄筋コンクリート管布設図

( 砕石基礎 )



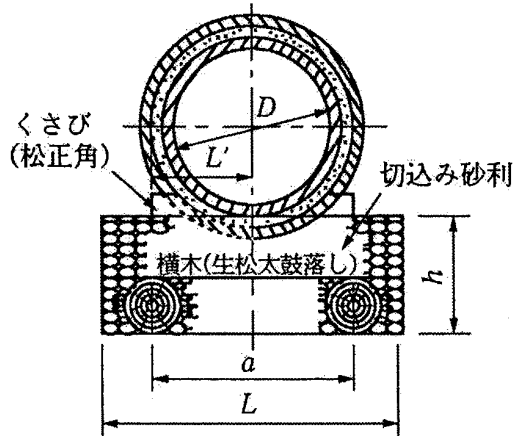
( 1 m 当り )

D (mm)	t (mm)	d (mm)	d' (mm)	B 軽量鋼矢板建込 (mm)	H (mm)	残土係数 (m <sup>3</sup> )
200	27	150	220	850	177	0.2278
250	28	150	230	850	178	0.2547
300	30	150	240	900	180	0.2979

注) 砕石基礎の施工条件については「開削工法設計基準編」第4章を参照とすること。

# 遠心力鉄筋コンクリート管B形はしご胴木基礎布設図

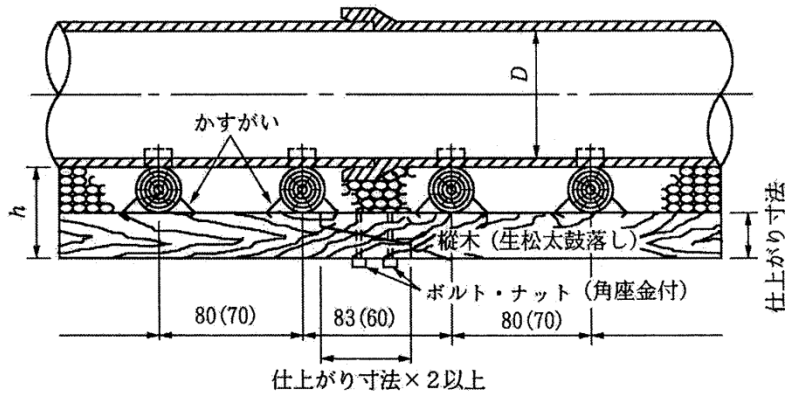
(内径200mm~1,800mm)



寸法表

(単位: mm)

内径 D	縦木間隔 a	基礎巾 ℓ	基礎厚 h	くさび長さ ℓ'	材 料 寸 法				
					横木材 末口×仕上げ	縦木材 末口×仕上げ	くさび材	鉄丸釘 径×長さ	かすがい 径×長さ
200~350	300	450	165	150	105×75	120×90	60×60	4×100	9×150
400	300	450	165	150	120×90	120×90	60×60	4×100	9×150
450~600	400	600	180	200	120×90	120×90	60×60	4×100	9×150
700~1,000	600	900	240	300	150×120	150×120	75×75	4×150	9×180
1,100~1,200	800	1,200	240	400	150×120	150×120	75×75	4×150	9×180
1,350	1,000	1,500	240	400	150×120	150×120	75×75	4×150	9×180
1,500	1,000	1,500	300	400	180×150	180×150	90×90	4×150	12×210
1,650~1,800	1,200	1,800	300	400	180×150	180×150	90×90	4×150	12×210



材 料 表

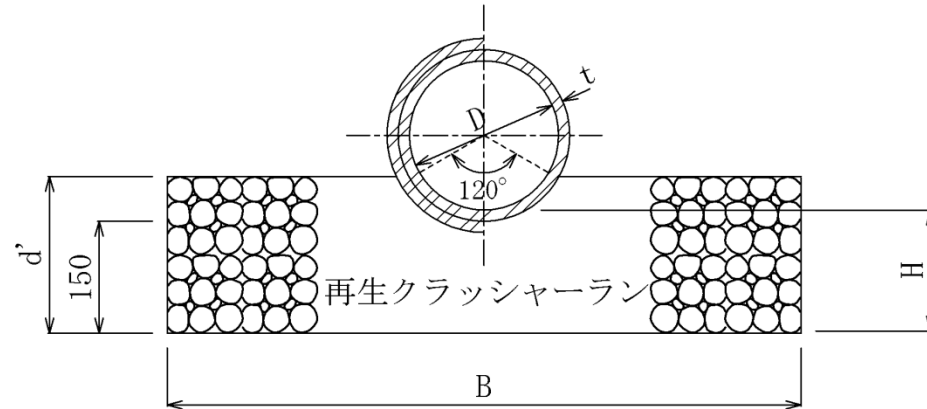
(100m当り)

内径 (D)	横木材 (生松) (m3)	縦木材 (生松) (m3)	くさび材 (松正角) (m3)	再生 クラッシュラン (m3) (0~40)	ボルト・ ナット (角座金付) (本)	鉄丸釘 (kg)	かすがい (本)
200~350	0.75	3.04	0.14	4.30	104.7	3.4	500
400	0.80	3.04	0.12	5.20	104.7	2.8	500
450~600	1.07	3.04	0.16	8.00	104.7	2.8	500
700~1,000	2.53	4.79	0.40	17.20	106.4	6.0	500
1,100~1,200	3.70	4.79	0.56	24.40	106.4	6.0	500
1,350	4.20	4.79	0.56	32.40	106.4	6.0	500
1,500	5.99	7.03	0.80	38.40	108.1	6.0	500
1,650~1,800	7.16	7.03	0.80	47.80	108.1	6.0	500

注 ( ) は長さ2,000mmヒューム管仕様時の数値

# レジンコンクリート管布設図

( 碎石基礎 )



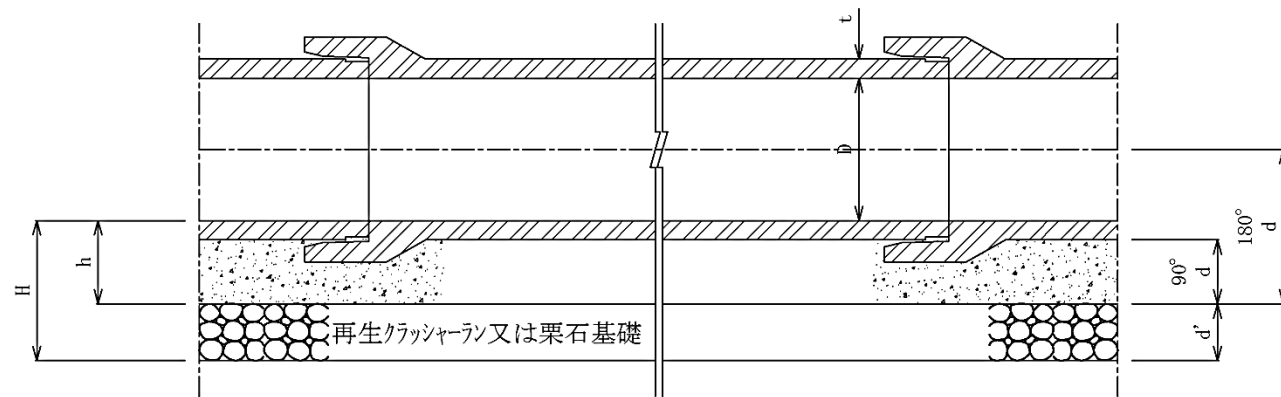
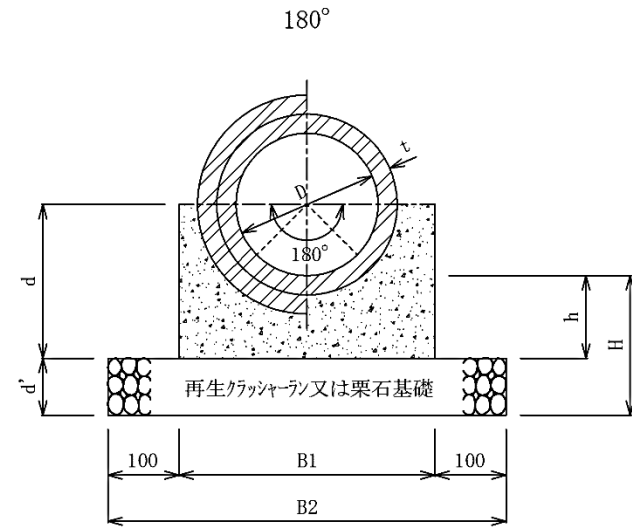
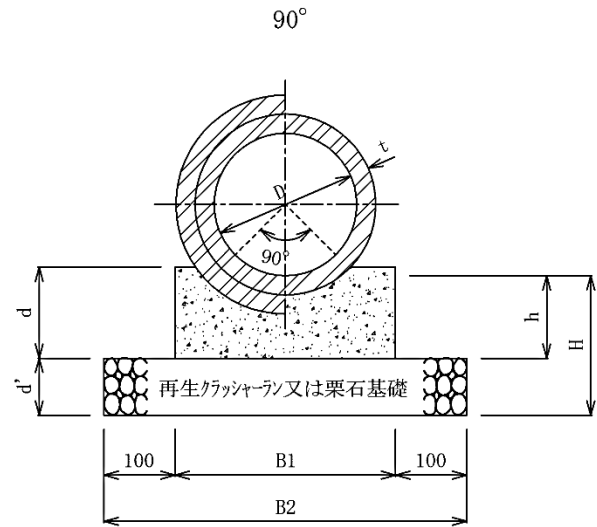
( 1 m 当り )

D (mm)	t (mm)	d (mm)	d' (mm)	B (mm)	H (mm)	残土係数 (m <sup>3</sup> )
200	15	150	210	850	165	0.2119
250	17	150	230	850	167	0.2465
300	19	150	240	900	169	0.2882

注) 碎石基礎の施工条件については「開削工法設計基準編」第4章を参照とすること。

# レジンコンクリート管布設図

(内径200~600m/m)



# レジンコンクリート管構造寸法表

国土交通省制定 土木構造物標準設計第1巻  
平成12年9月版 暗きょパイプカルバート

(単位：mm)

90°

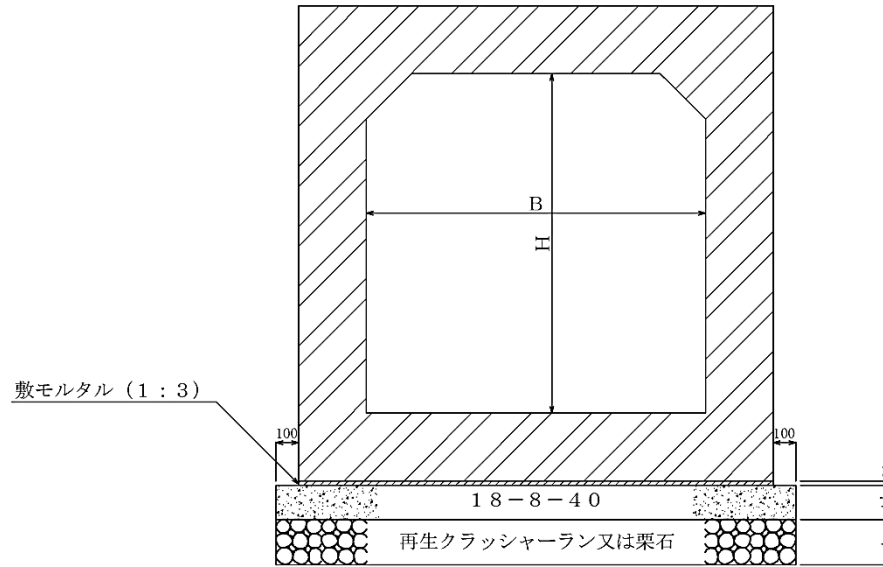
180°

D	l	t
200	2,000	15
250	〃	17
300	〃	19
350	〃	23
400	〃	28
450	2,430	30
500	〃	34
600	〃	40

d	d'	B1	B2	h	H	残土係数 (m <sup>3</sup> /m)
150	150	400	600	127	277	0.1878
160	150	450	650	128	278	0.2271
170	150	500	700	130	280	0.2716
170	150	550	750	132	282	0.3180
230	150	550	750	185	335	0.3875
240	150	600	800	188	338	0.4497
250	150	650	850	192	342	0.5204
260	150	750	950	200	350	0.6677

d	d'	B1	B2	h	H	残土係数 (m <sup>3</sup> /m)
230	150	500	700	127	277	0.2408
260	150	550	750	128	278	0.2872
280	150	600	800	130	280	0.3329
310	150	650	850	132	282	0.3906
390	150	700	900	185	335	0.4897
420	150	750	950	188	338	0.5596
450	150	800	1,000	192	342	0.6367
500	150	900	1,100	200	350	0.7966

# ボックスカルバート布設図



ボックスカルバートの設計にあたっては、「開削工法設計基準編」の第5章に準ずること。

注) 目地モルタルについては製品単価に含まれる。

(単位：mm)

記号	基礎		
B×H	600×600～1,000×1,000	1,100×1,100～2,000×2,000	2,200×1,800～3,500×2,500
h'	100	150	200
h	150	200	250

注) 現場打の場合、基礎コンクリート厚 (h') は100mm、基礎材厚 (h) は200mmとし、敷モルタルは計上しない。

【土工】

## 塩ビ管掘削幅算定表

### 硬質塩化ビニル管

管 径	200		250		300		350		400		450		500		600	
	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z
軽量鋼矢板建込	85	0.1216	85	0.1835	85	0.2069	90	0.2425	100	0.2885	105	0.3310	110	0.4324	120	0.5517
軽量鋼矢板打込	85	0.1216	85	0.1835	85	0.2069	90	0.2425	100	0.2885	105	0.3310	110	0.4324	120	0.5517
鋼 矢 板 III 型	105	0.1416	105	0.2135	105	0.2369	110	0.2725	115	0.3110	120	0.3535	130	0.4724	140	0.5917

### 強化プラスチック複合管

管 径	200		250		300		350		400		450		500		600		700		800		900		1000	
	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z
軽量鋼矢板建込	85	0.1210	85	0.1827	85	0.2059	90	0.2408	100	0.2872	105	0.3303	110	0.4324	120	1.5458	125	0.6662	140	0.8237	150	0.9881	160	1.1695
軽量鋼矢板打込	85	0.1210	85	0.1827	85	0.2059	90	0.2408	100	0.2872	105	0.3303	110	0.4324	120	0.5458	125	0.6662	140	0.8237	150	0.9881	160	1.1695
鋼 矢 板 III 型	105	0.1410	105	0.2127	105	0.2359	110	0.2708	115	0.3097	120	0.3528	130	0.4724	140	0.5858	145	0.7062	155	0.8537	165	1.0181	175	1.1995

### リブ付硬質塩化ビニル管

管 径	200		250		300		350		400		450	
	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z	K	Z
軽量鋼矢板建込	85	0.1182	85	0.1790	85	0.2016	90	0.2353	100	0.2805	105	0.3221
軽量鋼矢板打込	85	0.1182	85	0.1790	85	0.2016	90	0.2353	100	0.2805	105	0.3221
鋼 矢 板 III 型	105	0.1382	105	0.2090	105	0.2316	110	0.2653	115	0.3030	120	0.3446

K : 掘削幅 (cm)      Z : 残土係数

# 鉄筋コンクリート管掘削幅算定基準

(単位：cm)

管径 基礎種別 土留種別	200			250			300			350			400			450			500		
	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石
軽量鋼矢板建込	110	130	85	115	135	85	120	140	90	125	145	95	135	150	105	140	155	110	145	160	115
軽量鋼矢板打込	110	130	85	115	135	85	120	140	90	125	145	95	135	150	105	140	155	110	145	160	115
鋼 矢 板 III 型	125	145	105	130	150	105	135	155	105	140	160	110	150	165	115	155	170	120	160	175	130

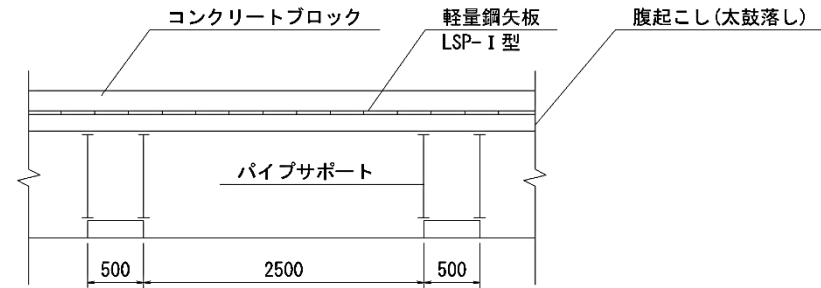
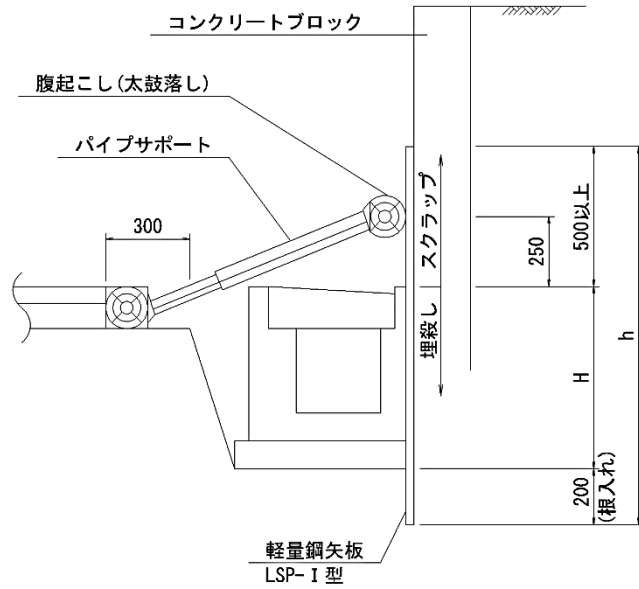
管径 基礎種別 土留種別	600			700			800			900			1,000			1,100			1,200		
	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石
軽量鋼矢板建込	155	170	130	165	195	140	175	210	155	185	225	170	200	235	180	210	260	195	220	275	205
軽量鋼矢板打込	155	170	130	165	195	145	175	210	155	185	225	170	200	235	180	210	260	195	220	275	210
鋼 矢 板 III 型	170	185	140	180	210	155	190	225	170	200	240	180	215	250	195	225	275	205	235	290	220

管径 基礎種別 土留種別	1,350			1,500			1,650			1,800			2,000		
	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石	90°	180°	砕石
軽量鋼矢板建込	240	290	225	265	320	225	280	345	245	300	360	260	320	390	285
軽量鋼矢板打込	240	290	225	265	320	225	280	345	245	300	360	260	320	390	285
鋼 矢 板 III 型	255	305	240	280	335	240	295	360	255	315	375	275	335	405	295

注) コンクリート基礎以外の基礎を使用する場合は別途作成のこと

**【土留工】**

# 埋設矢板（側溝布設用）



10m当り

種 別	寸法表		材 料 表				摘 要
	H	h	軽量鋼矢板 (kg)	腹 起 し (本)	パイプサポート (本)	スクラップ (kg)	
H-650	650	1350	556.2	3.33	6.67	206	
H-1000	1000	1700	700.4	3.33	6.67	206	

## 建込土留工早見表（軽量鋼矢板）

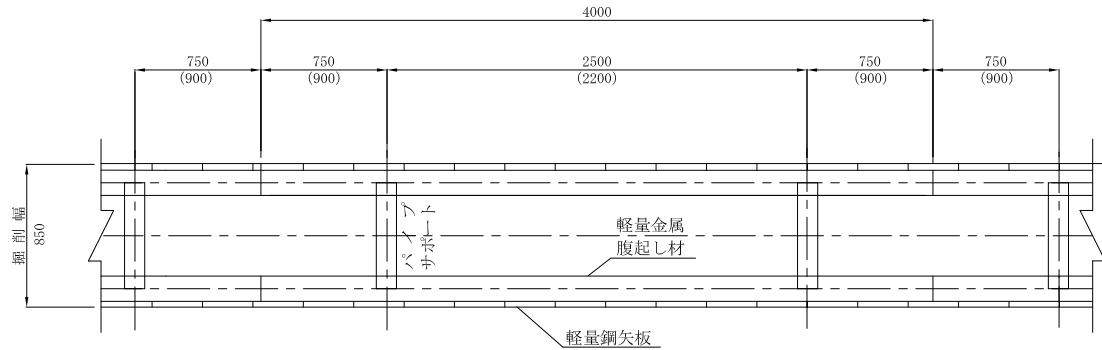
土留構造図 タイプ	掘削深 (m)	土留工		軽量金属支保工	備考
		土留長 (m)	厚 (cm)	段数	
①	$H < 1.30$	1.50	高さ36mm 厚み5mm	1	腹起し：アルミ製 幅110～120mm L = 4 m 切梁：パイプサポート
①	$1.30 \leq H < 1.80$	2.00	高さ36mm 厚み5mm	1	
①	$1.80 \leq H < 2.00$	2.50	高さ36mm 厚み5mm	1	
②	$2.00 \leq H < 2.30$	2.50	高さ36mm 厚み5mm	2	
②	$2.30 \leq H < 2.80$	3.00	高さ36mm 厚み5mm	2	
②	$2.80 \leq H < 3.30$	3.50	高さ36mm 厚み5mm	2	
②	$3.30 \leq H < 3.50$	4.00	高さ36mm 厚み5mm	2	
③	$3.50 \leq H < 3.80$	4.00	高さ36mm 厚み5mm	3	



# 土留工構造図（参考）

タイプ②（軽量鋼矢板 L=2.50~4.00m）  
 （掘削深 2.00≦H<3.50m）

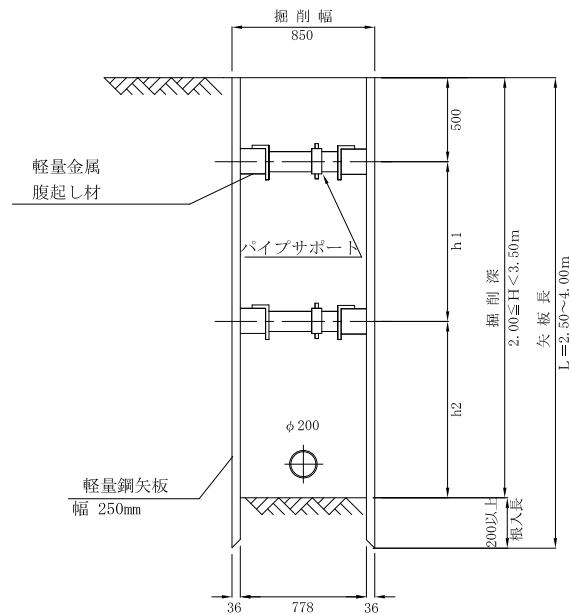
## 平面図



掘削深が3.00mを超える場合は  
 ( ) 内の数値とする。

## 断面図

タイプ②

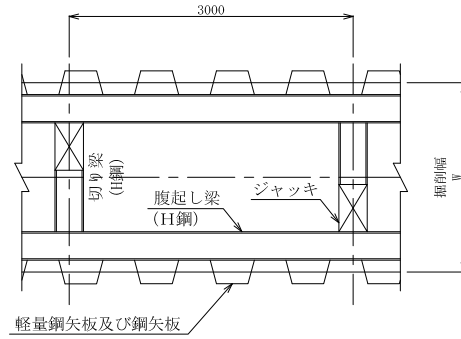




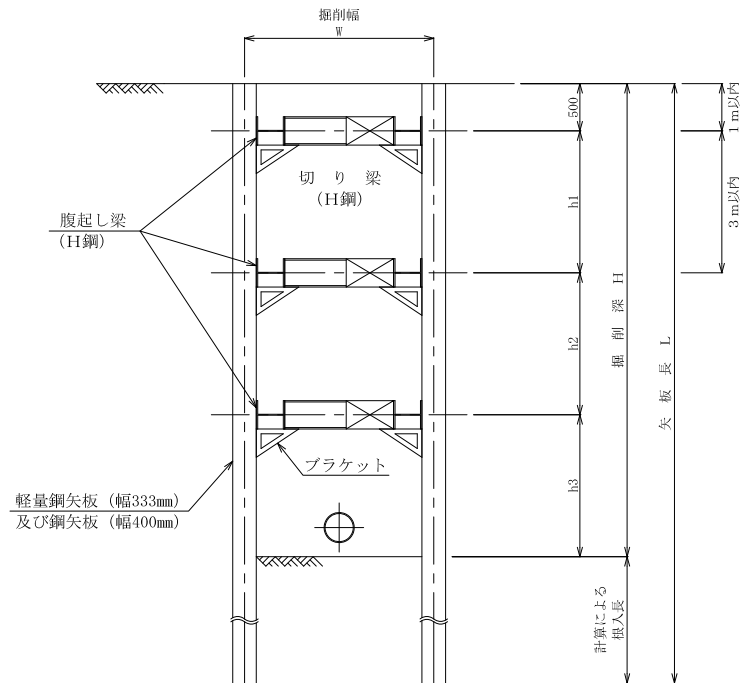
# 土留工構造図

打込参考

平面図



断面図



# 支保工材料表

鋼製支保工（参考）

（注）切りばり延長を算出する時はジャッキ幅（ $W=0.50\text{m}$ ）を減長する。

100m当り

種 目	掘削幅（B） 掘削深さ（m）	1.35 （～1.60未満）	1.85 （1.60～2.45未満）	3.05 （2.45～3.70未満）
腹起こし H型鋼	深 さ 4 m未満	H-200×200×8 2段 $0.0550 \times 100 \times 4 = 22.00 \text{ t} / 100$	同 左	同 左
切りばり H型鋼	4 m未満	H-200×200×8 $L_1 = x \text{ m} \times 66\text{本}/100\text{m}$ $W_1 = 0.0550 \times L_1$	H-200×200×8 $L_2 = x \text{ m} \times 66\text{本}/100\text{m}$ $W_2 = 0.0550 \times L_2$	H-200×200×8 $L_3 = x \text{ m} \times 66\text{本}/100\text{m}$ $W_3 = 0.0550 \times L_3$
重量計	4 m未満	$(22.00 + W_1) \text{ t}$	$(22.00 + W_2) \text{ t}$	$(22.00 + W_3) \text{ t}$
副部材A 副部材B		リース重量×（X）	同 左	同 左

備 考 副部材A、Bの重量については別途定数Xを掛けて算出する。

副部材Aとはジャッキ、コーナーピース、カバープレート、調整料等をいう。

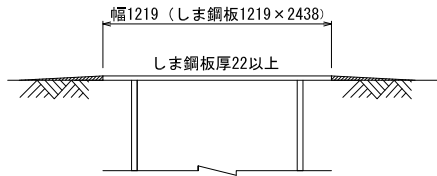
副部材Bとはボルトナット、鉄筋ブラケット、ジャッキハンドル等をいう。

$L = (\text{掘削幅} - \text{矢板厚} \times 2 - 0.200 \times 2 - 0.50) \text{ m}$ である。

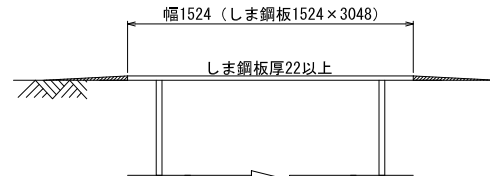
# 【路面覆工】

# 路面覆工（参考図）

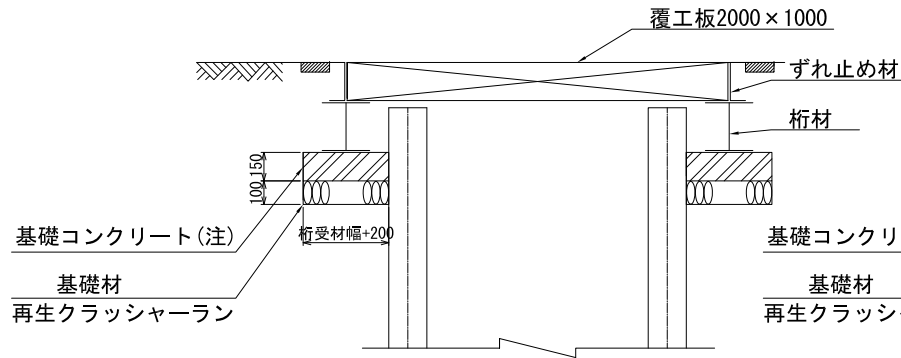
①覆工幅1.20m T-14荷重



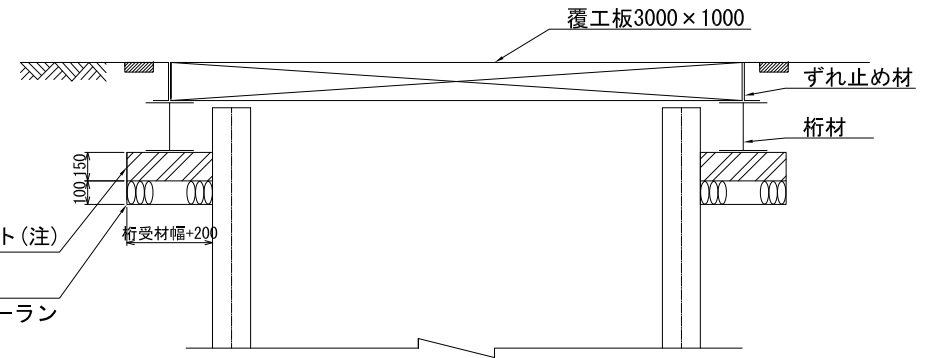
②覆工幅1.50m T-14荷重



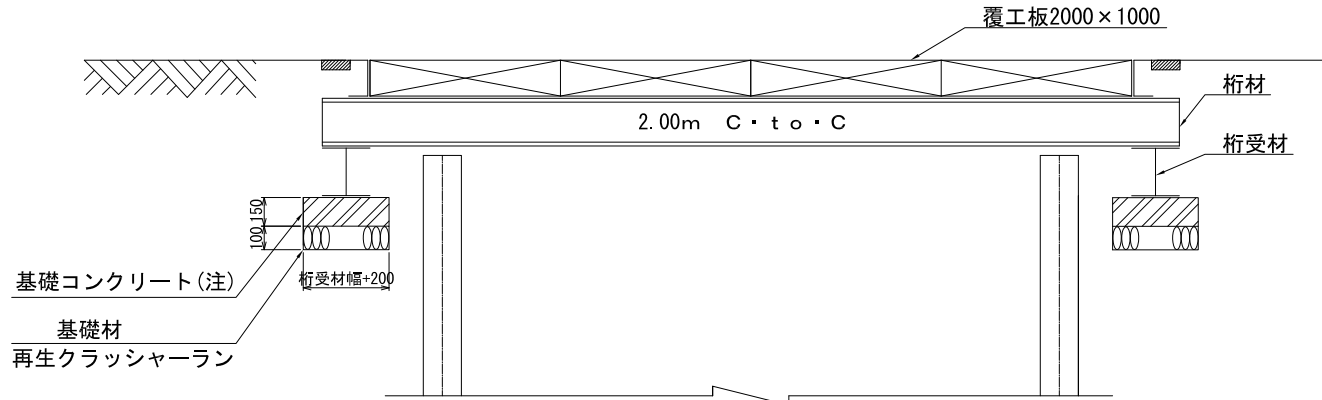
③覆工幅2.0m T-25荷重




④覆工幅3.0m T-25荷重



⑤覆工幅2.0~6.0m T-25荷重



※  アスファルトすりつけ

(注) 基礎コンクリートは、地耐力、覆工期間により有無を検討すること。

## 覆工材料表（参考）

10m当り

種目 タイプ、幅 (m)	覆工板 (枚)	けた材 2.00m C・to・C (kg)	けた・受材 (kg)	備考
① 1.20	しま鋼板 22×1.219×2.438 4.1			T-14荷重
② 1.50	しま鋼板 22×1.524×3.048 3.3			T-14荷重
③ 2.00	2000×1000 10	H-250×250×9×14 20.0m 1600	[-200×80×7.5 492	T-25荷重
④ 3.00	3000×1000 10	H-300×300×10×15 20.0m 2000	[-200×80×7.5 492	T-25荷重
⑤ 2.00	2000×1000 10	H-250×250×9×14 2.50m 1000	H-250×250×9×14 [-200×80×7.5 2092	T-25荷重
⑤ 3.00	2000×1000 15	H-300×300×10×15 3.50m 1750	H-250×250×9×14 [-200×80×7.5 2092	T-25荷重
⑤ 4.00	2000×1000 20	H-350×350×12×19 4.50m 3038	H-250×250×9×14 [-200×80×7.5 2092	T-25荷重
⑤ 5.00	2000×1000 25	H-350×350×12×19 5.50m 3713	H-250×250×9×14 [-200×80×7.5 2092	T-25荷重
⑤ 6.00	2000×1000 30	H-400×400×13×21 6.50m 6500	H-250×250×9×14 [-200×80×7.5 2092	T-25荷重

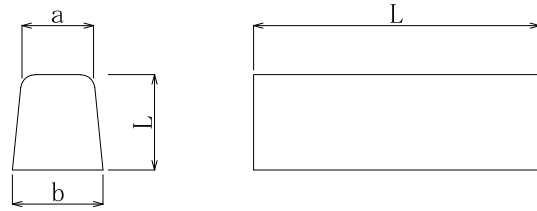
備考：覆工板は、据置式（はめこみ式）を標準とする。

覆工板受桁、覆工板受桁用桁受は加工材を標準とする。（下水道用設計標準歩掛表 C-14覆工）

**【舗装工】**

# 道路用ブロック構造図

標準部



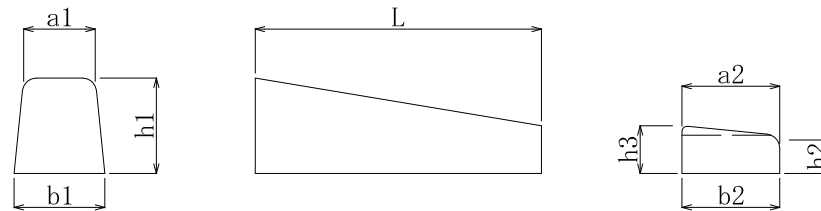
種 別	寸 法 表				摘 要
	a	b	h	L	
歩車道境界ブロック A	150	190	200	600	JIS A 5371
歩車道境界ブロック B	180	230	250	600	
歩車道境界ブロック B(L)				2000	
歩車道境界ブロック C	180	240	300	600	
歩車道境界ブロック C(L)				2000	

乗入部



種 別	寸 法 表					摘 要
	a	b	h1	h2	L	
歩車道境界段差解消ブロック	200	205	80	60	490	自転車歩行者用

切下げ部



種 別	寸 法 表								摘 要
	a1	b1	h1	a2	b2	h2	h3	L	
歩車道境界ブロック AS	150	190	200	205 (200)	205	80 (70)	80 (100)	600	( )は 車両乗入用
歩車道境界ブロック BS	180	230	250					600	
歩車道境界ブロック CS		240	300					600	

※基礎材料等は、土木構造物標準図集を参照のこと。

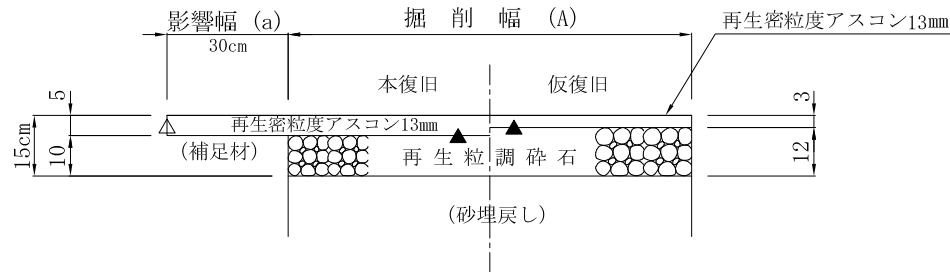
# 舗装復旧タイプ別構造図 (1)

車道本復旧において、既設舗装が排水性舗装の場合はポーラス (13) を使用する。

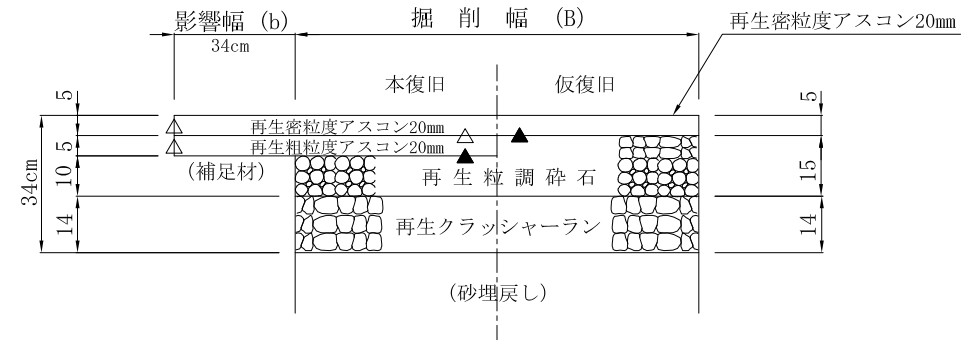
- △ タックコート
- ▲ プライムコート

※影響幅の原則は、タイプA及び歩道タイプは0.3mとし、  
タイプB, C, Dは舗装厚とする。

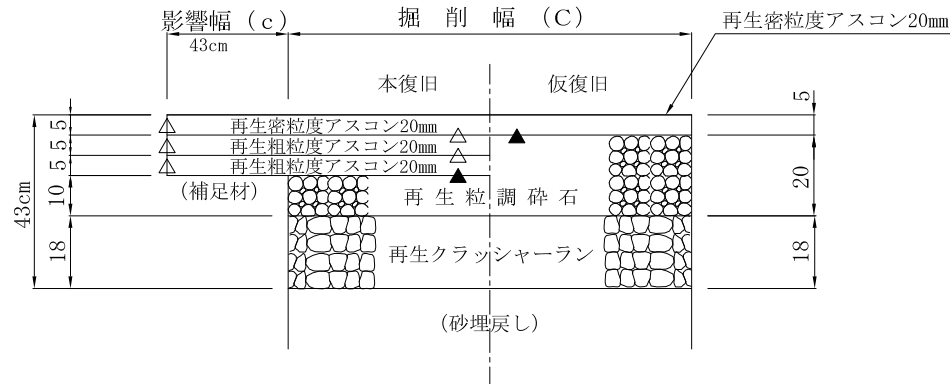
アスファルト系舗装道 (A・a)



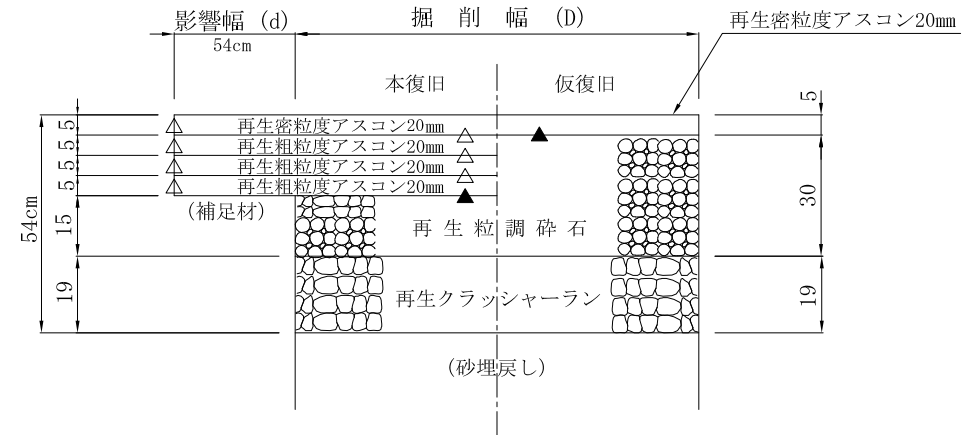
アスファルト系舗装道 (B・b)



アスファルト系舗装道 (C・c)



アスファルト系舗装道 (D・d)

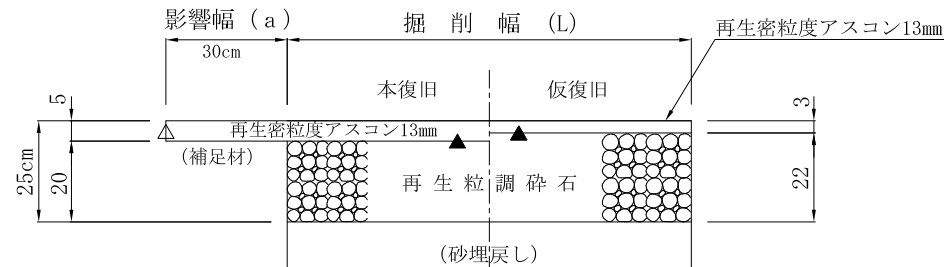


※舗装復旧は原則として現況復旧で行うため、現場の舗装構成を調査すること。  
※資材については、再生材を標準とする。

## 舗装復旧タイプ別構造図（2）

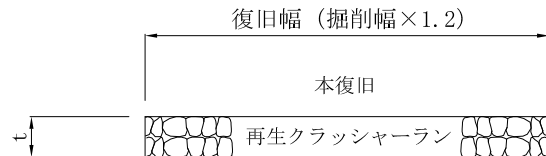
△ タックコート  
▲ プライムコート

### アスファルト系舗装道（L）

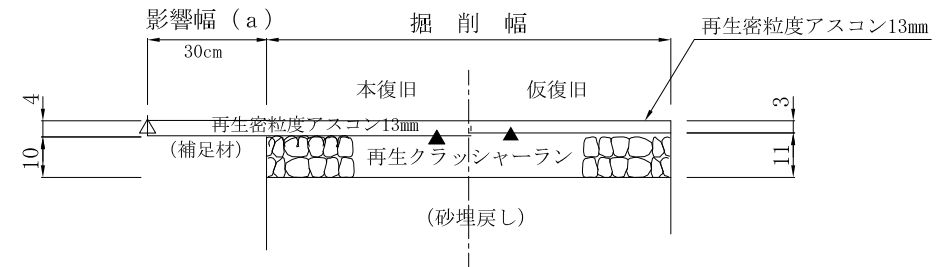


取付管の施工については全てL舗装とする。  
取付管以外の浅層埋設施工については浅層埋設方針決定に従うこと。

### 砂利道



### アスファルト系舗装道（歩道）



※仮復旧が明らかに不要な場合は省略可

- 注) 1. 舗装本復旧○とは図の各タイプ別本復旧を示す。  
2. 舗装仮復旧○とは図の各タイプ別仮復旧を示す。但し、仮復旧は掘削部にて施工する。  
3. 舗装復旧仮一本○とは各タイプ別に仮復旧した後、本復旧の表層厚分の剥ぎ取りを行い、表層施工する。

凡例 舗装復旧仮一本A

仮復旧後の本復旧であり、仮復旧の粗粒アスコン 3 cm及び路盤材 2 cmを剥ぎ取り、本復旧の密粒アスコン 5 cmの表層部の施工を行う。

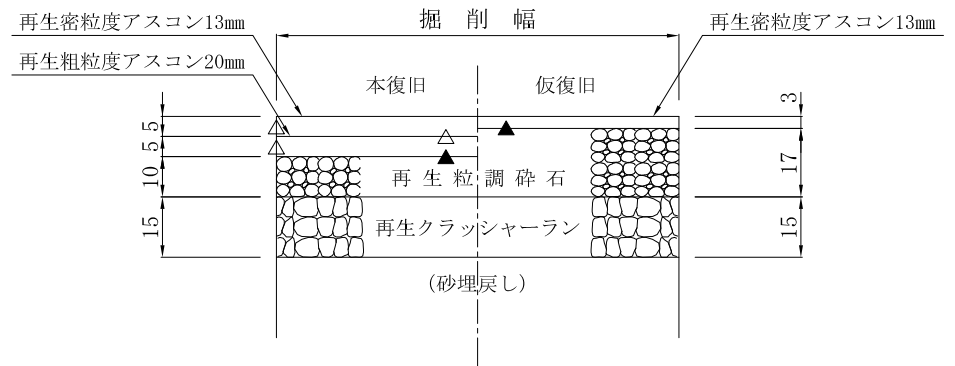
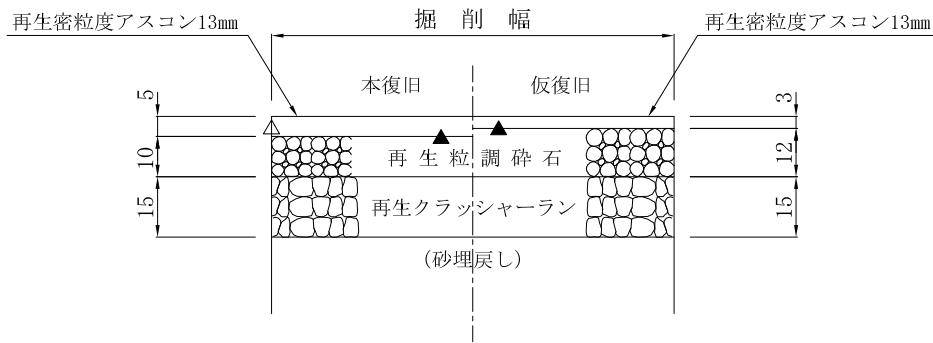
※資材については、再生材を標準とする。

# 舗装復旧タイプ別構造図 (3)

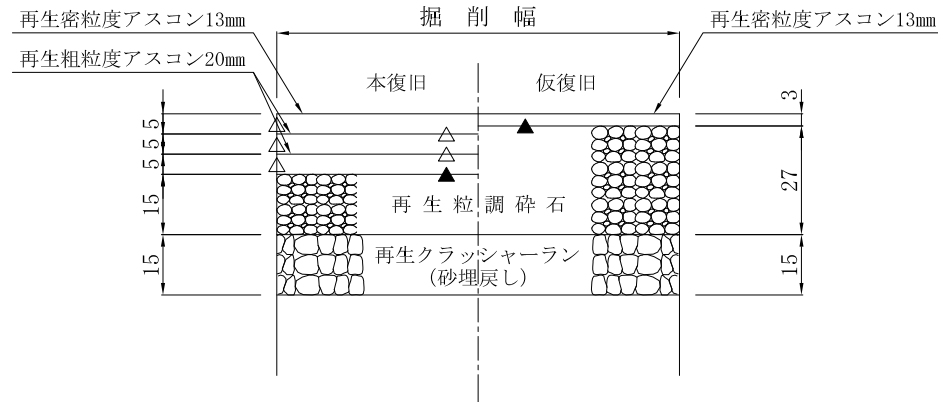
- △ タックコート
- ▲ プライムコート

アスファルト系舗装道 (歩道車両乗入部) I型  
小型貨物自動車等 (乗用車)

アスファルト系舗装道 (歩道車両乗入部) II型  
普通貨物自動車 (6.5 t 以下)



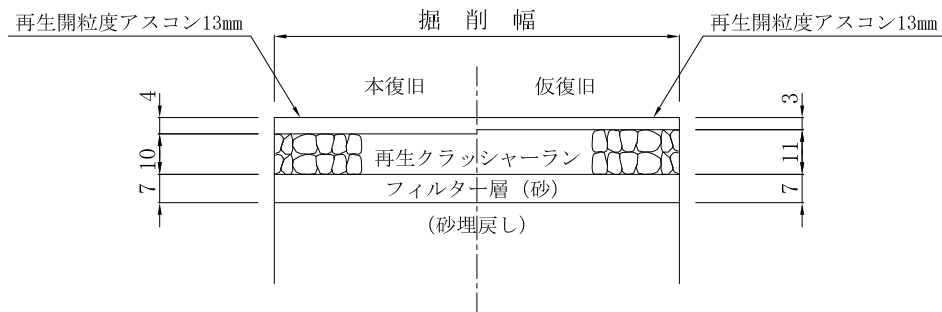
アスファルト系舗装道 (歩道車両乗入部) III型  
大型及び中型貨物自動車 (6.5 t を超えるもの)



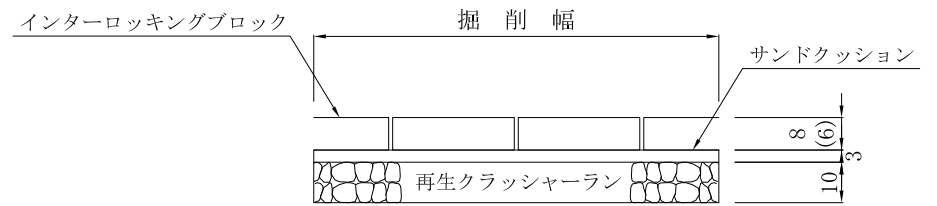
※仮復旧が明らかに不要な場合は省略可

# 舗装復旧タイプ別構造図（４）

アスファルト系舗装道（歩道）透水性舗装



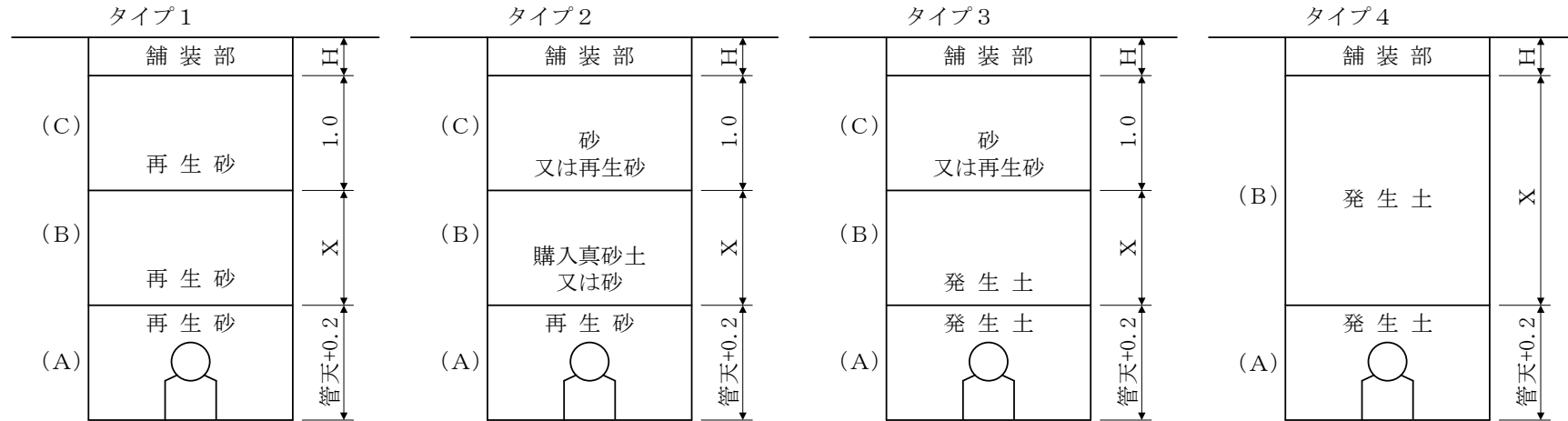
インターロッキング舗装（歩道）



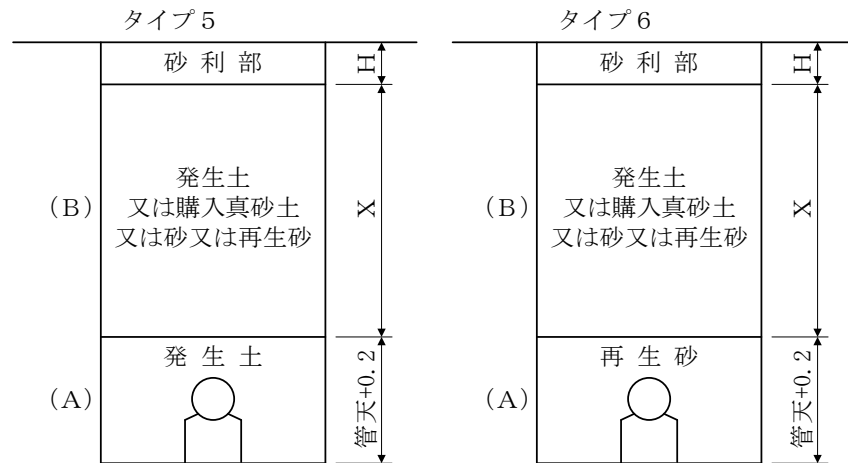
※仮復旧が明らかに不要な場合は省略可

# 埋戻構造基準

## イ) 舗装道



## ロ) 砂利道



注1) (A) 区分における発生土とは「砂質土」とする。

注2) (B) 区分における発生土とは「砂質土」、「礫質土」とする。

注3) 舗装部Hとは「表層+路盤厚」とする。

注4) (A)、(B)、(C) 区分は機械埋戻しを原則とする。

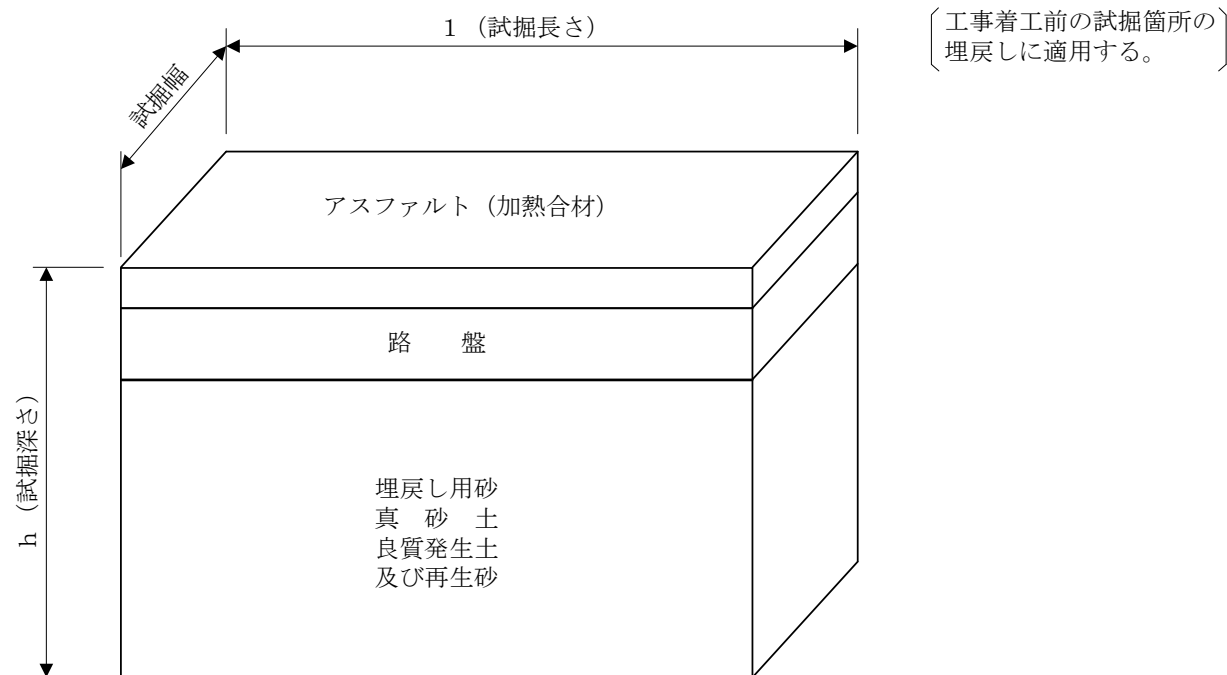
注5) (B) 区分の層厚「X」が0.20m未満の場合は、(A) 区分の土質と同じとする。

注6) タイプ1～3において、土被りが浅く、「管天+0.2m」のラインがC層へ含まれる場合は、全砂又は全再生砂埋戻しとする。

注7) 塩ビ管の場合の管まわりは、再生砂又は良質な発生土を標準とする。

注8) 「道路掘さく跡の埋戻し及び復旧工事施工基準」に従うこと。

## 試掘箇所復旧基準



※試掘幅は、原則として1 mとする。

※舗装道の復旧は、タイプ別の本復旧を標準とするが、現場状況により仮復旧止めとすることができる。

※砂利道の復旧は、発生土埋戻しとし、砂利復旧とする。

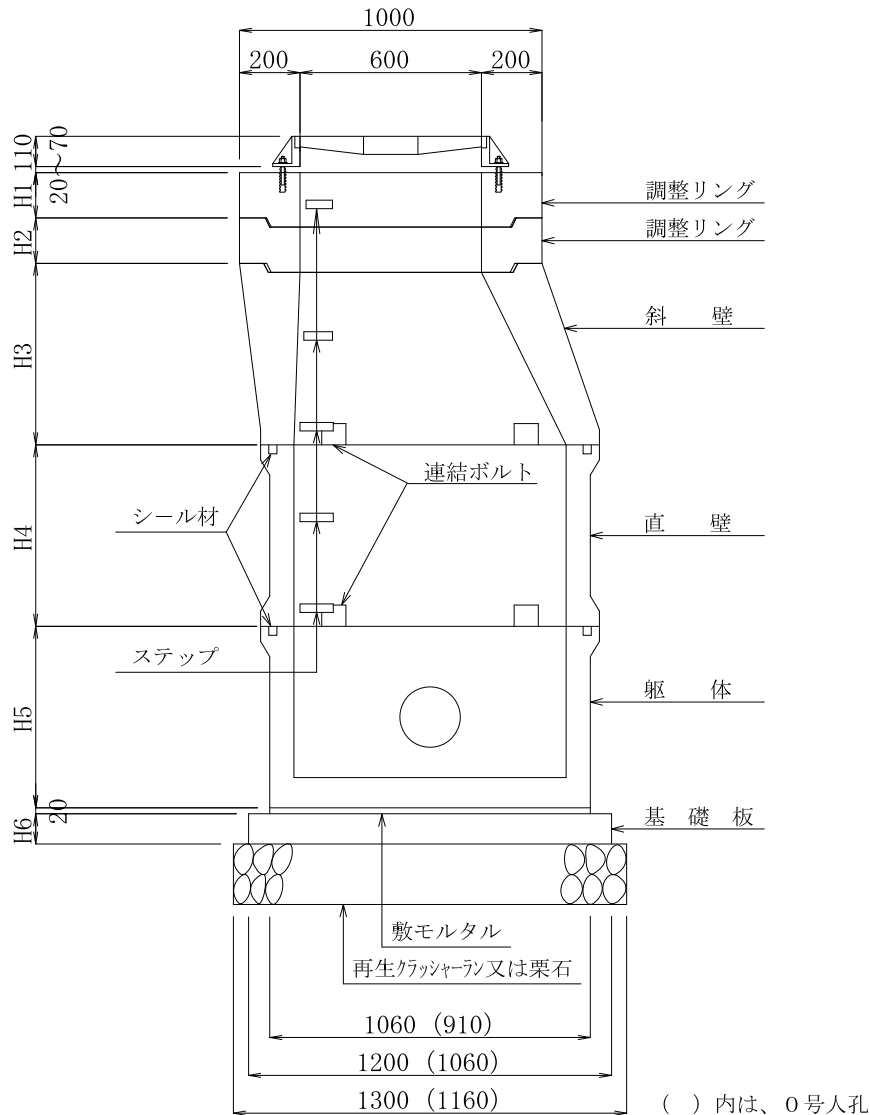
※h (試掘深さ) は、地下埋設物を確認できる深さ (埋設物の下面まで) とする。

※ $h \geq 1.5\text{m}$ の場合は、山留工を検討する。

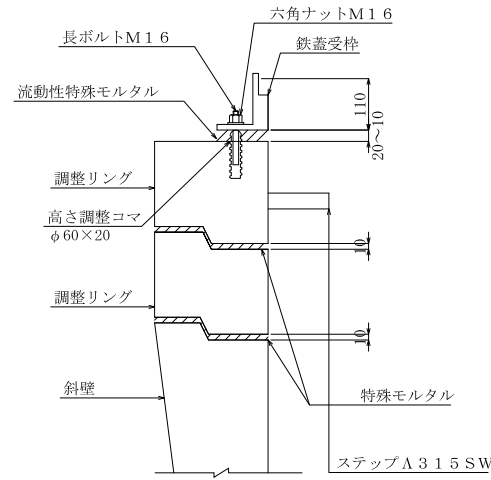
**【マンホール工】**

# 福岡市型 0号及び1号組立マンホール

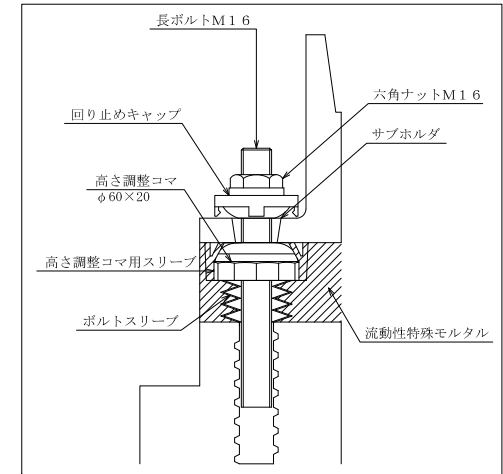
標準組立図



調整リング部詳細図



参考図



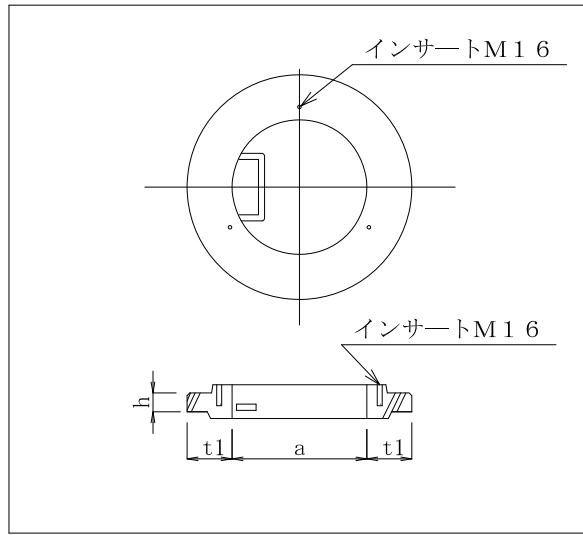
※ 特記事項 ※

- 調整リングは鉄蓋受枠とボルトにより連結する構造であり、受枠のひずみを防止する目的から、高さ調整コマを3ヶ所、受枠と調整リングの間に挿入し、均等にナットを締め付ける。
- 調整リングは全てステップ付きであるが、調整リングにはステップを取り付けない構造とする。
- 調整リングの高さはH=100、150の2種類とし、最大積み重ね段数はH=100を2段までとする。
- 流動性特殊モルタル……………高流動性超早強無収縮モルタル  
特殊モルタル……………収縮抑制型早強モルタル
- 施工時における組合せは設計図書に拘束されない。

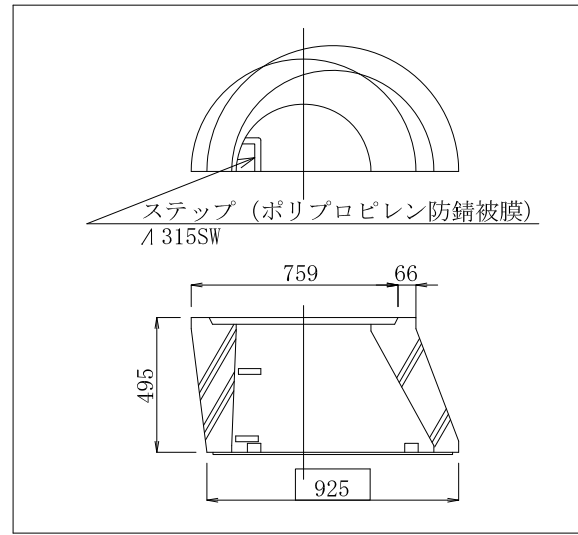
種類	0号	1号
	高さ (mm)	高さ (mm)
調整リング	H1=150	H1=150
調整リング	H2=100, 150	H2=100, 150
斜壁	H3=300, 450, 600	H3=300, 450, 600
直壁	H4=300, 600	H4=300, 600, 900
躯体	H5=600, 900	H5=600, 900, 1100
基礎板	H6=110	H6=130

# 0号及び1号組立マンホール構造図

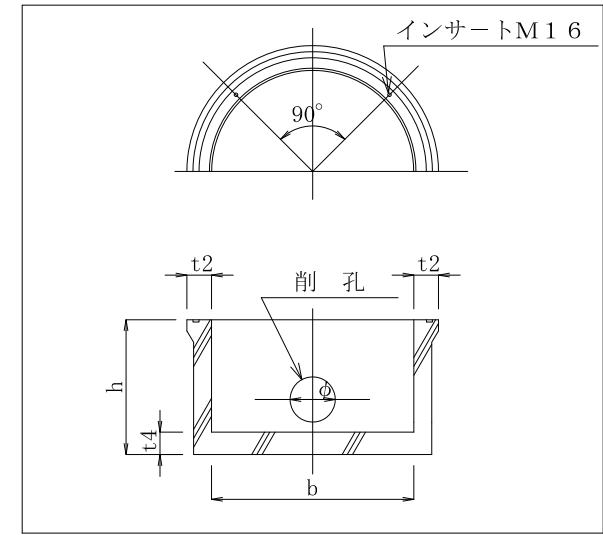
調整リング



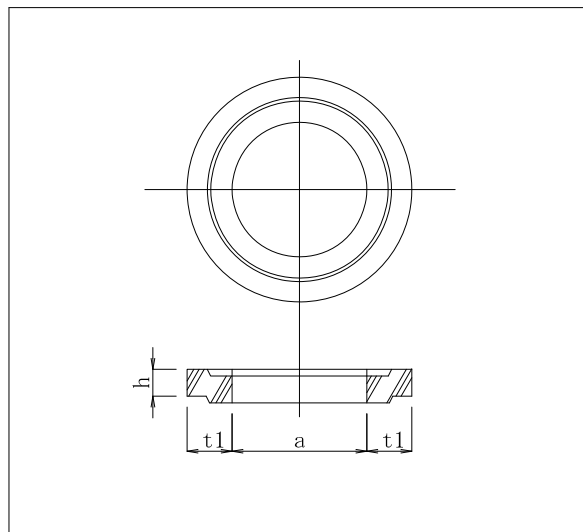
斜壁



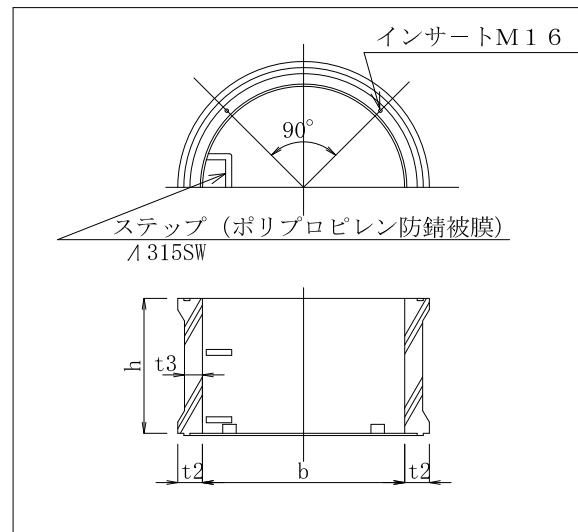
躯体



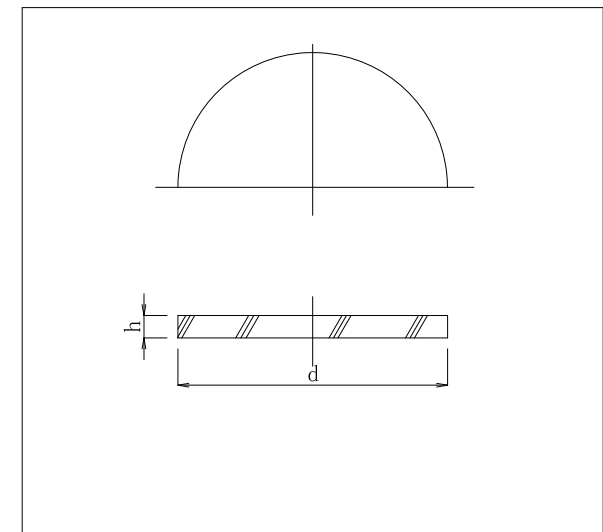
調整リング



直壁



基礎板



# 形 状 寸 法

0号、1号共通

種 類	呼 び 名	寸 法								参考重量 (k g)
		a	b	h	t 1	t 2	t 3	t 4	d	
調整リング	H=150	600	-	150	200	-	-	-	-	180
調整リング	H=100	600	-	100	200	-	-	-	-	120
	H=150	600	-	150	200	-	-	-	-	180

0号

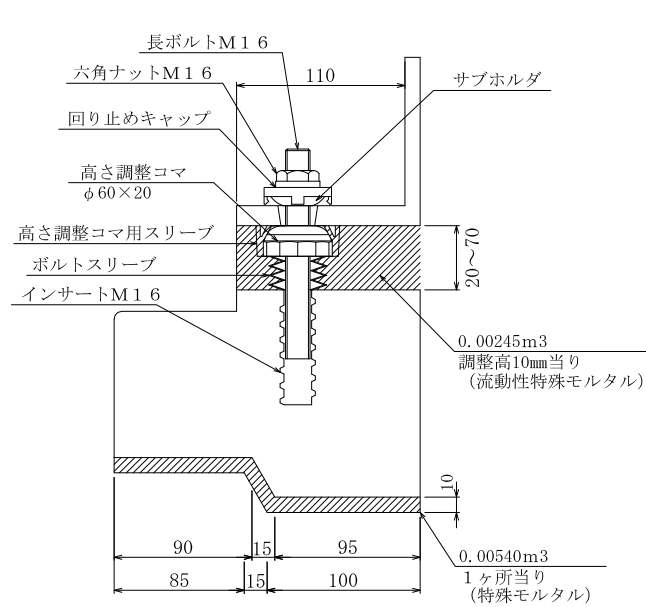
種 類	呼 び 名	寸 法								参考重量 (k g)
		a	b	h	t 1	t 2	t 3	t 4	d	
斜 壁	H=300	600	750	300	200	100	-	-	-	280
	H=450	600	750	450	200	100	-	-	-	420
	H=600	600	750	600	200	100	-	-	-	560
直 壁	H=300	-	750	300	-	100	80	-	-	170
	H=600	-	750	600	-	100	80	-	-	320
軀 体	H=600	-	750	600	-	100	-	100	-	410
	H=900	-	750	900	-	100	-	100	-	560
基礎板	$\phi = 1050$	-	-	110	-	-	-	-	1050	230

1号

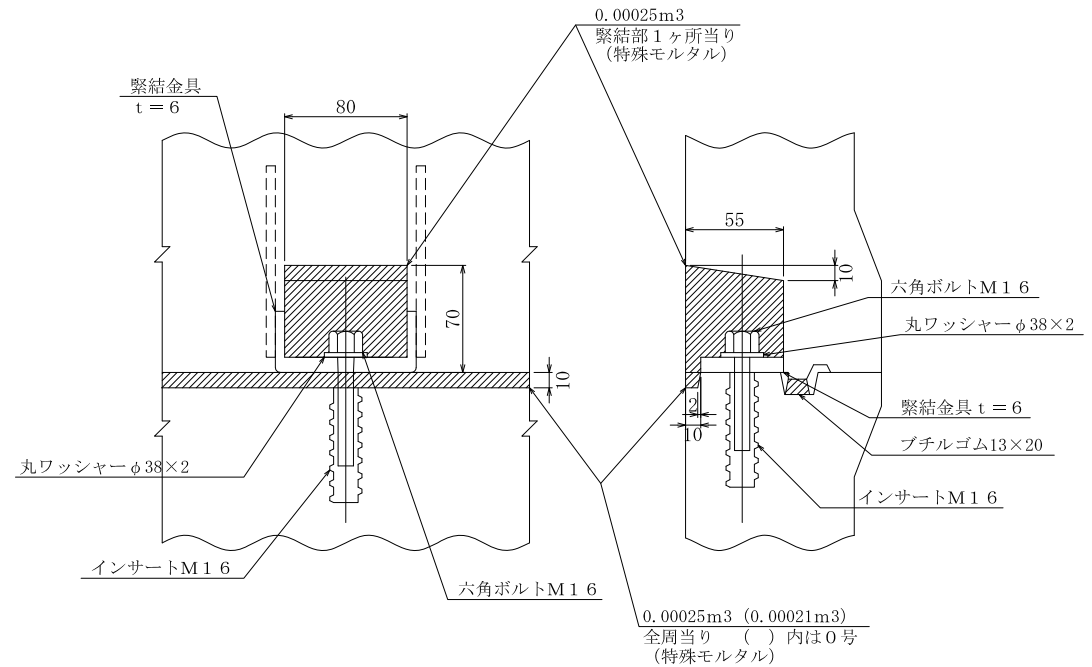
種 類	呼 び 名	寸 法								参考重量 (k g)
		a	b	h	t 1	t 2	t 3	t 4	d	
斜 壁	H=300	600	900	300	200	110	-	-	-	310
	H=450	600	900	450	200	110	-	-	-	460
	H=600	600	900	600	200	110	-	-	-	620
直 壁	H=300	-	900	300	-	110	80	-	-	210
	H=600	-	900	600	-	110	80	-	-	390
	H=900	-	900	900	-	110	80	-	-	570
軀 体	H=600	-	900	600	-	110	-	100	-	540
	H=900	-	900	900	-	110	-	100	-	730
	H=1100	-	900	1100	-	110	-	100	-	850
基礎板	$\phi = 1200$	-	-	130	-	-	-	-	1200	350

# 特殊モルタル充填量

調整リング部 (参考図)



斜壁、直壁、躯体部



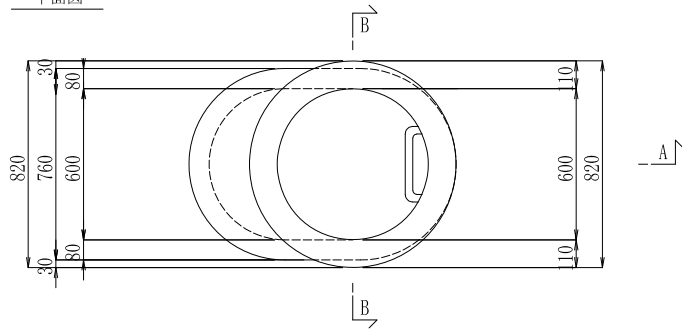
削孔部 (特殊モルタル)

1ヶ所当り

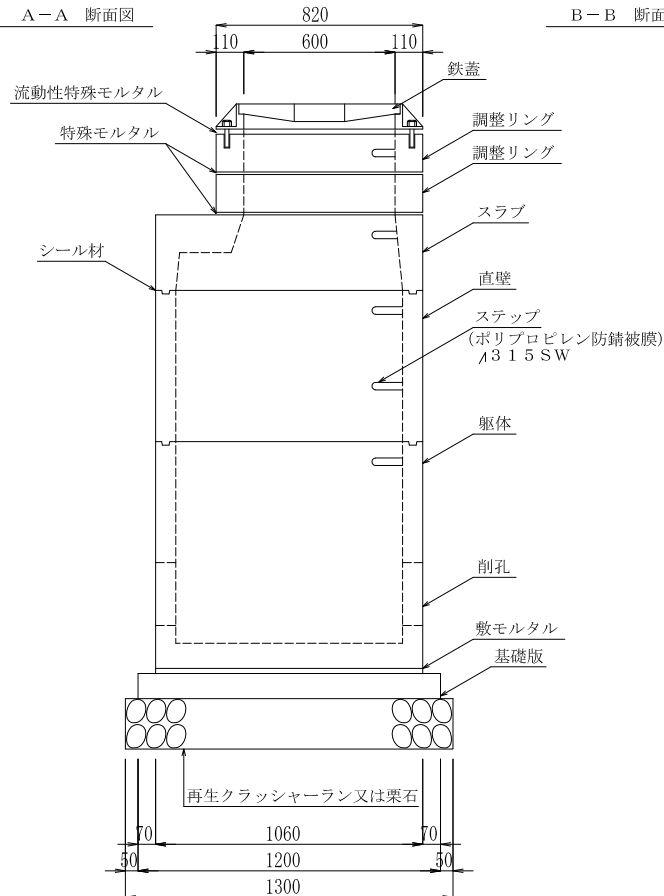
削孔径 φ (mm)	ヒューム管				塩ビ管 (V U)				厚陶管			
	呼径 (mm)	外径 (mm)	余裕 (mm)	モルタル (m3)	呼径 (mm)	外径 (mm)	余裕 (mm)	モルタル (m3)	呼径 (mm)	外径 (mm)	余裕 (mm)	モルタル (m3)
203	—	—	—	—	150	165	19.0	0.00088	—	—	—	—
253	150	202	25.5	0.00146	200	216	18.5	0.00109	150	188	32.5	0.00180
304	200	254	25.0	0.00175	250	267	18.5	0.00133	200	246	29.0	0.00200
354	250	306	24.0	0.00199	300	318	18.0	0.00152	250	302	26.0	0.00214
405	300	360	22.5	0.00216	350	370	17.5	0.00170	300	358	23.5	0.00225
480	350	414	33.0	0.00371	400	420	30.0	0.00339	350	414	33.0	0.00371
530	400	470	30.0	0.00377	450	470	30.0	0.00377	400	470	30.0	0.00377
760	600	700	30.0	0.00550	—	—	—	—	—	—	—	—

# 福岡市型特0号マンホール

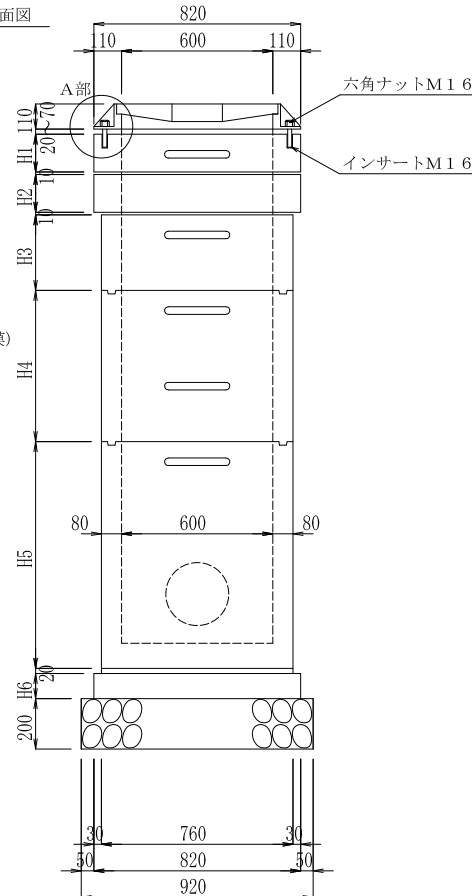
平面図



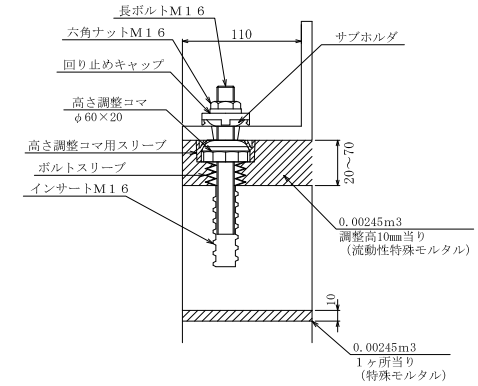
A-A 断面図



B-B 断面図



A部詳細図 (参考図)



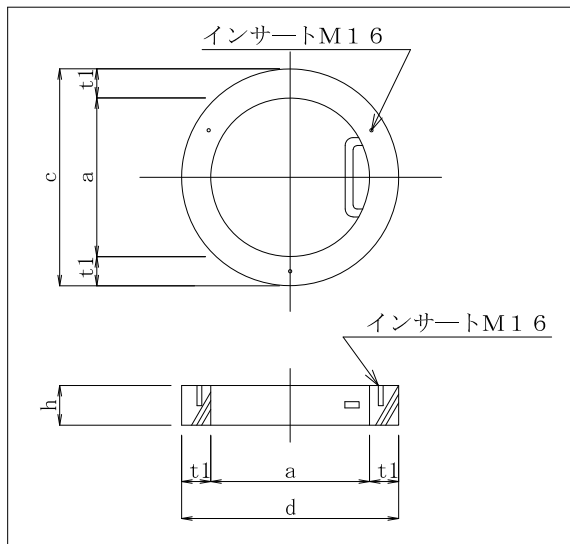
**\*\* 特記事項 \*\***

- 調整リングは鉄蓋受枠とボルトにより連結する構造であり、受枠のひずみを防止する目的から、高さ調整コマを3ヶ所、受枠と調整リングの間に挿入し、均等にナットを締め付ける。
- 調整リングは全てステップ付きであるが、調整リングにはステップを取り付けない構造とする。
- 調整リングの高さはH=100、150の2種類とし、最大積み重ね段数はH=100を2段までとする。
- 流動性特殊モルタル……………高流動性超早強無収縮モルタル  
特殊モルタル……………収縮抑制型早強モルタル
- 施工時における組合せは設計図書に拘束されない。

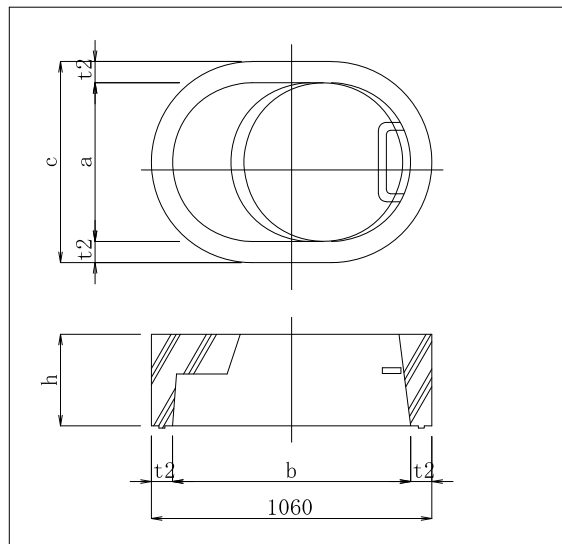
呼び名	高さ (mm)
調整リング	H =150
調整リング	H =100, 150
スラブ	H =150, 300
直壁	H =300, 600
躯体	H =600, 900
基礎板	H =110

# 特0号組立マンホール構造図

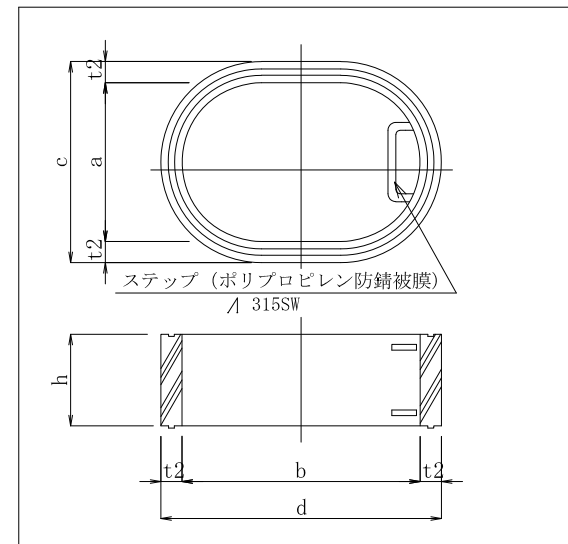
調整リング



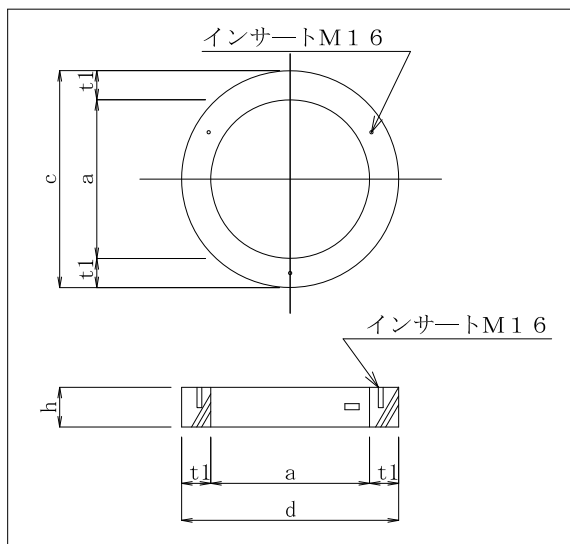
スラブ



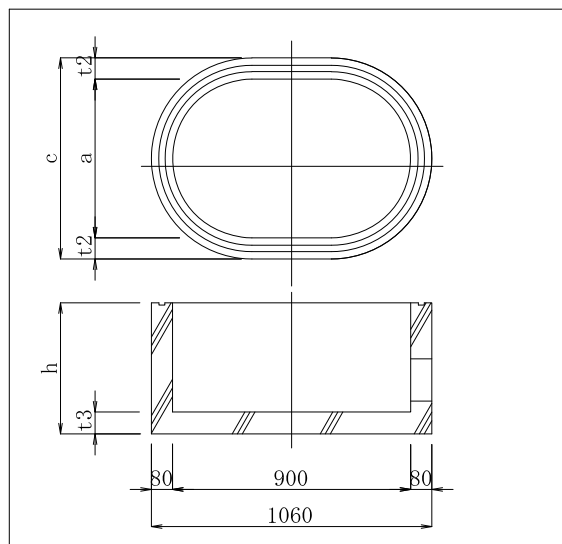
躯体



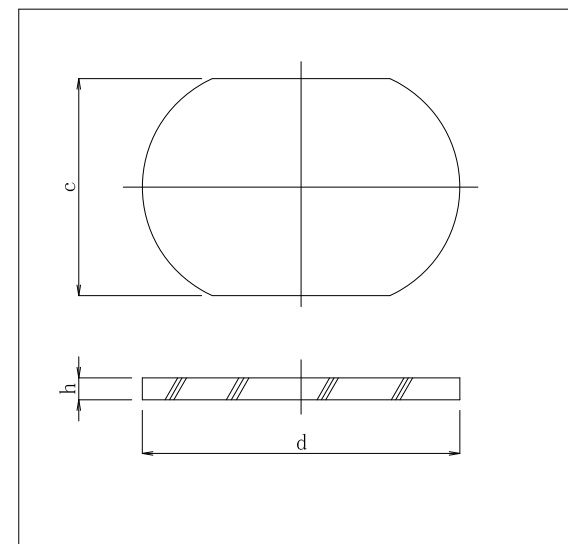
調整リング



直壁



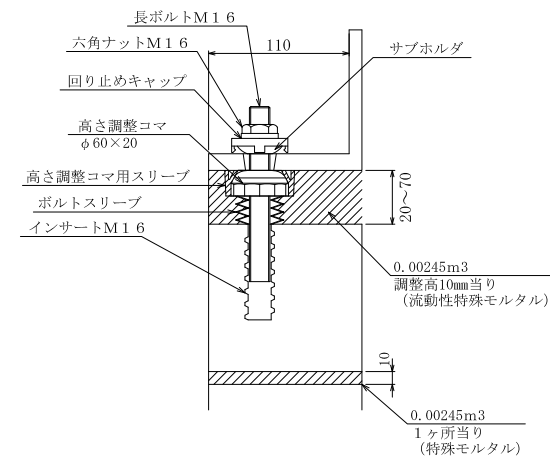
基礎板



### 形状寸法

種類	呼び名	寸法								参考重量 (kg)
		a	b	c	d	h	t 1	t 2	t 3	
調整リング	H=150	600	—	820	820	150	110	—	—	90
調整リング	H=100	600	—	820	820	100	110	—	—	60
	H=150	600	—	820	820	150	110	—	—	90
スラブ	H=150	—	—	760	1060	150	—	—	—	130
	H=300	600	900	760	1060	300	—	80	—	210
直壁	H=300	600	900	760	1060	300	—	80	—	160
	H=600	600	900	760	1060	600	—	80	—	310
躯体	H=600	600	900	760	1060	600	—	80	—	420
	H=900	600	900	760	1060	900	—	80	—	610
基礎板	820×1200	—	—	820	1200	110	—	—	70	220

### 調整リング部 (参考図)



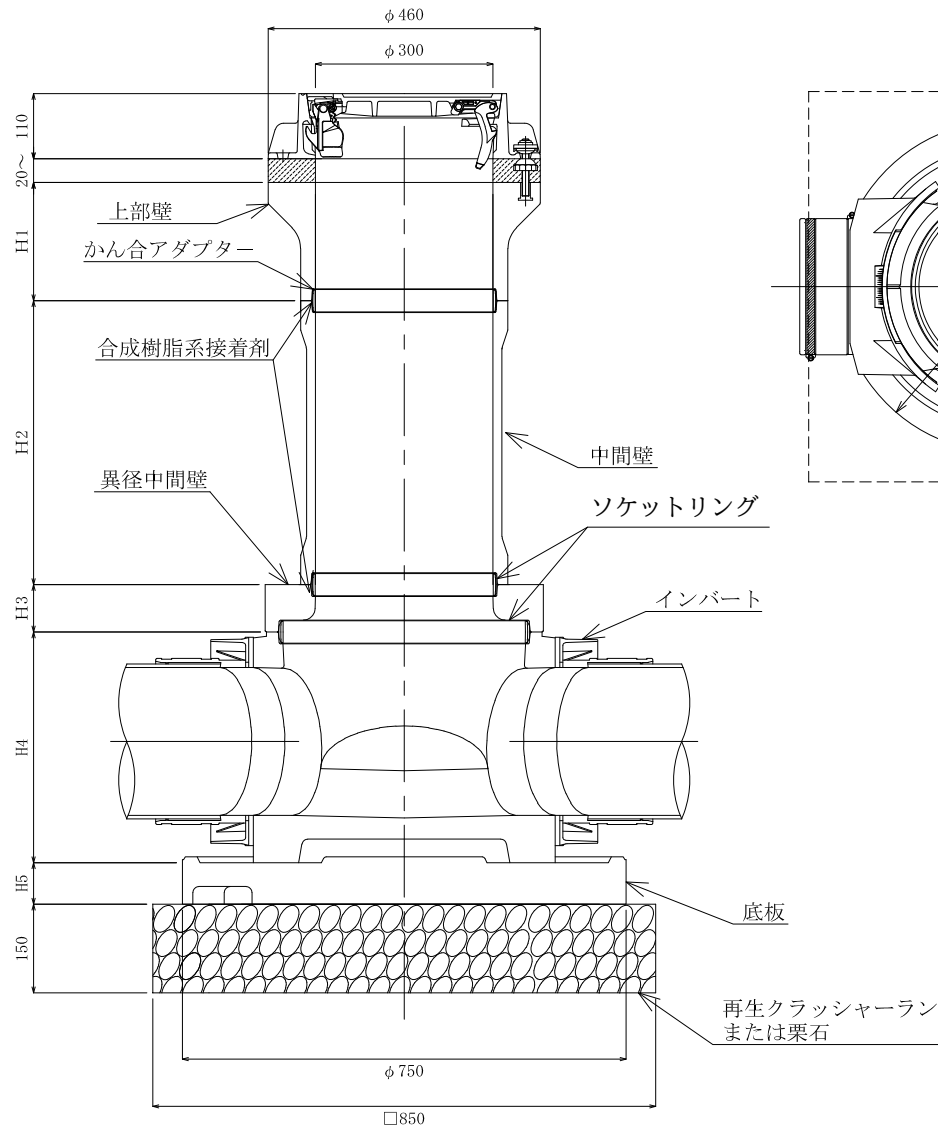
### 特殊モルタル充填量

1ヶ所当り

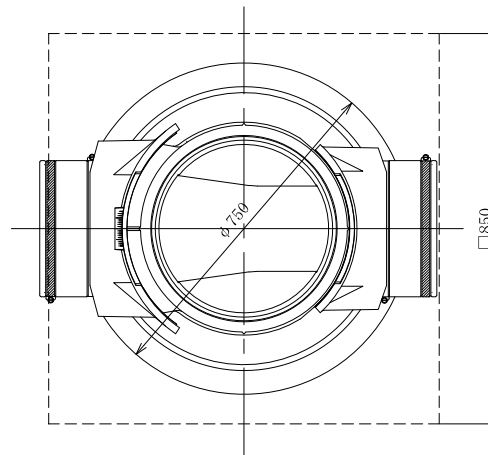
削孔径 φ (mm)	ヒューム管		塩化ビニル管 (VU)		塩化ビニル卵形管		厚陶管	
	呼径(mm)	充填量(m3)	呼径(mm)	充填量(m3)	呼径(mm)	充填量(m3)	呼径(mm)	充填量(m3)
203	—	—	150	0.00092	100	0.00188	—	—
253	150	0.00156	200	0.00119	150	0.00273	150	0.00190
304	200	0.00197	250	0.00154	200	0.00356	200	0.00222
354	250	0.00240	300	0.00193	—	—	250	0.00255
405	300	0.00290	350	0.00244	—	—	300	0.00299
480	350	0.00530	400	0.00499	—	—	350	0.00530
530	400	0.00636	450	0.00636	—	—	400	0.00636

# 福岡市型マシンホール（管径250mm）

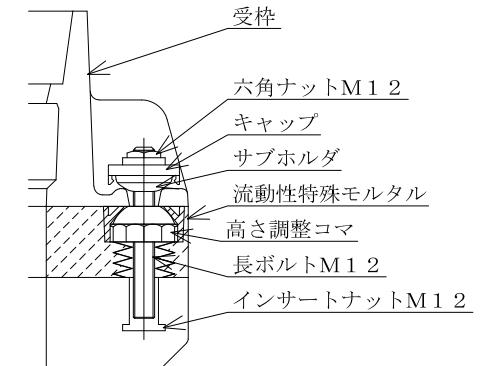
標準組立図



平面図



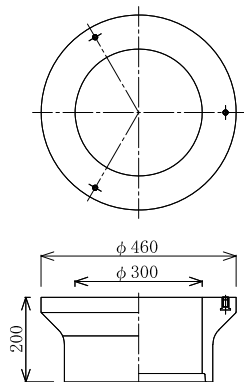
調整部詳細図



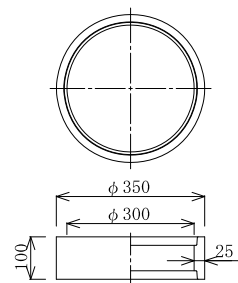
種類	高さ (mm)
上部壁	H1=200
中間壁	H2=100, 150, 300, 400, 500, 600, 900
異径中間壁	H3=80
インバート	H4=390
底板	H5=70

# マシンホール上部・中間壁構造図

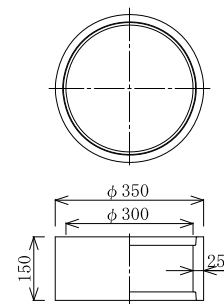
NRMC30 (A) -200



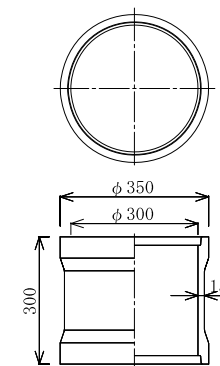
NRMC30 (B) -100



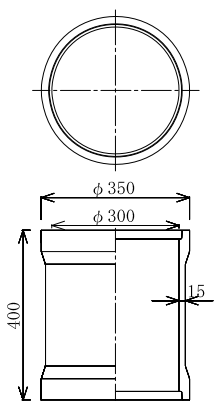
NRMC30 (B) -150



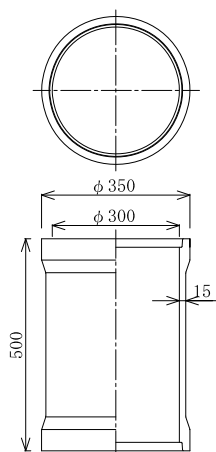
NRMC30 (B) -300



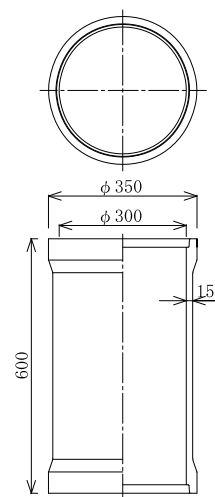
NRMC30 (B) -400



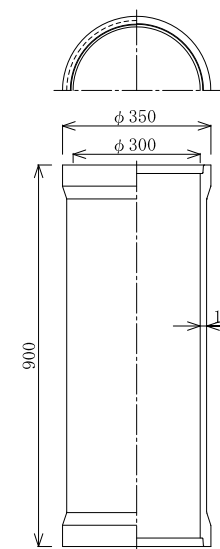
NRMC30 (B) -500



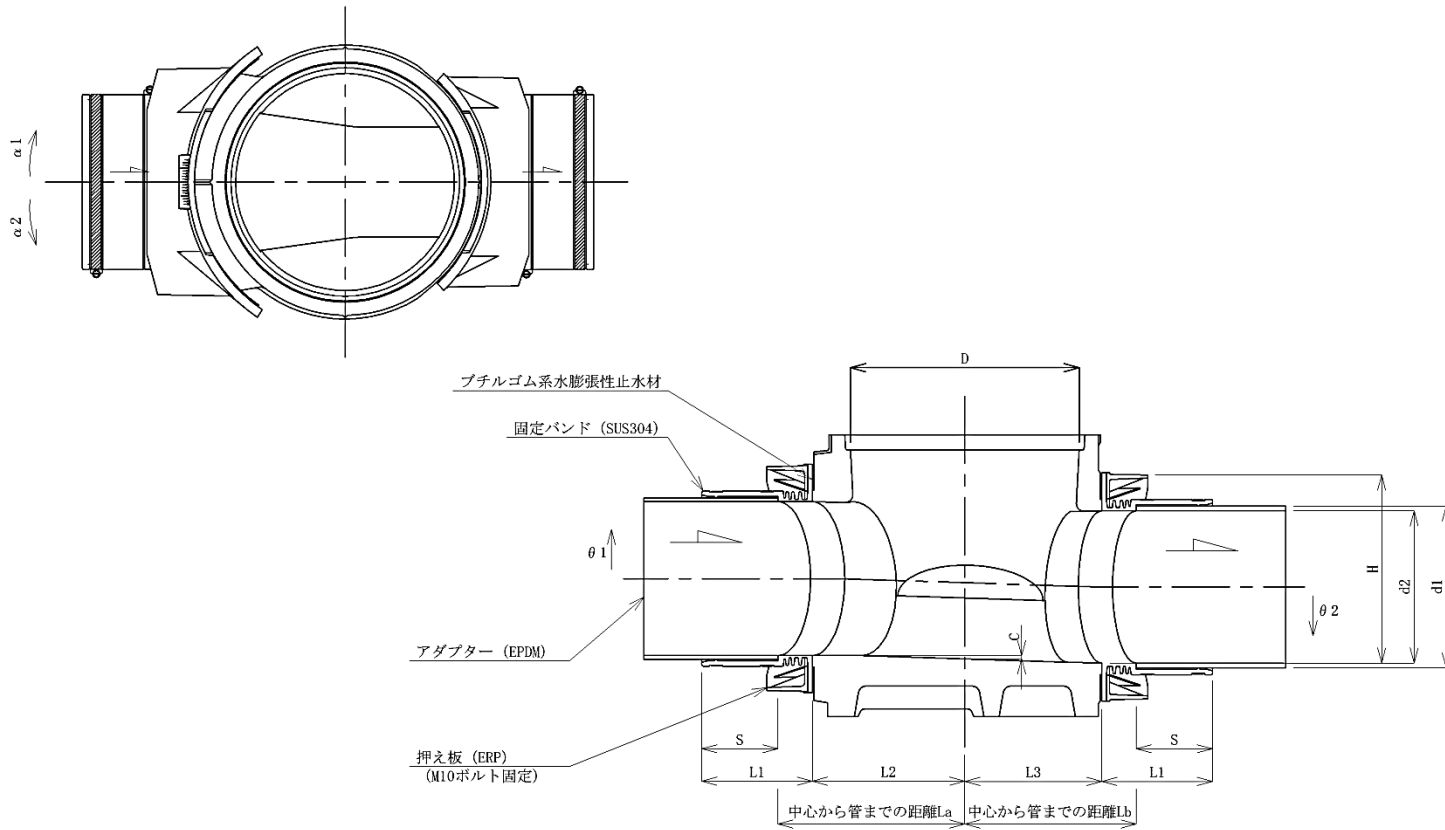
NRMC30 (B) -600



NRMC30 (B) -900



# マシンホールインバート構造図

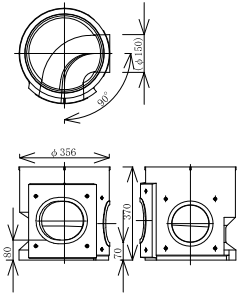


単位：mm

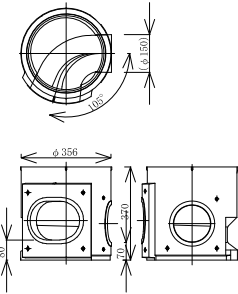
呼び径	D	d 1	d 2	H	C	S	L 1	L 2	L 3	L a	L b	$\theta 1$	$\theta 2$	$\alpha 1, \alpha 2$
VU150	$\phi 300 \pm 3$	$\phi 165$	$\phi 154$	300	10	100	145	200	180	245	225	0~+90%	0~-90%	7.5°
VU200	$\phi 300 \pm 3$	$\phi 216$	$\phi 202$	300	10	100	145	200	180	245	225	0~+90%	0~-90%	7.5°
VU250	$\phi 410 \pm 3$	$\phi 267$	$\phi 250$	320	10	100	155	255	235	310	290	0~+90%	0~-90%	7.5°

# インバート構造図 φ150用 1方向流入 (流入側管口は可動式)

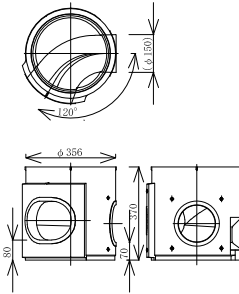
90° (90° ~ 97.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 90 F



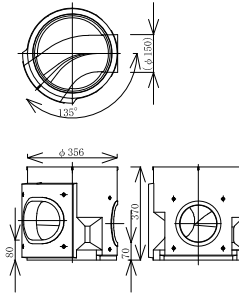
105° (97.5° ~ 112.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 105 F



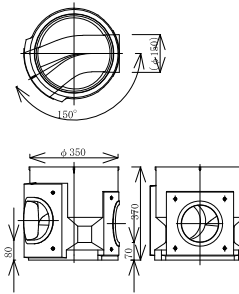
120° (112.5° ~ 127.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 120 F



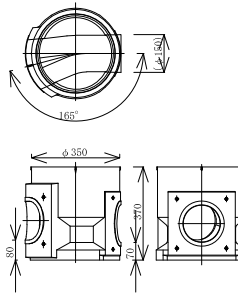
135° (127.5° ~ 142.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 135 F



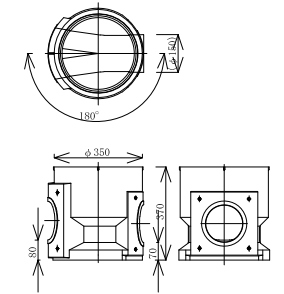
150° (142.5° ~ 157.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 150 F



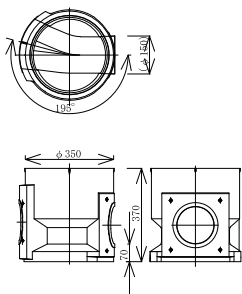
165° (157.5° ~ 172.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 165 F



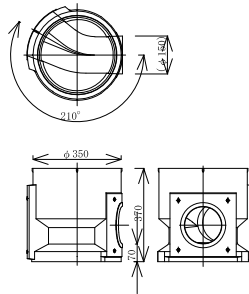
180° (172.5° ~ 187.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 180 F



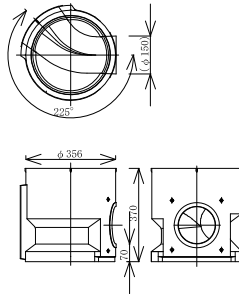
195° (187.5° ~ 202.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 195 F



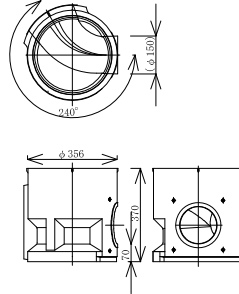
210° (202.5° ~ 217.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 210 F



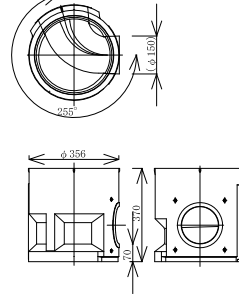
225° (217.5° ~ 232.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 225 F



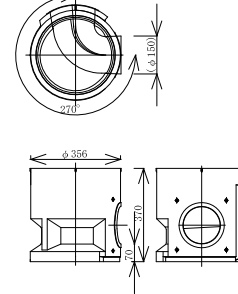
240° (232.5° ~ 247.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 240 F



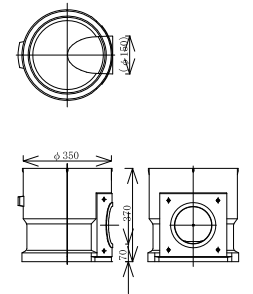
255° (247.5° ~ 262.5°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 255 F



270° (262.5° ~ 270°)  
NRMC30 (C) - 370 (150) 270 F



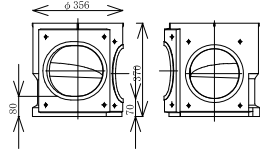
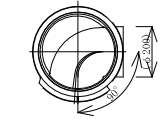
起点  
NRMC30 (C) - 370 (150) キテナ



# インバート構造図 $\phi 200$ 用 1 方向流入 (流入側管口は可動式)

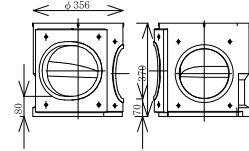
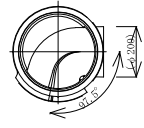
90° (90° ~ 97.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 90 F



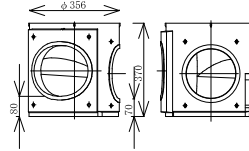
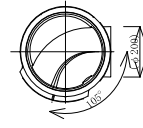
97.5° (97.5° ~ 105°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 97.5 F



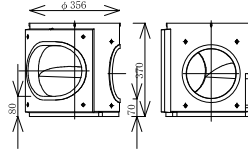
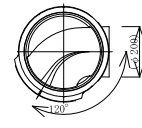
105° (105° ~ 112.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 105 F



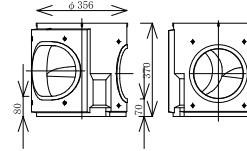
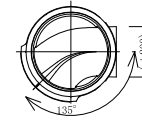
120° (112.5° ~ 127.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 120 F



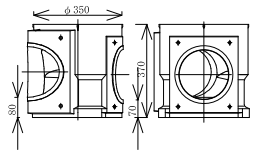
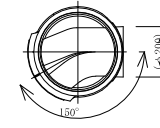
135° (127.5° ~ 142.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 135 F



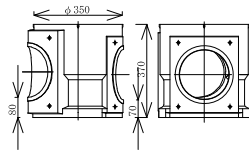
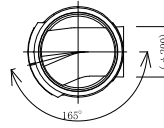
150° (142.5° ~ 157.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 150 F



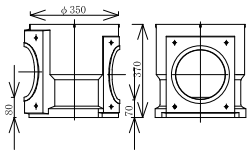
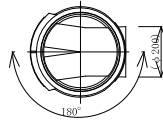
165° (157.5° ~ 172.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 165 F



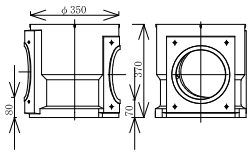
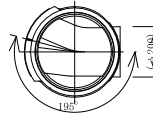
180° (172.5° ~ 187.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 180 F



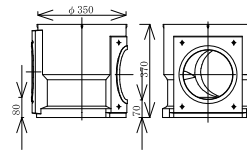
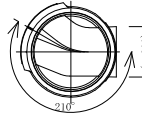
195° (187.5° ~ 202.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 195 F



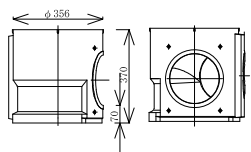
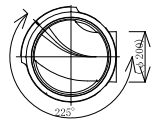
210° (202.5° ~ 217.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 210 F



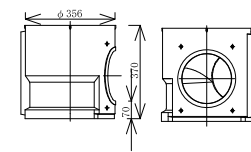
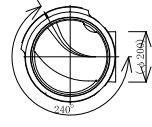
225° (217.5° ~ 232.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 225 F



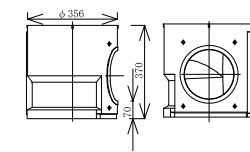
240° (232.5° ~ 247.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 240 F



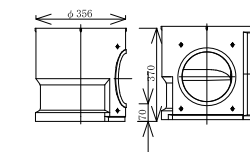
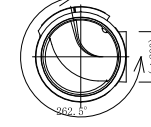
255° (247.5° ~ 256°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 255 F



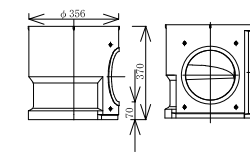
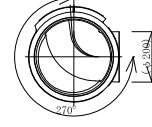
262.5° (256° ~ 262.5°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 262.5 F



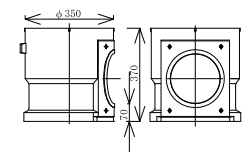
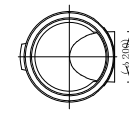
270° (262.5° ~ 270°)

NRMC30 (C) - 370 (200) 270 F



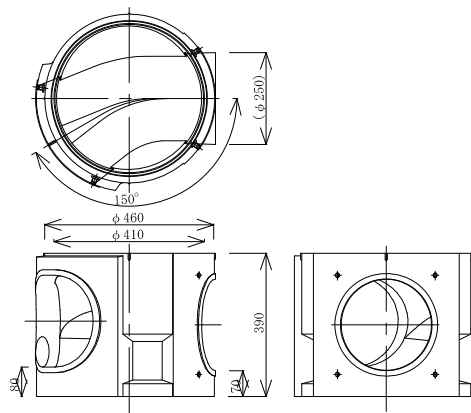
起点

NRMC30 (C) - 370 (200) キテン

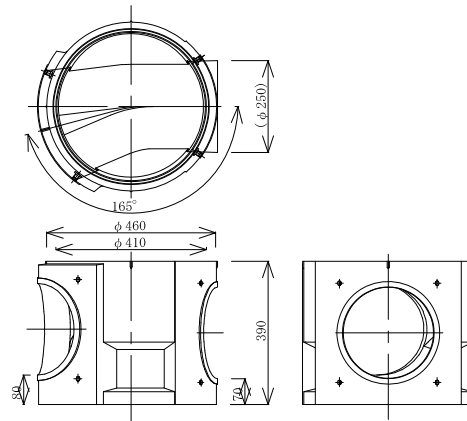


# インバート構造図 φ250用 1方向流入（流入側管口は可動式）

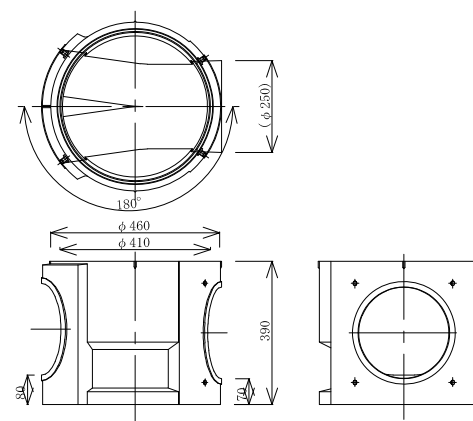
NRMC30 (C) -390 (250) 150 F  
(142.5° ~157.5°)



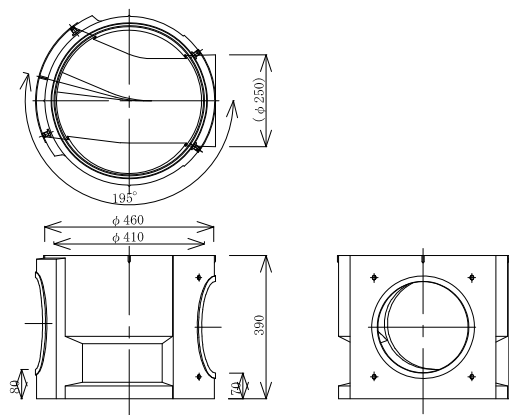
NRMC30 (C) -390 (250) 165 F  
(157.5° ~172.5°)



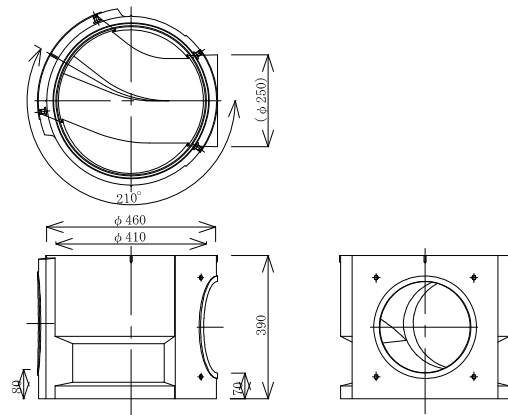
NRMC30 (C) -390 (250) 180 F  
(172.5° ~187.5°)



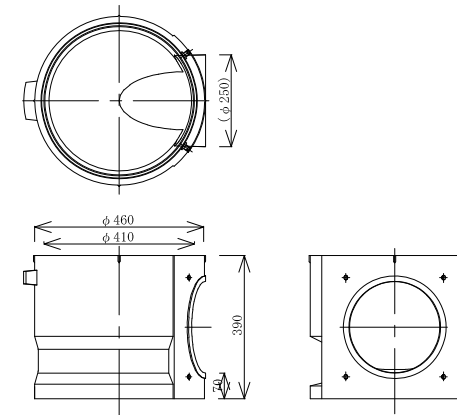
NRMC30 (C) -390 (250) 195 F  
(187.5° ~202.5°)



NRMC30 (C) -390 (250) 210 F  
(202.5° ~217.5°)

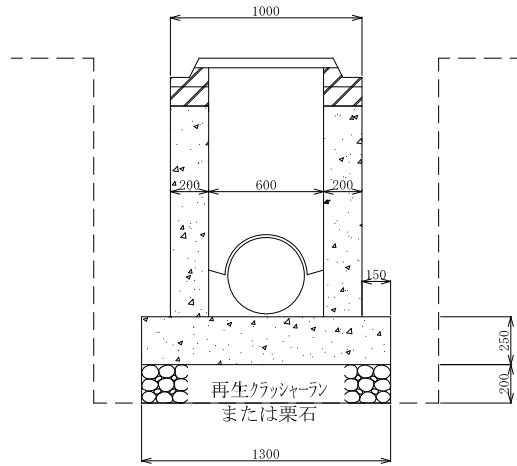


NRMC30 (C) -390 (250) キテン

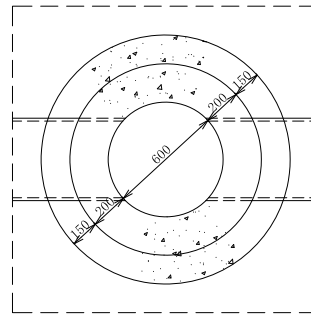


# 小マンホール（内径600）構造図

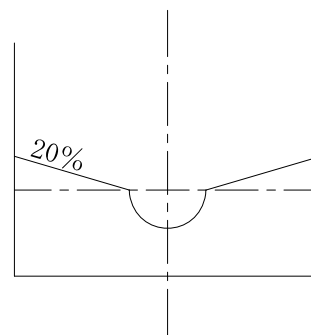
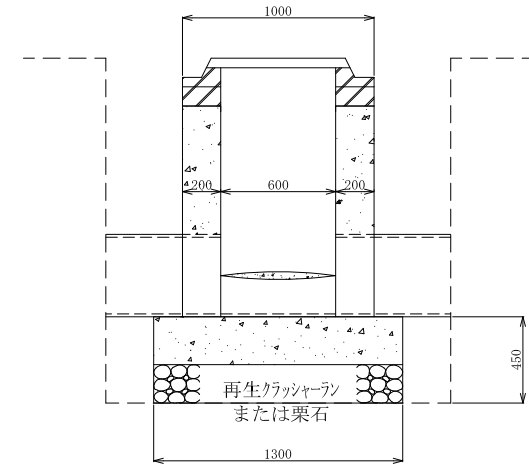
横断面図



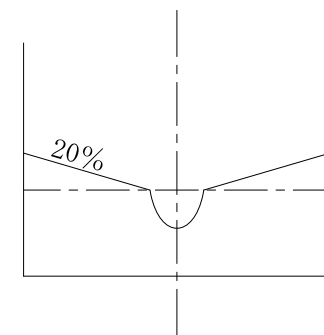
平面図



縦断面図



円形管のインバート

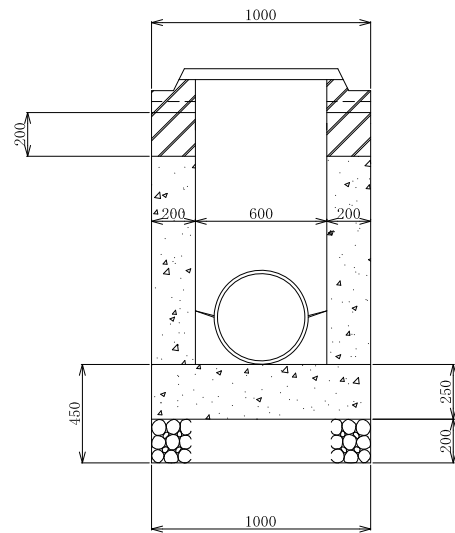


卵形管のインバート

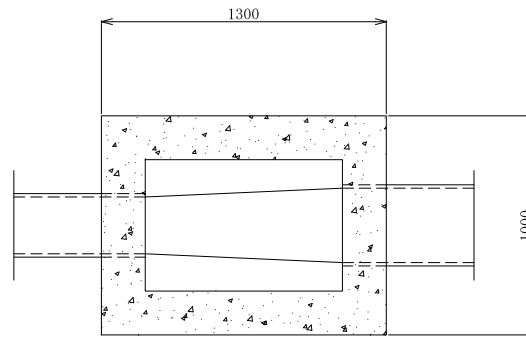
注) 各種マンホールのインバート内における足のせ部の勾配は20%程度とする。

# 特1号マンホール（内径600×900）構造図

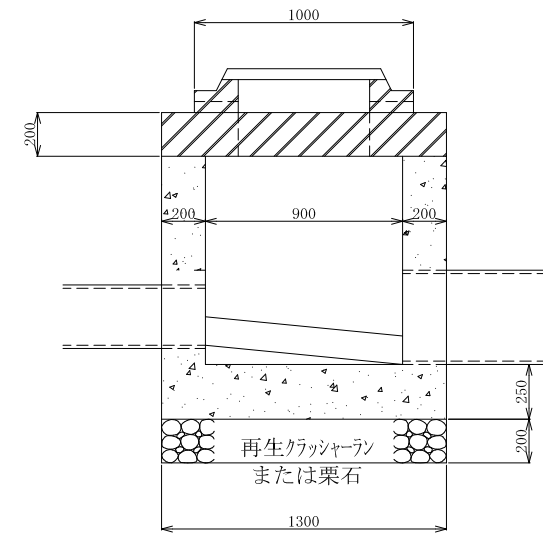
横断面図



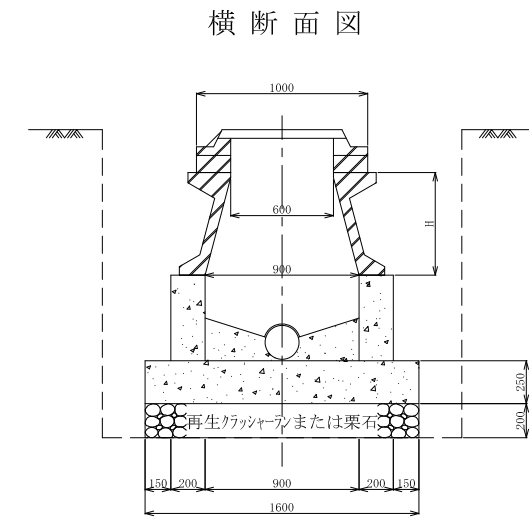
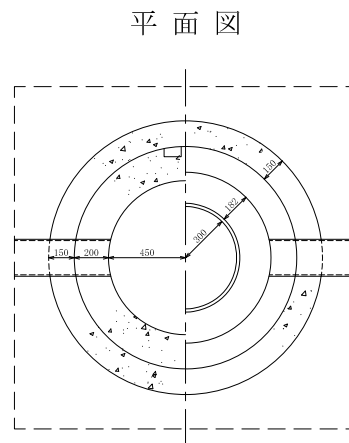
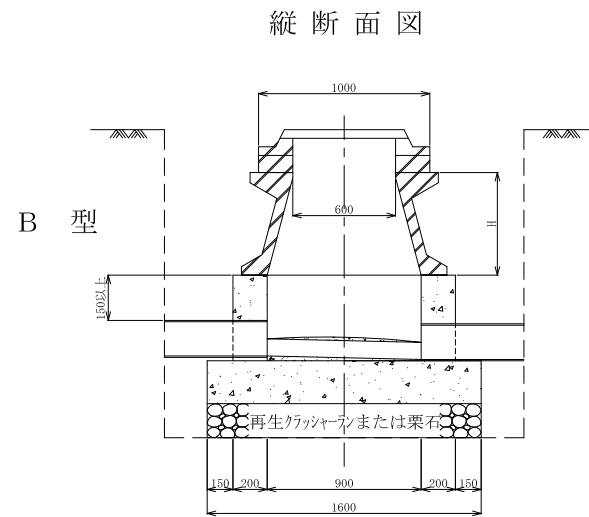
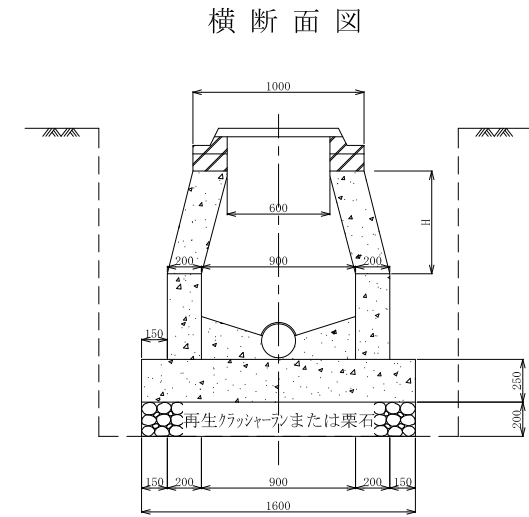
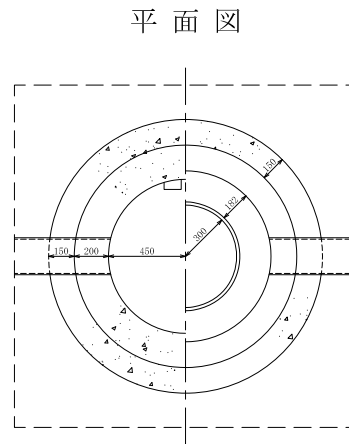
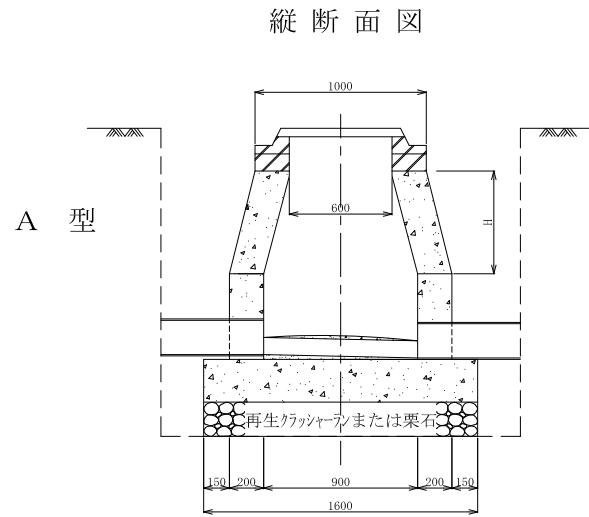
平面図



縦断面図



# 1号マンホール（内径900）構造図（1）

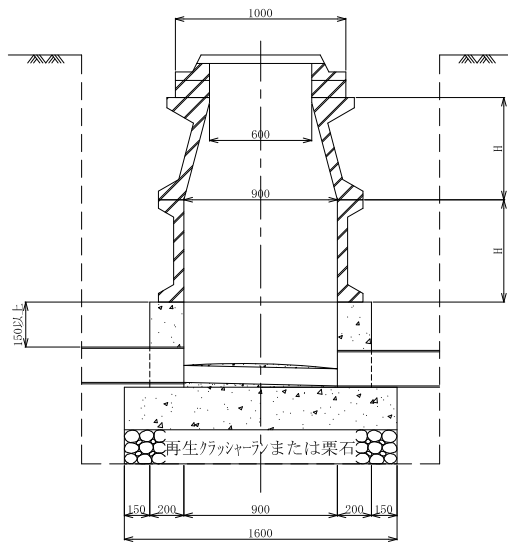


注) インバート内における足のせ部の勾配は20%程度とする。

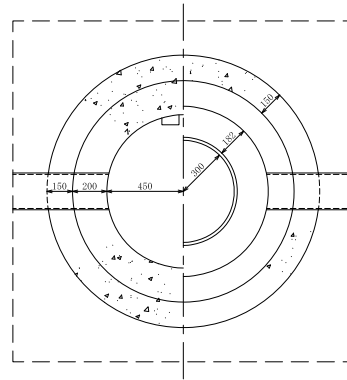
# 1号マンホール（内径900）構造図（2）

C 型

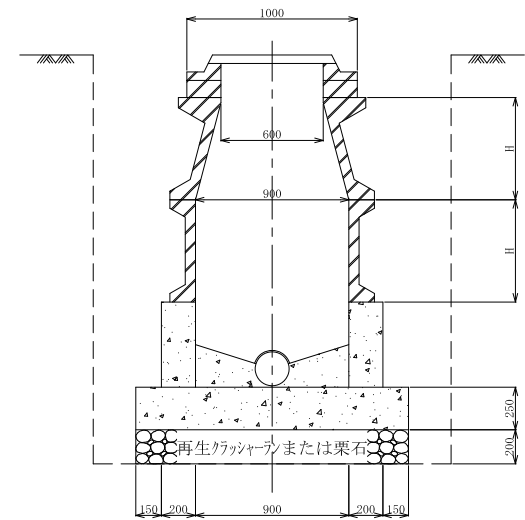
縦断面図



平面図



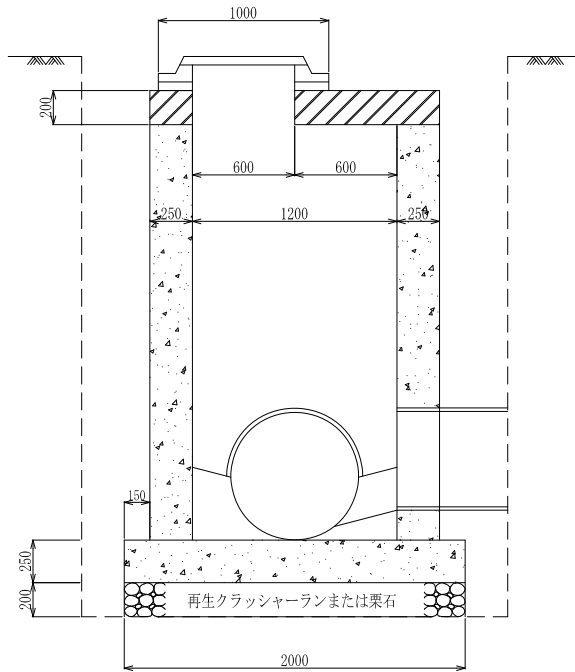
横断面図



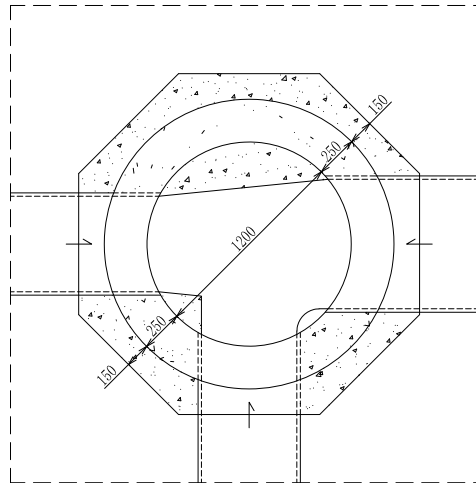
注) インバート内における足のせ部の勾配は20%程度とする。

# 2号マンホール（内径1,200）構造図（1）

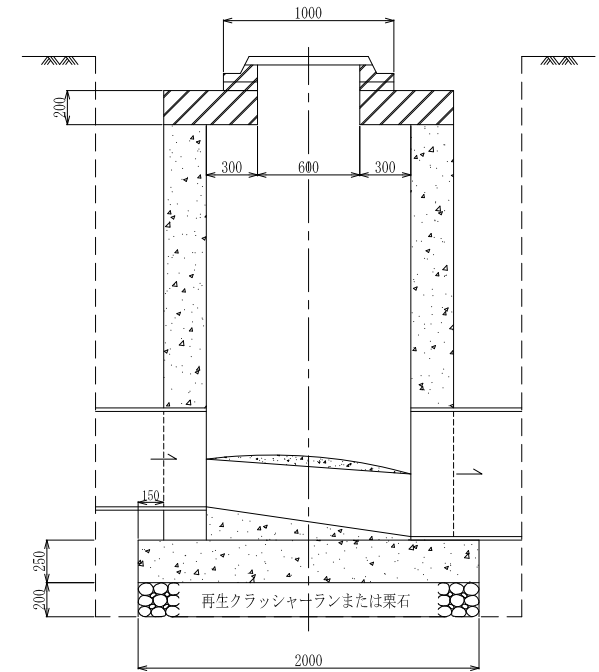
縦断面図



平面図



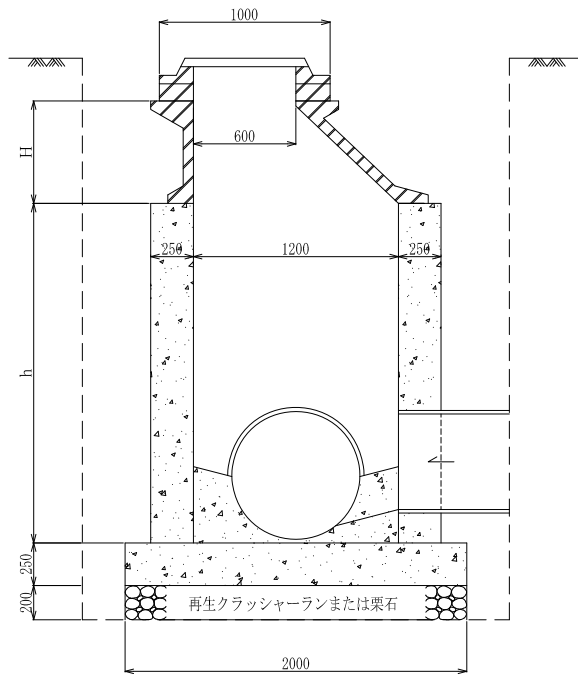
横断面図



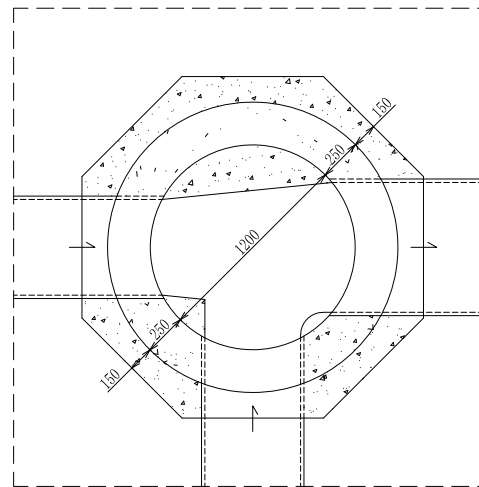
# 2号マンホール（内径1,200）構造図（2）

B 型

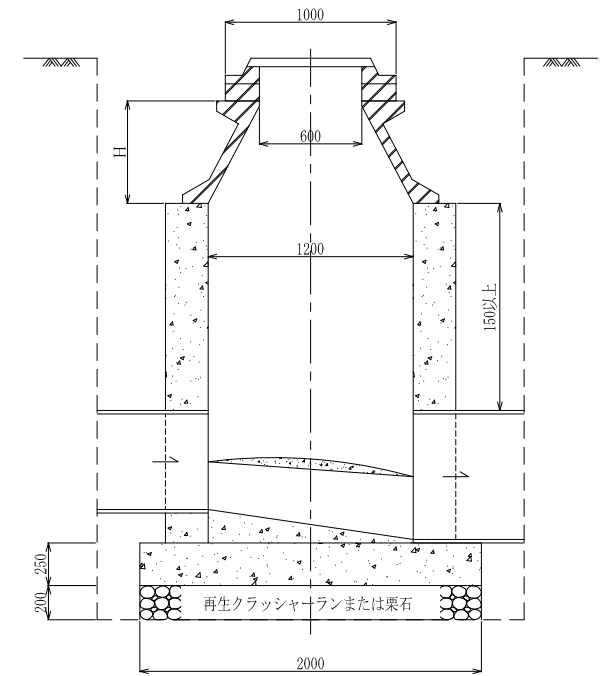
縦断面図



平面図



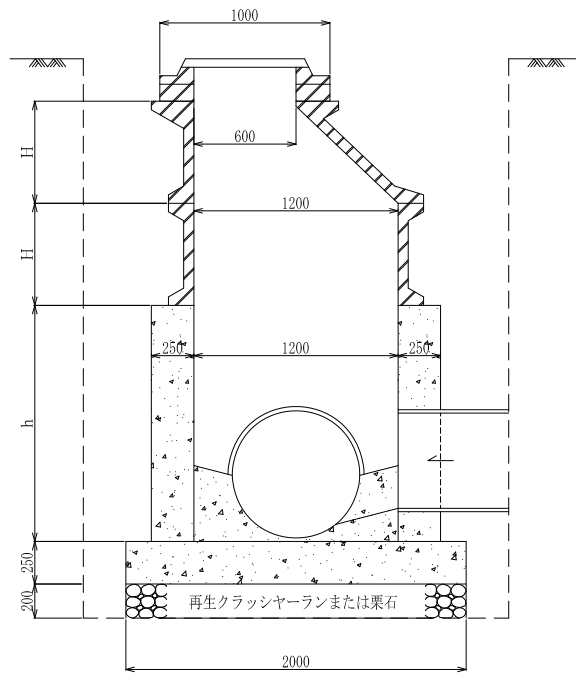
横断面図



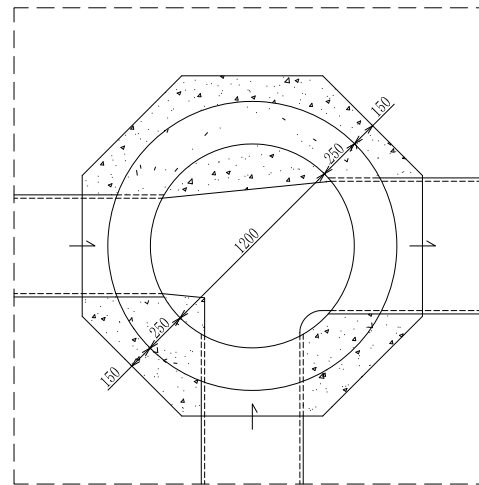
# 2号マンホール（内径1,200）構造図（3）

C 型

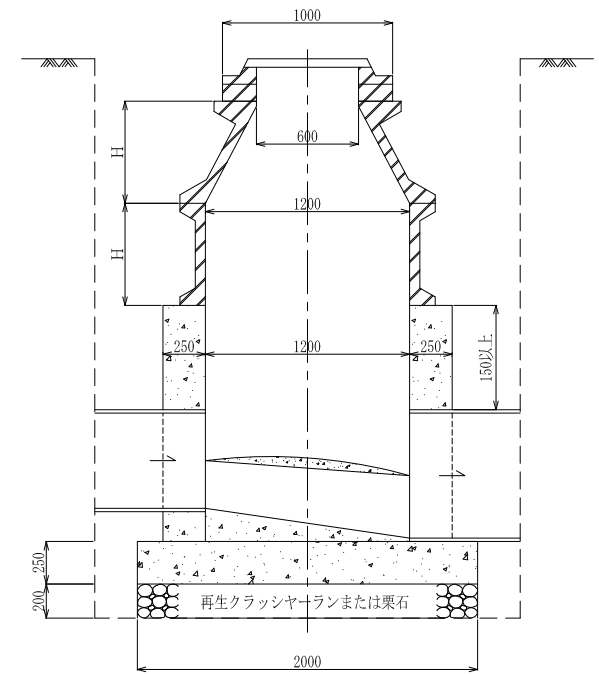
縦断面図



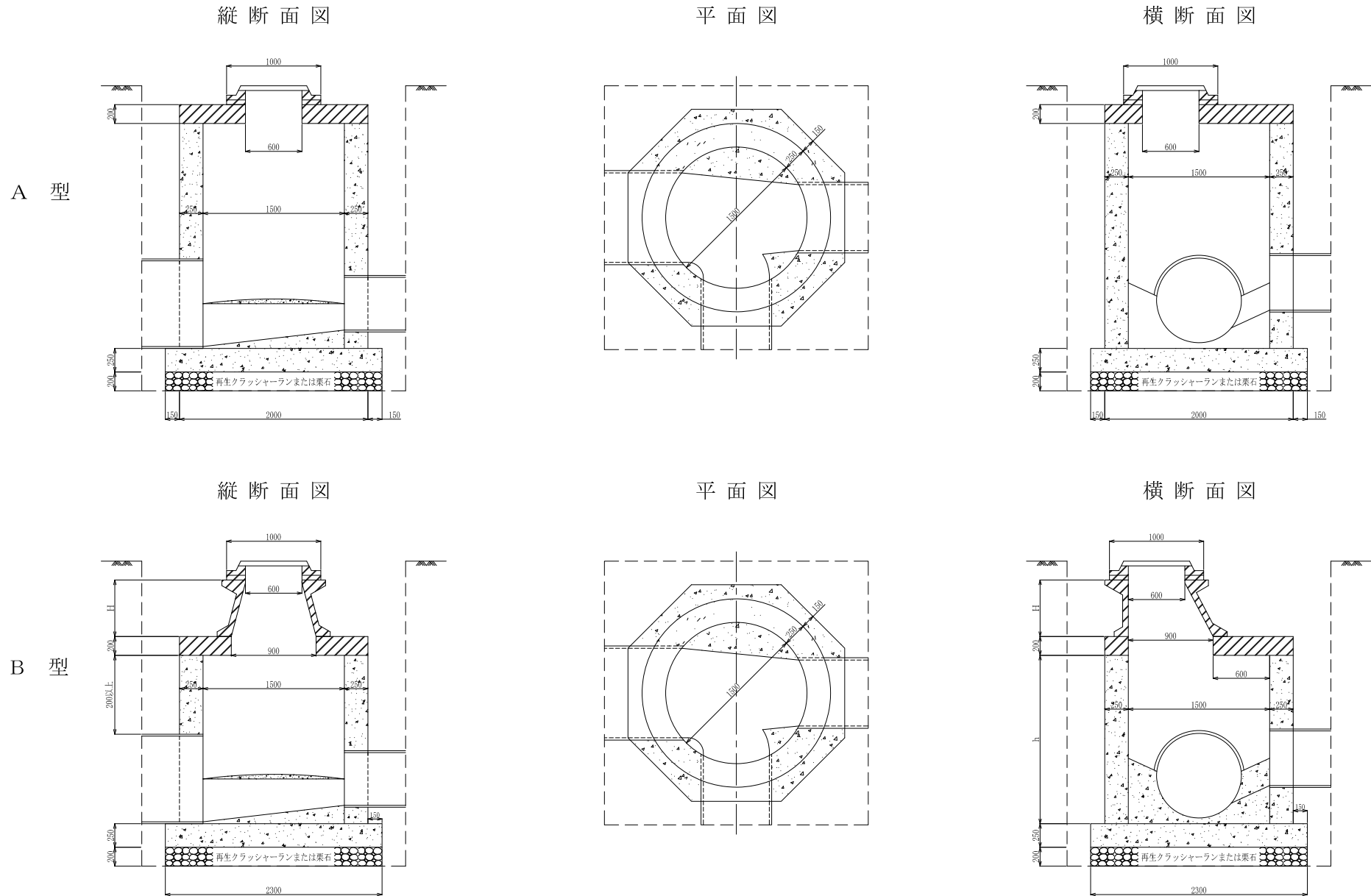
平面図



横断面図



### 3号マンホール（内径1,500）構造図（1）



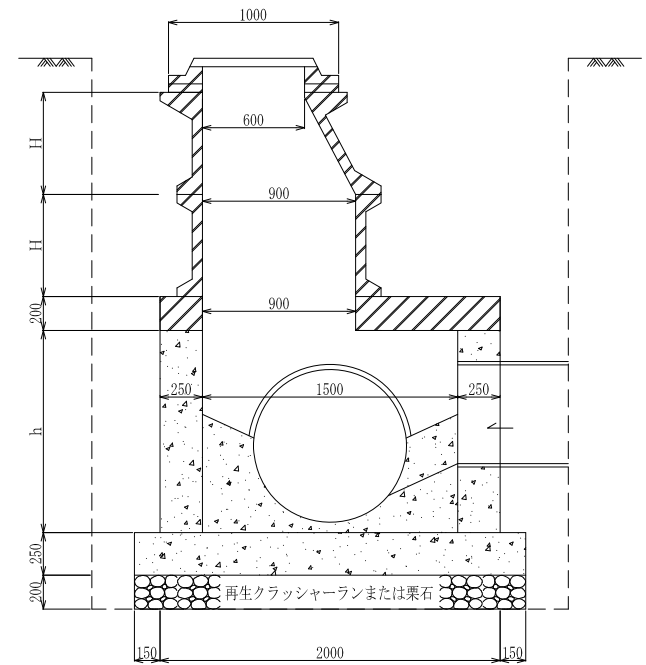
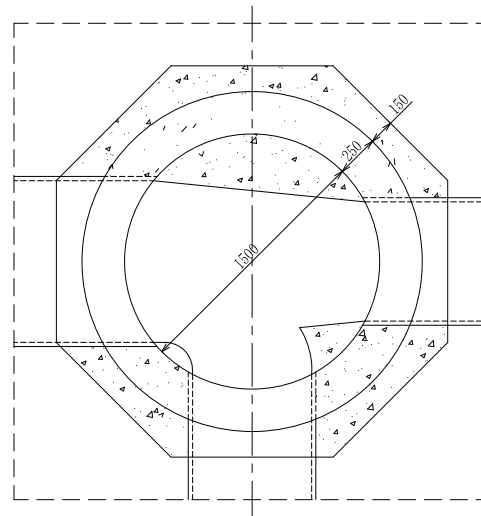
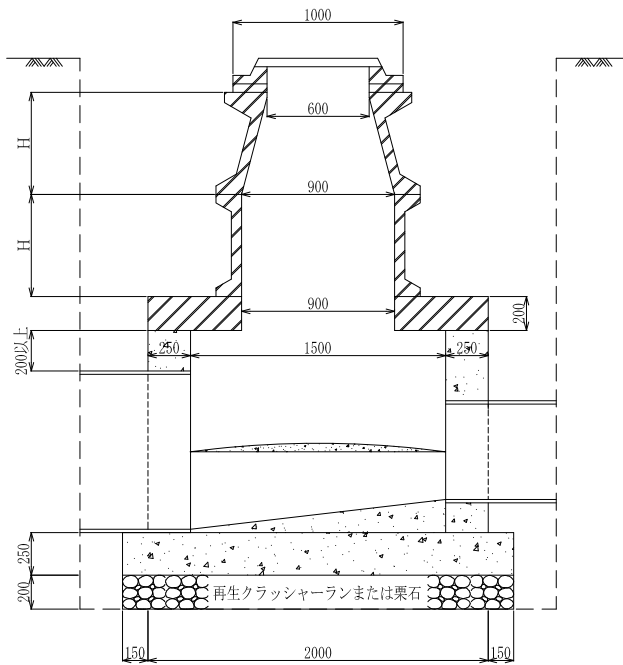
# 3号マンホール（内径1,500）構造図（2）

C 型

縦断面図

平面図

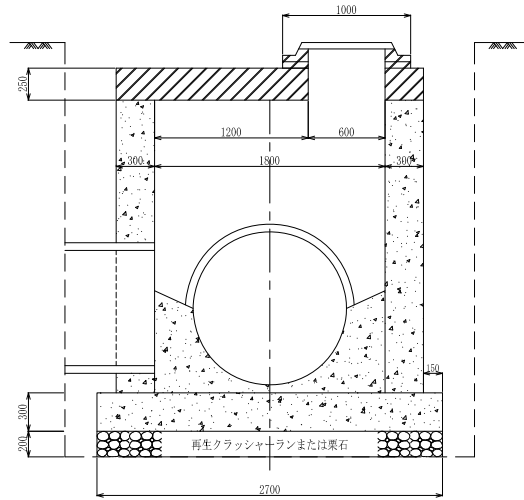
横断面図



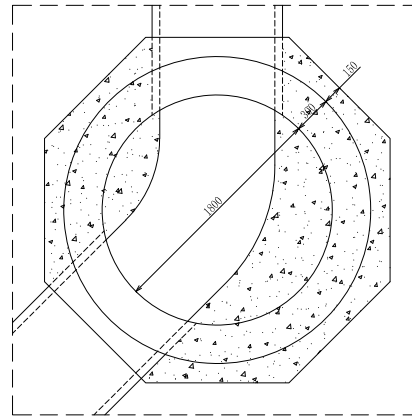
# 4号マンホール（内径1,800）構造図（1）

A 型

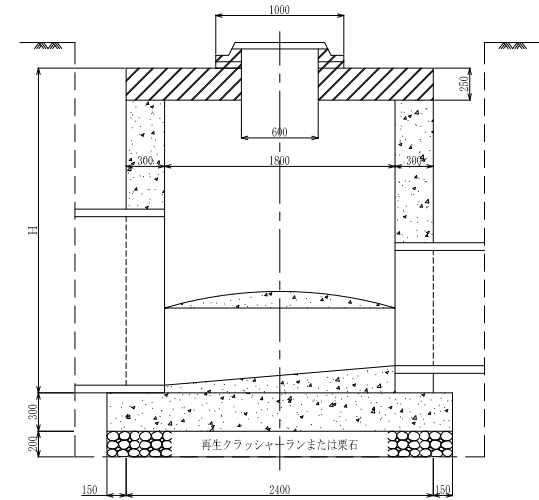
横断面図



平面図

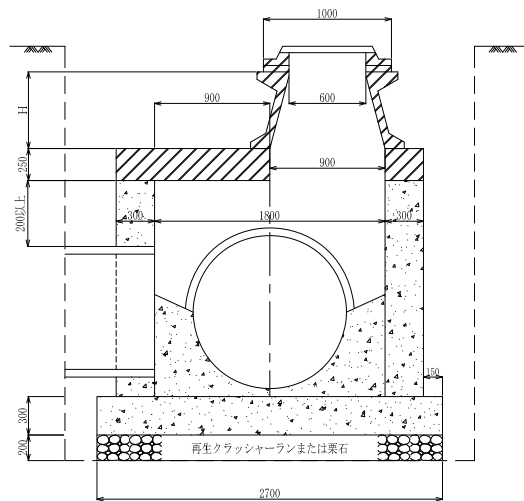


縦断面図

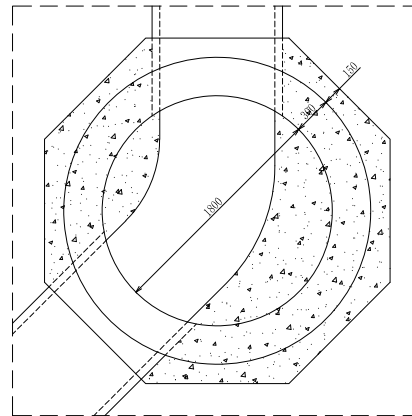


B 型

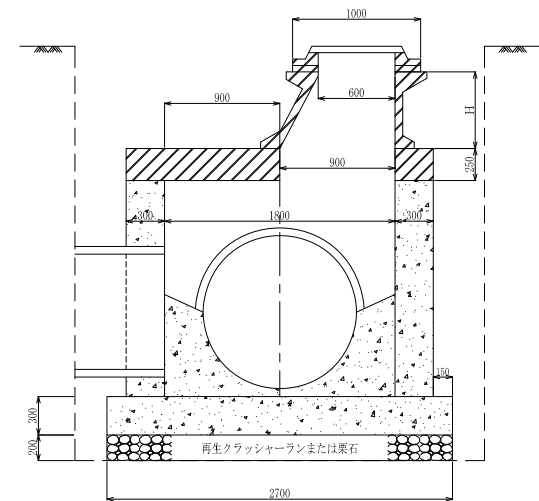
縦断面図



平面図



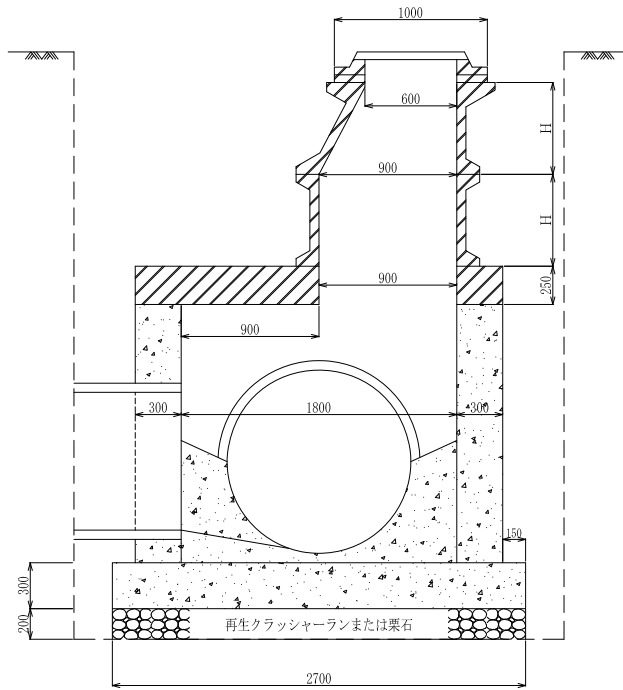
縦断面図



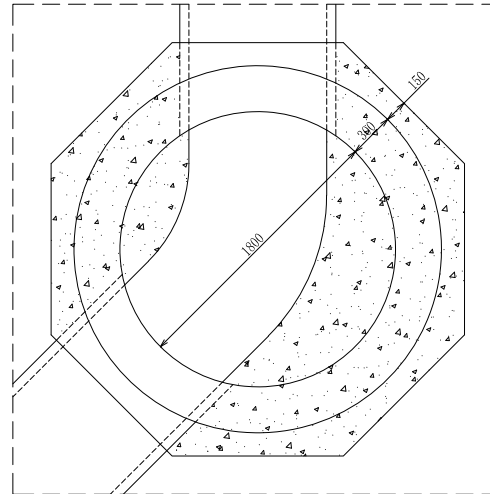
# 4号マンホール（内径1,800）構造図（2）

C 型

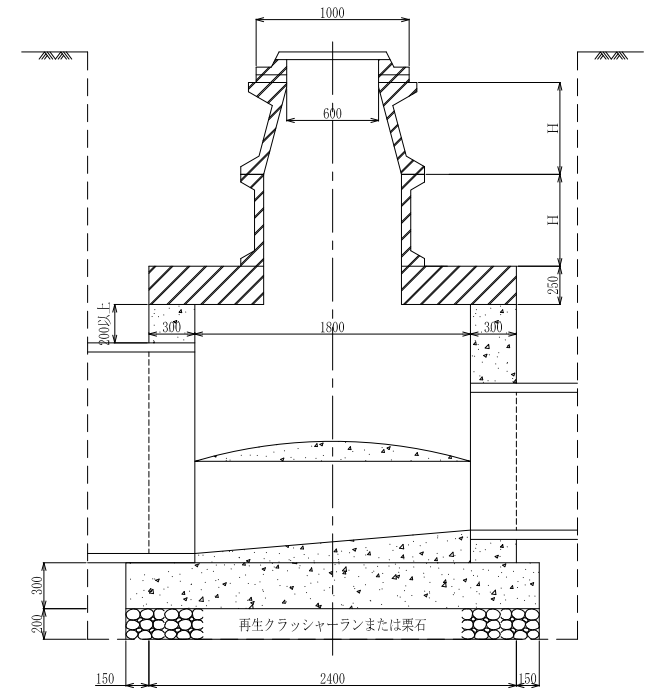
横断面図



平面図



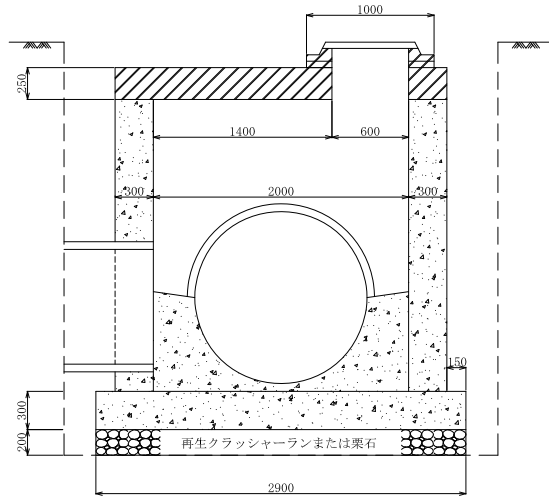
縦断面図



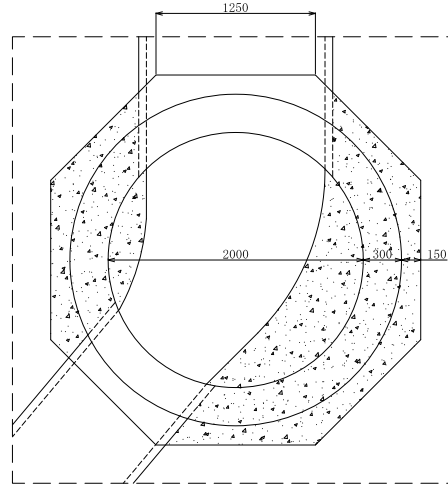
# 5号マンホール（内径2,000）構造図（1）

A 型

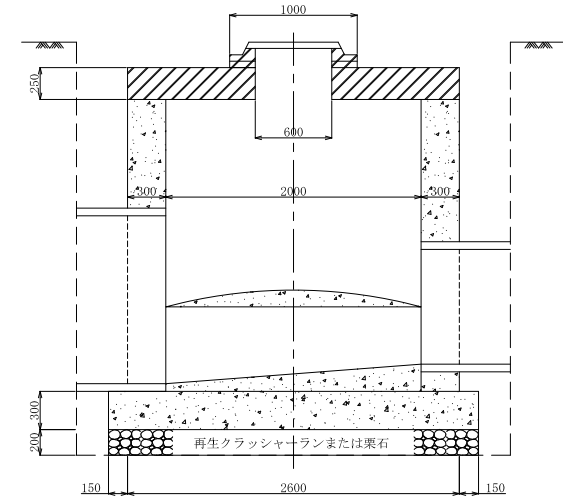
横断面図



平面図

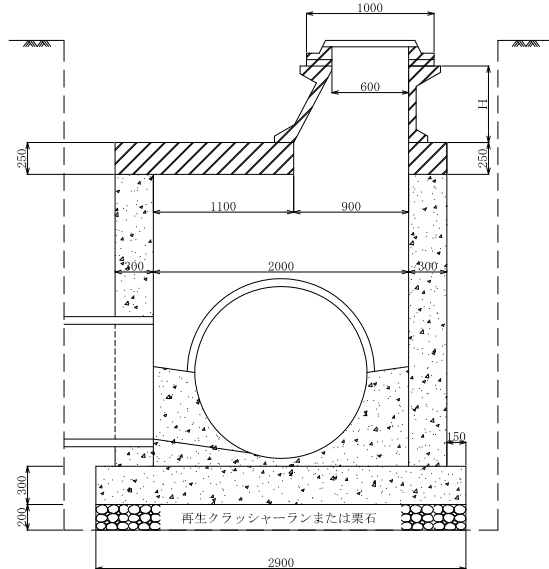


縦断面図

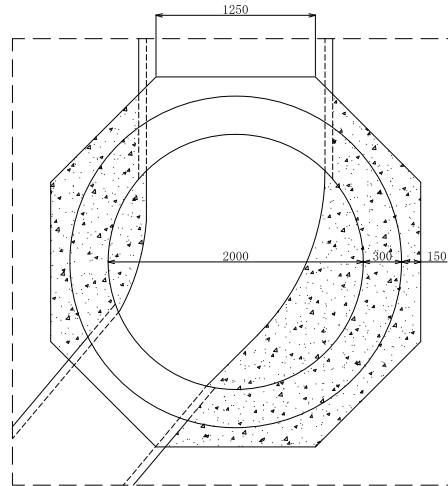


B 型

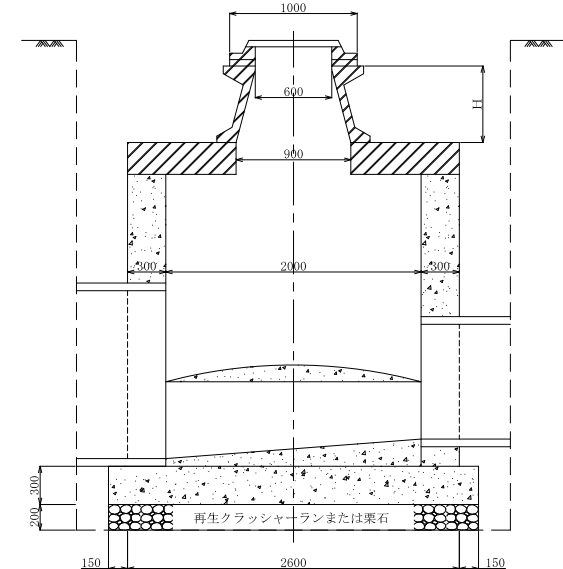
縦断面図



平面図



縦断面図



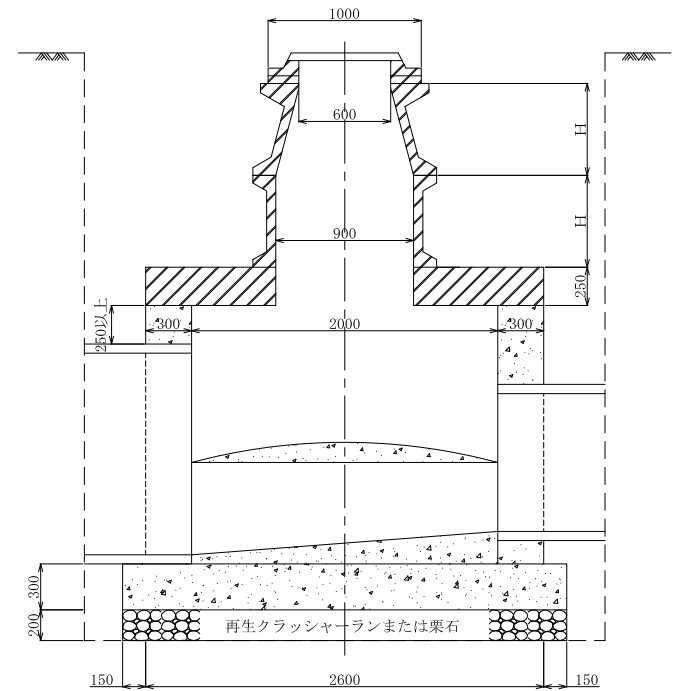
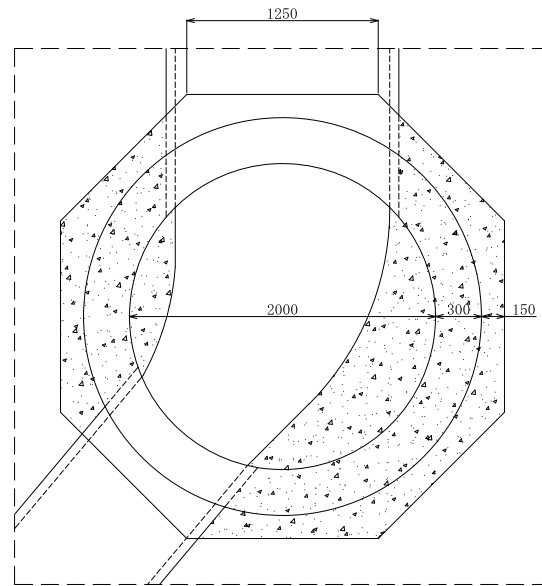
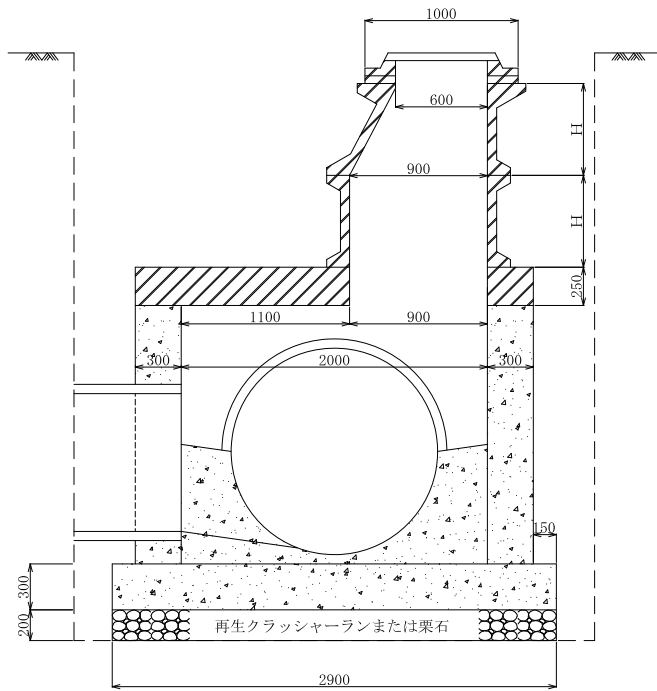
# 5号マンホール（内径2,000）構造図（2）

C 型

横断面図

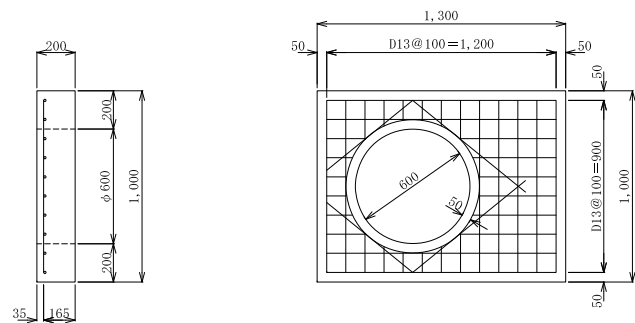
平面図

縦断面図

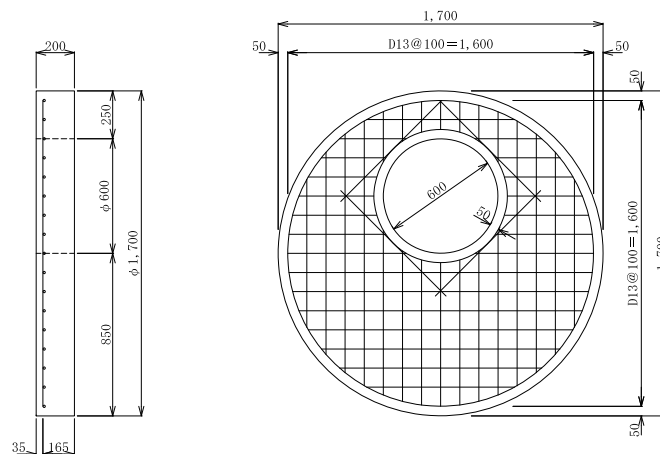


# マンホールスラブ構造詳細および配筋図 (1)

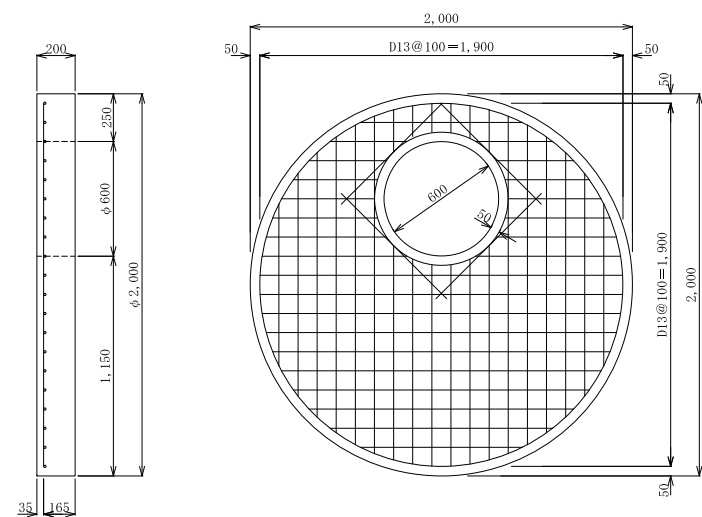
特 1 号



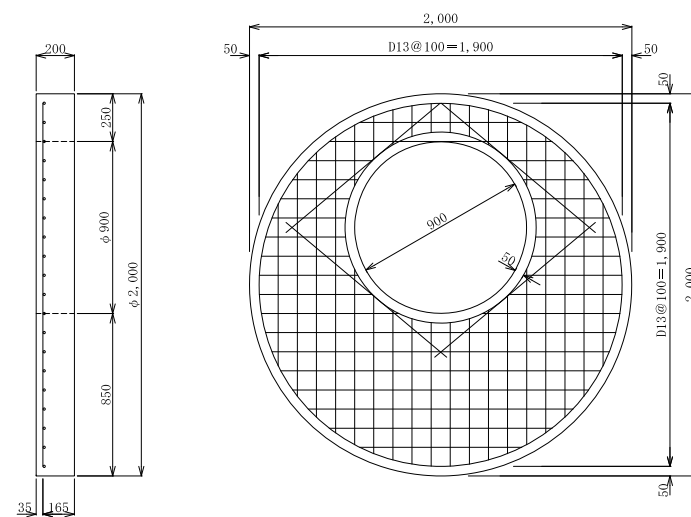
2 号



A 型 3 号



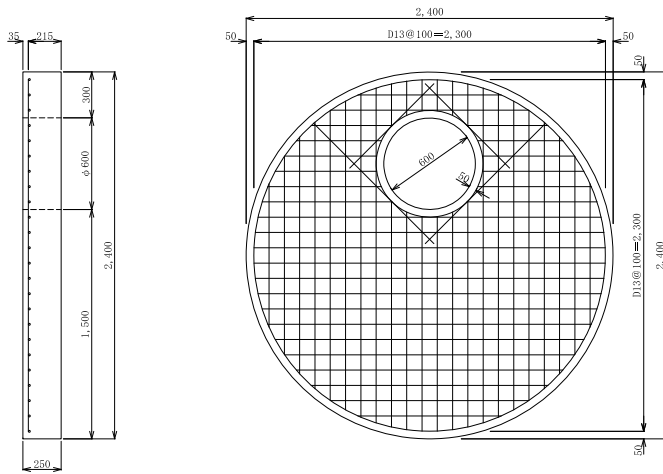
B、C型



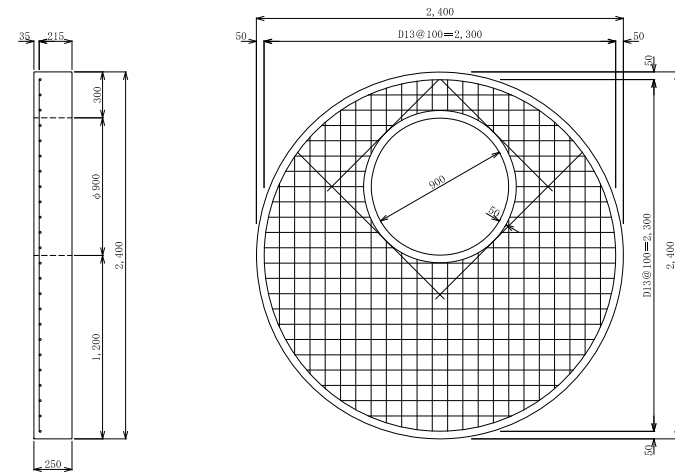
鉄筋 : S D295 A

# マンホールスラブ構造詳細および配筋図 (2)

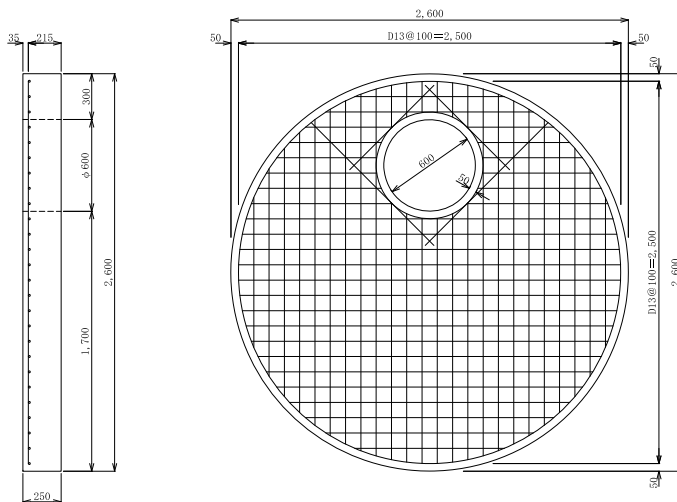
A 型 4 号



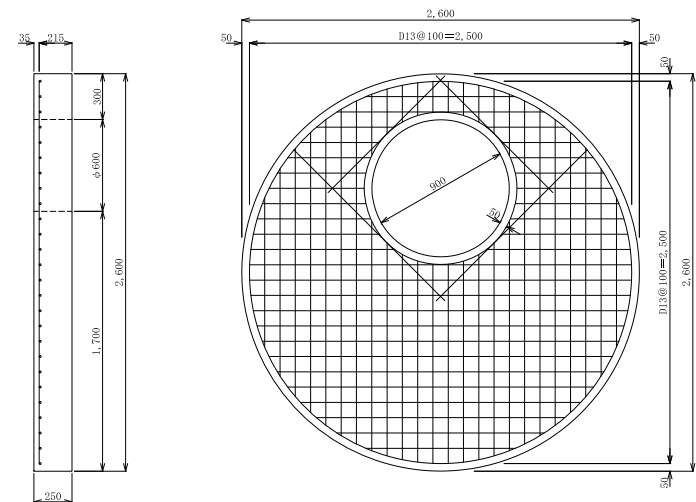
B、C型



A 型 5 号

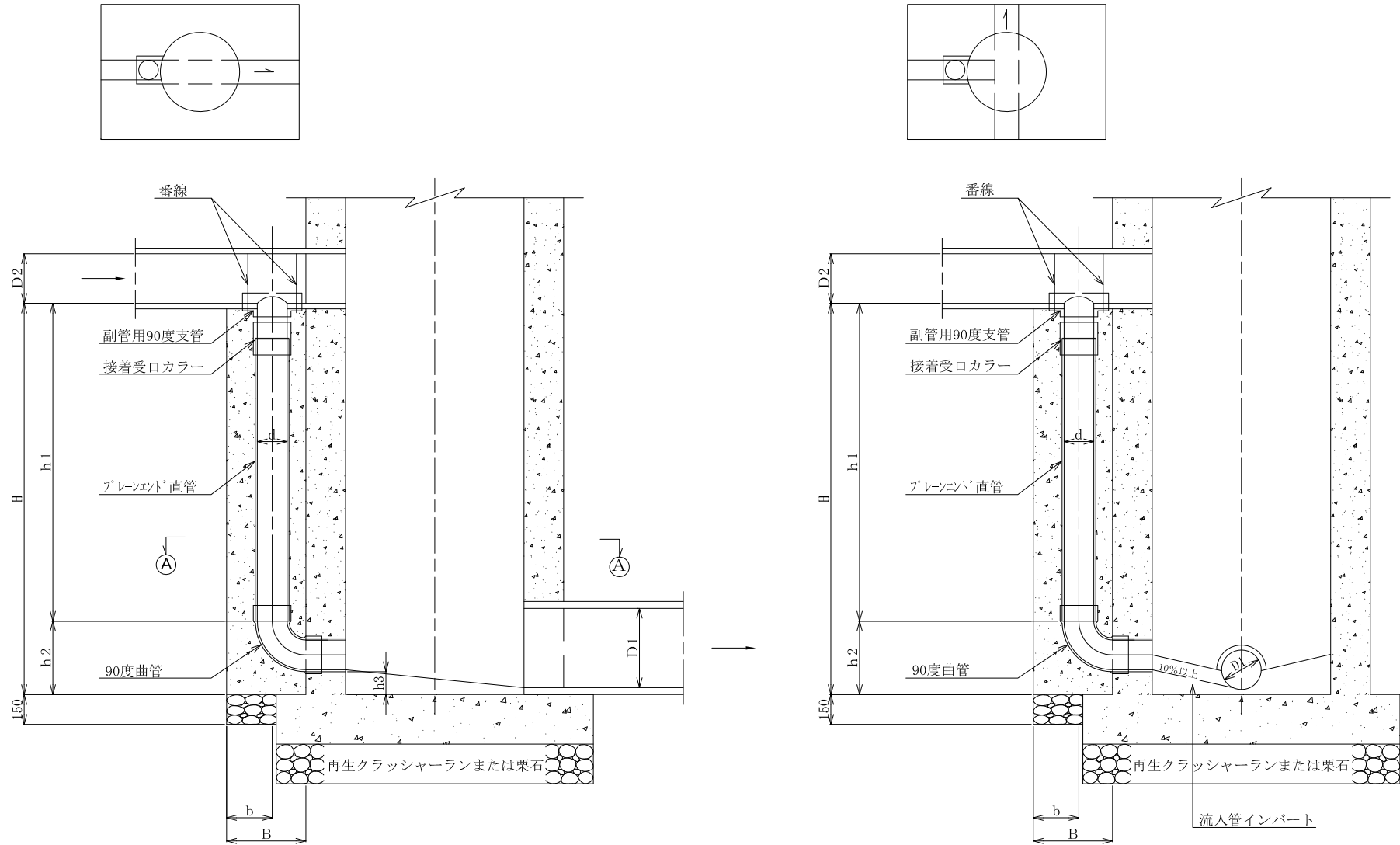


B、C型



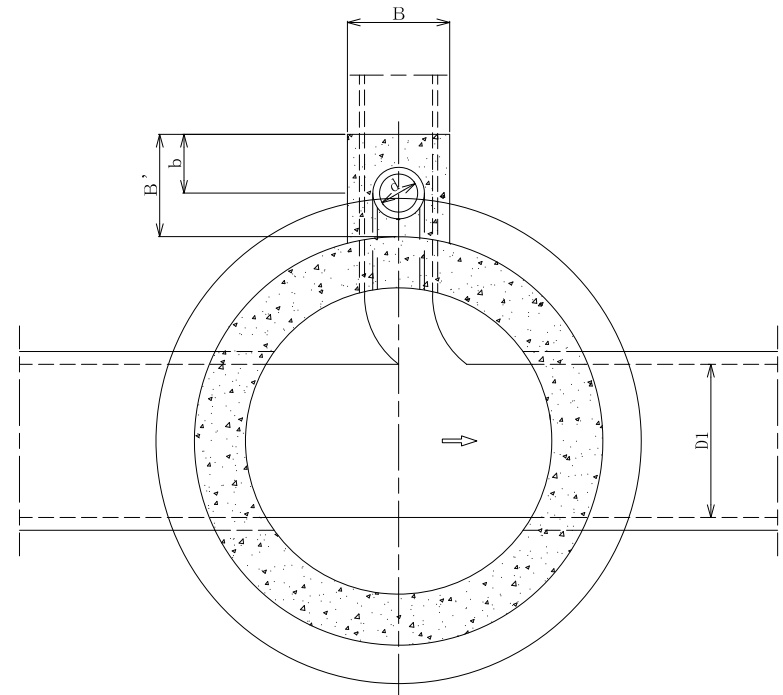
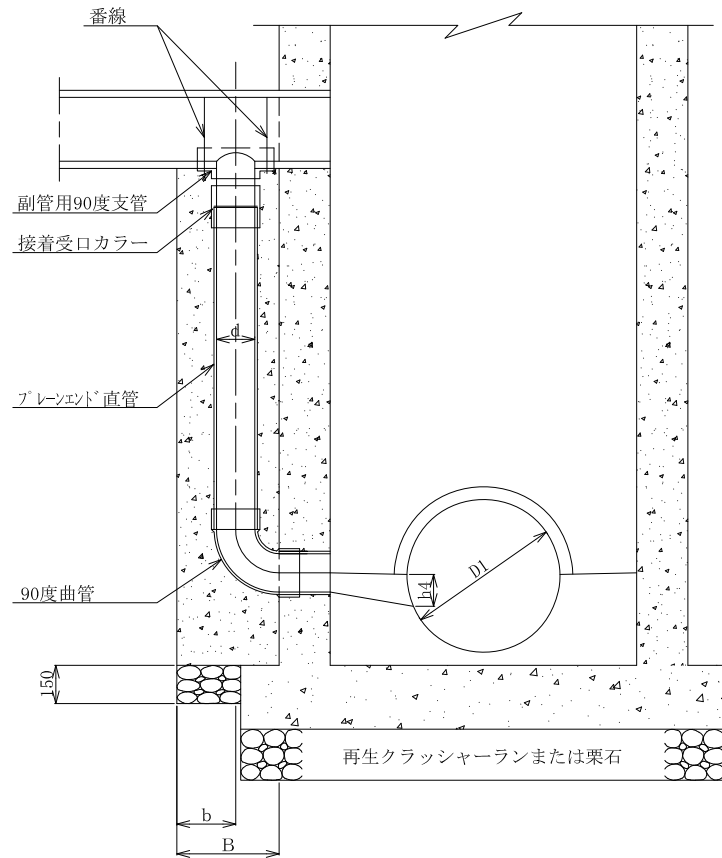
鉄筋 : S D295 A

# マンホール副管構造図（１）硬質塩化ビニル管



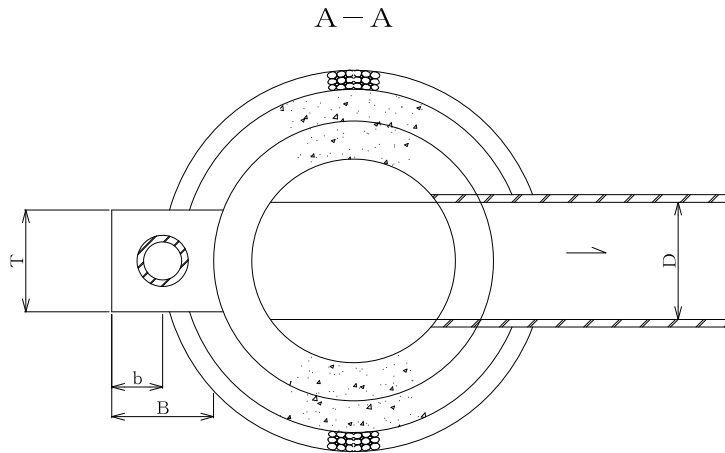
注)  $h3$ は10%以上確保すること。

## マンホール副管構造図（２）硬質塩化ビニル管



注)  $h_4$ は流入管径 $D_2$ の $1/2$ とする。

# マンホール副管構造図 (3)



寸法表 (単位: mm)

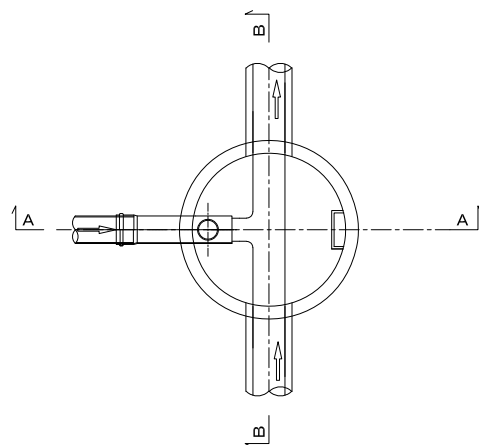
副管径 d	T	B	b	h2	本管径
150	400	400	200	295	250まで
200	450	450	250	346	400 "
250	500	500	275	400	450 "
300	550	550	300	450	500以上

材 料 表 (1ヶ所当たり)

種 別	副管種別	塩化ビニル管			
	副管径 d	150	200	250	300
再生クラッシャーラン又は栗石基礎 (m3)		0.01	0.02	0.02	0.03
コンクリート 18-8-30 (m3)	曲管部 h2	0.04	0.06	0.08	0.11
	直管部 h1 (1.0m当たり)	0.14	0.17	0.19	0.22
型 枠 (m2)	曲管部 h2	0.35	0.47	0.60	0.74
	直管部 h1 (1.0m当たり)	1.20	1.35	1.50	1.65

# マンホール内副管構造図

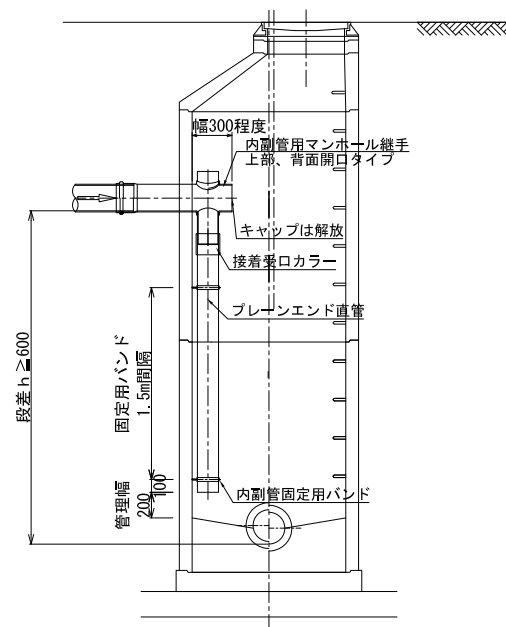
平面図



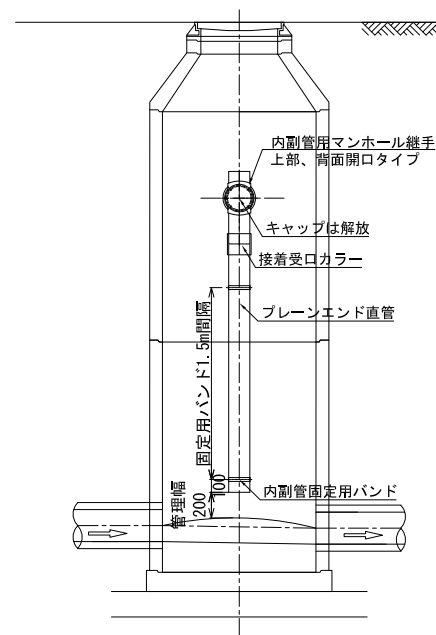
備考

- ・原則として2号人孔以上の場合に採用する。
  - ・1号マンホールに設置する場合には、省スペース型内副管を採用すること。
  - ・2号人孔以上の場合においても、同一人孔内で2個以上の内副管を取り付ける必要がある場合は、省スペース型内副管を採用するなど、1号人孔以上の作業スペースを確保し、管理上支障とならないよう配慮すること。
  - ・固定用ボルトについては、管の面以上突き出ないように注意すること。
- ※上記によりがたい場合は、下水道管理課と協議すること。

A-A断面図



B-B断面図

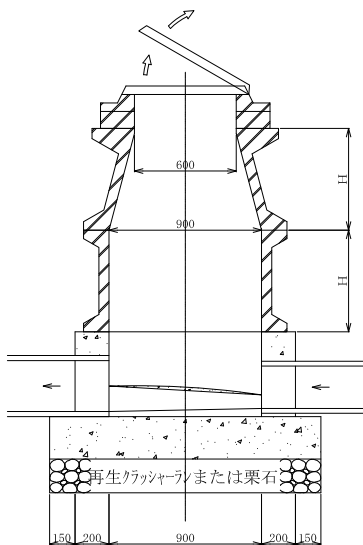


副管使用の径

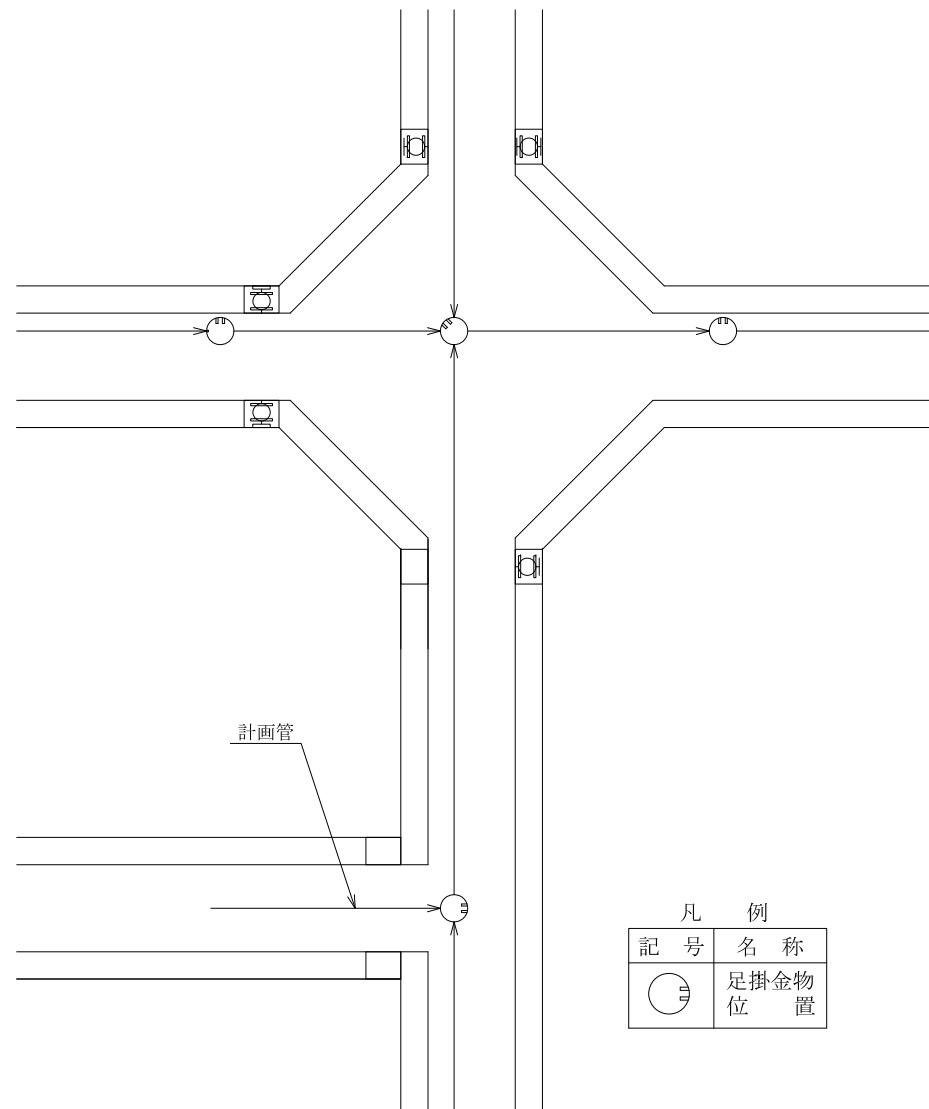
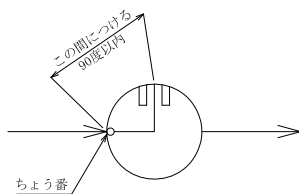
本管径 (mm)	分流式副管径 (mm)
150	100
200	150
250	200
300	200
350	200
400	200
450	250
500以上	別途考慮

# 足掛金物設置図

人孔蓋ちょう番位置



※人孔蓋のちょう番は足掛金物の90度以内に設置し、上流側を原則とする。なお、現場条件等により設置が困難な場合については、監督員と協議すること。

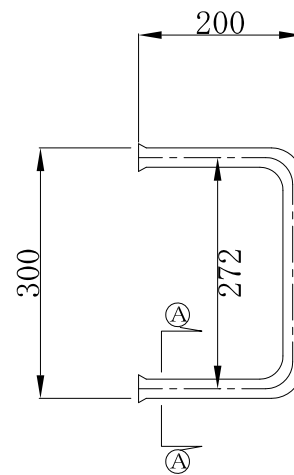
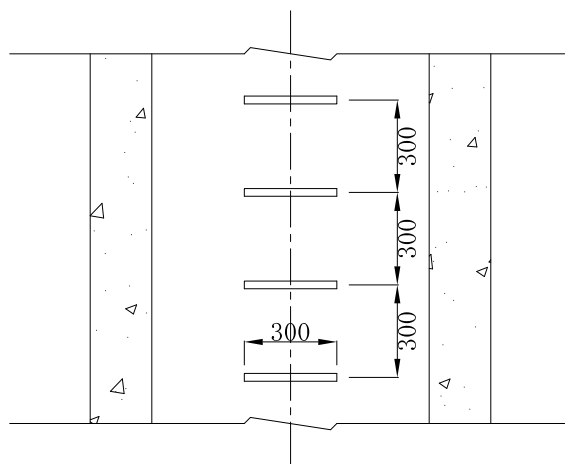
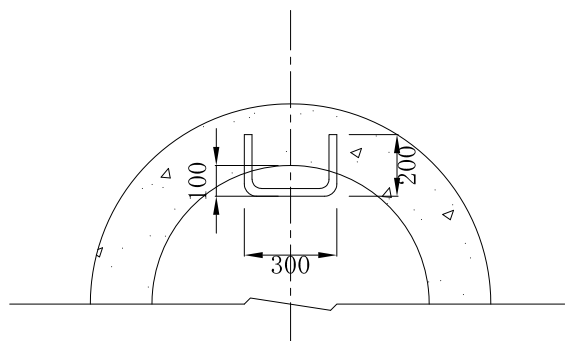


凡 例

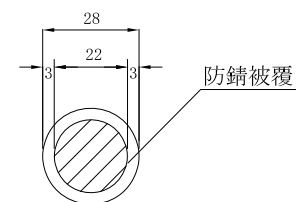
記号	名称
	足掛金物位置

# 現場打ち用足掛金物（参考図）

## 鉄階取付図



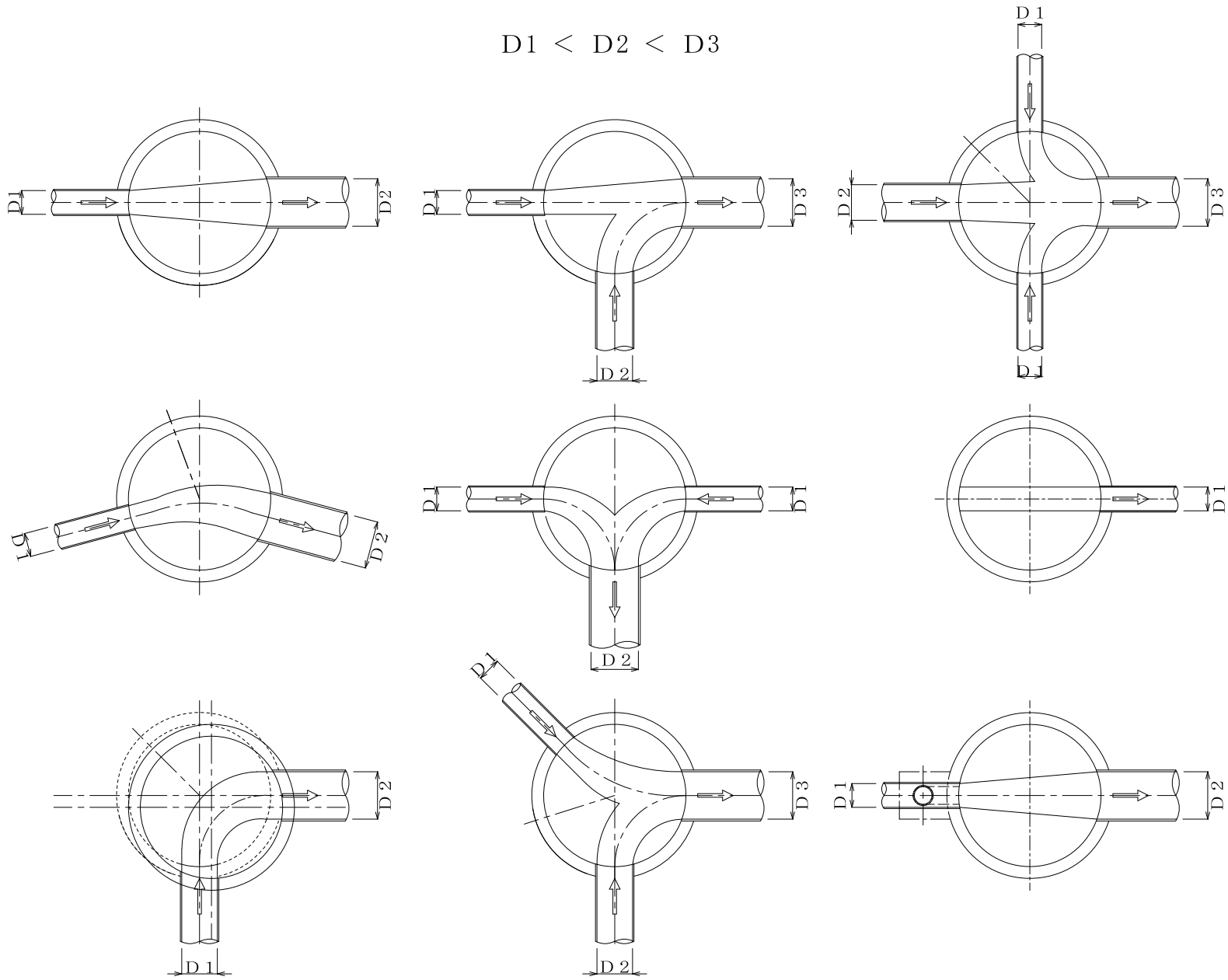
A-A 断面



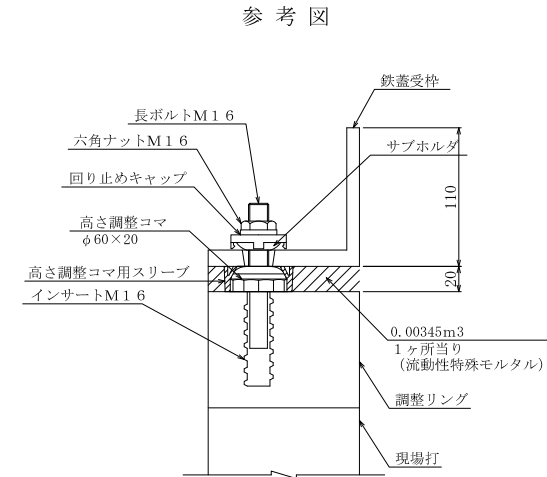
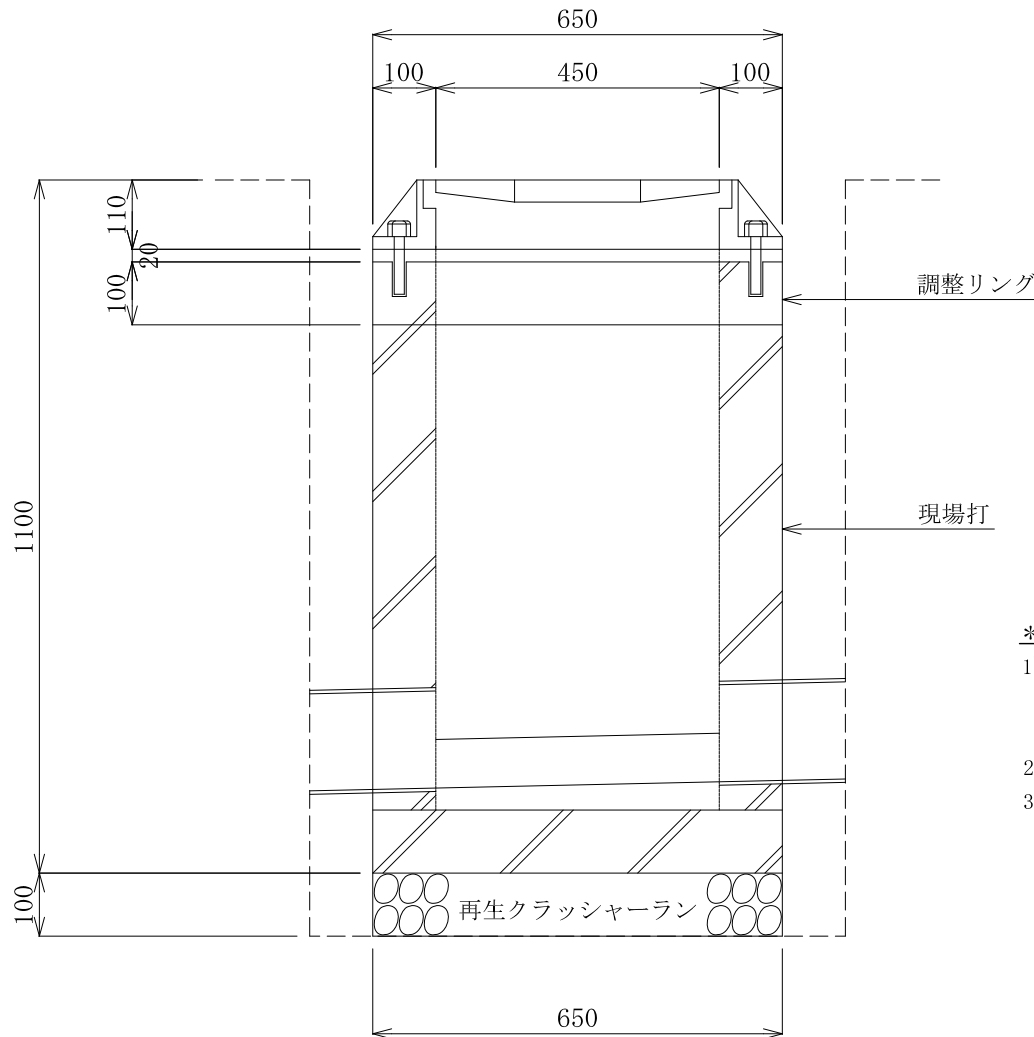
※ステンレス製ビニール防錆被覆を標準とする。

# インバート図

$$D1 < D2 < D3$$



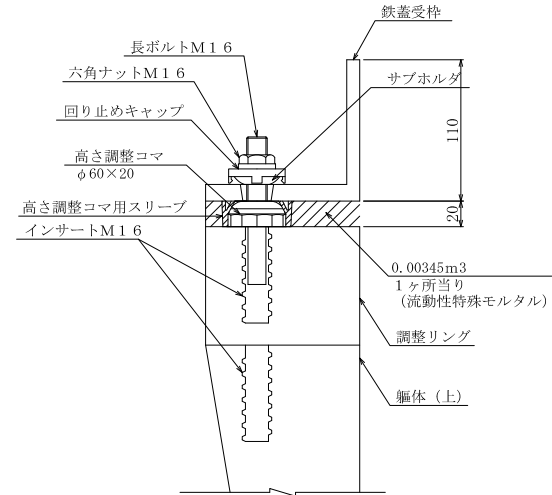
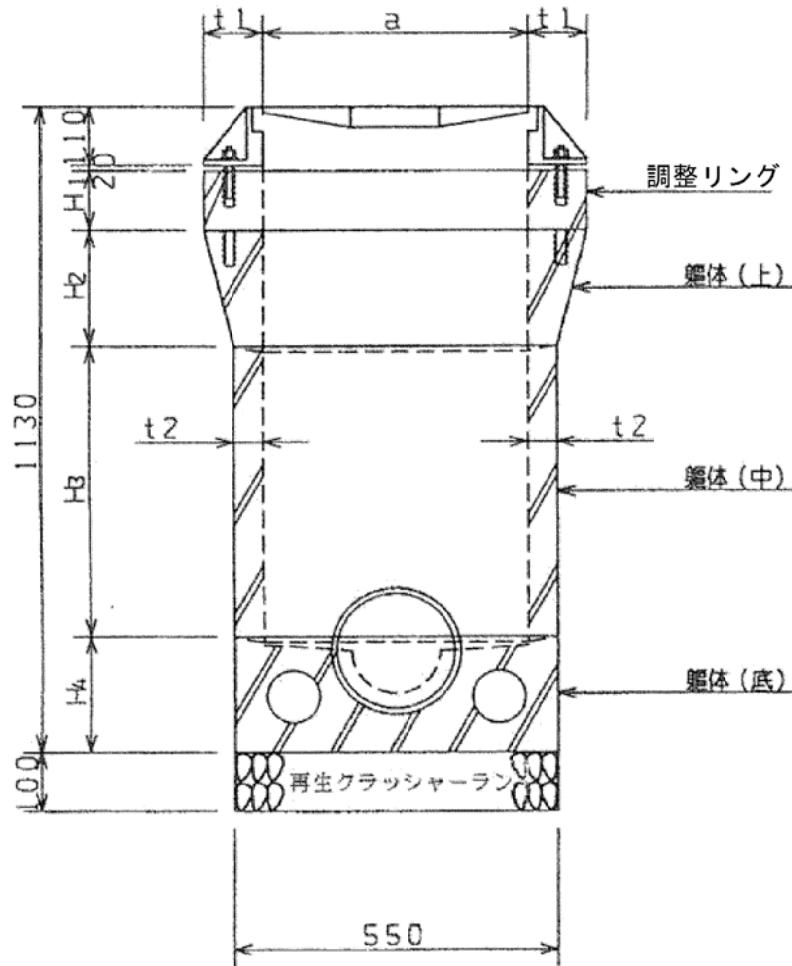
# 汚水枳A型 (H = 1.0 m) 標準構造図



## 特記事項

- 1) 調整リングは鉄蓋受枠とボルトにより連結する構造であり、受枠のひずみを防止する目的から高さ調整コマを3ヶ所、受枠と調整リングの間に挿入し、均等にナットを締め付ける。
- 2) 高さ調整は調整リングを使用する。
- 3) 流動性特殊モルタル・・・高流動性超早強無収縮モルタル

# 汚水枳B型 (H=1.0m) 標準構造図



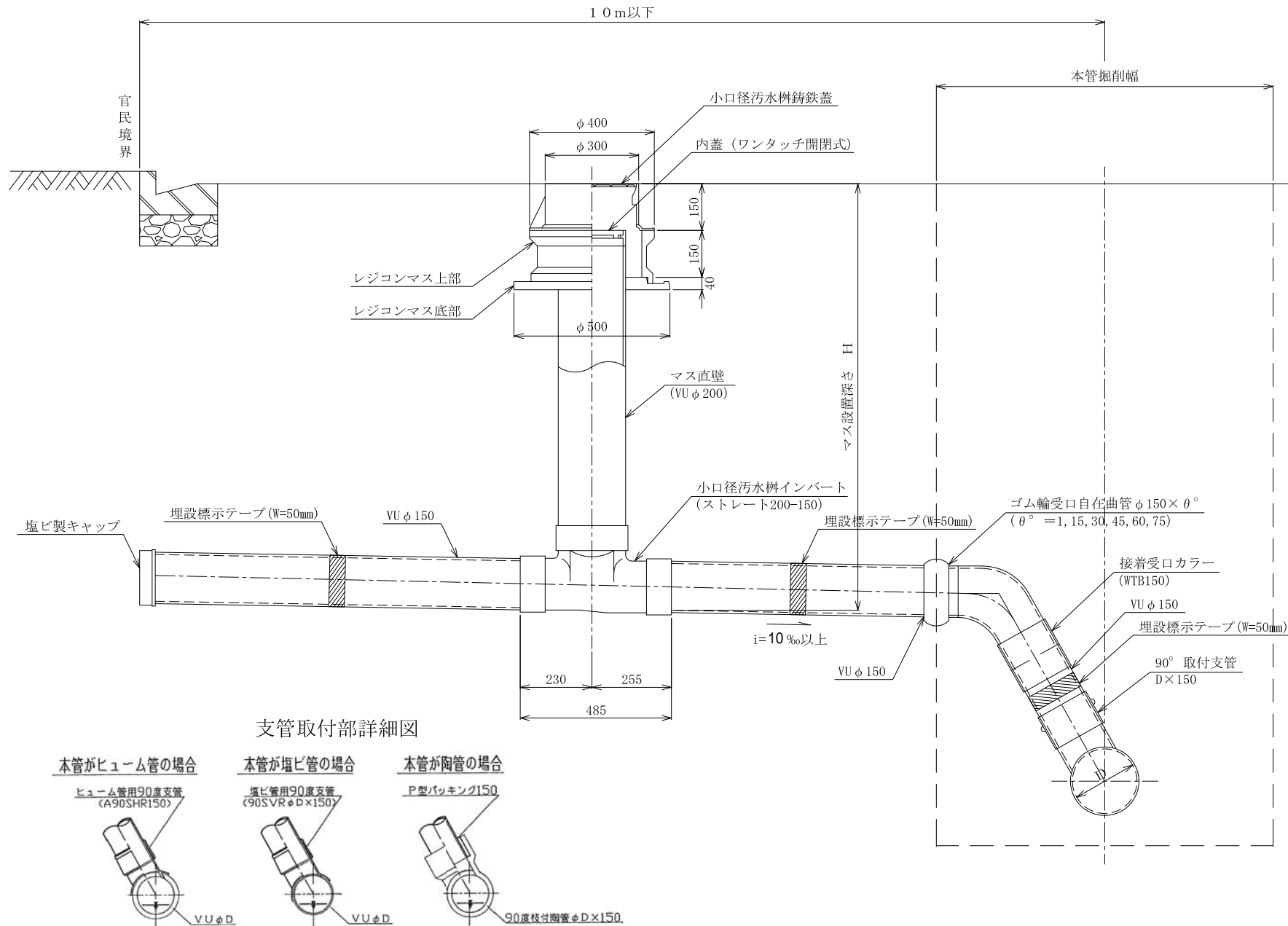
**\*\* 特記事項 \*\***

- 1) 調整リングは鉄蓋受枠とボルトにより連結する構造であり、受枠のひずみを防止する目的から高さ調整コマを3ヶ所、受枠と調整リングの間に挿入し、均等にナットを締め付ける。
- 2) 高さ調整は調整リングを使用する。
- 3) 流動性特殊モルタル・・・・・・・・高流動性超早強無収縮モルタル

種類	呼び名	寸法表 (mm)				参考重量 kg
		a	h	t 1	t 2	
調整リング	H1=100	450	100	100	—	41
躯体(上)	H2=200	450	200	100	50	59
躯体(中)	H3=500	450	500	—	50	86
躯体(底)	H4=200	450	200	—	50	82

**【ます及び取付管工】**

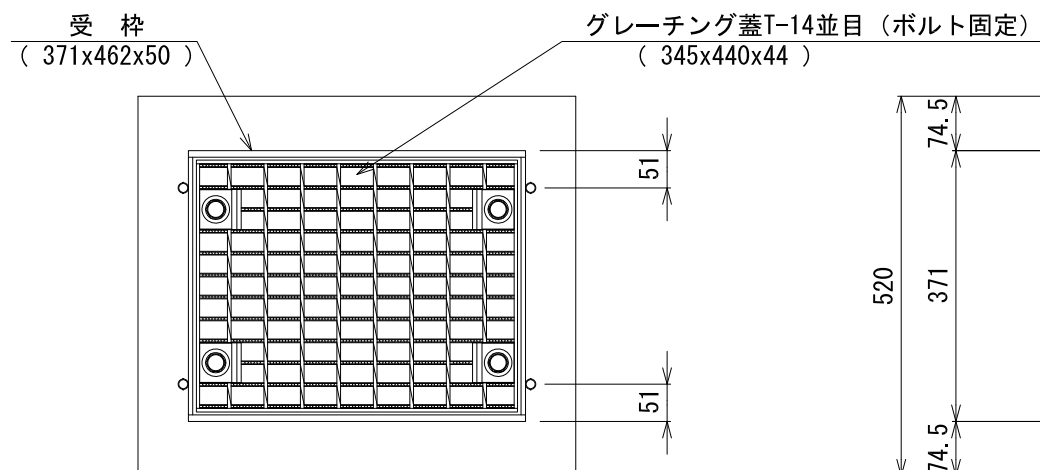
# 福岡市型小口径汚水枳（φ200mm）及び取付管施工図



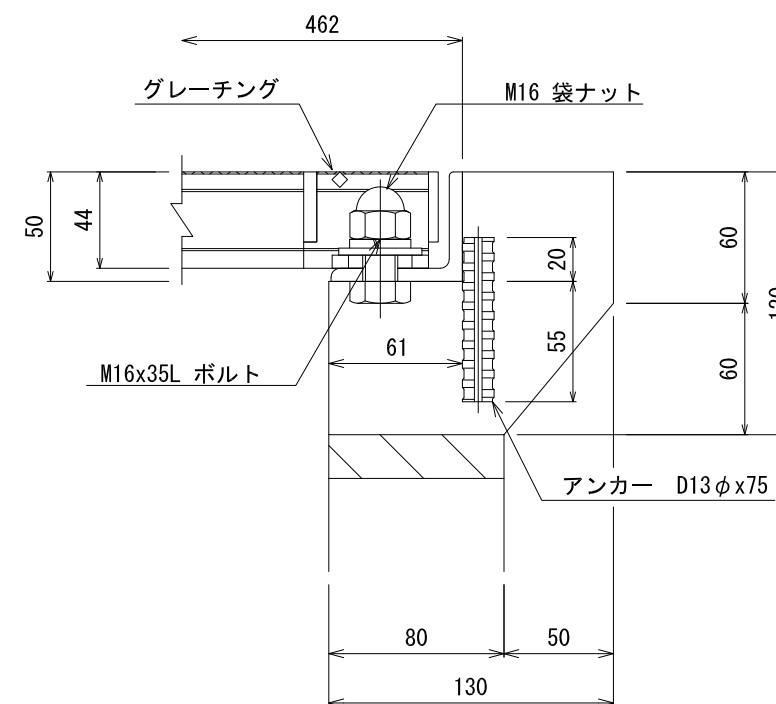
# 標準雨水枡構造図 T-14 (1)

## 並目

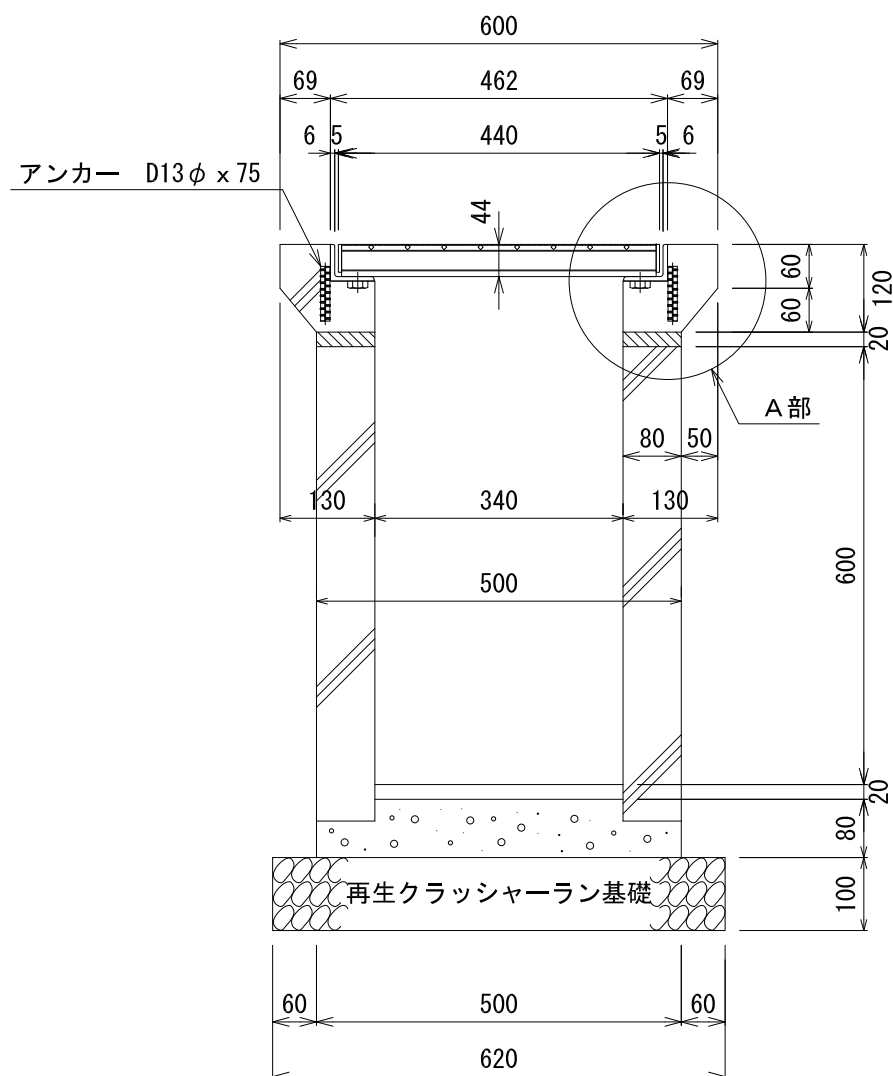
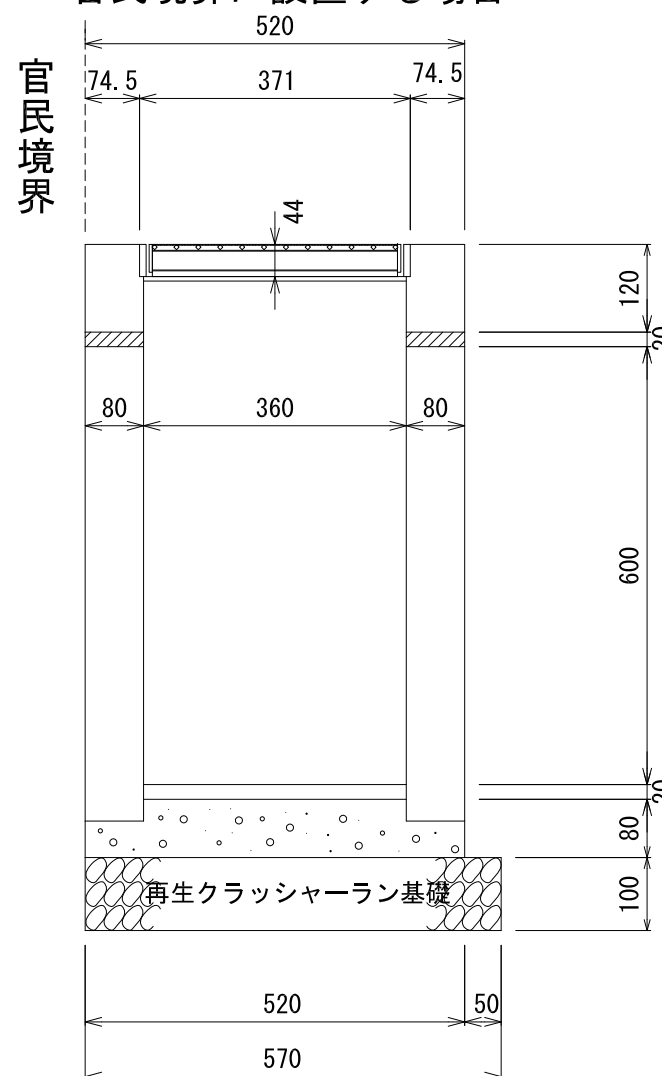
形状図 S = 1 : 15



A部詳細図 S = 1 : 5



官民境界に設置する場合



※ グレーチング・受枠の仕上は溶融亜鉛メッキとする。

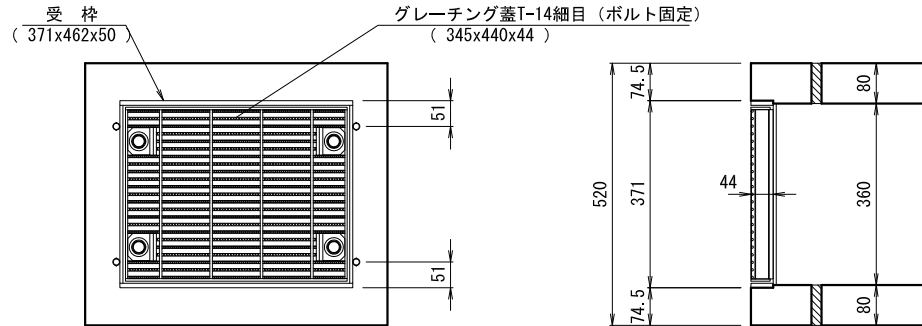
材料表

		10カ所当り
コンクリート	再生クラッシャーラン	モルタル
0.16m <sup>3</sup>	0.39m <sup>3</sup>	0.02m <sup>3</sup>

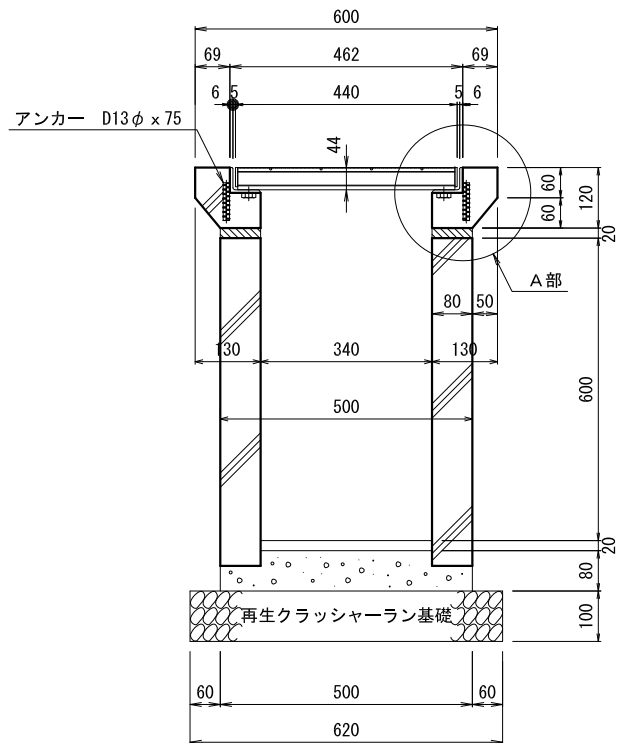
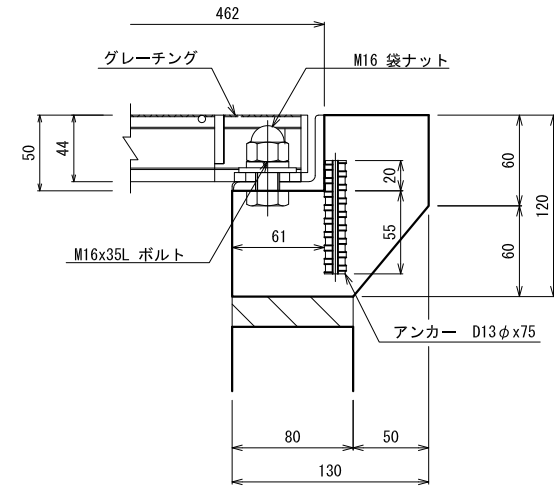
# 標準雨水桝構造図 T-14 (2)

## 細目

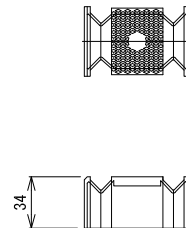
形状図 S = 1 : 15



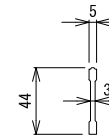
A部詳細図 S = 1 : 5



保護キャップ S = 1 : 5



ベアリングバー詳細 S = 1 : 5



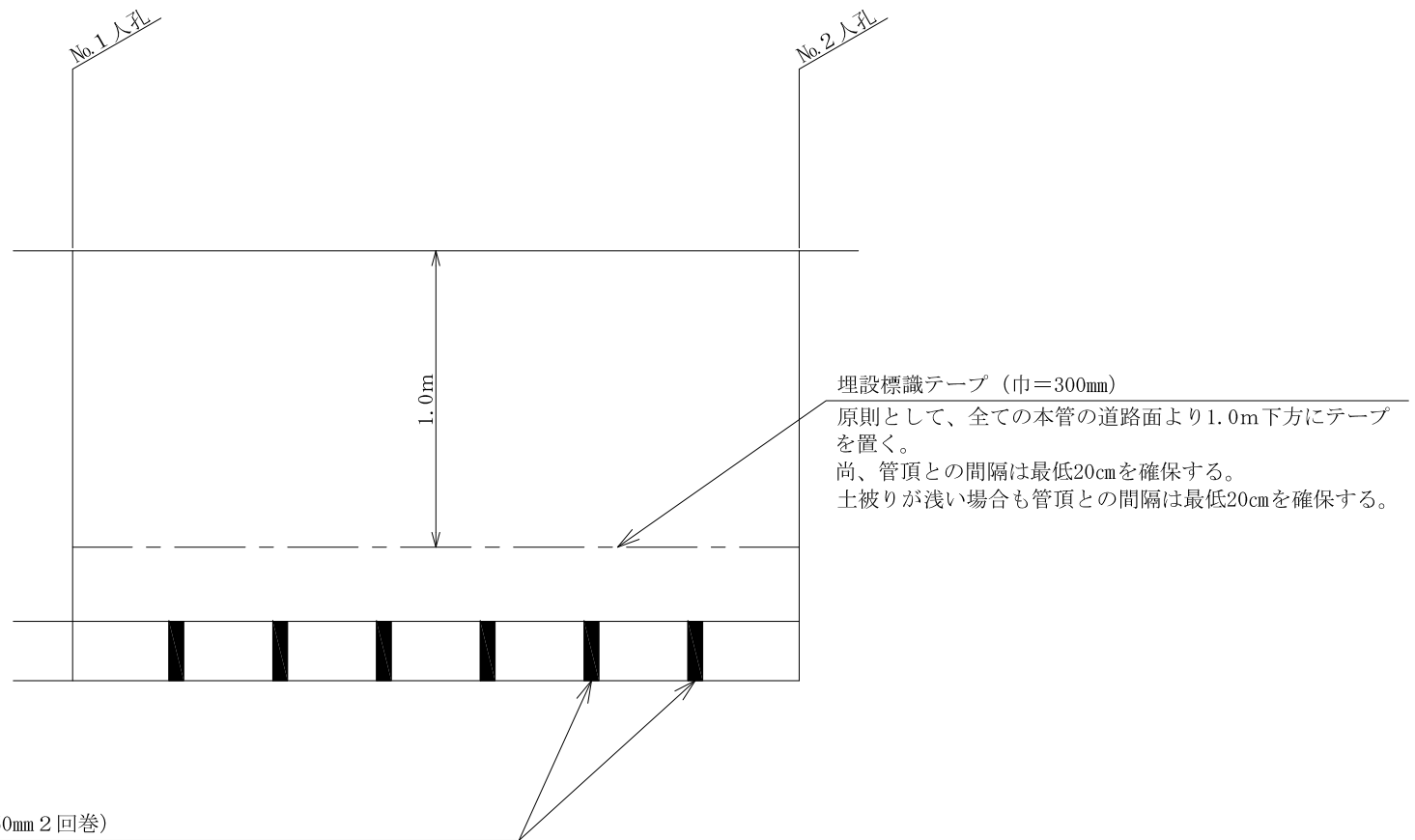
- ※ グレーチング・受枠の仕上は溶融亜鉛メッキとする。
- ※ 細目は保護キャップを設けること。

材料表

10ヵ所当り

コンクリート	再生クラッシャーラン	モルタル
0.16m <sup>3</sup>	0.39m <sup>3</sup>	0.02m <sup>3</sup>

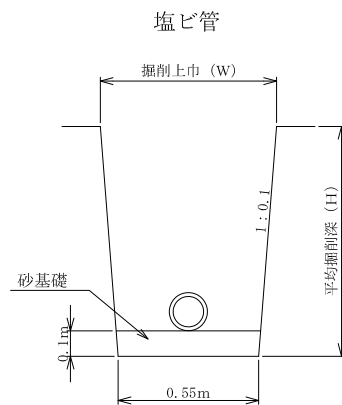
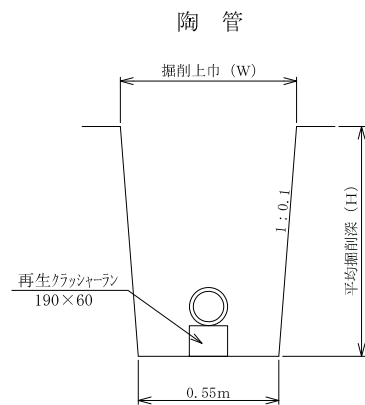
# 埋設標識テープと埋設標示テープの施工位置例



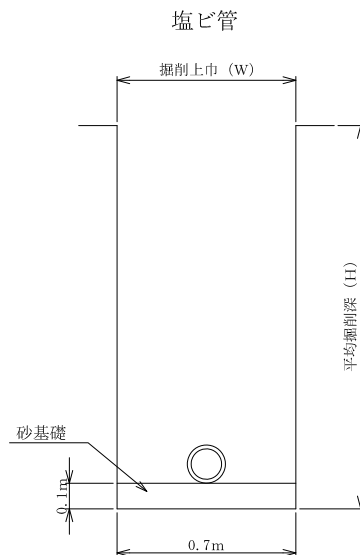
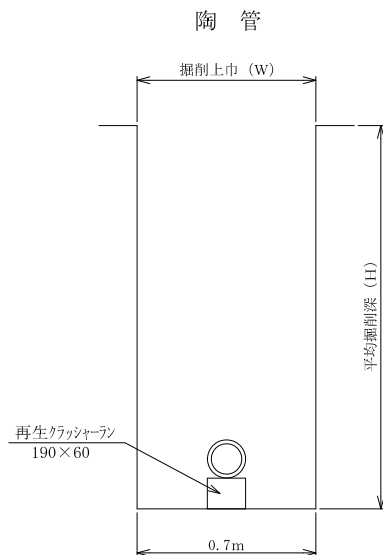
※埋設テープの色は茶色

# 取付管掘削標準断面図（汚水）

素掘りの場合（φ150）  
H < 1.5m



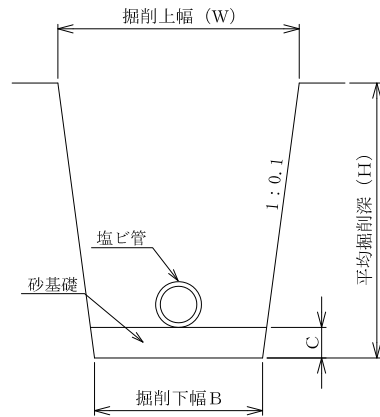
矢板施工の場合（φ150）  
H ≥ 1.5m



平均掘削深H (m)	掘削下巾 (m)	掘削上巾W (m)
0.7	0.55	0.69
0.8		0.71
0.9		0.73
1.0		0.75
1.1		0.77
1.2		0.79
1.3		0.81
1.4	0.83	
1.5	0.70	0.70
1.6		
1.7		
1.8		
1.9		
2.0		
2.1		
2.2		
2.3		
2.4		
2.5		

# 取付管掘削標準断面図（雨水）

素掘りの場合  
H < 1.5m

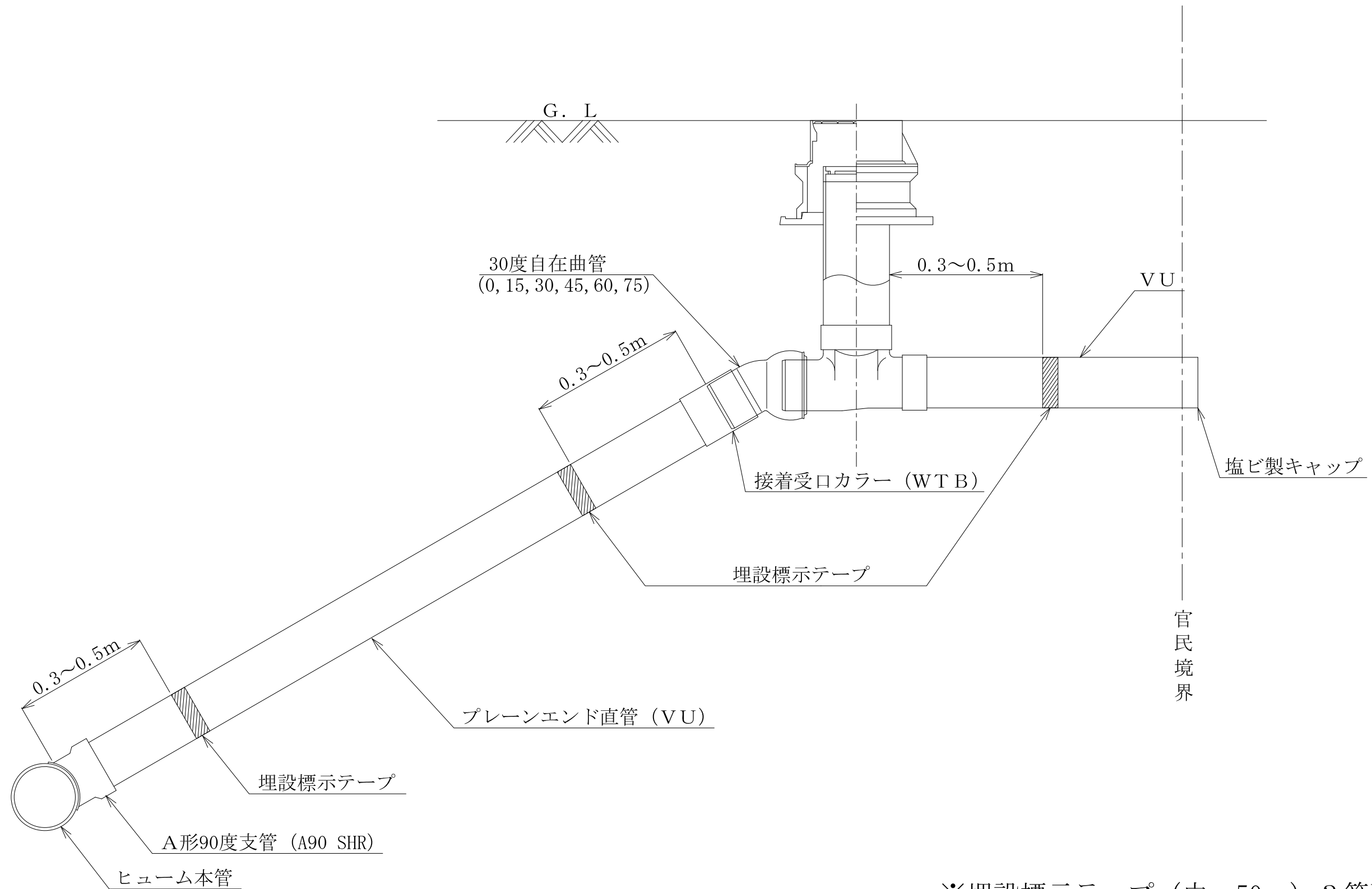


平均掘削深 H (m)	φ 150		φ 200		φ 250		φ 300		φ 350		φ 400		φ 500		φ 600									
	B (m)	W (m)	B (m)	W (m)	B (m)	W (m)	B (m)	W (m)	B (m)	W (m)	B (m)	W (m)	B (m)	W (m)	B (m)	W (m)								
0.7	0.55	0.69	0.60	0.74	0.65	0.70	0.75	0.80	0.85	0.90	0.95	1.00	1.05	1.10	1.15	1.20								
0.8		0.71		0.76													0.81	0.86	0.91	0.96	1.01	1.06	1.11	1.16
0.9		0.73		0.78													0.83	0.88	0.93	0.98	1.03	1.08	1.13	1.18
1.0		0.75		0.80													0.85	0.90	0.95	1.00	1.05	1.10	1.15	1.20
1.1		0.77		0.82													0.87	0.92	0.97	1.02	1.07	1.12	1.17	1.22
1.2		0.79		0.84													0.89	0.94	0.99	1.04	1.09	1.14	1.19	1.24
1.3		0.81		0.86													0.91	0.96	1.01	1.06	1.11	1.16	1.21	1.26
1.4		0.83		0.88													0.93	0.98	1.03	1.08	1.13	1.18	1.23	1.28
基礎厚 C (mm)	100		100		150		150		150		150		200		200									

矢板施工の場合  
H ≥ 1.5m  
汚水本管と同等とする。

# 標準取付管構造図（タイプ1）

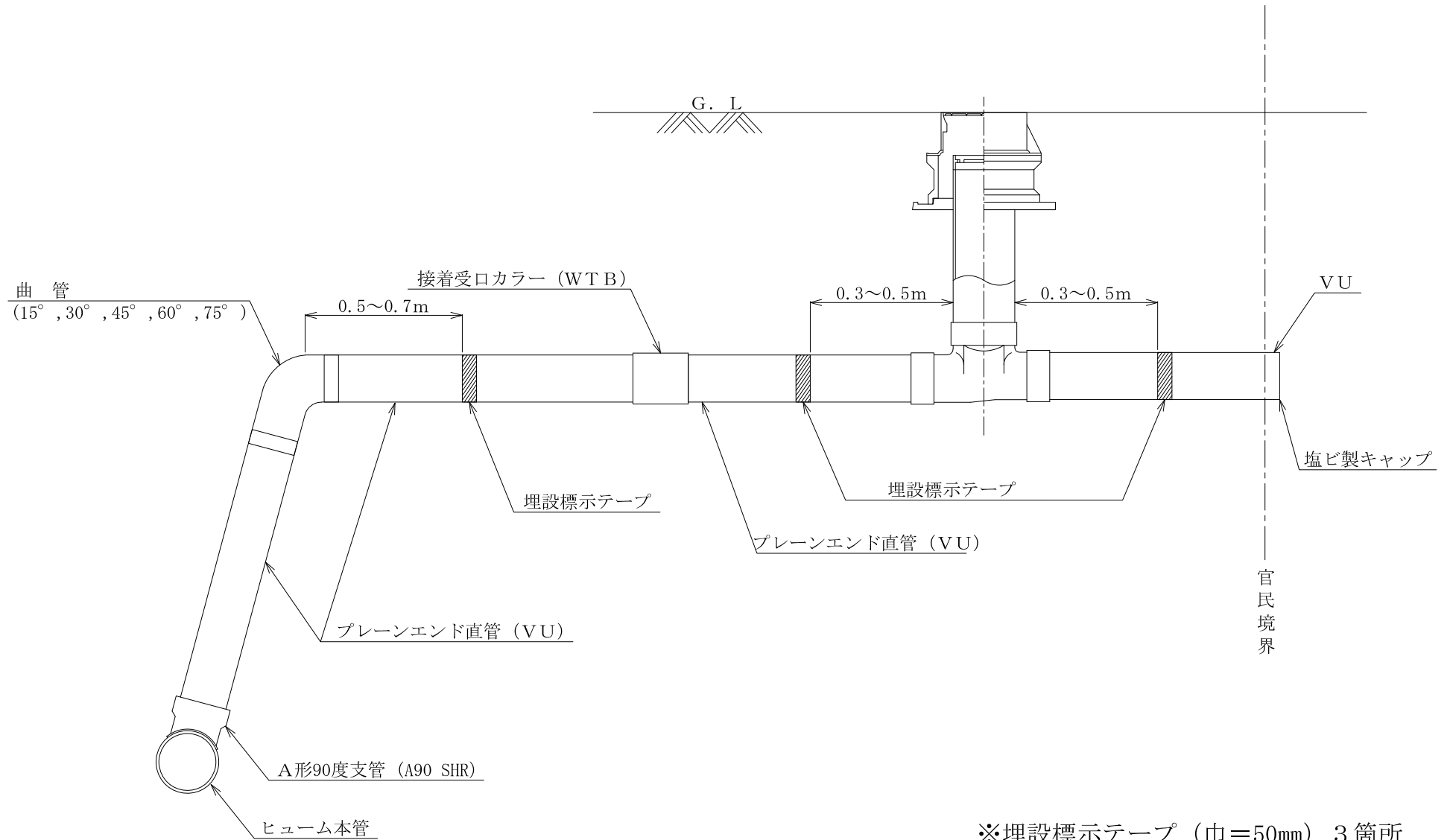
（本管：ヒューム管、取付管：塩ビ管）



※埋設標示テープ（巾=50mm）3箇所

# 標準取付管構造図（タイプ2）

（本管：ヒューム管、取付管：塩ビ管）

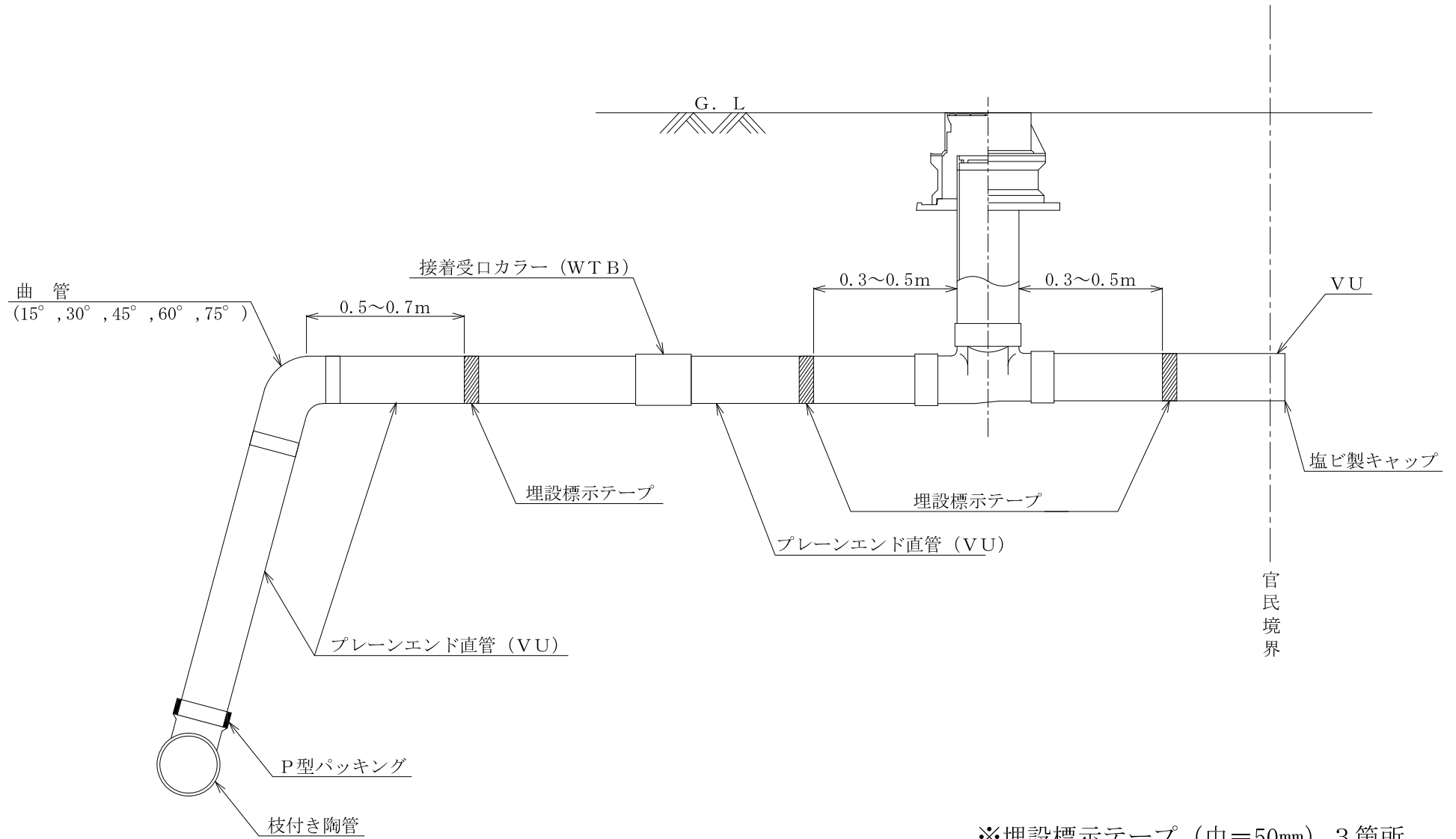


※埋設標示テープ（巾=50mm）3箇所  
 ※平均土被り1.8m以上

# 標準取付管構造図（タイプ3）

（本管：枝付陶管、取付管：塩ビ管）

（P型パッキング使用）

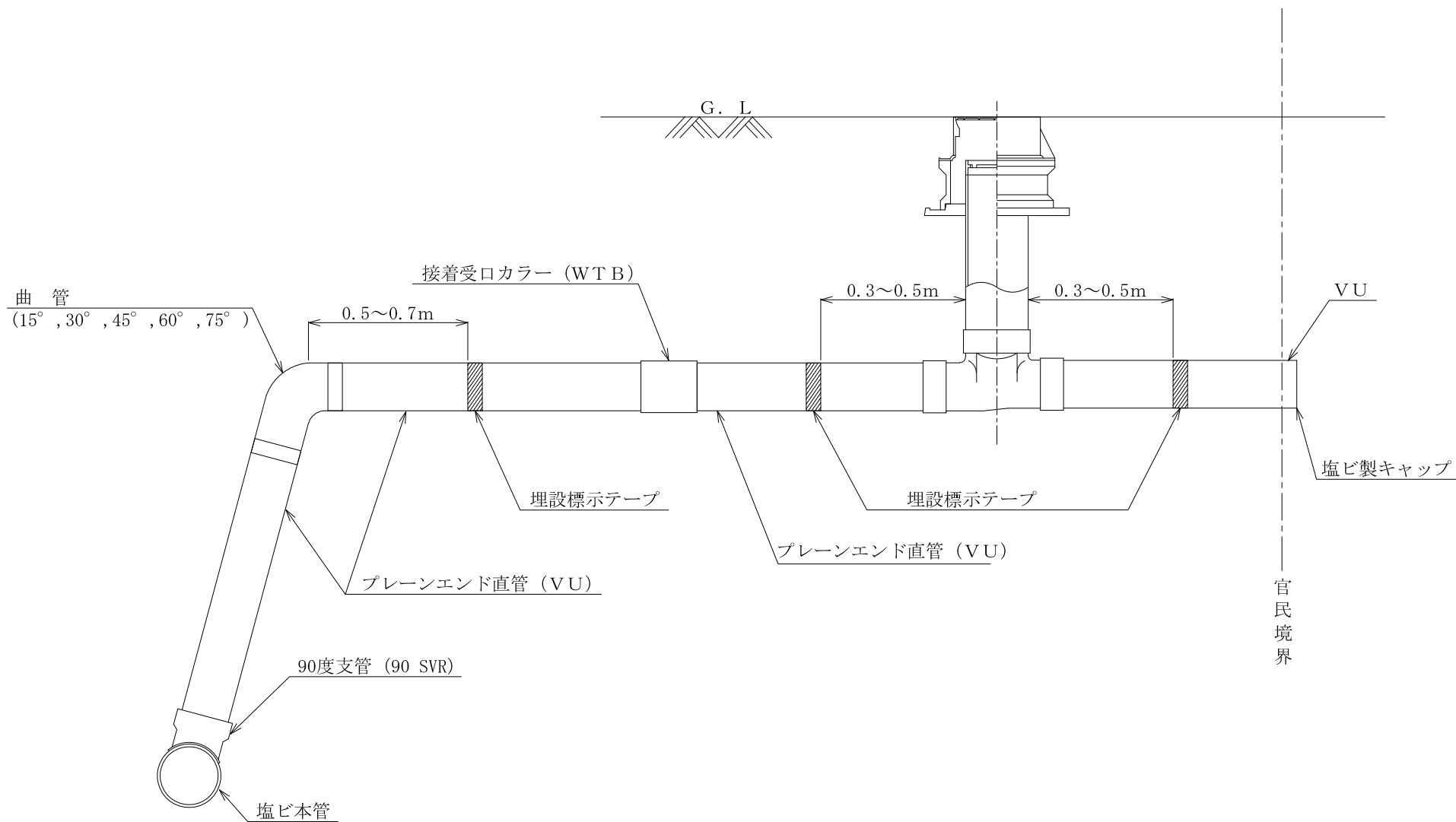


※埋設標示テープ（巾=50mm）3箇所  
※平均土被り1.8m以上



# 標準取付管構造図 (タイプ 5)

(本管：塩ビ管、取付管：塩ビ管)



※埋設標示テープ (巾=50mm) 3箇所  
 ※平均土被り1.8m以上

## 支管の取り付けについて

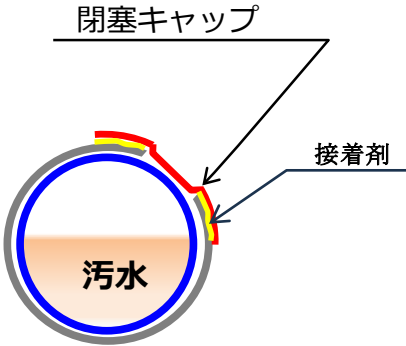
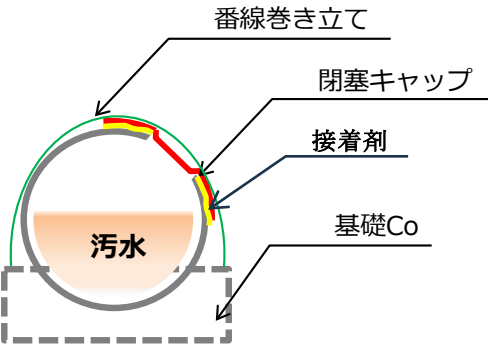
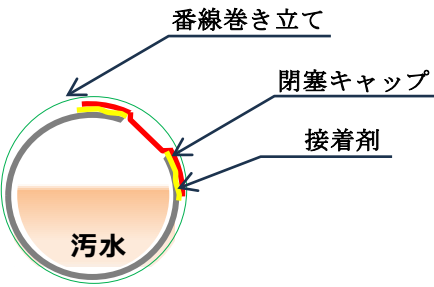
管更生時における支管の取り付けについては、下図①の施工を行うこと。その他工事における支管の取り付けは、下図②③のように施工するものとする。

施工案	①管更生時の閉塞	②その他工事における閉塞 (基礎 Co ありの場合)	③その他工事における閉塞 (基礎 Co なしの場合)
模式図			

※ 上記は現場での手法を制限するものではなく、監督員は道路陥没や支管のズレが発生しないよう、受注者と取り付け手法について施工前に確認すること。

## 取付管の閉塞工について

管更生時における取付管の閉塞については、下図①の施工を行うこと。その他工事（合流改善工事における雨水管の撤去等）における閉塞が必要となった場合は、下図②③のように施工するものとする。

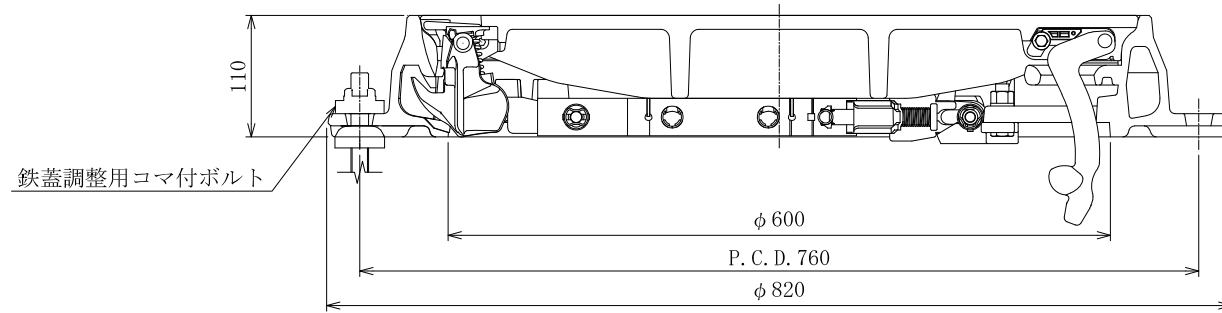
施工案	①管更生時の閉塞	②その他工事における閉塞 (基礎 Co ありの場合)	③その他工事における閉塞 (基礎 Co なしの場合)
模式図			

※ 上記は現場での手法を制限するものではなく、監督員は道路陥没が発生しないよう、受注者と閉塞手法について施工前に確認すること。

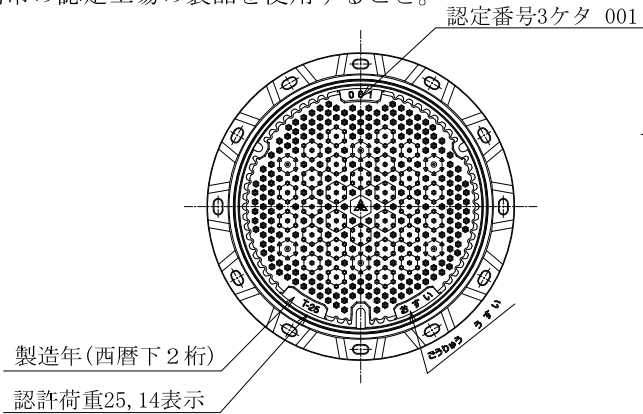
【ふた】

# 次世代型マンホールふた(φ600) T-25・T-14

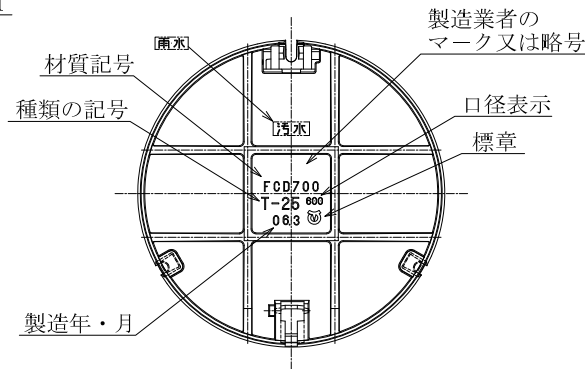
断面図



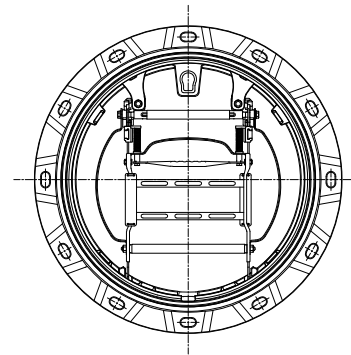
※転落防止安全梯子は、雨水及び合流地区、分流汚水のマンホール2m以上の所に使用する。  
 ※本図は参考図である。  
 ※福岡市の認定工場の製品を使用すること。



蓋表面図



蓋裏面図



転落防止安全梯子付枠表面図

次世代型マンホール鉄蓋重量表

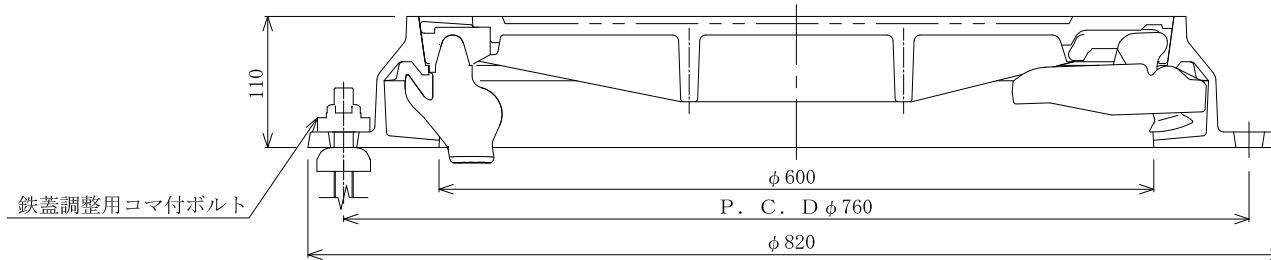
材質	参考重量T-25(T-14)
ダクタイル鋳鉄	蓋 39.5 (36.2) kg 受枠 38.5kg
JIS G 4303またはJIS G 4304 SUS 304同等以上	転落防止安全梯子 4.1kg

※下記のいずれかに該当する場合は、「次世代型マンホールふた」を設置することを基本とする。

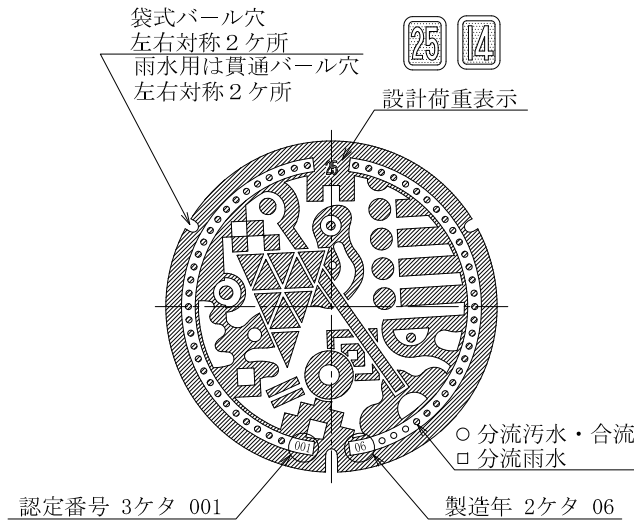
1. 当該道路の縦断勾配が「7%以上」の場合
2. 当該道路に「すべり止め舗装」が施工されている場合
3. 交差点や交差点手前50m以内の場合
4. 急カーブの場合(例: 曲線半径100以下のカーブ)
5. 車道部に設けられた自転車専用レーンの場合

# 下水道用鋳鉄製マンホールふた(φ600) T-25・T-14

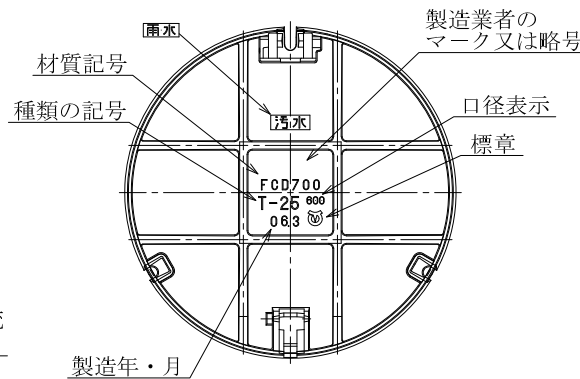
断面図



平面図



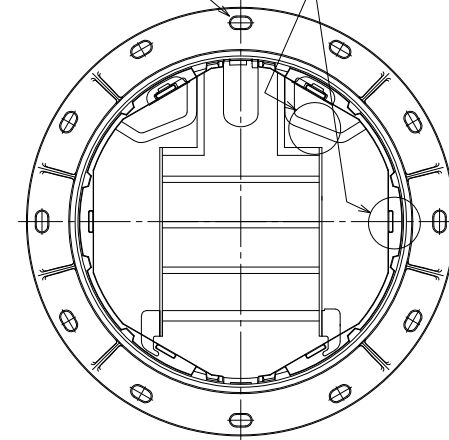
蓋表面図



蓋裏面図

アンカー穴30° 毎12ヶ所

受枠内側側面下部に  
認定番号 3ケタ 001  
製造年 2ケタ 06  
をどちらか一箇所に表示すること。



転落防止安全梯子付枠表面図

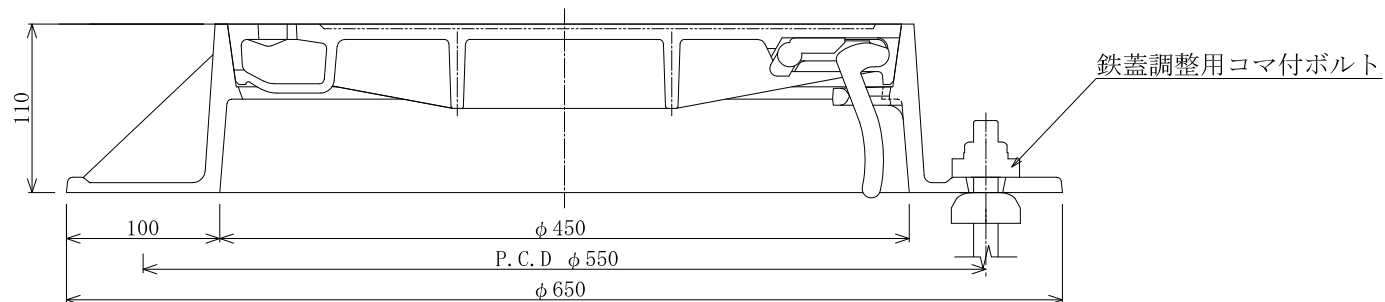
鋳鉄製マンホール鉄蓋重量表

材質	参考重量T-25(T-14)
ダクタイル鋳鉄	蓋 44.5 (36.6) kg 受枠 49.9kg
JIS G 4303またはJIS G 4304 SUS 304同等以上	転落防止安全梯子 4.4kg

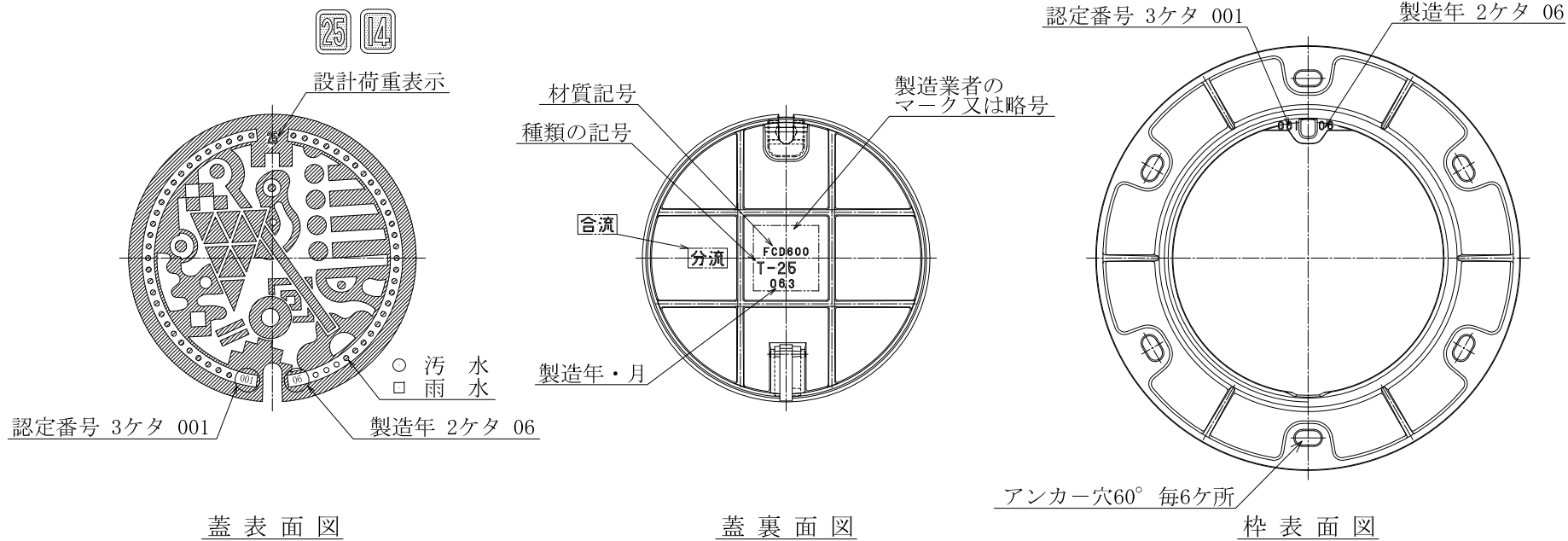
- ※ 転落防止安全梯子は、雨水及び合流地区、マンホール深2m以上の所に使用する。
- ※ 本図は、参考図である。
- ※ 福岡市の認定工場の製品を使用すること。

# 下水道用鋳鉄製汚水枡鉄ふた(φ450) T-25・T-14

断面図



平面図



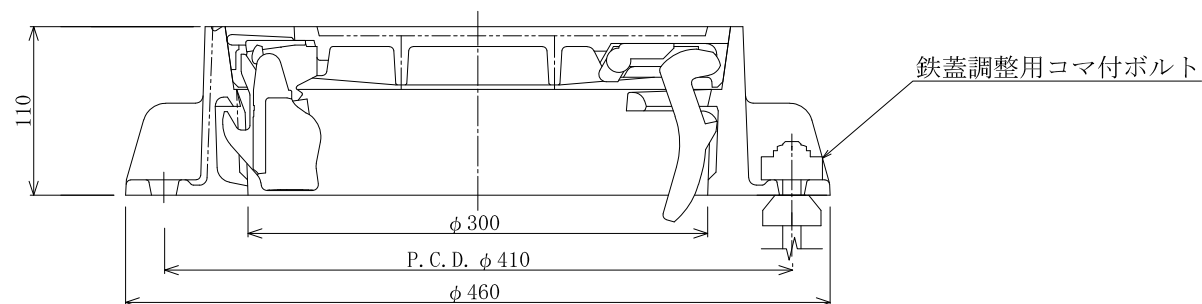
鋳鉄製マンホール鉄蓋重量表

材質	参考重量T-25(T-14)
ダクタイル鋳鉄	蓋 16.4 (15.5) kg 受枠 23.3kg

※ 本図は、参考図である。  
 ※ 福岡市の認定工場の製品を使用すること。

# 下水道用鋳鉄製マンホールふた(φ300) T-25・T-14

断面図



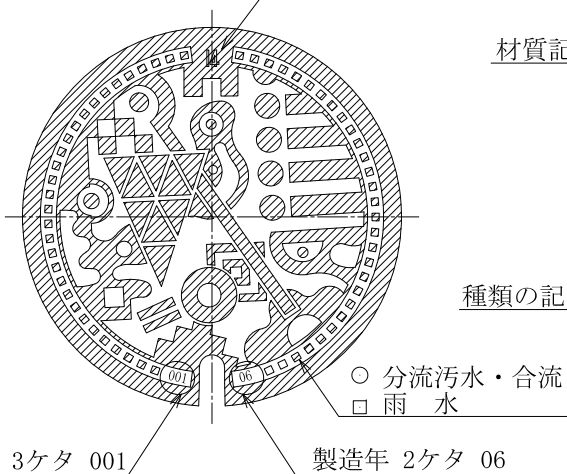
25 14

設計荷重表示

平面図

認定番号 3ケタ 001

製造年 2ケタ 06



材質記号

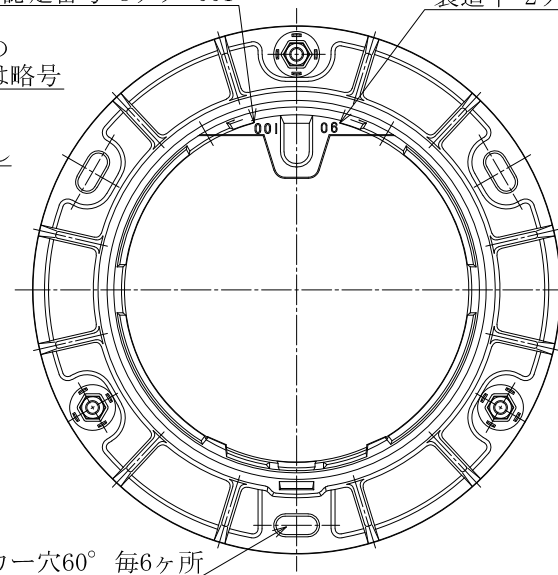
製造業者の  
マーク又は略号

口径鋳出し

種類の記号

標章

製造年



アンカー穴60° 毎6ヶ所

蓋表面図

蓋裏面図

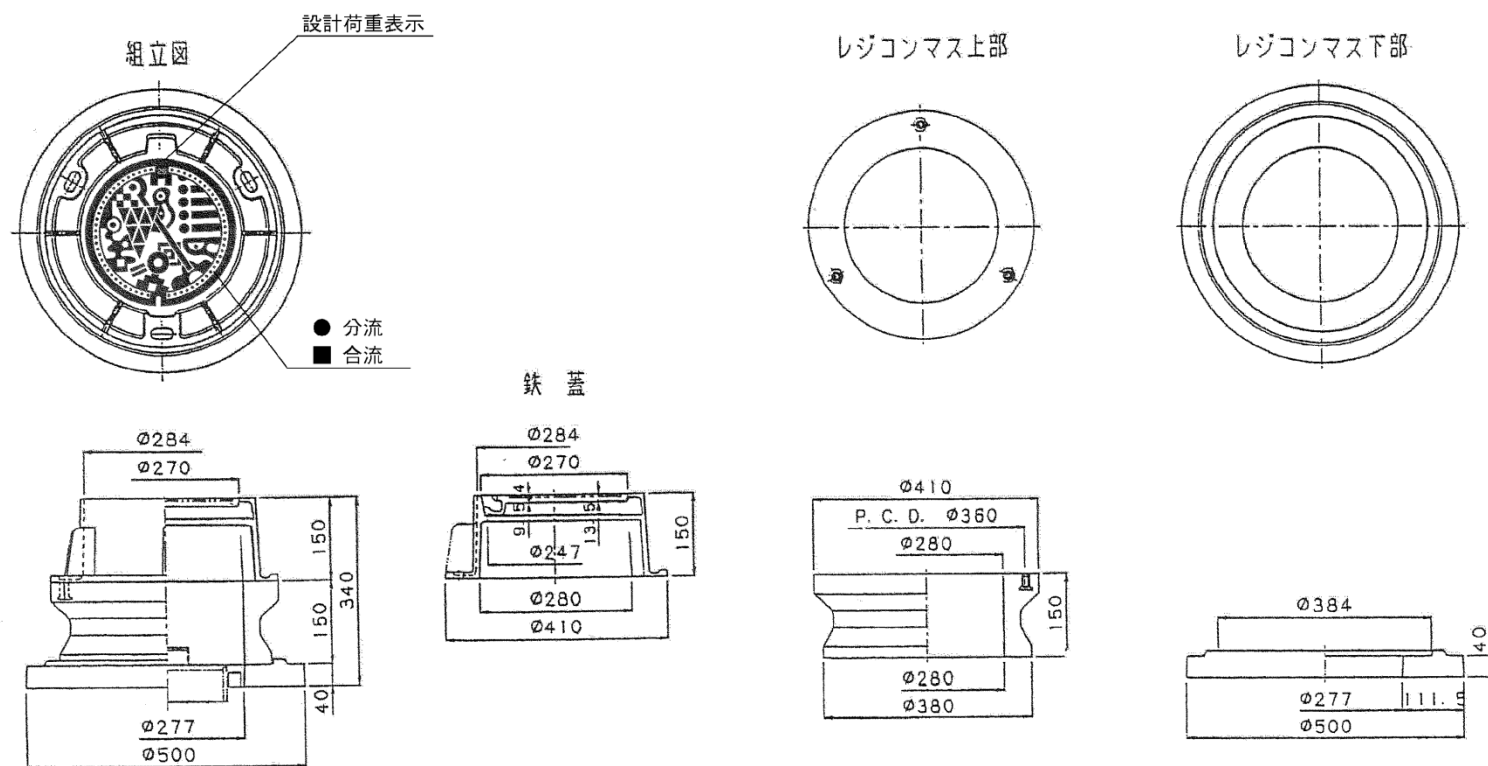
枠表面図

鋳鉄製マンホール鉄蓋重量表

材質	参考重量T-25(T-14)
ダクタイル鋳鉄	蓋 9.9 (8.8) kg 受枠 19.3kg

- ※ 本図は、参考図である。
- ※ 福岡市の認定工場の製品を使用すること。

## 小口径汚水柵ふた関連構造図



小口径汚水柵鉄蓋関連重量表

名称	材質	参考重量 T-25 (T-14)
小口径汚水柵鉄蓋	ダクタイル鋳鉄	蓋 (部品含む) 5.8 (5.3) kg
		受 枠 14.8 (14.8) kg
レジコンマス上部	レジンコンクリート	15.3kg
レジコンマス底部	レジンコンクリート	12.5kg

※蓋の形状については、参考図である。

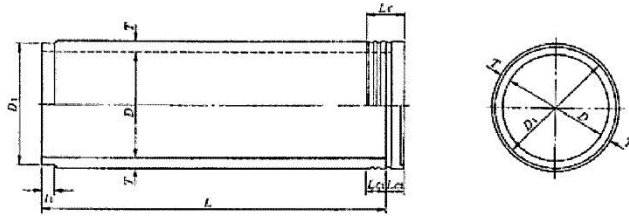
※福岡市の認定工場の製品を使用すること。

# 《推進工法編》

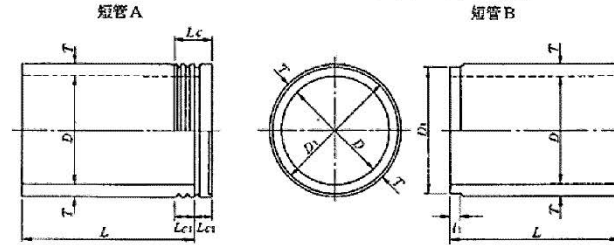
## 【推進管規格図】

# 1. 小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管 (JSWAS A-6-2000) の規格

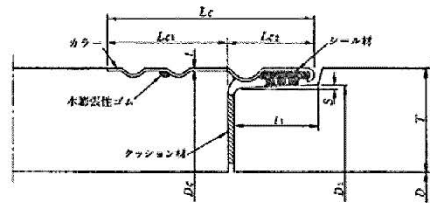
標準管の形状、寸法及び寸法の許容差



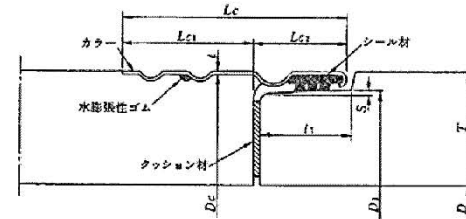
短管A及び短管Bの形状、寸法及び寸法の許容差



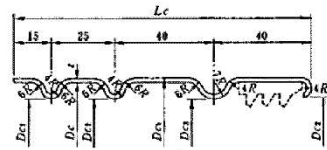
継手部詳細



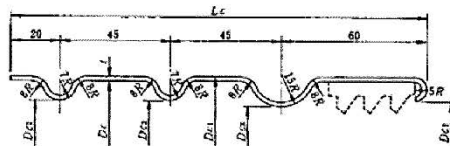
継手部詳細図



カラー詳細  
呼び径200~500

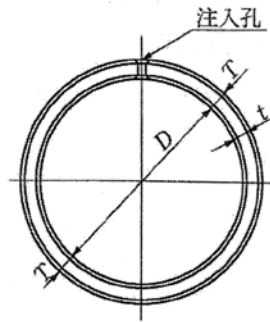
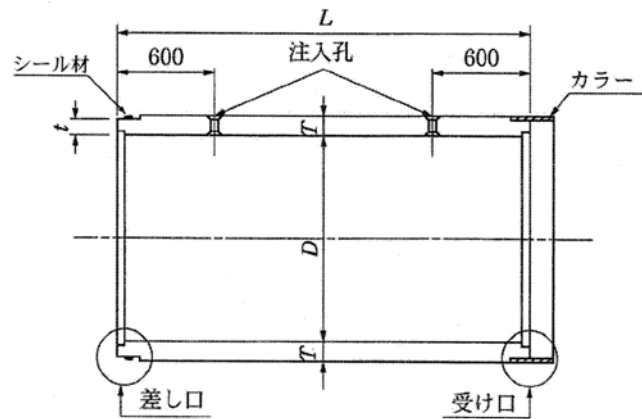


呼び径600及び700

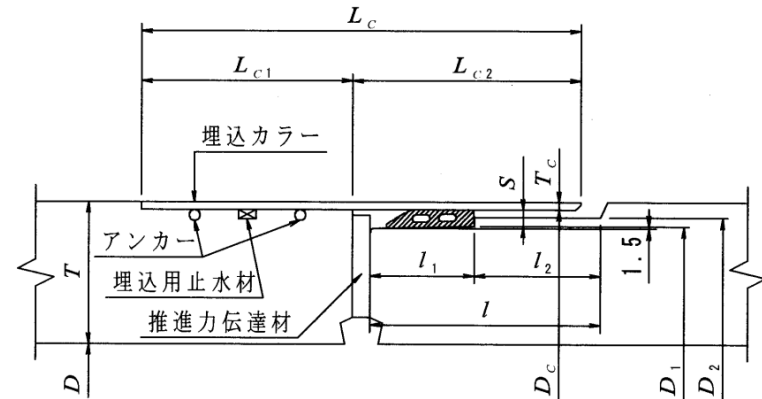


呼び径 D (mm)	外径 B c (mm)	厚さ T (mm)	有効長 L (mm)		m当り重量 W (kN/m)
			標準管	短管	
250	360	55	2000	990	1.266
300	414	57	〃	〃	1.536
350	470	60	2430	1200	1.857
400	526	63	〃	〃	2.202
450	584	67	〃	〃	2.615
500	640	70	〃	〃	3.012
600	760	80	〃	〃	4.106
700	880	90	〃	〃	5.367

## 2. 中口径管推進工法用鉄筋コンクリート管 (JSWAS A-2-2018) の規格



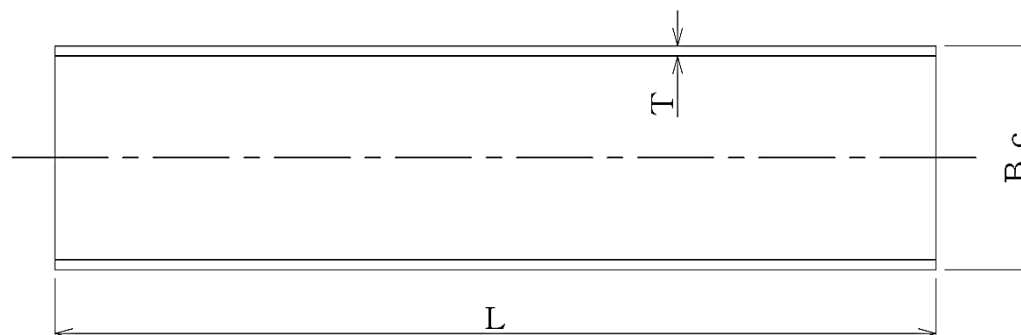
継手部詳細



呼び径 D (mm)	外径 B c (mm)	厚さ T (mm)	有効長 L (mm)	m当り重量 W (kN/m)
800	960	80	2430	5.314
900	1080	90		6.725
1000	1200	100		8.303
1100	1310	105		9.550
1200	1430	115		11.415
1350	1600	125		13.917
1500	1780	140		17.330
1650	1950	150		20.380
1800	2120	160		23.671
2000	2350	175		28.730

### 3. 推進用鋼管の規格

鋼管（一般構造用炭素鋼鋼管 STK-400）



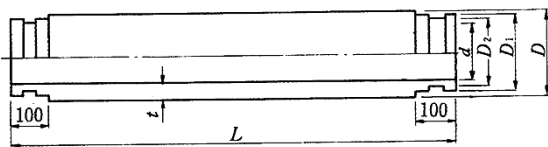
呼び径 (mm)	外径 Bc (mm)	厚さ T (mm)	内径 D (mm)	重量 W (kgf/m)	有効長 L (mm)
350	355.6	7.9	339.8	67.7	3,000 or 2,000
400	406.4	9.5	387.4	93.0	
450	457.2	9.5	438.2	105.0	
500	508.0	12.7	489.0	117.0	
550	558.8	12.7	533.4	171.0	
600	609.6	12.7	584.2	187.0	
700	711.2	12.7	685.8	219.0	
800	812.8	12.7	787.4	251.0	

## 4. 推進用塩ビ管 (JSWAS K-6-2009) の規格 (1)

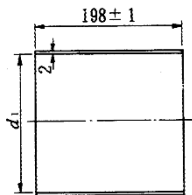
SUSカラー付直管 (略号SUSR)

(単位: mm)

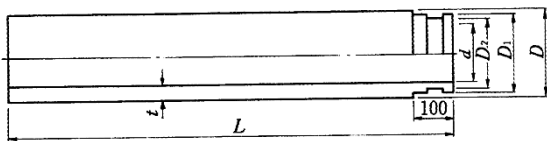
標準管



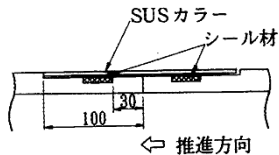
SUSカラー詳細図



先頭管及び最終管



接続部参考図



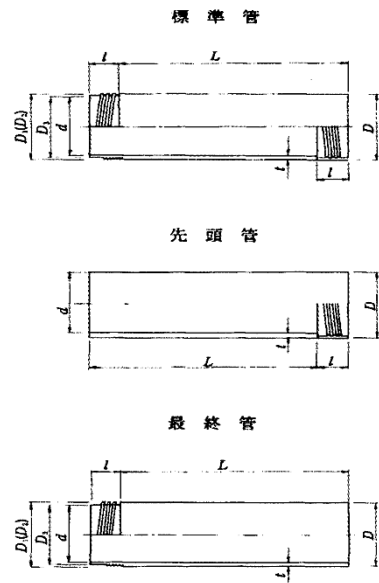
呼び径	$D$	$D_1$	$D_2$	$d$ (参考)	$d_1$	$t$	$L$
150	$165.0 \pm 0.5$	$160.0^{+0.6}_{-0.3}$	$154.0^{+0.6}_{-0.3}$	146	$161.3 \pm 0.5$	$8.9^{+1.4}_0$	$1000 \pm 3$
200	$216.0 \pm 0.7$	$211.0^{+0.6}_{-0.3}$	$205.0^{+0.6}_{-0.3}$	194	$212.3 \pm 0.5$	$10.3^{+1.4}_0$	$1000 \pm 3$
250	$267.0 \pm 0.9$	$262.0^{+0.6}_{-0.3}$	$256.0^{+0.6}_{-0.3}$	240	$263.3 \pm 0.5$	$12.7^{+1.8}_0$	
300	$318.0 \pm 1.0$	$313.0^{+0.6}_{-0.3}$	$307.0^{+0.6}_{-0.3}$	286	$314.3 \pm 0.5$	$15.1^{+2.2}_0$	$2000 \pm 5$
350	$370.0 \pm 1.2$	$365.0^{+1.0}_{-0.5}$	$359.0^{+1.0}_{-0.5}$	339	$366.7 \pm 0.5$	$14.3^{+2.0}_0$	
400	$420.0 \pm 1.3$	$415.0^{+1.0}_{-0.5}$	$409.0^{+1.0}_{-0.5}$	385	$416.7 \pm 0.5$	$16.2^{+2.2}_0$	
450	$470.0 \pm 1.5$	$465.0^{+1.0}_{-0.5}$	$459.0^{+1.0}_{-0.5}$	431	$466.7 \pm 0.5$	$18.1^{+2.6}_0$	

- 注1.  $D$ 、 $D_1$ 及び $D_2$ は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の直径測定値の平均値をいう。  
 2. 先頭管とは先導体に接続する管で、最終管とは推進時の最後に使用する管である。  
 また、標準管とはその間の推進時に使用する管をいう。  
 3. 差し口先端部は、糸面取りとする。  
 4. シール材の形状及びシール材周辺部の形状は、規定しない。

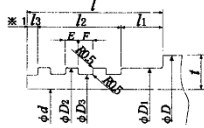
## 5. 推進用塩ビ管 (JSWAS K-6-2009) の規格 (2)

スパイラル継手付直管 (略号SSPS)

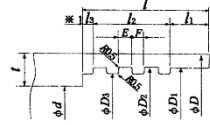
(単位: mm)



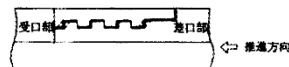
継手差し口部詳細図



継手受口部詳細図



接続部参考図



※ は差し口先端部が受口最奥部に当たる寸法にて加工すること。

呼び径		$D$	$D_1$	$D_2$	$D_3$	$d$ (参考)	$l$	$t$	$L$
150	受口部	165.0±0.5	158.4±0.3	158.4±0.3	154.2±0.3	146	64±1	8.9 <sup>+1.4</sup> <sub>0</sub>	800±3
	差し口部		157.8±0.3	157.4±0.3	153.2±0.3		65 <sup>+1</sup> <sub>0</sub>		1000±3
200	受口部	216.0±0.7	208.2±0.3	208.2±0.3	203.2±0.3	194	64±1	10.3 <sup>+1.4</sup> <sub>0</sub>	800±3
	差し口部		207.6±0.3	207.2±0.3	202.2±0.3		65 <sup>+1</sup> <sub>0</sub>		
250	受口部	267.0±0.9	258.6±0.4	258.6±0.4	251.4±0.4	240	64±1	12.7 <sup>+1.8</sup> <sub>0</sub>	
	差し口部		257.8±0.4	257.4±0.4	250.2±0.4		65 <sup>+1</sup> <sub>0</sub>		
300	受口部	318.0±1.0	307.8±0.4	307.8±0.4	299.4±0.4	286	64±1	15.1 <sup>+2.2</sup> <sub>0</sub>	1000±3
	差し口部		307.0±0.4	306.6±0.4	298.2±0.4		65 <sup>+1</sup> <sub>0</sub>		
350	受口部	370.0±1.2	362.5±0.5	362.4±0.5	353.8±0.5	339	79±1	14.3 <sup>+2.0</sup> <sub>0</sub>	2000±5
	差し口部		361.5±0.5	361.0±0.5	352.4±0.5		80 <sup>+1</sup> <sub>0</sub>		
400	受口部	420.0±1.3	411.6±0.5	411.5±0.5	401.9±0.5	385	79±1	16.2 <sup>+2.2</sup> <sub>0</sub>	
	差し口部		410.6±0.5	410.1±0.5	400.5±0.5		80 <sup>+1</sup> <sub>0</sub>		
450	受口部	470.0±1.5	460.5±0.5	460.4±0.5	449.8±0.5	431	79±1	18.1 <sup>+2.6</sup> <sub>0</sub>	
	差し口部		459.5±0.5	459.0±0.5	448.4±0.5		80 <sup>+1</sup> <sub>0</sub>		

注1.  $D$ 、 $D_1$ 、 $D_2$ 及び $D_3$ は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の直径測定値の平均値をいう。

2. 先頭管とは先導体に接続する管で、最終管とは推進時の最後に使用する管である。また、標準管とはその間の推進時に使用する管をいう。

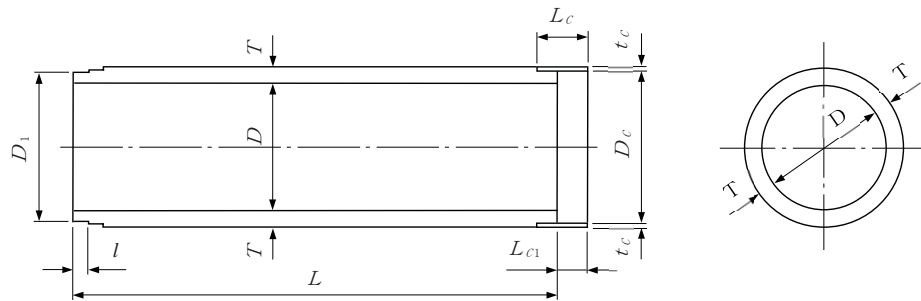
3. 差し口先端部は、糸面取りとする。

(単位: mm)

呼び径	継手差し口部					継手受口部				
	$l_1$ (最小)	$l_2$ (参考)	$l_3$ (最小)	$E$ (標準)	$F$ (標準)	$l_1$ (最小)	$l_2$ (参考)	$l_3$ (最小)	$E$ (標準)	$F$ (標準)
150~300	20	40	5	6.75	7.00	20	40	5	7.00	6.75
350~450	25		15			25		15		

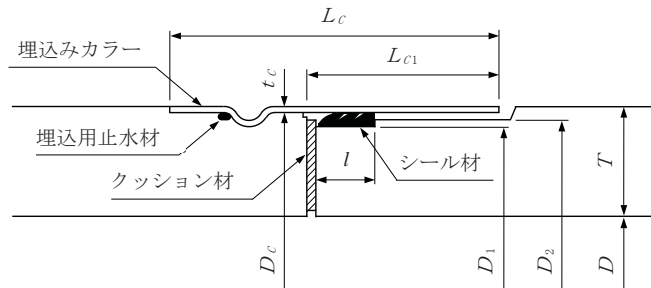
## 6. 推進工法用レジンコンクリート管RS形 (JSWAS K-12-2016) の規格

(単位: mm)

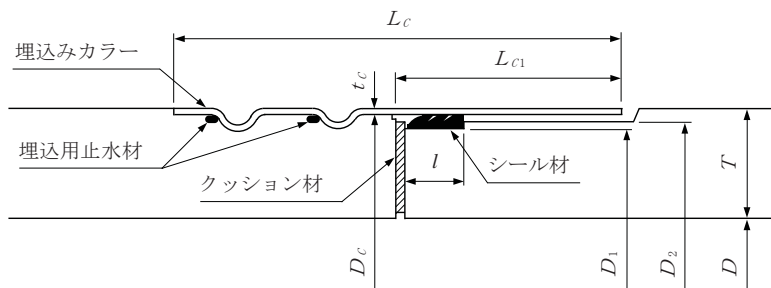


(継手部詳細)

RSJS RS 200~700, RSJA RS 200~350, RSJB RS 400~500



RSJB RS 600~700



種類	呼び径	内径 $D$	管厚 $T$	有効長 $L$	$\pi D_1$	$D_1$	$D_2$	$l$
RSJS RS (5P)	200	200	30	2000	±5	±3	769	245 250
	250	250					926	295 300
	300	300					1084	345 350
	350	350					1244	396 403
	400	400	35	2430	±5	±3	1416	451 458
	450	450	38				1592	507 514
	500	500	42				1775	565 572
	600	600	46				2111	672 680
700	700	50	2450	780 788	40	±2		
RSJA RS (5P)	200	200	30	2000	±5	±3	769	245 250
	250	250					926	295 300
	300	300	32	2430	±5	±3	1084	345 350
	350	350					1244	396 403
RSJB RS (5P)	400	400	38	2430	±5	±3	1416	451 458
	450	450					1592	507 514
	500	500	42	2430	±5	±3	1775	565 572
	600	600					2111	672 680
	700	700	50	2450	780 788	40	±2	

種類	呼び径	$D_c$	$\pi (D_c + 2t_c)$	$L_c$	$L_{c1}$	$t_c$
RSJS RS (5P)	200	255	814	130	60	2.0
	250	305	971			
	300	355	1128			
	350	409	1297	170	80	2.5
	400	464	1473			
	450	520	1649			
	500	578	1832			
600	686	2171	200	110	2.5	
700	794	2510				
RSJA RS (5P)	200	255	814	155	85	2.0
	250	305	971			
	300	355	1128			
RSJB RS (5P)	350	409	1297	170	100	2.5
	400	464	1473			
	450	520	1649			
	500	578	1832			
600	686	2171	200	110	2.5	
700	794	2510				

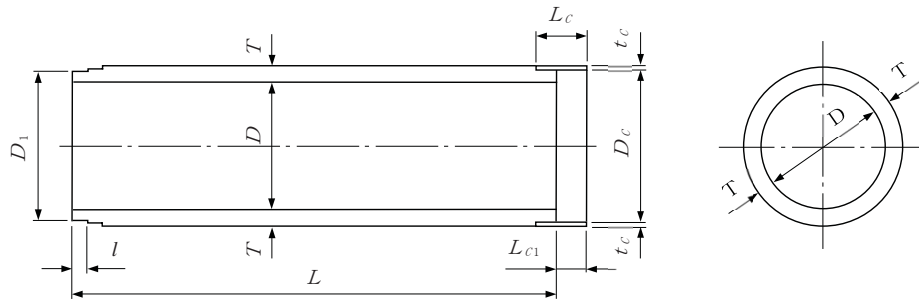
注1. 管の有効長 ( $L$ ) は、有効長 2000 mm のものは  $1000 \pm 5$  mm、2430 mm のものは  $1200 \pm 5$  mm、 $800 \pm 5$  mm にすることができる。

注2. 管の形状は受け口なしとすることができる。ただし、有効長 ( $L$ ) は、有効長 2000 mm のものは  $2000_{-10}^{+5}$  mm、 $1000_{-10}^{+5}$  mm、有効長 2430 mm のものは  $2430_{-10}^{+5}$  mm、 $1200_{-10}^{+5}$  mm とする。

注3. 有効長の最大と最小の差は、3 mm 以内とする。

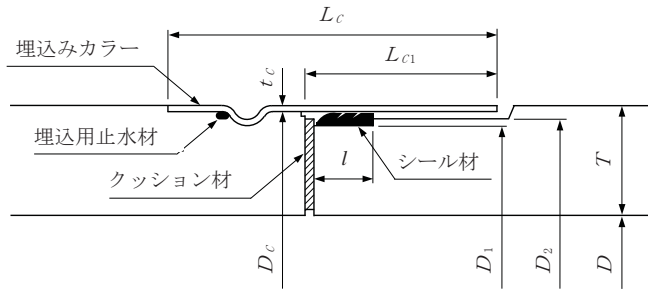
## 7. 推進工法用レジンコンクリート管RT形 (JSWAS K-12-2016) の規格

(単位: mm)

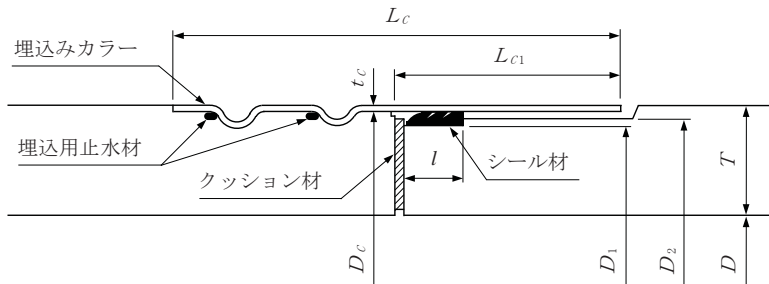


(継手部詳細)

RSJS RT 250~700、RSJB RT 250~500



RSJB RT 600~700



種類	呼び径	内径 $D$	管厚 $T$	有効長 $L$	$\pi D_1$	$D_1$	$D_2$	$l$			
RSJS RT(7P)	250	250	$\pm 3$	55	$\begin{matrix} +3 \\ -2 \end{matrix}$	2000	$\pm 5$	1074	342	349	$\pm 2$
	300	300		57				1244	396	403	
	350	350		60				1416	451	458	
	400	400		63				1592	507	514	
	450	450	$\pm 4$	67	$\begin{matrix} +4 \\ -2 \end{matrix}$	2430		1775	565	572	
	500	500		70				1951	621	628	
	600	600		80				2312	736	744	
	700	700		90				2689	856	864	
RSJB RT(7P)	250	250	$\pm 3$	55	$\begin{matrix} +3 \\ -2 \end{matrix}$	2000	$\pm 5$	1074	342	349	$\pm 2$
	300	300		57				1244	396	403	
	350	350		60				1416	451	458	
	400	400		63				1592	507	514	
	450	450	$\pm 4$	67	$\begin{matrix} +4 \\ -2 \end{matrix}$	2430		1775	565	572	
	500	500		70				1951	621	628	
	600	600		80				2312	736	744	
	700	700		90				2689	856	864	

種類	呼び径	$D_c$	$\pi(D_c+2t_c)$	$L_c$	$L_{c1}$	$t_c$
RSJS RT(7P)	250	355	1128	130	60	2.0
	300	409	1297			
	350	464	1473			
	400	520	1649			
	450	578	1832	170	80	2.5
	500	634	2007			
	600	754	2384			
	700	874	2761			
RSJB RT(7P)	250	355	1128	155	85	2.0
	300	409	1297			
	350	464	1473			
	400	520	1649			
	450	578	1832	170	100	2.5
	500	634	2007			
	600	754	2384			
	700	874	2761			

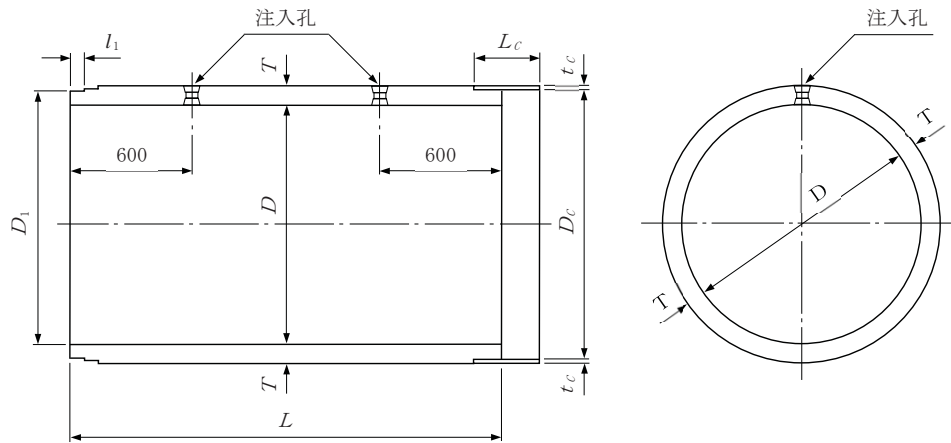
注1. 管の有効長 ( $L$ ) は、有効長 2000 mm のものは  $1000 \pm 5$  mm、2430 mm のものは  $1200 \pm 5$  mm、800  $\pm 5$  mm にすることができる。

注2. 管の形状は受け口なしとすることができる。ただし、有効長 ( $L$ ) は、有効長 2000 mm のものは  $2000_{-10}^{+5}$  mm、1000  $_{-10}^{+5}$  mm、有効長 2430 mm のものは  $2430_{-10}^{+5}$  mm、1200  $_{-10}^{+5}$  mm とする。

注3. 有効長の最大と最小の差は、3 mm 以内とする。

## 7. 推進工法用レジンコンクリート管RT形 (JSWAS K-12-2016) の規格 (続き)

(単位: mm)



(継手部詳細)

RJC RT 800~1650

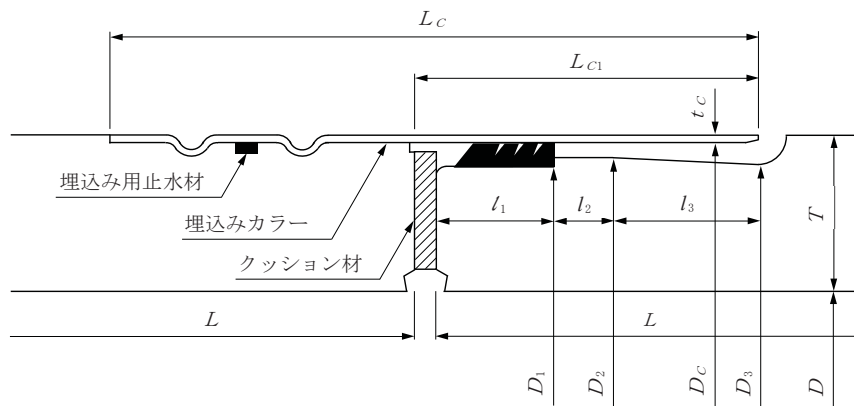
種類	呼び径	内径 $D$	管厚 $T$	有効長 $L$	$\pi D_1$	$D_1$	$D_2$	$D_3$					
RJC RT (7P)	800	800	$\pm 4$	80	$+4$ $-2$	2430	$\pm 5$	2931	$\pm 3$	933	942	934	
	900	900		90						3308	1053	1062	1054
	1000	1000		100						3685	1173	1182	1174
	1100	1100	$\pm 6$	105	$+6$					4030	1283	1292	1284
	1200	1200		115	$-3$					4407	1403	1412	1404
	1350	1350		125						4910	1563	1576	1572
	1500	1500		140						5475	1743	1756	1752
	1650	1650	$\pm 8$	150	$+8$ $-4$					6010	$\pm 6$	1913	1926

種類	呼び径	$l_1$	$l_2$	$l_3$	$D_c$	$\pi(D_c+2t_c)$	$L_c$	$L_{c1}$	$t_c$		
RJC RT (7P)	800	60	$\pm 2$	30	82	951	3016	320	170	$\pm 2$	4.5
	900					1071	3393				
	1000					1191	3770				
	1100					1301	4115				
	1200					1421	4492				
	1350					1588	5027				
	1500					1768	5592				
	1650					1938	6126				

注1. 管の有効長 ( $L$ ) は、1200 $\pm$ 5 mm、800 $\pm$ 5 mm にすることができる。

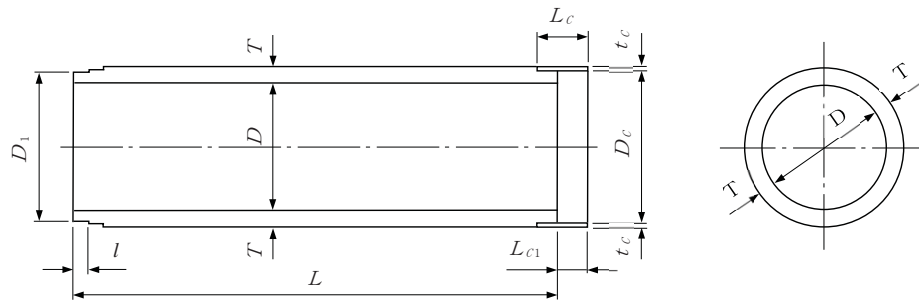
注2. 管の形状は受け口なしとすることができる。ただし、有効長 ( $L$ ) は、2430 $^{+5}_{-10}$  mm、1200 $^{+5}_{-10}$  mm とする。

注3. 有効長の最大と最小の差は、3 mm 以内とする。



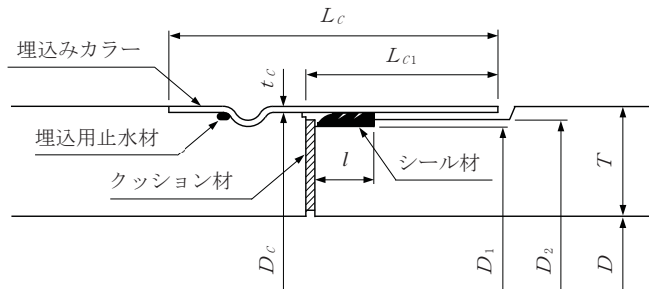
## 8. 推進工法用レジンコンクリート管RM形 (JSWAS K-12-2016) の規格

(単位: mm)

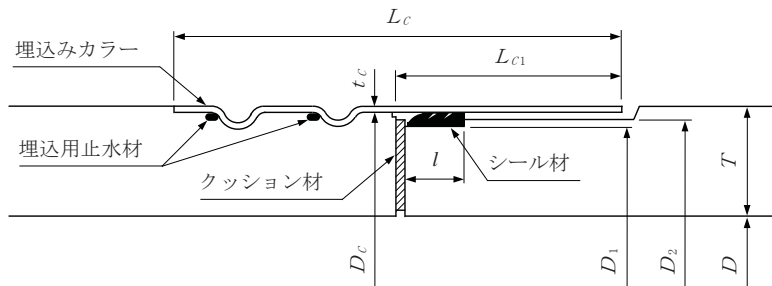


(継手部詳細)

RSJS RM 290~760、RSJB RM 290~540



RSJB RM 650~760



種類	呼び径	内径 $D$	管厚 $T$	有効長 $L$	$\pi D_1$	$D_1$	$D_2$	$l$			
RSJS RM (6P)	290	290	$\pm 3$	35	2000	$\pm 5$	$\pm 3$	30			
	340	340	$\pm 4$	37					1074	342	349
	390	390		40					1244	396	403
	440	440		43					1416	451	458
	490	490		47	1592	507	514				
	540	540	50	2430	1775	565	572				
	650	650	55		1951	621	628				
	760	760	60		2312	736	744				
			2689		856	864					
RSJB RM (6P)	290	290	$\pm 3$	35	2000	$\pm 5$	$\pm 3$	30			
	340	340	$\pm 4$	37					1074	342	349
	390	390		40					1244	396	403
	440	440		43					1416	451	458
	490	490		47	1592	507	514				
	540	540	50	2430	1775	565	572				
	650	650	55		1951	621	628				
	760	760	60		2312	736	744				
			2689		856	864					

種類	呼び径	$D_c$	$\pi (D_c + 2t_c)$	$L_c$	$L_{c1}$	$t_c$
RSJS RM (6P)	290	355	1128	130	60	2.0
	340	409	1297			
	390	464	1473			
	440	520	1649	170	80	2.5
	490	578	1832			
	540	634	2007			
	650	754	2384			
760	874	2761				
RSJB RM (6P)	290	355	1128	155	85	2.0
	340	409	1297			
	390	464	1473			
	440	520	1649	170	100	2.5
	490	578	1832			
	540	634	2007			
	650	754	2384			
760	874	2761	200	110		

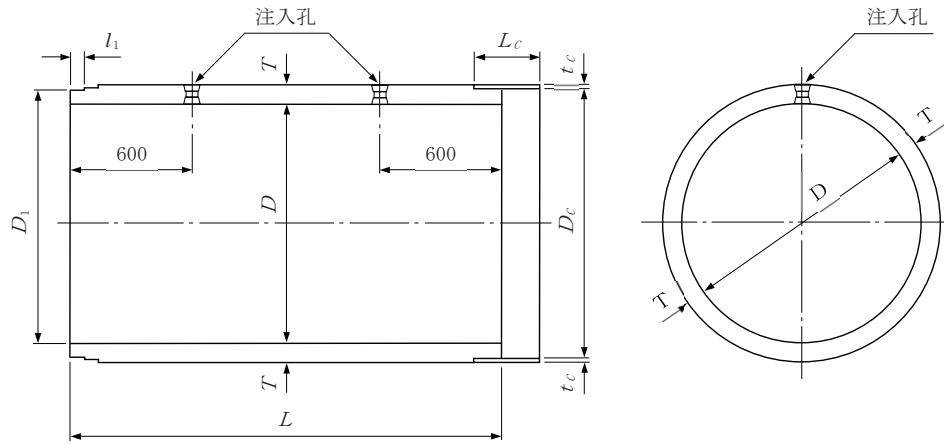
注1. 管の有効長 ( $L$ ) は、有効長 2000 mm のものは  $1000 \pm 5$  mm、2430 mm のものは  $1200 \pm 5$  mm、 $800 \pm 5$  mm にすることができる。

注2. 管の形状は受け口なしとすることができる。ただし、有効長 ( $L$ ) は、有効長 2000 mm のものは  $2000_{-10}^{+5}$  mm、 $1000_{-10}^{+5}$  mm、有効長 2430 mm のものは  $2430_{-10}^{+5}$  mm、 $1200_{-10}^{+5}$  mm とする。

注3. 有効長の最大と最小の差は、3 mm 以内とする。

## 8. 推進工法用レジンコンクリート管RM形 (JSWAS K-12-2016) の規格 (続き)

(単位: mm)



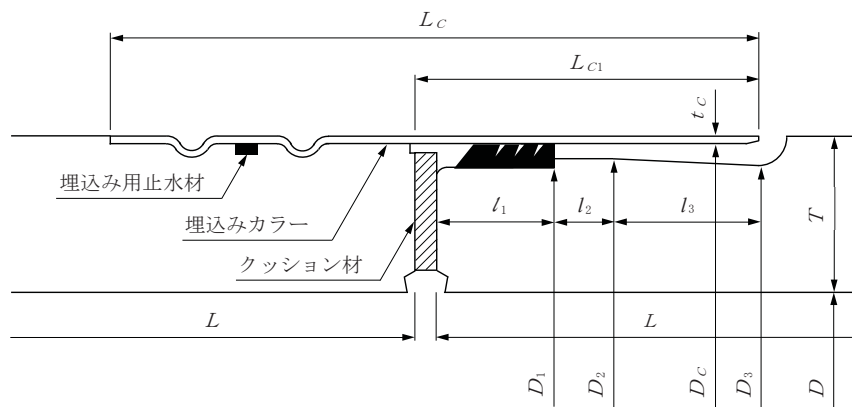
(継手部詳細)

RJC RM 840~1710

種類	呼び径	内径 $D$	管厚 $T$	有効長 $L$	$\pi D_1$	$D_1$	$D_2$	$D_3$		
RJC RM(6P)	840	840	$\pm 4$	60	$+4$ $-2$	2931	933	942	934	
	950	950	$\pm 6$	65	2430	$\pm 5$	$\pm 3$	1053	1062	1054
	1060	1060		70				1173	1182	1174
	1160	1160		75				1283	1292	1284
	1270	1270		80				1403	1412	1404
	1420	1420		90				1563	1576	1572
	1580	1580		100				1743	1756	1752
	1710	1710		$\pm 8$				120	$+8$ $-4$	6010

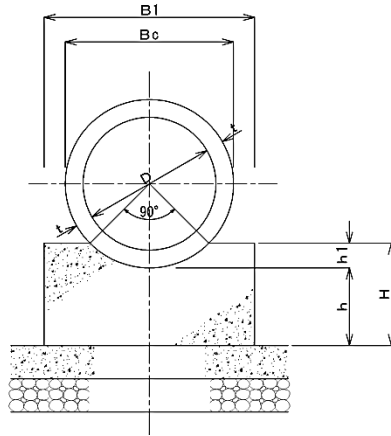
種類	呼び径	$l_1$	$l_2$	$l_3$	$D_c$	$\pi(D_c+2t_c)$	$L_c$	$L_{c1}$	$t_c$	
RJC RM(6P)	840	60	$\pm 2$	30	82	951	3016	320	170	$\pm 2$
	950					1071	3393			
	1060					1191	3770			
	1160					1301	4115			
	1270					1421	4492			
	1420					1588	5027			
	1580					1768	5592			
	1710					1938	6126	$\pm 5$	6.0	

- 管の有効長 ( $L$ ) は、 $1200 \pm 5$  mm、 $800 \pm 5$  mm にすることができる。
- 管の形状は受け口なしとすることができる。ただし、有効長 ( $L$ ) は、 $2430^{+5}_{-10}$  mm、 $1200^{+5}_{-10}$  mm とする。
- 有効長の最大と最小の差は、3 mm 以内とする

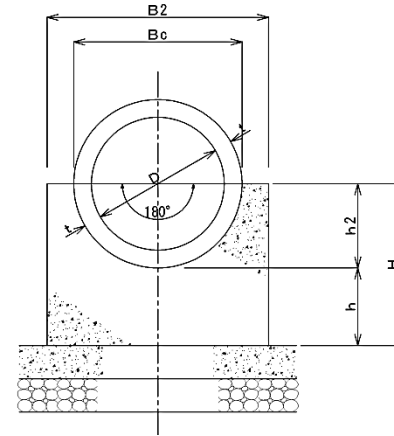


## 9. 推進用コンクリート管用空伏せ構造図（1）

コンクリート90° 巻き



コンクリート180° 巻き



管径 D (mm)	外径 B <sub>c</sub> (mm)	厚み t (mm)	90° 巻		180° 巻		h (mm)
			基礎幅 B <sub>1</sub> (mm)	基礎高 h <sub>1</sub> (mm)	B <sub>2</sub>	h <sub>2</sub>	
250	360	55	500	53	600	180	100以上
300	414	57	500	61	650	207	100以上
350	470	60	550	69	700	235	100以上
400	526	63	600	77	750	263	150以上
450	584	67	650	85	800	292	150以上
500	640	70	700	94	850	320	150以上
600	760	80	750	111	1000	380	150以上
700	880	90	850	129	1100	440	200以上

公式  $B_1 = 0.7071 \cdot B_c + 200$  (5cm単位に切り上げる)  $h_1 = 0.1464 \cdot B_c$

$B_2 = B_c + 200$  (5cm単位に切り上げる)  $h_2 = 0.5 \cdot B_c$

# 10. 推進用コンクリート管用空伏せ構造図 (2)

コンクリート360°巻き

コンクリート360°巻 寸法表

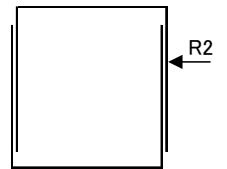
(単位: mm)

管径 D	外径 Bc	厚み t	基礎幅 B3	h	h1	j	k
250	360	55	560	100以上	100	—	420 (=2×210)
300	414	57	620	100以上	100	140	200
350	470	60	680	100以上	100	170	200
400	526	63	840	150以上	150	150	400 (=2×200)
450	584	67	900	150以上	150	180	400 (=2×200)
500	640	70	940	150以上	150	100	600 (=3×200)
600	760	80	1060	150以上	150	160	600 (=3×200)
700	880	90	1280	200以上	200	170	800 (=4×200)
800	960	80	1360	200以上	200	110	1000 (=5×200)
900	1080	90	1480	200以上	200	170	1000 (=5×200)
1000	1200	100	1600	200以上	200	130	1200 (=6×200)

鉄筋材料表

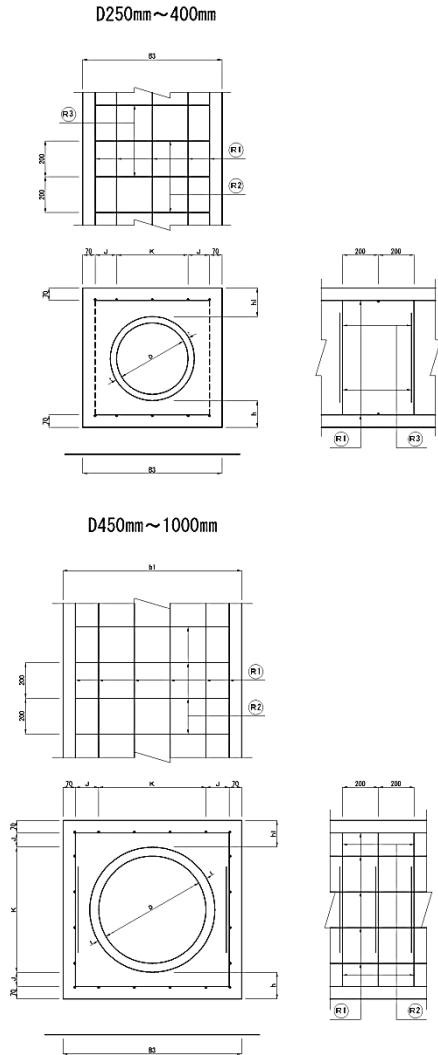
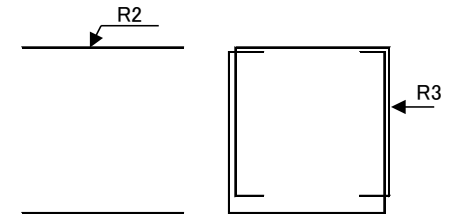
管径 D	縦方向 R 1 1 m 当り				横方向 R 2 1 m 当り				横方向 R 3 1 m 当り					鉄筋 総質量 (kg)		
	径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	径	本数	1本当り長さ (mm)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	径	本数	1本当り長さ (mm)	単位質量 (kg/m)		質量 (kg)	形状
250	D13	6	0.995	5.790	D13	5	420	0.995	2.090	D13	5	1310	0.995	6.517	□	14.577
300	D13	8	0.995	7.960	D13	5	480	0.995	2.388	D13	5	1430	0.995	7.114	□□	17.462
350	D13	8	0.995	7.960	D13	5	540	0.995	2.687	D13	5	1550	0.995	7.711	□	18.358
400	D13	10	0.995	9.950	D13	5	700	0.995	3.483	D13	5	1870	0.995	9.303	□	22.736

350mm以上鉄筋組立図



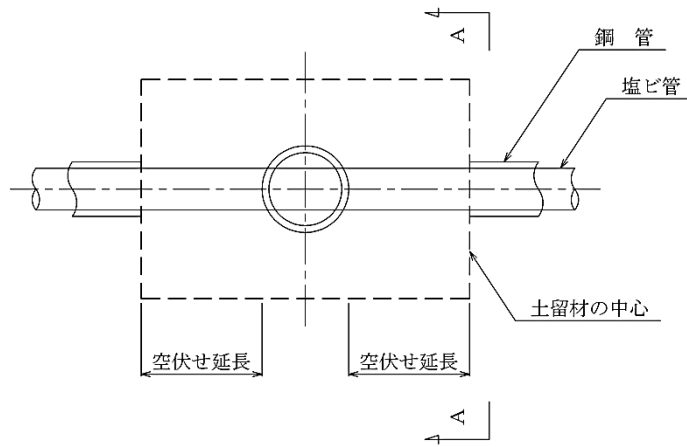
管径 D	縦方向 R 1 1 m 当り				横方向 R 2 1 m 当り					鉄筋 総質量 (kg)	
	径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	径	本数	1本当り長さ (mm)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)		形状
450	D13	16	0.995	15.920	D13	10	1990	0.995	19.800	□	35.720
500	D13	20	0.995	19.900	D13	10	2070	0.995	20.597	□	40.497
600	D13	20	0.995	19.900	D13	10	2310	0.995	22.985	□	42.885
700	D13	24	0.995	23.880	D13	10	2750	0.995	27.363	□	51.243
800	D16	28	1.56	43.680	D13	10	2910	0.995	28.955	□	72.635
900	D16	28	1.56	43.680	D13	10	3150	0.995	31.343	□	75.023
1000	D16	32	1.56	49.920	D13	10	3390	0.995	33.731	□	83.651

300mm以下鉄筋組立図



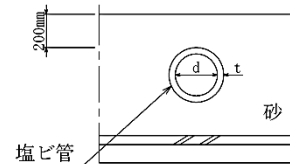
# 11. 鋼管用空伏せ構造図

平面図



断面図

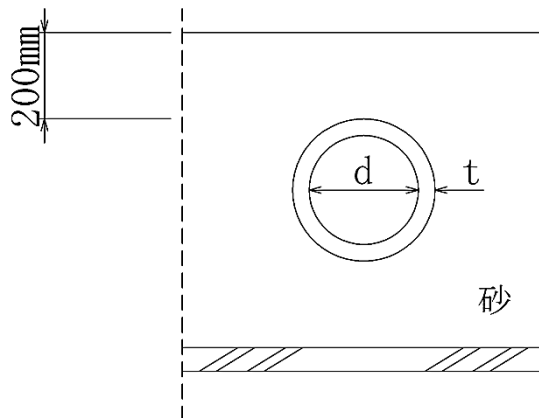
A-A



(単位：mm)

鋼 管				塩 ビ 管			
呼び径	外径	管厚	内径	呼び径	外径	管厚 t	内径 d
300	318.5	6.9	302.7	150	165	7.5	150
350	355.6	7.9	339.8	200	216	8.0	200
400	406.4	9.5	387.4	250	267	8.5	250
450	457.2	9.5	438.2	300	318	9.0	300
500	508.0	9.5	489.0	350	370	10.0	350
550	558.8	12.7	533.4	400	420	10.0	400
600	609.6	12.7	584.2	450	470	10.0	450
700	711.2	12.7	685.8	500	520	10.0	500
800	812.8	12.7	787.4	600	630	15.0	600

## 12. 推進用塩ビ管空伏せ構造図 ( 1 )



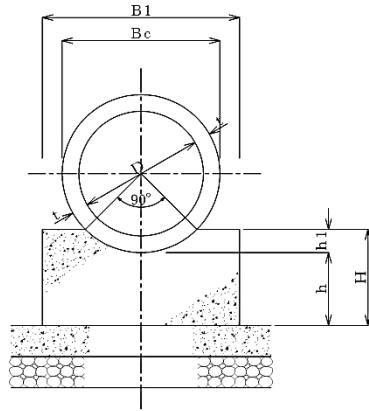
(単位 : mm)

呼び径	管種	近似内径 d	外径 B c	管厚 t
150	V U	154	165	5.5
150	V P	146	165	9.5
200	V U	202	216	7
200	V P	194	216	11
250	V U	250	267	8.5
250	V P	240	267	13.5
300	V U	298	318	10
300	V P	286	318	16
350	V U	348	370	11
350	V P	339	370	15.5
400	V U	395	420	12.5
400	V P	385	420	17.5
450	V U	442	470	14
450	V P	431	470	19.5

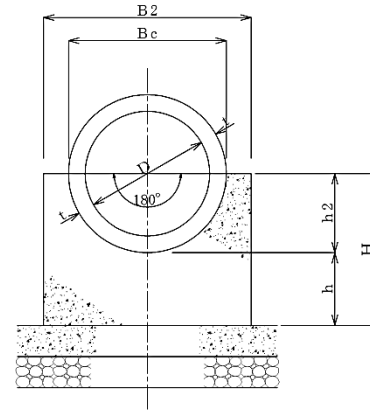
※管厚 t は  $(B c - d) \times 1/2$  とし、設計上の数値とする。

### 13. 推進用レジンコンクリート管用空伏せ構造図（1）

コンクリート90°巻き



コンクリート180°巻き



R S 形			R M 形			R T 形			90° 巻		180° 巻		h (mm)
管径 D (mm)	外径 Bc (mm)	厚み t (mm)	管径 D (mm)	外径 Bc (mm)	厚み t (mm)	管径 D (mm)	外径 Bc (mm)	厚み t (mm)	基礎幅 B1 (mm)	基礎高 h1 (mm)	B2	h2	
300	360	30	290	360	35	250	360	55	500	53	600	180	100以上
350	414	32	340	414	37	300	414	57	500	61	650	207	100以上
400	470	35	390	470	40	350	470	60	550	69	700	235	100以上
450	526	38	440	526	43	400	526	63	600	77	750	263	150以上
500	584	42	490	584	47	450	584	67	650	85	800	292	150以上
—	—	—	540	640	50	500	640	70	700	94	850	320	150以上
—	—	—	650	760	55	600	760	80	750	111	1000	380	150以上
—	—	—	760	880	60	700	880	90	850	129	1100	440	200以上

公式  $B1 = 0.7071 \cdot Bc + 200$  (5cm単位に切り上げる)  $h1 = 0.1464 \cdot Bc$   
 $B2 = Bc + 200$  (5cm単位に切り上げる)  $h2 = 0.5 \cdot Bc$

# 14. 推進用レジンコンクリート管用空伏せ構造図 (2)

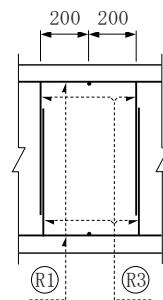
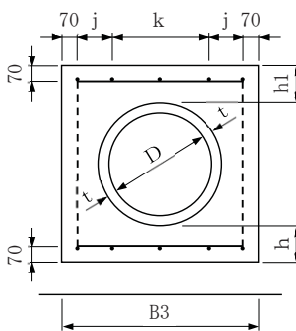
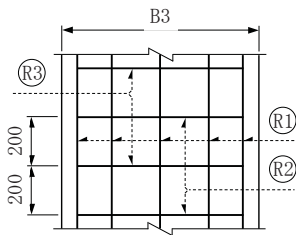
D250~400mm コンクリート 360° 巻 寸法表

(単位: mm)

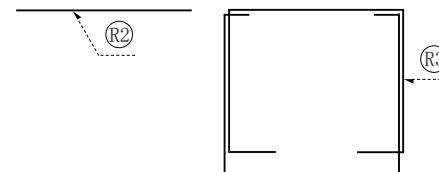
RS形			RM形			RT形			基礎幅 B3	h	h1	j	k
管径 D	外径 Bc	厚み t	管径 D	外径 Bc	厚み t	管径 D	外径 Bc	厚み t					
300	360	30	290	360	35	250	360	55	560	100 以上	100	—	420 (=2×210)
350	414	32	340	414	37	300	414	57	620	100 以上	100	140	200
400	470	35	390	470	40	350	470	60	680	100 以上	100	170	200
450	526	38	440	526	43	400	526	63	840	150 以上	150	150	400 (=2×200)

D250~400mm 鉄筋材料表

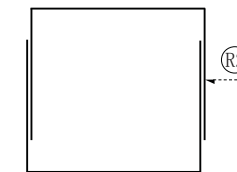
RS形 管径 D	RM形 管径 D	RT形 管径 D	縦方向 R1 1m 当り				縦方向 R2 1m 当り				縦方向 R3 1m 当り				形状	鉄筋 総重量 (kg)		
			径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	径	本数	長さ (mm/本)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	径	本数	長さ (mm/本)			単位質量 (kg/m)	質量 (kg)
300	290	250	D13	6	0.995	5.790	D13	5	420	0.995	2.090	D13	5	1310	0.995	6.517	□	14.577
350	340	300	D13	8	0.995	7.960	D13	5	480	0.995	2.388	D13	5	1430	0.995	7.114	□	17.462
400	390	350	D13	8	0.995	7.960	D13	5	540	0.995	2.687	D13	5	1550	0.995	7.711	□	18.358
450	440	400	D13	10	0.995	9.950	D13	5	700	0.995	3.483	D13	5	1870	0.995	9.303	□	22.736



300mm 以下鉄筋組立図



350mm 以上鉄筋組立図



# 14. 推進用レジンコンクリート管用空伏せ構造図 (2) (続き)

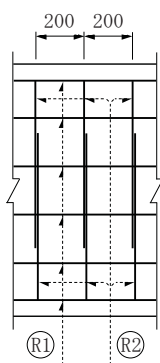
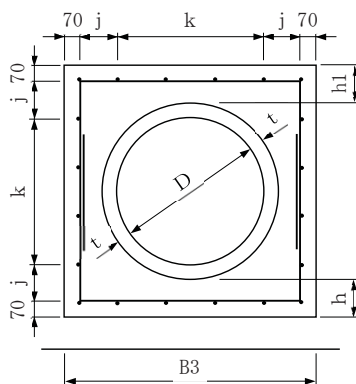
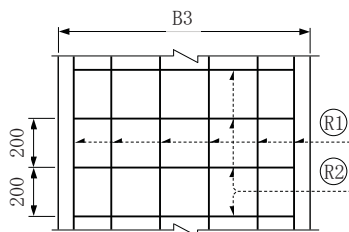
D450~1000mm コンクリート 360° 巻 寸法表

(単位: mm)

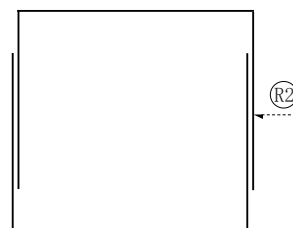
RS形			RM形			RT形			基礎幅 B3	h	h1	j	k
管径 D	外径 Bc	厚み t	管径 D	外径 Bc	厚み t	管径 D	外径 Bc	厚み t					
500	584	42	490	584	47	450	584	67	900	150 以上	150	180	400 (=2×200)
—	—	—	540	640	50	500	640	70	940	150 以上	150	100	600 (=3×200)
—	—	—	650	760	55	600	760	80	1060	150 以上	150	160	800 (=4×200)
—	—	—	760	880	60	700	880	90	1280	200 以上	200	170	1000 (=5×200)
—	—	—	840	960	60	800	960	80	1360	200 以上	200	110	1000 (=5×200)
—	—	—	950	1080	65	900	1080	90	1480	200 以上	200	170	1000 (=5×200)
—	—	—	1060	1200	70	1000	1200	100	1600	200 以上	200	130	1200 (=6×200)

D450~1000mm 鉄筋材料表

RS形 管径 D	RM形 管径 D	RT形 管径 D	縦方向 R1 1m 当り				縦方向 R2 1m 当り				形状	鉄筋 総重量 (kg)	
			径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	径	本数	長さ (mm/本)	単位質量 (kg/m)			質量 (kg)
500	490	450	D13	16	0.995	15.920	D13	10	1990	0.995	19.800	□	35.720
—	540	500	D13	20	0.995	19.900	D13	10	2070	0.995	20.597	□	40.497
—	650	600	D13	20	0.995	19.900	D13	10	2310	0.995	22.985	□	42.885
—	760	700	D13	24	0.995	23.880	D13	10	2750	0.995	27.363	□	51.243
—	840	800	D16	28	1.56	43.680	D13	10	2910	0.995	28.955	□	72.635
—	950	900	D16	28	1.56	43.680	D13	10	3150	0.995	31.343	□	75.023
—	1060	1000	D16	32	1.56	49.920	D13	10	3390	0.995	33.731	□	83.651

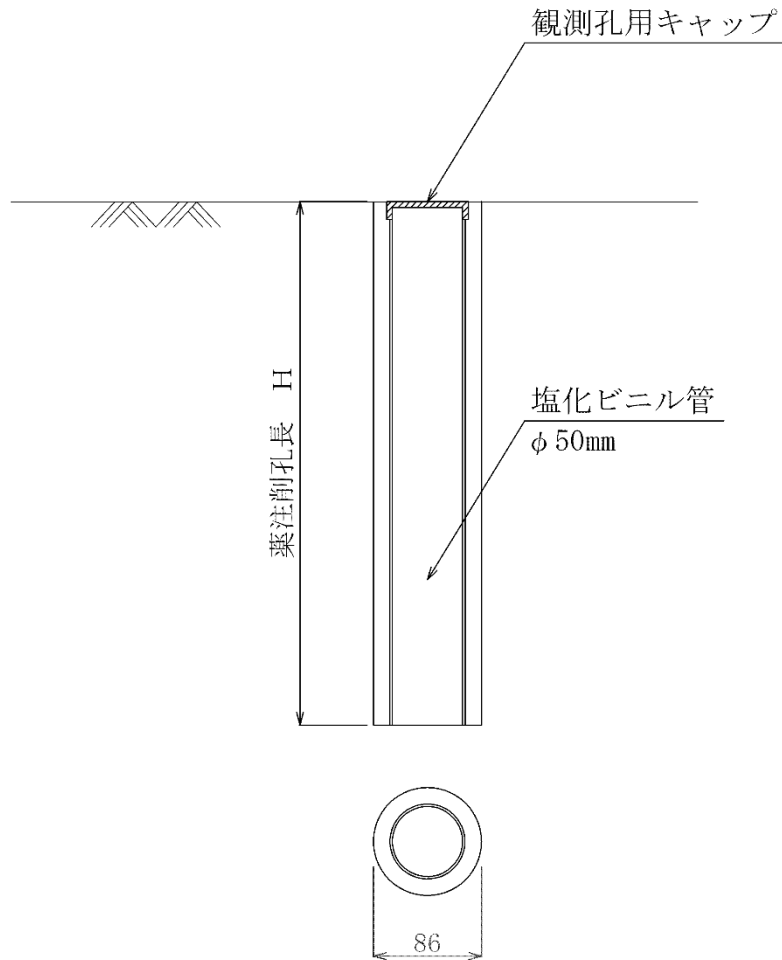


鉄筋組立図



## 【地盤改良工標準図】

# 1. 薬注用観測井標準図

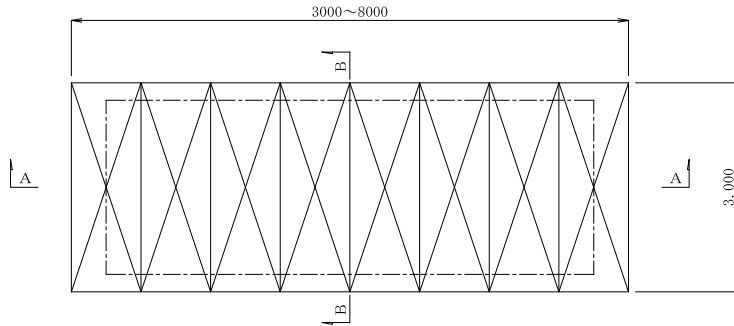


名	称
塩化ビニル管	φ50mm VU
ボーリング工	掘孔径 φ86mm
観測工用蓋	キャップ50mm用

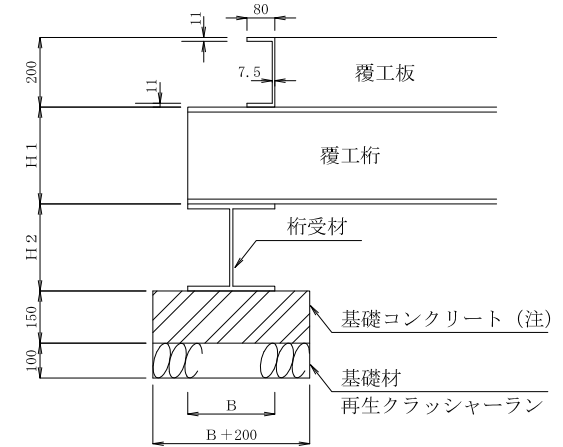
**【付帯工等】**

# 1. 路面覆工タイプ①構造図 [発進立坑①]

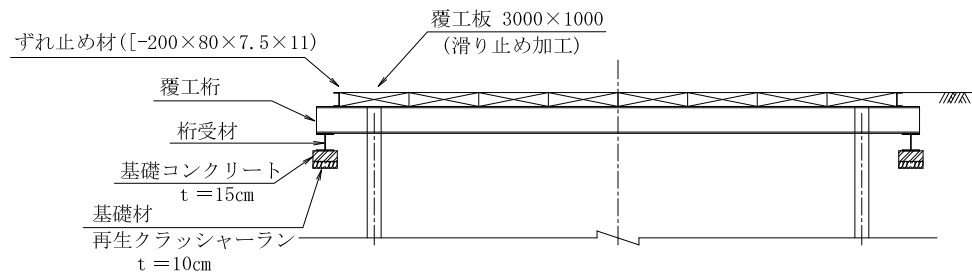
平面図



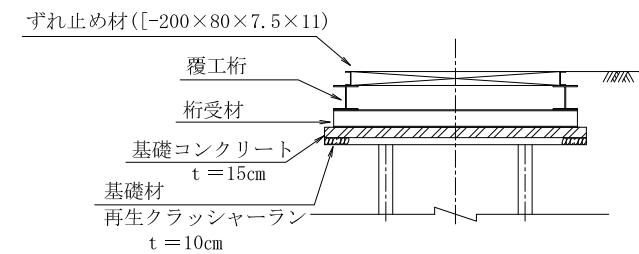
詳細図



A-A 断面図



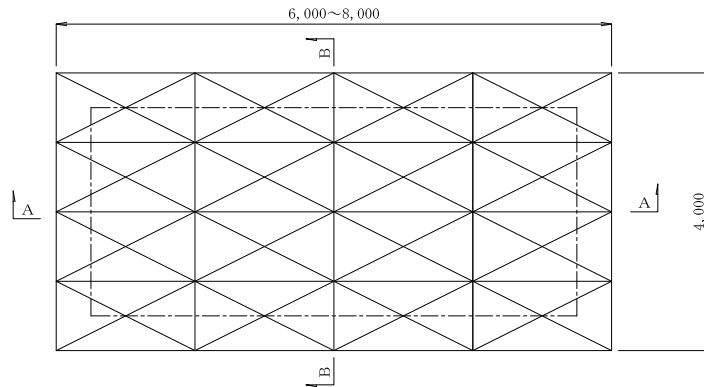
B-B 断面図



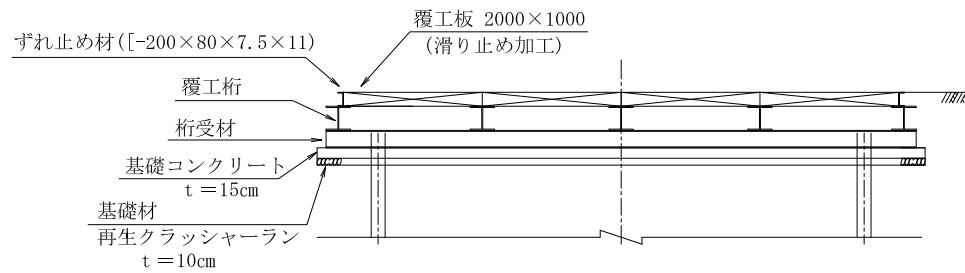
覆工桁、桁受材の規格は、推進工法設計基準編第6章の計算による。  
 (注) 基礎コンクリートは、地耐力、覆工期間により有無を検討すること。

## 2. 路面覆工タイプ②A構造図 [発進立坑②]

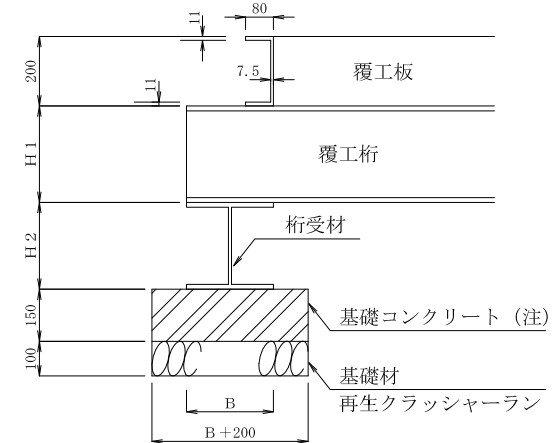
平面図



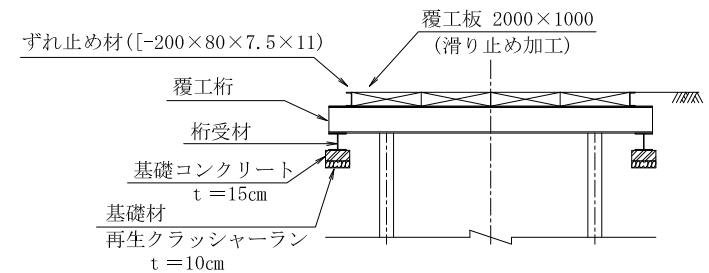
A-A 断面図



詳細図



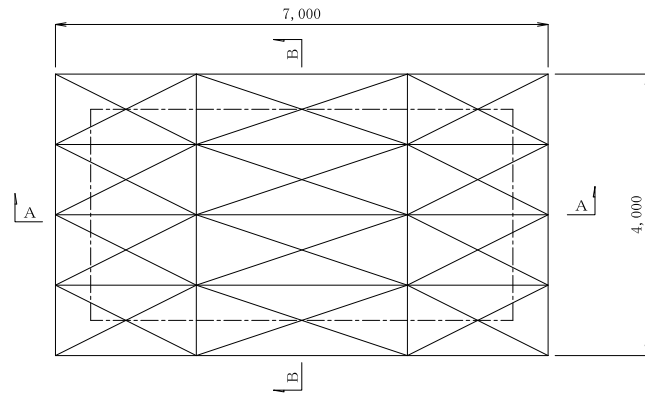
B-B 断面図



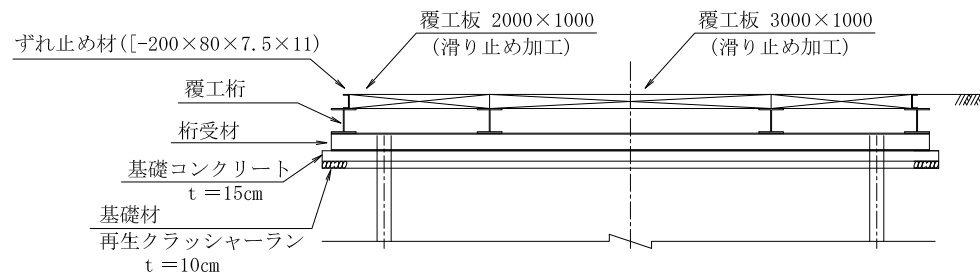
覆工桁、桁受材の規格は、推進工法設計基準編第6章の計算による。  
 (注) 基礎コンクリートは、地耐力、覆工期間により有無を検討すること。

## 2. 路面覆工タイプ②B構造図 [発進立坑②]

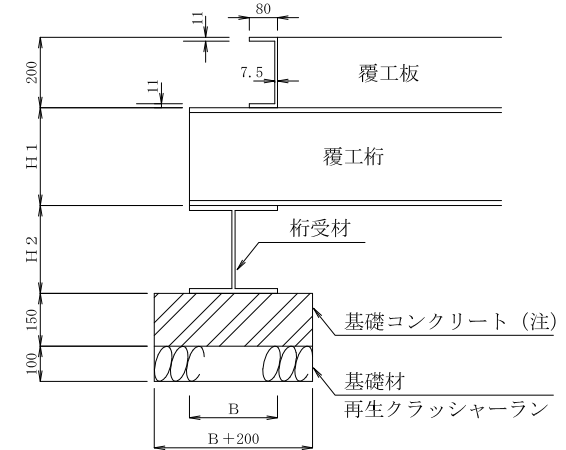
平面図



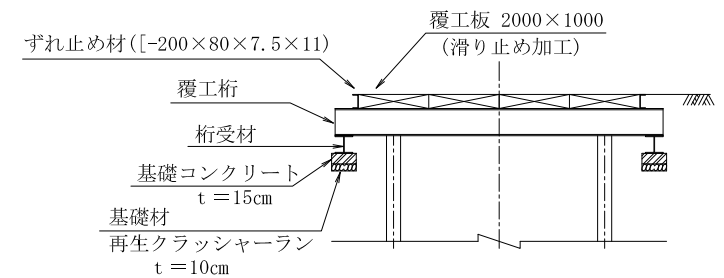
A-A 断面図



詳細図



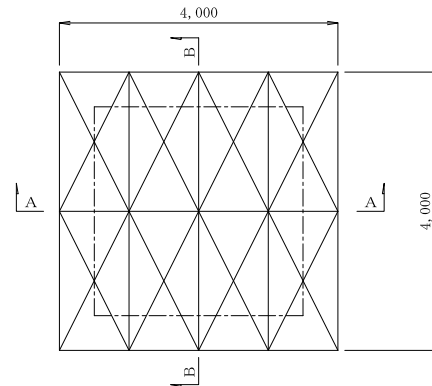
B-B 断面図



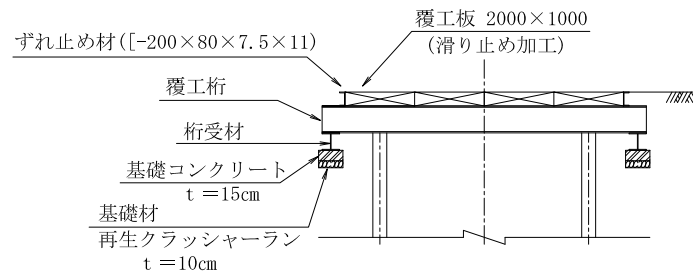
覆工桁、桁受材の規格は、推進工法設計基準編第6章の計算による。  
(注) 基礎コンクリートは、地耐力、覆工期間により有無を検討すること。

### 3. 路面覆工タイプ③構造図 [到達立坑①]

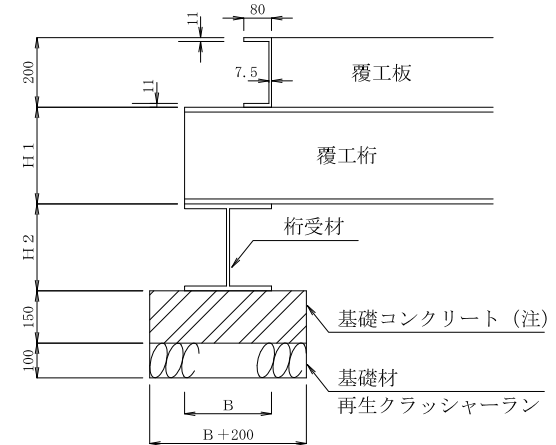
平面図



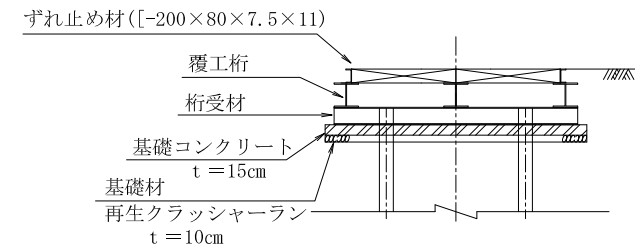
A-A 断面図



詳細図



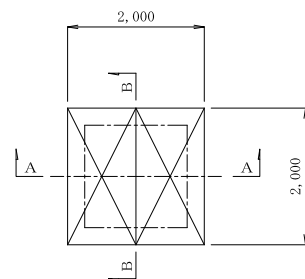
B-B 断面図



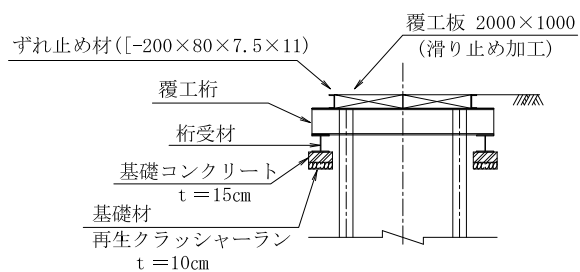
覆工桁、桁受材の規格は、推進工法設計基準編第6章の計算による。  
 (注) 基礎コンクリートは、地耐力、覆工期間により有無を検討すること。

## 4. 路面覆工タイプ④構造図 [到達立坑②]

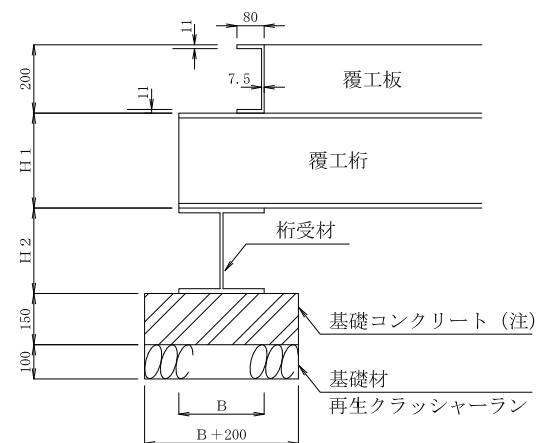
平面図



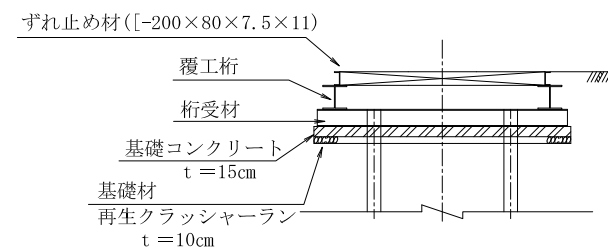
A-A 断面図



詳細図

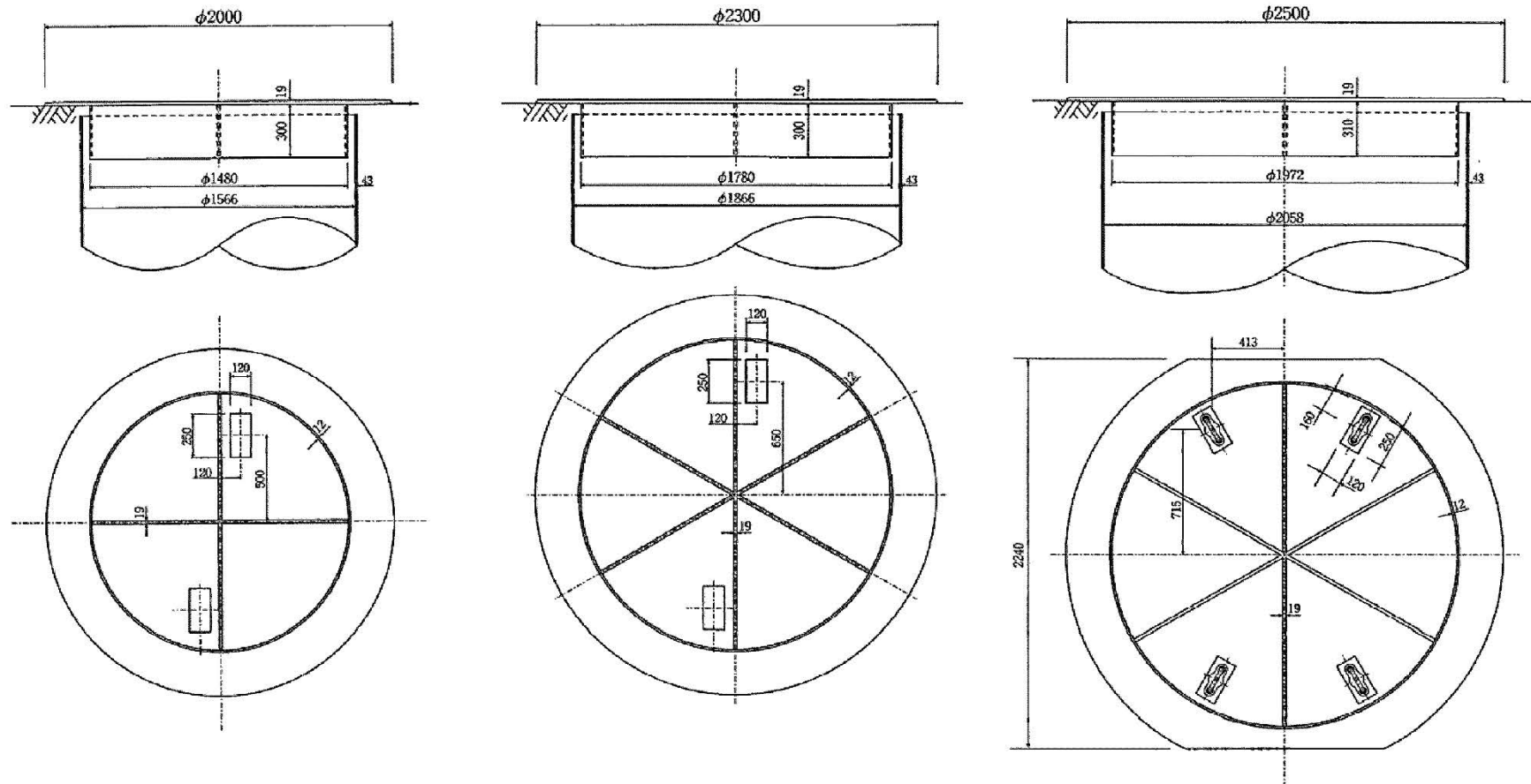


B-B 断面図

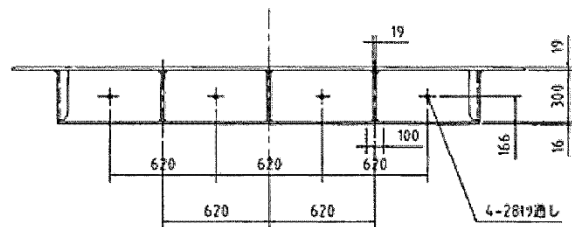
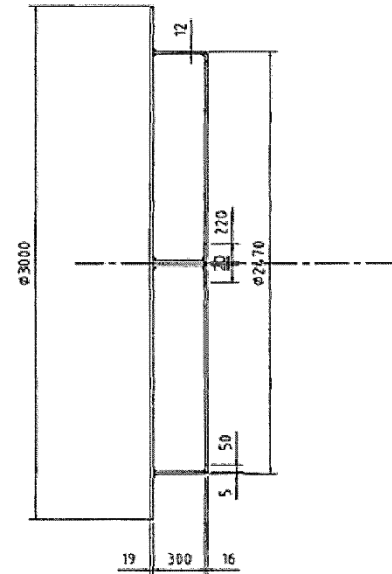
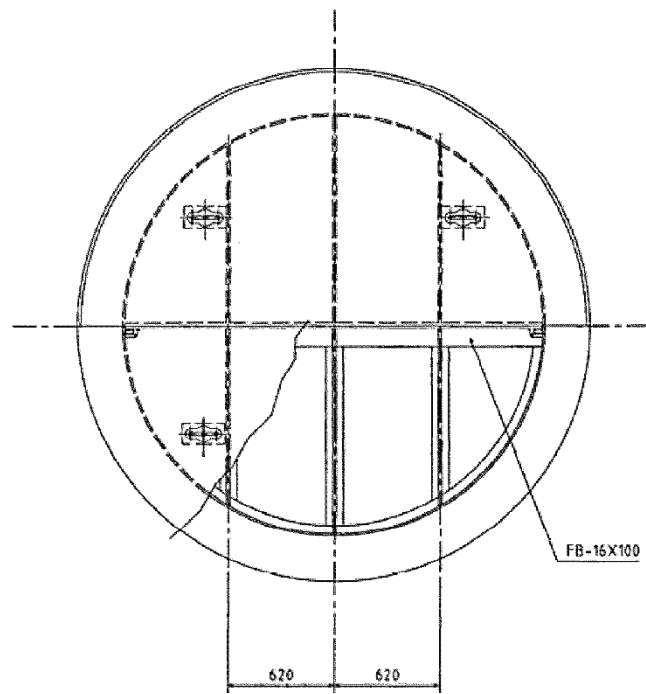


覆工桁、桁受材の規格は、推進工法設計基準編第6章の計算による。  
 (注) 基礎コンクリートは、地耐力、覆工期間により有無を検討すること。

鋼製ケーシング式立坑用円形覆工板（参考図）（タイプ⑤）



参考寸法とする。



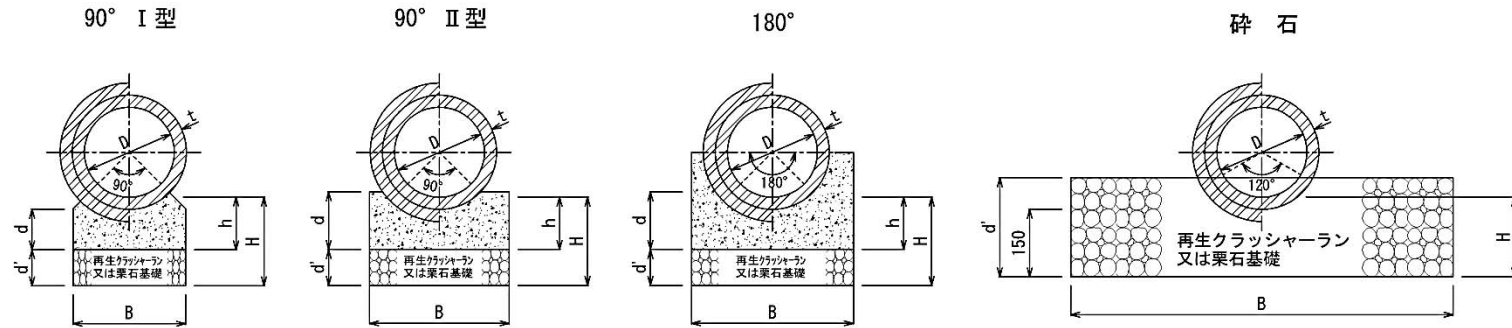
参考寸法とする。

# 《維持管理編》

## 【布設図】

# 陶管布設図（参考図）

## （内径200～300m/m）

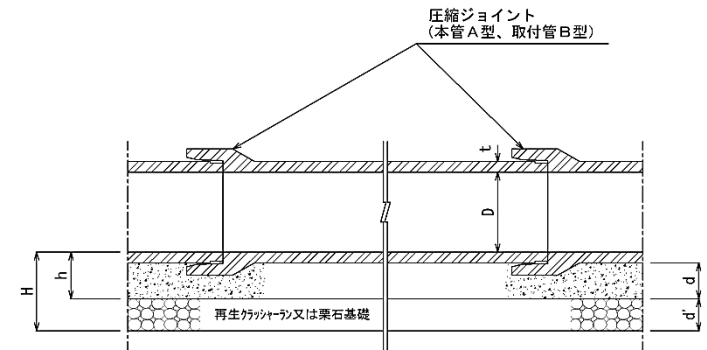


寸法表

(単位：mm)

区分	D	l	t	d	d'	B	H	h	残土係数	
取付管 (再生クラッシャーラン 又は栗石基礎)	150	660 1000	19.5	—	60	190	—	—	0.0395	
本 管	90° (I型)	200	660 1000	23	90	(150) 80	250	(263) 193	113	(0.1110) 0.0935
		250	"	26	90	(") 100	300	(266) 216	116	(0.1484) 0.1334
		300	"	29	90	(") 120	360	(269) 239	119	(0.1941) 0.1833
	90° (II型)	250	"	26	135	(") 100	370	(266) 216	116	(0.1705) 0.1520
		300	"	29	142	(") 120	430	(269) 239	119	(0.2170) 0.2041
	180°	250	"	26	241	(") 100	410	(266) 216	116	(0.1961) 0.1756
300		"	29	269	(") 120	460	(269) 239	119	(0.2430) 0.2292	
砕石基礎 (再生クラッシャーラン 又は栗石基礎)	200	"	23	—	220	850	173	—	0.2252	
	250	"	26	—	230	850	176	—	0.2531	
	300	"	29	—	240	900	179	—	0.2970	

注) 栗石基礎の場合は基礎厚 d' を150mmとする。( ) 内の数値



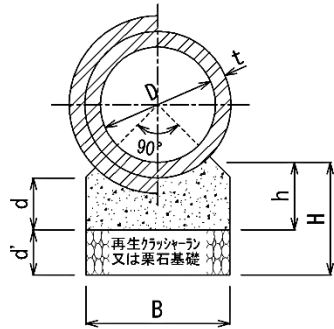
注) 砕石基礎の施工条件については、「福岡市下水道標準設計運用基準書」第4章を参照とすること。

使用区分

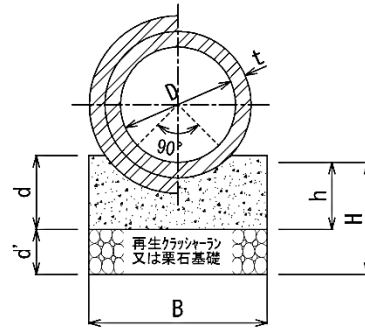
原則として90° I型を使用し、地下水位の高い箇所において90° II型を使用する。

# ヒューム管布設図 (内径200~2.000m/m)

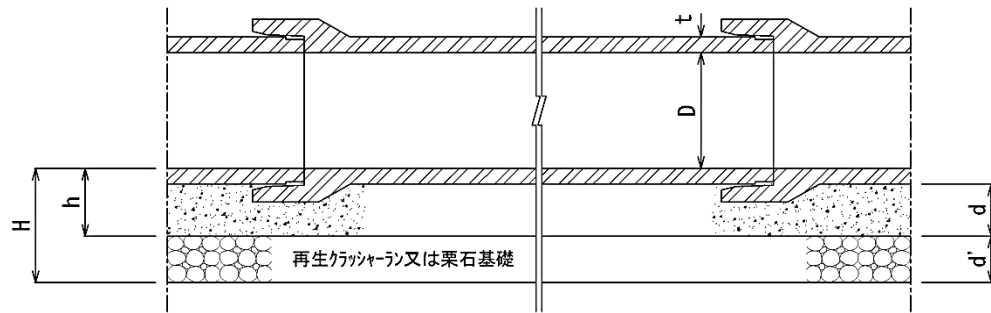
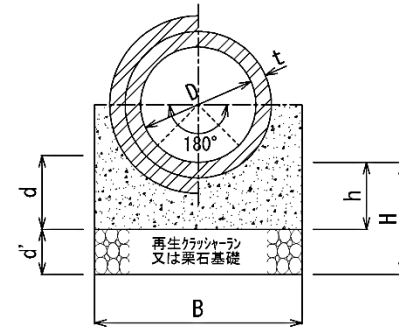
90° I型



90° II型



180°



注) 使用区分  
原則として90° I型を使用し、  
地下水位の高い箇所において、  
90° II型を使用する。

# ヒューム管構造寸法表

注) ( ) は栗石基礎の場合

(単位 : mm)

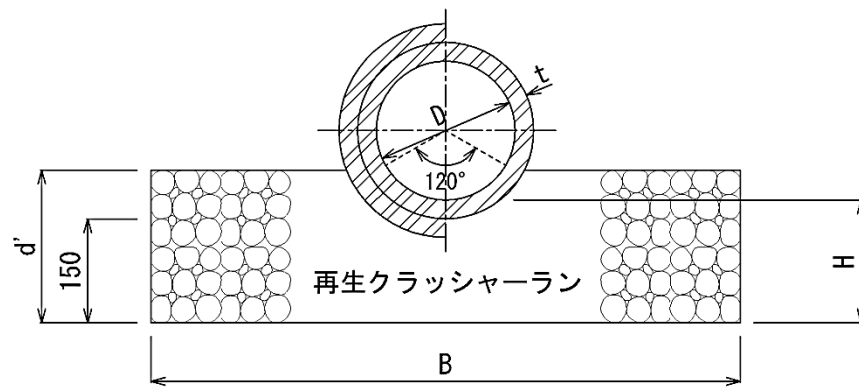
90° I型

90° II型

180°

			<u>90° I型</u>						<u>90° II型</u>						<u>180°</u>					
D	l	t	d	d'	B	h	H	残土係数	d	d'	B	h	H	残土係数	d	d'	B	h	H	残土係数
200	2,000	27	90	(150) 80	250	117	(267) 197	(0.1139) 0.0964	128	(150) 80	310	116	(266) 196	(0.1322) 0.1105	216	(150) 80	360	116	(266) 196	(0.1571) 0.1319
250	"	28	90	(150) 100	310	118	(268) 218	(0.1533) 0.1378	135	(150) 100	370	118	(268) 218	(0.1723) 0.1538	243	(150) 100	410	118	(268) 218	(0.1979) 0.1774
300	"	30	90	(150) 120	360	120	(270) 240	(0.1951) 0.1843	143	(150) 120	430	120	(270) 240	(0.2185) 0.2056	270	(150) 120	460	120	(270) 240	(0.2440) 0.2302
350	"	32	90	(150) 120	410	122	(272) 242	(0.2418) 0.2295	151	(150) 120	490	122	(272) 242	(0.2698) 0.2551	297	(150) 120	520	122	(272) 242	(0.2997) 0.2841
400	"	35	90	150	470	125	275	0.2981	159	150	550	125	275	0.3276	325	150	610	125	275	0.3764
450	2,430	38	90	150	530	128	278	0.3599	167	150	610	128	278	0.3909	353	150	670	128	278	0.4456
500	"	42	120	150	580	162	312	0.4422	206	150	680	162	312	0.4855	412	150	730	162	312	0.5441
600	"	50	120	180	700	170	350	0.6211	223	180	810	170	350	0.6762	470	180	840	170	350	0.7384
700	"	58	120	180	820	178	358	0.8055	240	180	940	178	358	0.8702	528	180	1,020	178	358	0.9836
800	"	66	150	180	930	216	396	1.0353	286	180	1,070	216	390	1.1188	616	180	1,140	216	396	1.2485
900	2,360	75	150	180	1,050	235	405	1.2715	304	180	1,210	225	405	1.3728	675	180	1,250	225	405	1.5017
1,000	"	82	180	180	1,160	262	442	1.5533	350	180	1,340	262	442	1.6775	762	180	1,470	262	442	1.9168
1,100	"	88	180	180	1,280	268	448	1.8282	367	180	1,460	268	448	1.9611	818	180	1,580	268	448	2.2162
1,200	"	95	180	180	1,390	275	455	2.1215	384	180	1,590	275	455	2.2762	875	180	1,690	275	455	2.5416
1,350	"	103	180	180	1,560	283	463	2.5946	411	180	1,770	283	463	2.7747	958	180	1,860	283	463	3.0674
1,500	"	112	210	210	1,720	322	532	3.2145	462	210	1,960	322	532	3.4392	1,072	210	2,130	322	532	3.8978
1,650	"	120	210	210	1,890	330	540	3.7910	487	210	2,140	330	540	4.0420	1,155	210	2,290	330	540	4.5286
1,800	"	127	210	210	2,050	337	547	4.3988	511	210	2,320	337	547	4.6850	1,237	210	2,460	337	547	5.2163
2,000	"	145	—	—	—	—	—	—	540	210	2,590	345	555	5.6868	1,345	210	2,690	345	557	6.2423

## ヒューム管布設図 ( 砕石基礎 )



( 1 m 当り )

D (mm)	t (mm)	d (mm)	d' (mm)	B (mm)	H (mm)	残土係数 (m <sup>3</sup> )
200	27	150	220	850	177	0.2278
250	28	150	230	850	178	0.2547
300	30	150	240	900	180	0.2979

注) 砕石基礎の施工条件については「福岡市下水道標準設計運用基準書」第4章を参照とすること。

# ヒューム管布設図

(全巻 内径 200 mm~1,000 mm)

## 設計条件

コンクリート設計基準強度	基礎	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
鉄筋の種類	SD345	

P3型 (パイプカバート: 360° 固定基礎) 寸法および材料表

記号	寸			法			表 (単位mm)		材			料		備	管
	D	t	b1	b2	h1	h2	h3	J	K	コンクリート (m <sup>2</sup> )	型	材 (m <sup>2</sup> )	基礎材 (m <sup>2</sup> )		
P3-D200	200	27	460	660	610	460	100	—	320(=2X160)	1.609	9.200	6.600	5.0	JIS A 5303 道心力鉄筋コンクリート管 (1層)を使用	管
P3-D250	250	28	520	720	670	520	100	—	380(=2X190)	1.969	10.400	7.200	5.0		
P3-D300	300	30	560	760	710	560	100	—	420(=2X210)	2.118	11.200	7.600	5.0		
P3-D350	350	32	620	820	770	620	100	140	200	2.498	12.400	8.200	5.0		
P3-D400	400	35	780	980	930	780	150	120	400(=2X200)	4.349	15.600	9.600	4.1		
P3-D450	450	38	840	1040	990	840	150	150	400(=2X200)	4.883	16.800	10.400	4.1		
P3-D500	500	42	900	1100	1050	900	150	180	400(=2X200)	5.421	18.000	11.000	4.1		

P3型 鉄筋材料表

記号	縦方向鉄筋 (R)				横方向鉄筋 (R)				隅方向鉄筋 (R)				鉄筋総質量 (kg)			
	筋径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	筋径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	筋径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)				
P3-D200	D13	6	0.995	5.970	D13	5	320	0.995	1.592	D13	5	1110	0.995	5.522	□	13.084
P3-D250	D13	6	0.995	5.970	D13	5	380	0.995	1.891	D13	5	1230	0.995	6.119	□	13.980
P3-D300	D13	6	0.995	5.970	D13	5	420	0.995	2.090	D13	5	1310	0.995	6.517	□	14.577
P3-D350	D13	8	0.995	7.960	D13	5	480	0.995	2.388	D13	5	1430	0.995	7.114	□	17.462
P3-D400	D13	10	0.995	9.950	D13	5	640	0.995	3.184	D13	5	1750	0.995	8.706	□	21.840
P3-D450	D13	10	0.995	9.950	D13	5	700	0.995	3.483	D13	5	1870	0.995	9.303	□	22.736
P3-D500	D16	10	1.56	15.600	D13	5	760	0.995	3.781	D13	5	1990	0.995	9.900	□	29.281

P4型 (パイプカバート: 360° 固定基礎) 寸法および材料表

記号	寸			法			表 (単位mm)		材			料		備	管
	D	t	b1	b2	h1	h2	h3	J	K	コンクリート (m <sup>2</sup> )	型	材 (m <sup>2</sup> )	基礎材 (m <sup>2</sup> )		
P4-D600	600	50	1000	1200	1200	1000	150	130	600(=3X200)	6.152	20.000	12.000	4.1	JIS A 5303 道心力鉄筋コンクリート管 (1層)を使用	管
P4-D700	700	58	1220	1420	1420	1220	200	140	800(=4X200)	9.654	24.400	14.200	4.1		
P4-D800	800	66	1340	1540	1540	1340	200	—	1200(=6X200)	11.134	26.800	15.400	4.1		
P4-D900	900	75	1460	1660	1660	1460	200	160	1000(=5X200)	12.657	29.200	16.600	4.1		
P4-D1000	1000	82	1580	1780	1780	1580	200	120	1200(=6X200)	14.323	31.600	17.800	4.1		

P4型 鉄筋材料表

記号	縦方向鉄筋 (R)				横方向鉄筋 (R)				鉄筋総質量 (kg)		
	筋径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)	筋径	本数	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)			
P4-D600	D13	20	0.995	19.900	D13	10	2190	0.995	21.791	□	41.691
P4-D700	D13	24	0.995	23.880	D13	10	2630	0.995	26.169	□	50.049
P4-D800	D16	24	1.56	37.440	D13	10	2870	0.995	28.557	□	65.997
P4-D900	D16	28	1.56	43.680	D13	10	3110	0.995	30.945	□	74.625
P4-D1000	D16	32	1.56	49.920	D13	10	3350	0.995	33.333	□	83.253

P3型 (D400以上) および P4型 鉄筋組立図



P3型 (D350以下) 鉄筋組立図



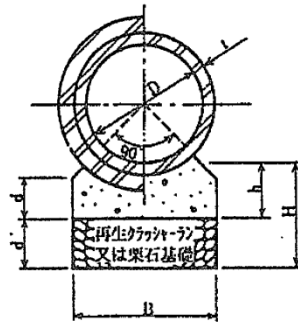
## 注意事項

1. 使用管種はJIS A 5303道心力鉄筋コンクリート管外圧管第1種を標準とする。
2. 基礎材の使用材料を図中 ( ) 内に明記すること。
3. 型枠面積は、基礎コンクリート両側面のみ計上した。
4. 管本数の計算に用いた管管長は、管径D200~350を2000mm、D400~1000mmを2450mmとした。
5. 継手形式は、別途考慮すること。
6. 継手、仕口の継ぎ手を十分検討すること。

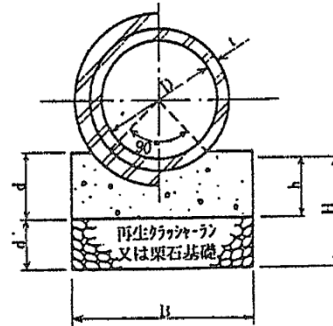
# レジンコンクリート管布設図

(内径200~600m/m)

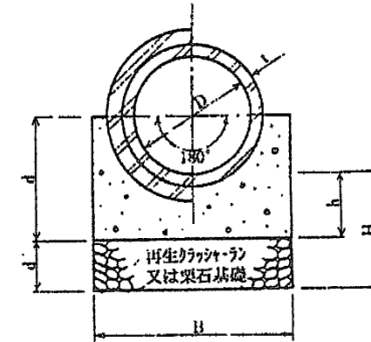
90° I型



90° II型

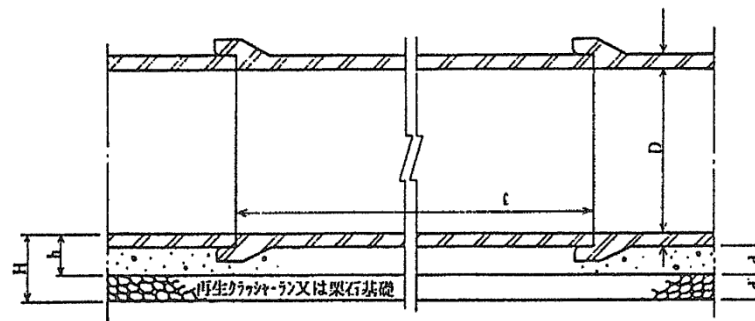


180°



注) 使用区分

原則として90° I型を使用し、  
地下水位の高い箇所において、  
90° II型を使用する。



注) 内径350mm以下の栗石基礎の場合は基礎厚  $d'$  を150mmとする。(400mm以上は同厚とする。)

# レジンコンクリート管構造寸法表

注) ( ) は栗石基礎の場合

(単位 : mm)

90° I型

90° II型

180°

D	l	t
200	2,000	15
250	"	17
300	"	19
350	"	23
400	2,430	28
450	"	30
500	"	34
600	"	40

d	d'	B	h	H	残土係数
90	(150) 80	230	105	(255) 185	(0.0996) 0.0835
90	(150) 100	280	107	(257) 207	(0.1346) 0.1206
90	(150) 120	340	109	(259) 229	(0.1776) 0.1614
90	(150) 120	400	113	(263) 233	(0.2280) 0.2160
90	150	460	118	268	0.2853
90	150	510	120	270	0.3406
120	150	570	154	304	0.4249
120	180	680	160	340	0.5920

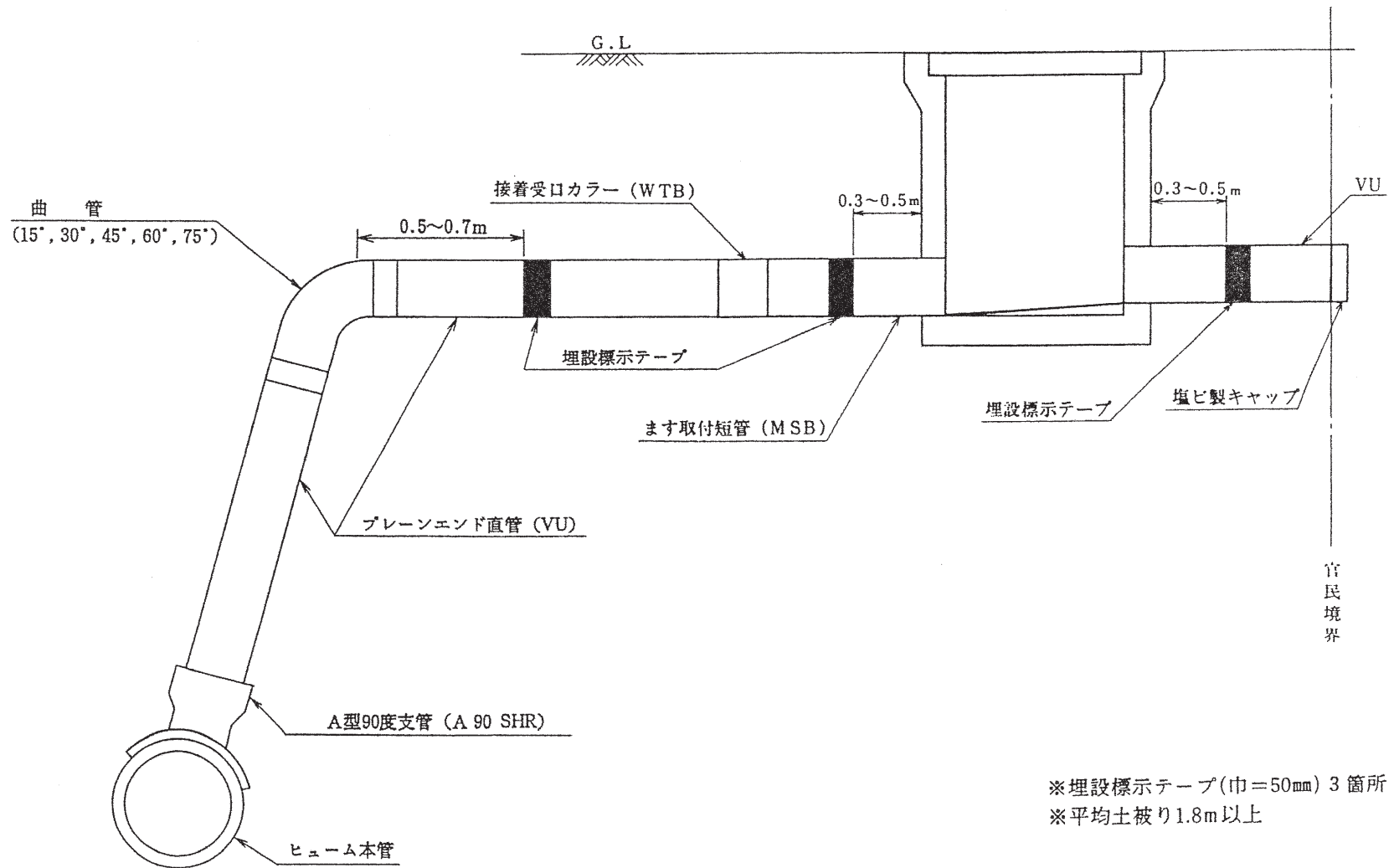
d	d'	B	h	H	残土係数
128	(150) 80	310	105	(255) 185	(0.1240) 0.1023
135	(150) 100	370	107	(257) 207	(0.1630) 0.1445
143	(150) 120	430	109	(259) 229	(0.2076) 0.1947
151	(150) 120	490	113	(263) 233	(0.2595) 0.2448
159	150	550	118	268	0.3184
167	150	610	120	270	0.3791
206	150	680	154	304	0.4724
223	180	810	160	340	0.6566

d	d'	B	h	H	残土係数
216	(150) 80	360	105	(255) 185	(0.1525) 0.1273
243	(150) 100	410	107	(257) 207	(0.1928) 0.1723
270	(150) 120	460	109	(259) 229	(0.2381) 0.2243
297	(150) 120	520	113	(263) 233	(0.2940) 0.2784
325	150	610	118	268	0.3714
353	150	670	120	270	0.4392
412	150	730	154	304	0.5370
470	180	840	160	340	0.7276



# 標準取付管構造図 (タイプ 2)

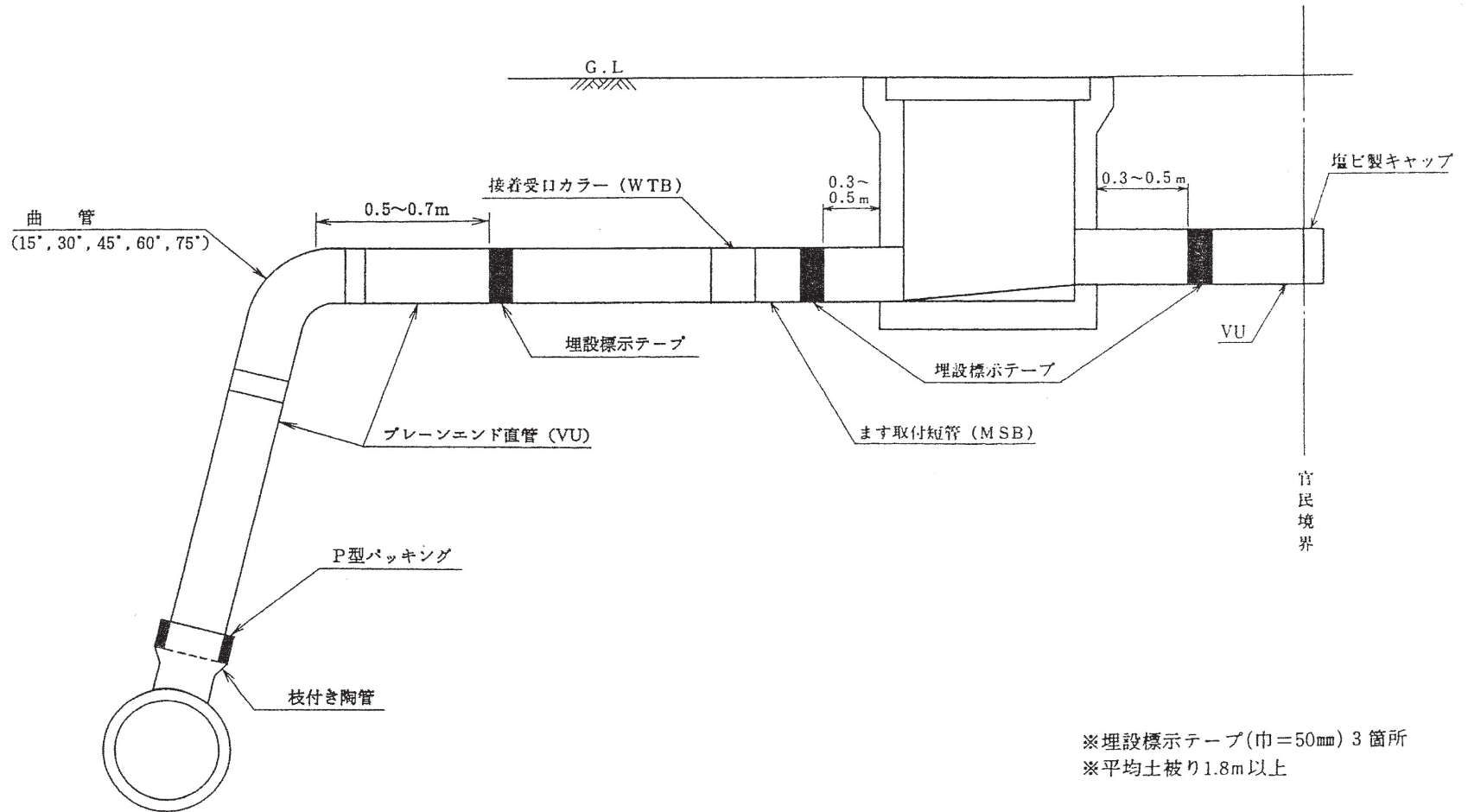
(本管：ヒューム管，取付管：塩ビ管)



# 標準取付管構造図 (タイプ 3)

(本管：枝付陶管，取付管：塩ビ管)

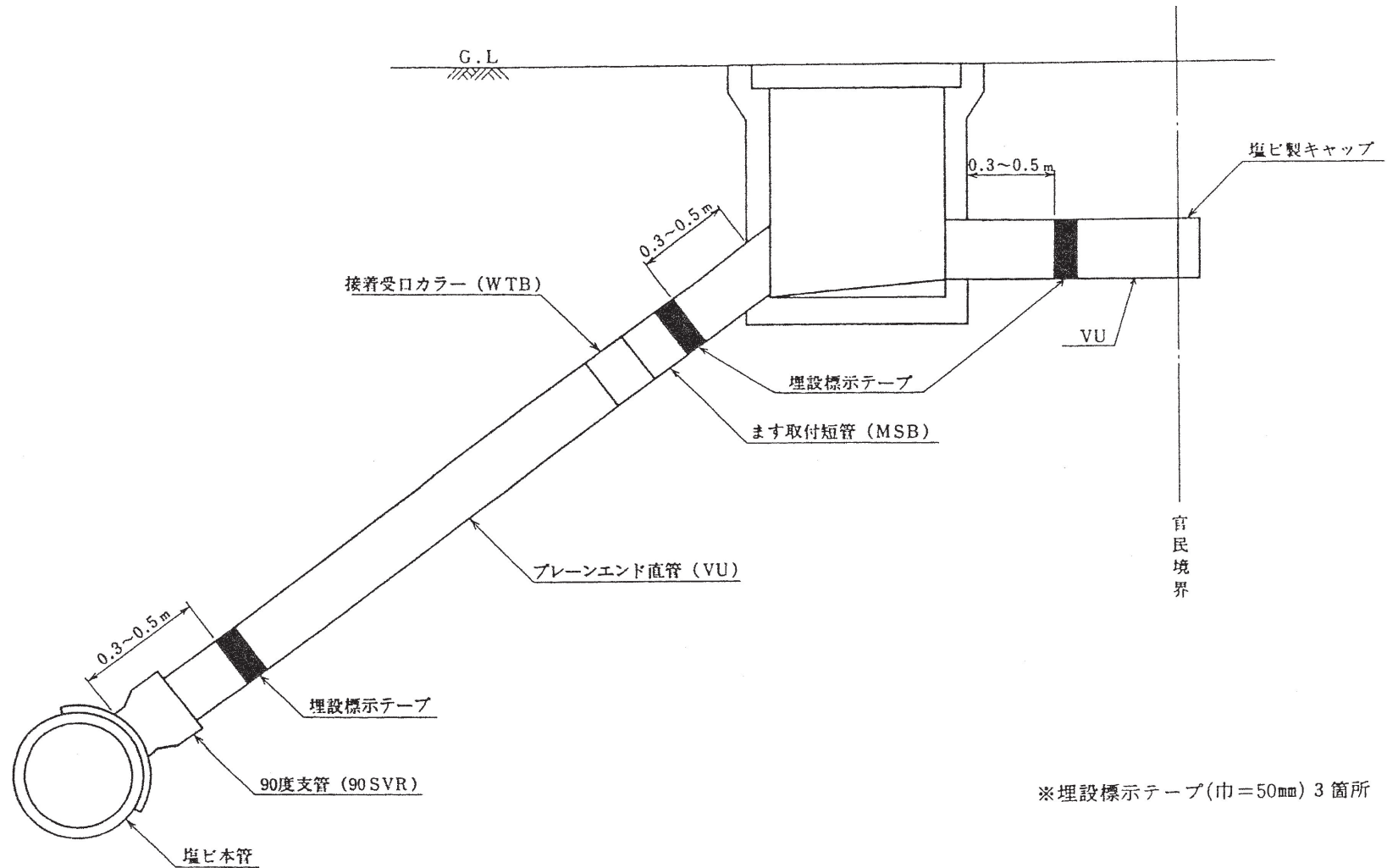
(P型パッキング使用)



※埋設標示テープ(巾=50mm) 3箇所  
 ※平均土被り1.8m以上

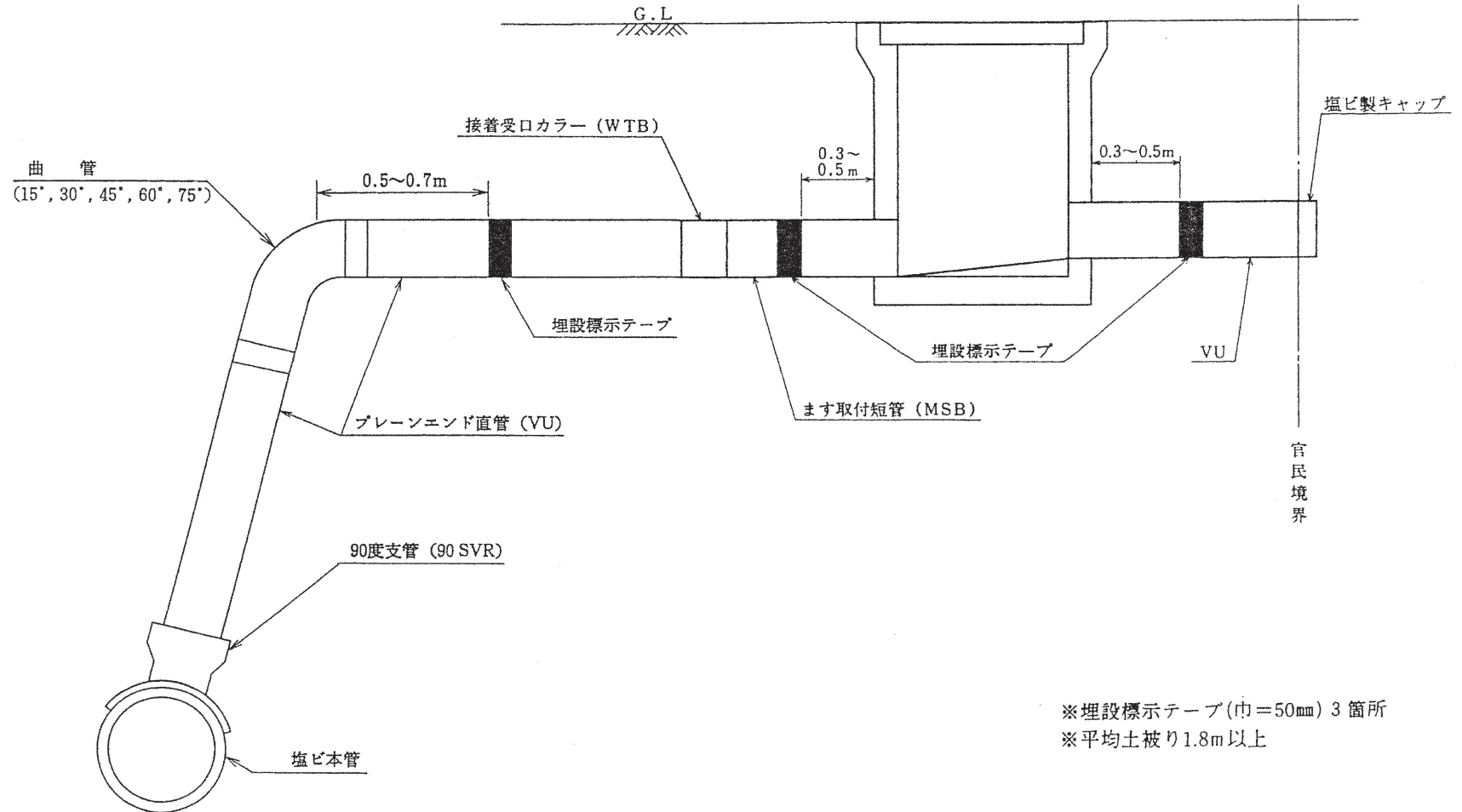
# 標準取付管構造図 (タイプ 4)

(本管：塩ビ管，取付管：塩ビ管)

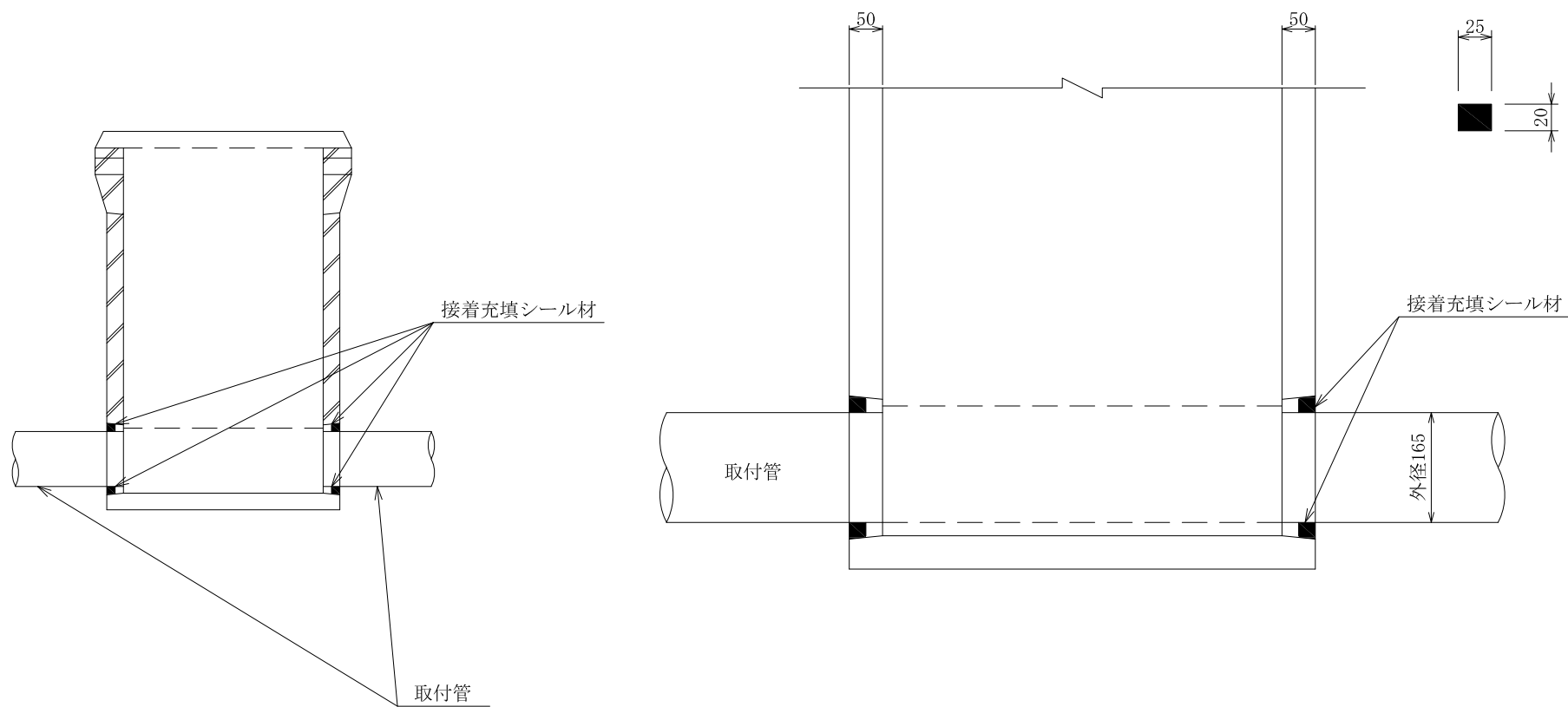


# 標準取付管構造図 (タイプ 5)

(本管：塩ビ管，取付管：塩ビ管)



# 汚水柵取付管接合部詳細図



《その他》

## 【保安施設】

# 下水道用工事現場における保安施設設置基準

保安施設は、工事箇所や交通方法などを人や車に知らせ、交通の安全と円滑を図るために重要なものである。次の点を確認して設置し、常時点検、保守管理に努めること。

## ◎ 標示板類

1. 形状、大きさ、色彩は基準どおりか。
2. 設置の位置、方向、数量は適切か。
3. 記載内容に誤りはないか。
4. 板照明をつけているか。反射式になっているか。
5. 破損、汚れ、変退色したものは補修をしたか。

## ◎ 保安施設

1. 形状、大きさ、色彩は基準どおりか。
2. 機能を発揮しているか。
3. 照度は基準どおりか。
4. 破損、故障したものは補修をしたか。

## 施設の説明

### 1. 工事標示板

工事標示板はドライバー等に対し、実施している工事情報を提供するために、工事開始から工事終了までの間設置する。

なお、標示板の設置にあたっては、様式-1を参考とするものとする。

#### (1) 工事内容

工事の内容、目的等をわかりやすく表現する。

#### (2) 工事期間

交通に支障を与える工事期間の終了日、工事時間帯を標示するものとする。

#### (3) 管更生工事(小口径)を実施する際の注記

臭気について注意を促す内容を標示するものとする。

#### (4) 工事種別

工事種別(下水道工事等)を標示するものとする。

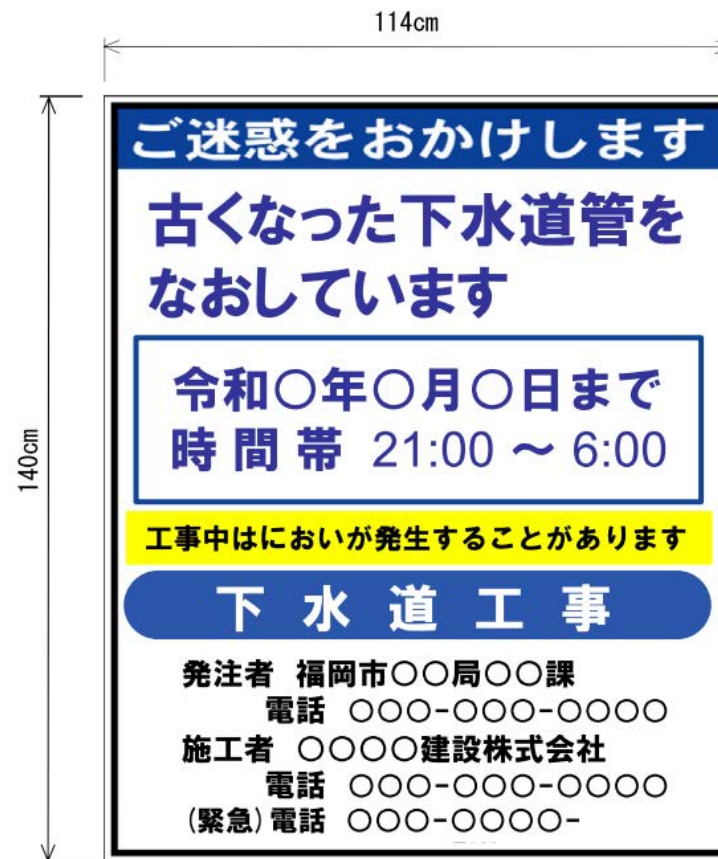
#### (5) 施工主体

施工主体及びその連絡先を標示するものとする。

#### (6) 施工業者

施工業者及びその連絡先を標示するものとする。

(様式-1)



- (注) 1 色彩は「ご迷惑をおかけします」等の挨拶文、「下水道工事」等の工事種別については青地に白抜き文字とし、「〇〇〇〇をなおしています」等の工事内容、工事期間については青色文字、その他の文字及び線は黒色、地を白色とする。
- 2 縁の余白は2cm、縁線の太さは1cm、区画線の太さは0.5cmとする。

## 2. う回路標示板

道路工事等のため、迂回路を設ける場合は、当該迂回路を必要とする時間中、迂回路の入口に迂回路の地図等を標示する標示板を設置し、迂回路の途中の各交差点（迷い込むおそれのない小分岐は除く）において、道路標識「まわり道」（120-A、120-B）を設置するものとする。（参考図-1、2を参照。）

なお、標示板の設置にあたっては、別表様式-2を参考とするものとし、ドライバー等が見やすいように配置する。

（様式-3）



120-A



120-B

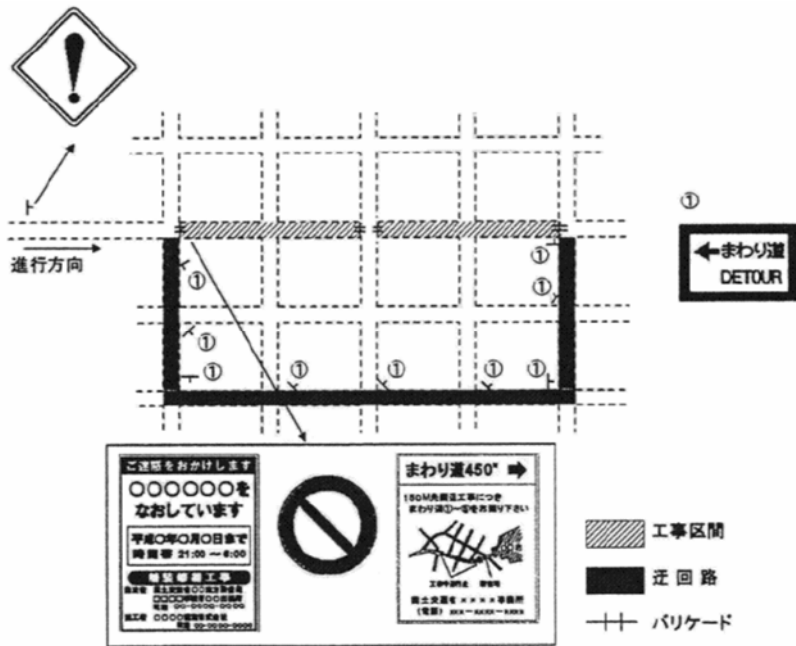
（様式-2）



- （注） 1 色彩は矢印を赤色、その他の文字及び記号を青色、地を白色とする。  
2 縁の余白は2 cm、縁線の太さは1 cmとする。

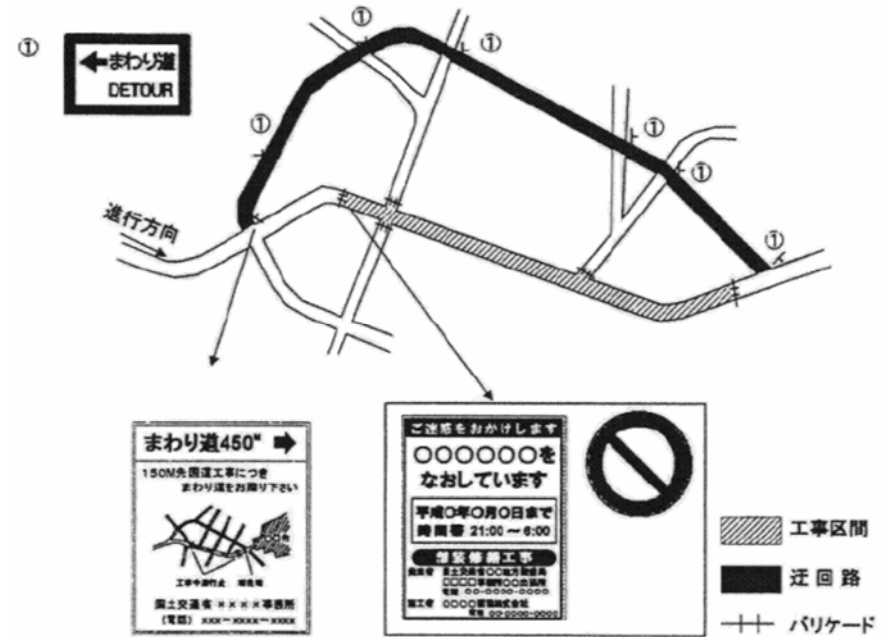
(参考図-1)

工事中迂回路の標示例 (市街部の場合)  
 (進行方向に対する標識の設置例を示す)



(参考図-2)

工事中迂回路の標示例 (地方部の場合)  
 (進行方向に対する標識の設置例を示す)



### 3. 工事現場における工事情報看板及び工事説明看板的設置

#### 1 工事情報看板的設置について

予定されている工事に関する情報を提供するため、工事を開始する約1週間前から工事を開始するまでの間、工事内容、工事期間等を標示する工事情報看板的を設置する。

ただし、短期間に完了する簡易な工事は、この限りではない。

なお、工事情報看板は様式-4、参考図-3を参考にドライバーから見えないうに設置する。

#### 2 工事説明看板的設置について

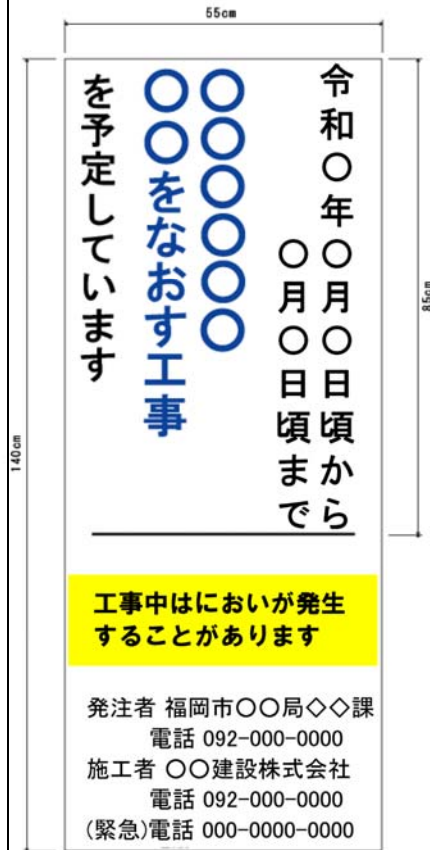
実施されている工事に関する情報を提供するため、工事を開始する工事開始から工事終了までの間、工事内容、工事期間等を標示する工事説明看板的を設置する。

ただし、短期間に完了する簡易な工事は、この限りではない。

なお、工事説明看板は様式-5、参考図-3を参考にドライバーから見えないうに設置する。

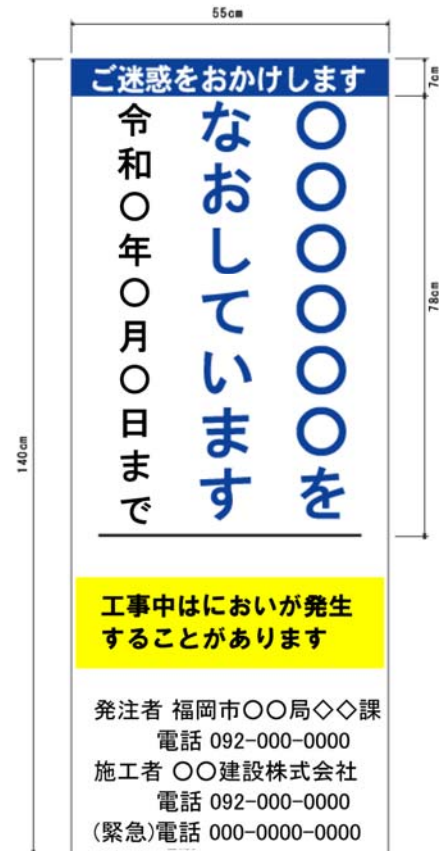
(様式-4)

工事情報看板  
(工事を予告するための看板)



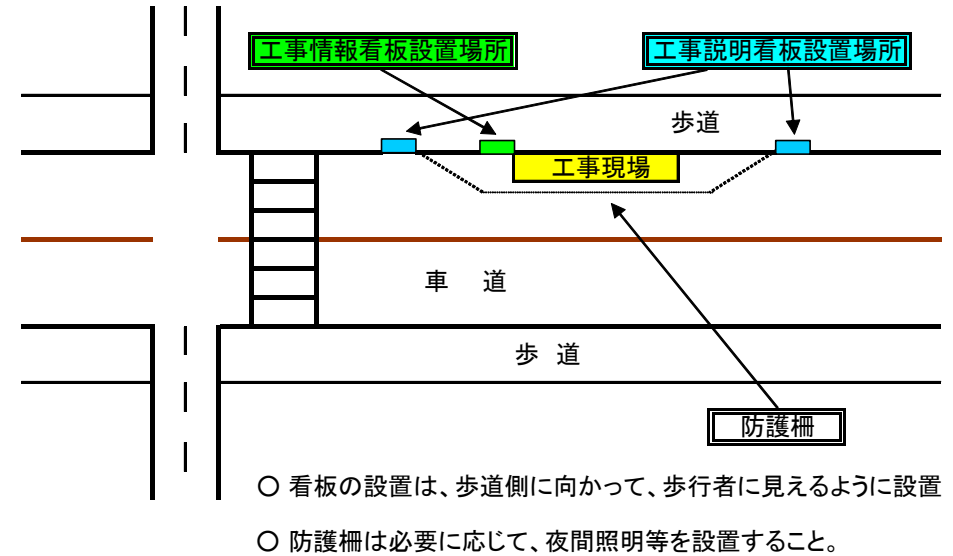
(様式-5)

工事説明看板  
(工事内容を説明する看板)



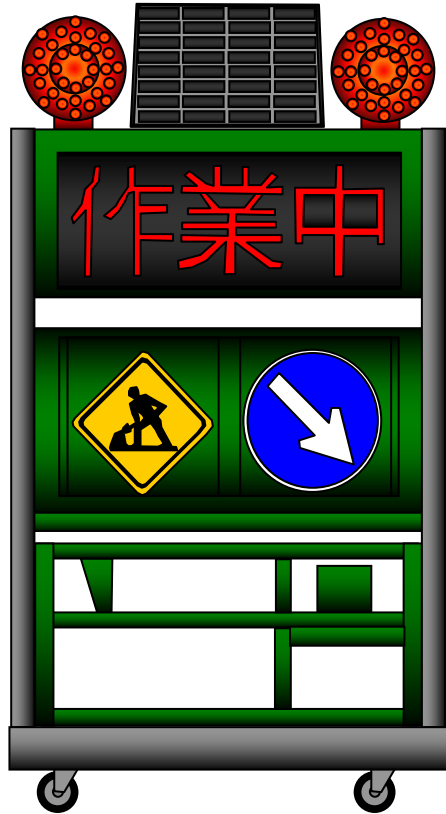
(参考図-3)

標示板の設置場所



#### 4. 電工標示板

工事現場（掘削及び占用区間）の起終点に設置する。規格は、下記寸法同等以上とする。



#### 5. 方向指示板

工事現場の前面または側面に、車両誘導のために反射式の方  
向指示版を設置すること。



## 6. 工事用看板

工事現場において、現場状況に応じた工事用看板を設置すること。

看板は白地、文字は赤色、又は、黄色地、文字は赤色又は黒色で表示すること。

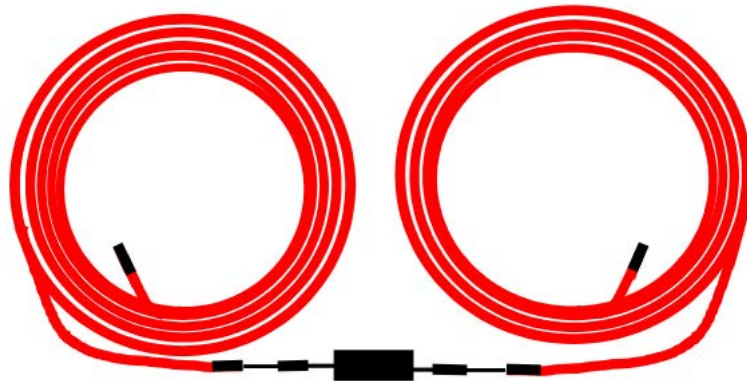
特に夜間工事の安全を図るため、「全面反射」又は「蛍光文字」とすること。



## 7. 保安灯

工事現場の囲いの部分には、高さ1メートル程度の高さに、夜間150メートル以上の距離から視認できる保安灯を交通流に対面する部分は2メートル程度、その他の道路に面する部分は3メートル程度の間隔で設置すること。

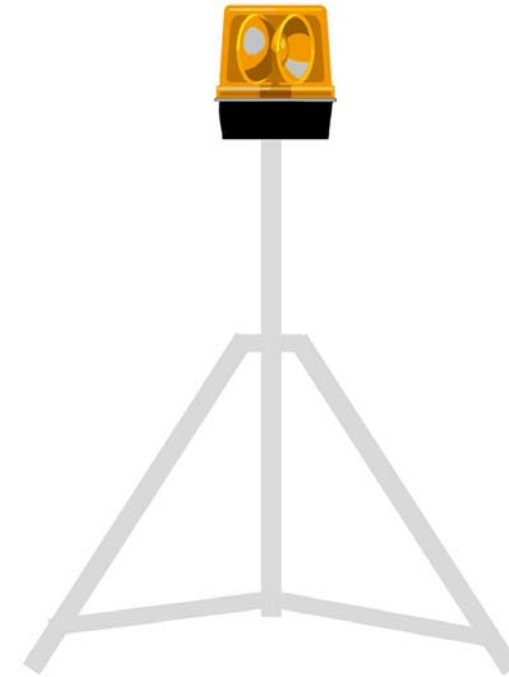
なお、保安灯はソーラー式又は、LEDチューブ式とする。



LEDチューブ式

## 8. 回転灯

工事現場の囲いの両端鋭角部及び角の部分には、視認距離夜間200メートル程度の黄色又は赤色回転灯を高さ2.4メートル程度の位置に設置すること。



## 9. 投光器

夜間に工事を行う場合には、投光器を設置し、作業が安全で円滑に進むようにすること。

## 10. 板照明

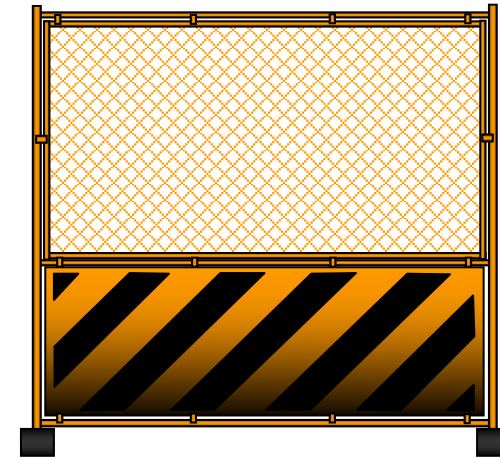
工事現場の各標示板の前面には、夜間100ワット以上の白色照明灯を設置すること。(お願い板は除く)ただし、付近に電源がない場合は、ソーラー式ライトを設置するか各標示板を反射仕様、高輝度反射仕様とすること。

## 11. 固定さく

工事現場の区域(作業場、材料置場及び工事用機械置場等を含む)は、他の周囲と明確に区分し、一般公衆が誤って立ち入らないよう固定さく又はこれに類する工作物を設置すること。

(建設工事防止対策要綱第2章第10条を参照のこと。)

(様式-8)

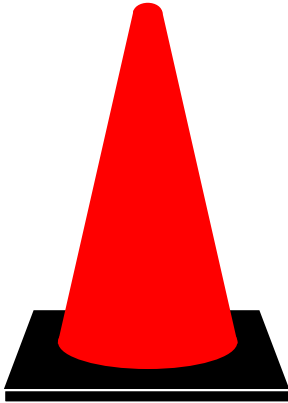


## 12. セイフティコーン

工事現場で車両誘導線・歩車道境界線等が必要な場合に設置するものとし、夜間又は昼夜間にわたって設置するものは、一部反射式とする。セイフティコーンの設置には、転倒防止のためのリングを必ず取付けること。

なお、連続設置する場合は、コーンバーで連結すること。

高さ70cm程度



### 13. 交通誘導警備員

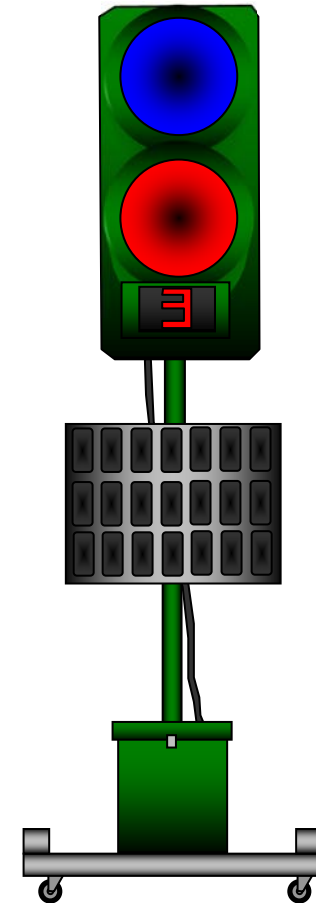
車両交通量が多い場所又は交差点付近等で工事を行う場合で、交通の危険・渋滞等が予想され、特に歩行者の安全が確保できない場合は、交通誘導員を配置すること。

また、配置する場合には、所轄警察署長の指示を行けること。

### 14. 簡易信号機

交通量の多い場所で工事を行う場合で、車両を片側交互通行させる場合に設置する。

ただし、設置については、所轄警察署長の指示を受けること。



15. 国土交通省管理道路

仕様書

本仕様書は、九州地方整備局の直轄管理区間における路上工事の際に設置する工事用看板について定める。  
 本仕様書に定めのない事項については、監督職員の指示に従うこと。

1. 反射式標示板

(1) 材料

使用する材料はカプセルレンズ型高輝度反射材を使用する。

(2) 性能

高輝度反射材は下記の反射性能、色度座標の範囲をもっていること。

反射性能（最低再帰反射係数）

観測角	入射角	白	黄	赤	緑	青	茶
1/3°	5°	180	122	25	21	14	8
	30°	100	67	14	11	7	4

茶色以外については、JISZ9101-1995 表－5 タイプ2の数値により決定した。

茶色については、米国規格 ASTMD4956 を参照し決定した。

印刷色の再帰反射係数は、上表の数値の70%以上でなければならない。

再帰反射光の色度座標の範囲

色	色度座標の範囲							
	1		2		3		4	
	x	y	x	y	x	y	x	y
白	350	360	300	310	285	325	340	370
黄	545	454	487	423	427	483	465	534
赤	690	310	595	315	569	341	655	345
青	078	171	150	220	210	160	137	038
緑	007	703	248	409	177	362	026	399
茶	430	340	610	390	550	450	430	390

茶色については、米国規格 ASTMD4956 を参照し決定した。

## 建設工事公衆災害防止対策要綱（抜粋）

### 第2章 作 業 場

#### 第10 作業場の区分

施工者は、土木工事を施工するに当たって作業し、材料を集積し、又は機械類を置く等工事のために使用する区域（以下「作業場」という。）を周囲から明確に区分し、この区域以外の場所を使用してはならない。

- 2 施工者は、公衆が誤って作業場に立ち入ることのないよう、固定さく又はこれに類する工作物を設置しなければならない。ただし、その工作物に代わる既設のへい、さく等があり、そのへい、さく等が境界を明らかにして、公衆が誤って立ち入ることを防止する目的にかなうものである場合には、そのへい、さく等をもって代えることができるものとする。

また、移動を伴う道路維持修繕工事、軽易な埋設工事等において、移動さく、道路標識、標示板、保安灯、セイフティコーン等で十分安全が確保される場合には、これをもって代えることができるものとする。

- 3 前項のさく等は、その作業場を周囲から明確に区分し、公衆の安全を図るものであって、作業環境と使用目的によって構造を決定すべきものであるが、特に風等により転倒しないよう十分安定したものでなければならない。

#### 第11 さくの規格、寸法

固定さくの高さは1.2メートル以上とし、通行者（自動車等を含む。）の視界を妨げないようにする必要がある場合は、さくの上の部分に金網等で張り、見通しをよくするものとする。

- 2 移動さくは、高さ0.8メートル以上1メートル以下、長さ1メートル以上1.5メートル以下で、支柱の上端に幅15センチメートル程度の横板を取り付けてあるものを標準とし、公衆の通行が禁止されていることが明らかにわかるものであって、かつ、容易に転倒しないものでなければならない。また、移動さくの高さが1メートル以上となる場合は、金網等を張付けるものとする。

#### 第12 さくの彩色

固定さくの袴部分及び移動さくの横板部分は、黄色と黒色を交互に斜縞に彩色（反射処理）するものとし、彩色する各縞の幅は10センチメートル以上15センチメートル以下、水平との角度は45度を標準とする。ただし、袴及び横板の3分の2以下の部分に黄色又は白色で彩色した箇所を設け、この部分に工事名、起業者名、施工者名、公衆への注意事項等を記入することはさしつかえない。

#### 第13 移動さくの設置及び撤去方法

施工者は、移動さくを連続して設置する場合には、原則として移動さくの長さを超えるような間隔をあけてはならず、かつ、移動さく間には保安灯又はセイフティコーンを置き、作業場の範囲を明確にしなければならない。

- 2 施工者は、移動さくを屈曲して設置する場合には、その部分は間隔をあけてはならない。また、交通流に対面する部分に移動さくを設置する場合は、原則としてすりつけ区間を設け、かつ、間隔をあけないようにしなければならない。
- 3 施工者は、歩行者及び自転車が移動さくに沿って通行する部分の移動さくの設置に当たっては、移動さくの間隔をあけないようにし、又は移動さくの間安全ロープ等を張ってすき間のないよう措置しなければならない。
- 4 施工者は、移動さくの設置及び撤去に当たっては、交通の流れを妨げないよう行わなければならない。

### 第3章 交通対策

#### 第22 車両交通のための路面維持

施工者は、道路を掘削した箇所を車両の交通の用に供しようとするときは、埋戻したのち、原則として、仮舗装を行い、又は覆工を行う等の措置を講じなければならない。この場合、周囲の路面との段差を生じないようにしなければならない。

やむを得ない理由で段差が生じた場合は、5パーセント以内の勾配ですりつけるものとし施工上すりつけが困難な場合には、標示板等によって通行車両に予知させなければならない。

- 2 施工者は、道路敷において又は道路敷に接して工事を行う場合で、特に地下掘進工事を行うときは、路面の変状観測を行うものとし、必要に応じ、本章各項に規定する設置を講じなければならない。

### 第7章 覆工

#### 第57 覆工部の表面

施工者は、段差を生じないように覆工板を取り付けなければならない。やむを得ず段差が生じるときは、適切にすりつけを行わなければならない。

- 2 施工者は、各覆工板の間にすき間を生じないように覆工板を取り付けなければならない。

#### 第67 維持管理

施工者は、覆工部については、保安要員を配置し、常時点検してその機能維持に万全を期するとともに、特に次の各号に注意しなければならない。

- 一 覆工板の磨耗、支承部における変形等による強度の低下に注意し、所要の強度を保つよう維持点検すること。
- 二 滑止め加工のはく離、滑止め突起の磨滅等による機能低下のないよう維持点検すること。
- 三 覆工板のはね上がりやゆるみによる騒音の発生、冬期の凍結及び振動による移動についても維持点検すること。

四 覆工板の損傷等による交換に備え、常に予備覆工板を資材置場等に用意しておくこと。

### 第17章 その他

#### 第112 整理整頓

施工者は、作業場の内外は常に整理整頓し、塵埃等により周辺に迷惑の及ぶことのないように注意しなければならない。特に、民地等に隣接した作業場においては、機械、材料等の仮置には十分配慮し、緊急時に支障とならない状態にしておかなければならない。

#### 第114 巡視

施工者は、工事作業場内及びその周辺の安全巡視を励行し、事故防止施設の整備及びその維持管理に努めなければならない。

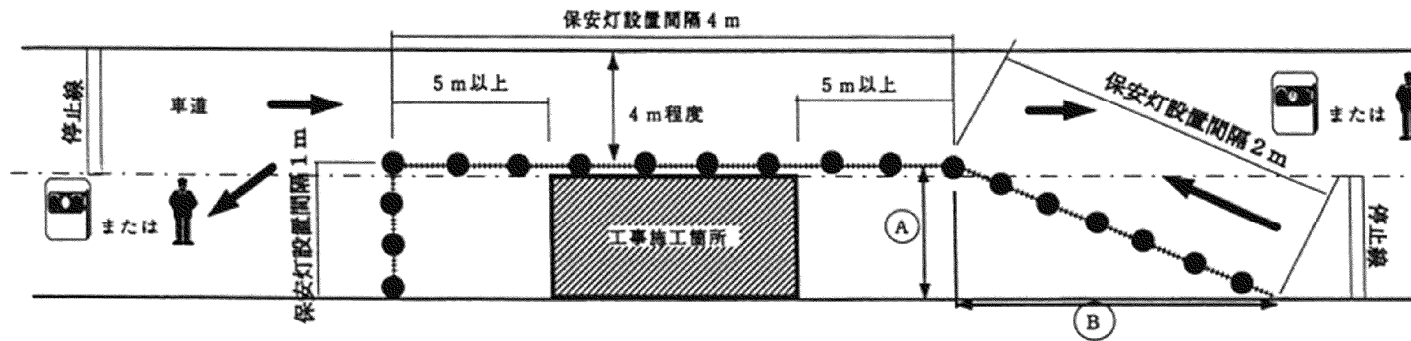
- 2 施工者は、安全巡視に当たっては、十分な経験を有する技術者、関係法規に精通している者等安全巡視に十分な知識のある者を選任しなければならない。

## 保安施設配置図（参考）の運用説明

1. 当保安施設配置図（タイプ1～3）は、参考として必要最小限の保安施設を配置したものである。
2. 工事現場においては、現場に適した配置を行うとともに、所轄警察署長の指示に従わなければならない。

# 保安施設タイプ 1 (参考)

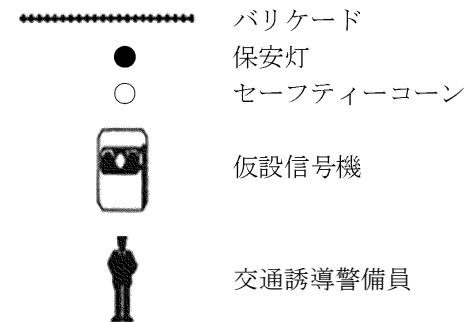
道路工事の保安施設 (歩道がなく、通行車線が 4 m 程度しか確保できない場合)



- 1) 歩行者、自動車等を安全に通行させるため、極力、迂回路等を設定・設置し自動車歩行者の確保に努めること。
- 2) 停止線の位置に仮設信号機または交通誘導警備員を配置すること。交通誘導警備員の場合は各車線につき1名をおくこと。

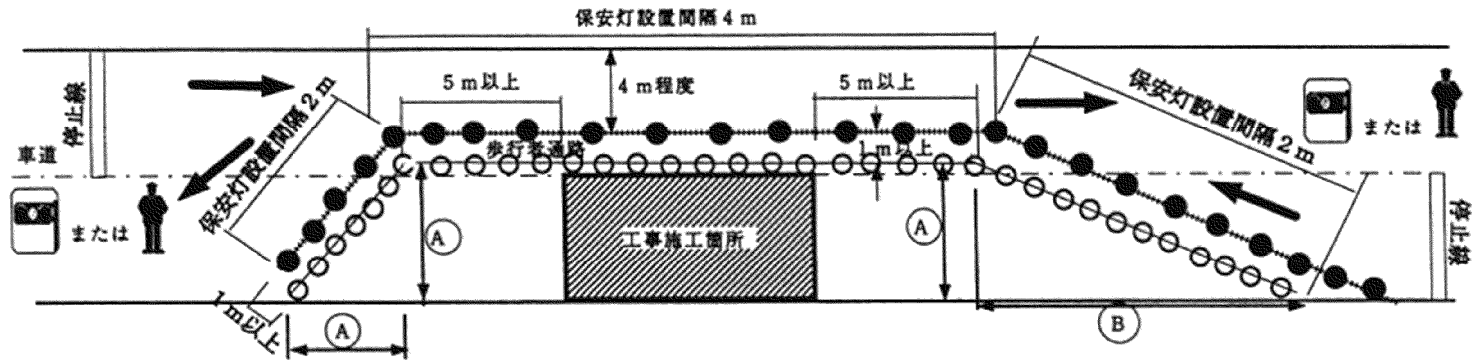
Ⓐ に対する Ⓑ の値(割合)

施工区間の制限速度	Ⓐ	Ⓑ
30km/h	1	4
40km/h	1	6
50km/h	1	8
60km/h	1	10

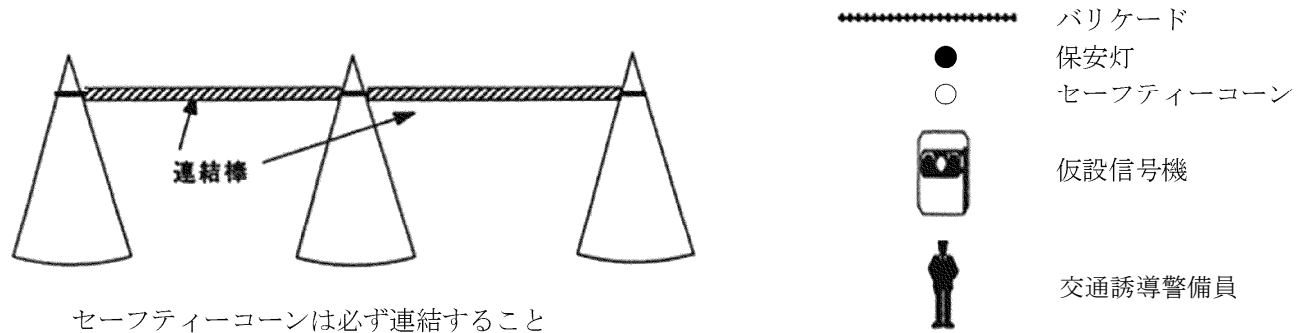


## 保安施設タイプ 2 (参考)

道路工事の保安施設 (歩道がなく、通行車線を 4 m 程度と歩行者用道路を 1 m 以上確保できる場合)

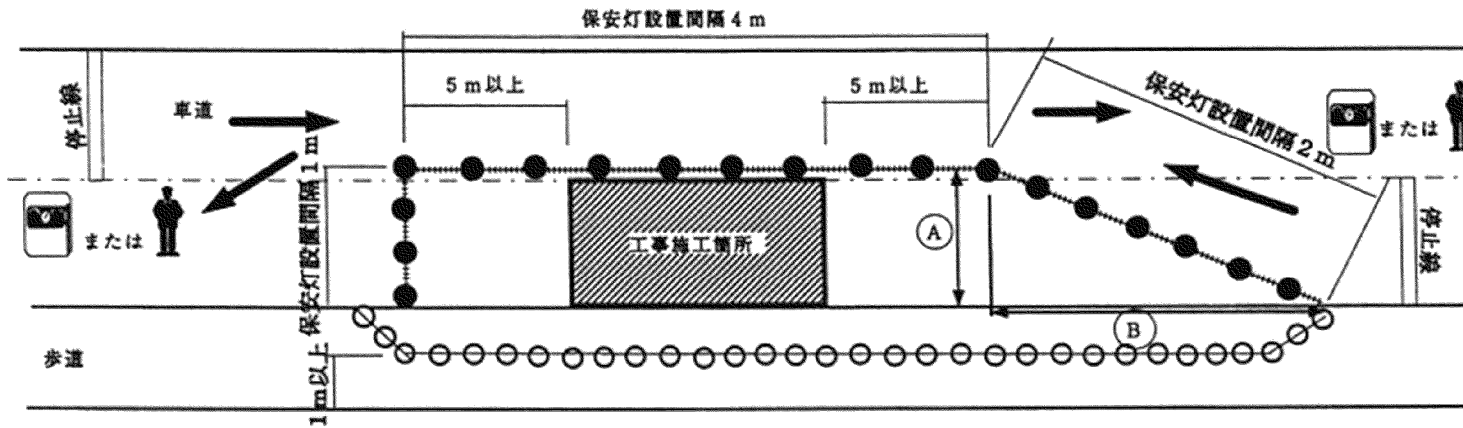


- 1) 歩行者、自動車等が安全に通行できる通路は、原則として幅1m以上を確保すること。
- 2) 停止線の位置に仮設信号機または交通誘導警備員を配置すること。交通誘導警備員の場合は各車線につき1名をおくこと。
- 3) 歩行者通路のセーフティコーンは現場状況に応じてバリケード等を検討すること。

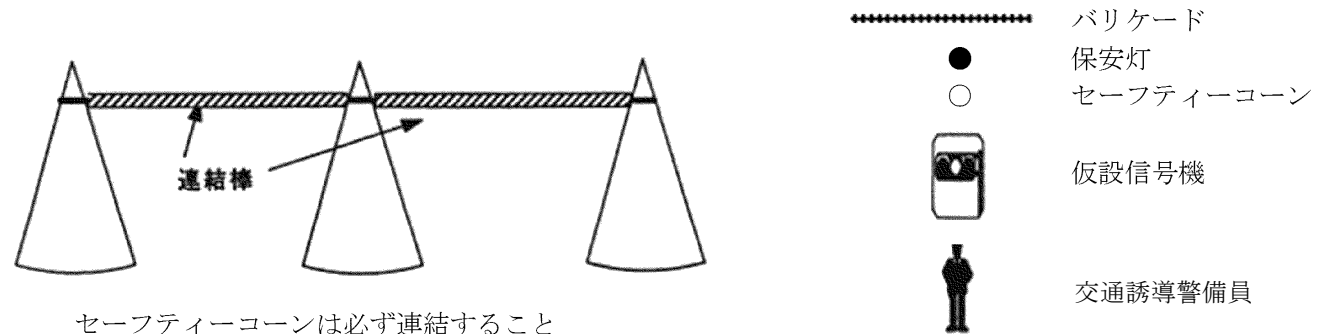


## 保安施設タイプ3（参考）

道路工事の保安施設（十分な幅員の歩道がある場合）



- 1) 歩行者、自動車等が安全に通行できる通路は、原則として幅1m以上を確保すること。
- 2) 停止線の位置に仮設信号機または交通誘導警備員を配置すること。交通誘導警備員の場合は各車線につき1名をおくこと。
- 3) 歩行者側のセーフティーコーンは現場状況に応じてバリケード等を検討すること。



**【その他】**

# 材 料 表

## 1) コンクリート

構造物種別	形状等	型枠		コンクリート		鉄筋	備考
		種別	種別	強度	強度		
基礎・捨コンクリート	推進立坑基礎も含む	均しコンクリート	無筋構造物	18-8-40			
管基礎工	(i)基礎高H≦20cm	均しコンクリート	小型構造物	18-8-40	SD345		
	(ii)全巻ヒューム管等でφ800～1m3/断面以上	無筋構造物	無筋構造物	18-8-40			
	(i)、(ii)以外	小型構造物	小型構造物	18-8-40			
円形標準現場打人孔(無筋)開口、底部補強鉄筋を含む	底部工	底版、インパート	均しコンクリート	小型構造物	18-8-40	SD345	鉄筋は構造計算により必要に応じ計上
	壁立上がり	1～5号の円形部	マンホール鋼製型枠	小型構造物	18-8-40	SD345	
		1～5号マンホール以外の円形部	合板円形型枠			SD345	
		円形部以外の部分	鋼製・合板型枠			SD345	
	副管工		小型構造物	小型構造物	18-8-40		
床板工		鉄筋構造物	鉄筋構造物	24-8-20(25)	SD345		
現場打特殊人孔円形及び矩形	床板工		鉄筋構造物	鉄筋構造物	24-8-20(25)	SD345	
	壁立上がり		鉄筋構造物	鉄筋構造物	24-8-20(25)	SD345	
	底版		鉄筋構造物	鉄筋構造物	24-8-20(25)	SD345	
	底部工	インパート	均しコンクリート	小型構造物	18-8-40		
組立人孔	底部工	—	小型構造物	18-8-40			
	笠上げコンクリート	推進管高さ&体下流管底高の調整用(底版と基礎コン間)	小型構造物	小型構造物	18-8-40		
ボックスカルバート	1層2連土被り9mまで	鉄筋構造物	鉄筋構造物	24-8-20(25)	SD345	土木工事設計標準歩掛Ⅱ-2共通工(24)の適用範囲に注意すること。	
	上記以外	鉄筋構造物	鉄筋構造物				
樹(汚水、集水)	V<1.0m3(1箇所当り)	小型構造物	小型構造物	18-8-40	SD345		
	V≧1.0m3(1箇所当り)	無筋構造物	無筋構造物	18-8-40	SD345		
側溝三面水路	A≦1.0m2(断面積)	小型構造物	小型構造物	18-8-40	SD345		
	A>1.0m2(断面積)	無筋構造物	無筋構造物	18-8-40	SD345		
側溝蓋及び樹蓋		小型構造物	鉄筋構造物	24-8-20(25)	SD345		
歩車道境界基礎等		小型構造物	小型構造物	18-8-40			
重力式擁壁	(1)	無筋構造物	無筋構造物	18-8-40	SD345	土木工事標準歩掛Ⅱ-2共通工⑤の適用範囲により(1)、(2)を区分	
	(2)：(1)を外れるもの	無筋構造物	無筋構造物	18-8-40	SD345		
支圧壁	推進工法	無筋構造物	無筋構造物	18-8-40	SD345	鉄筋は構造計算により必要に応じ計上	
坑口コンクリート	推進工法	無筋構造物	無筋構造物	18-8-40			
鋼製ケーシング立坑	水中コンクリート	—	—	30-18-20(25)			

注1) 強度

$$\frac{18}{\text{設計強度 (N/mm}^2\text{)}} - \frac{8}{\text{スランプ (cm)}} - \frac{20}{\text{最大骨材寸法 (mm)}}$$

注2) 一般環境条件の構造物の水セメント比は、無筋コンクリート（均しは除く）は60%以下、鉄筋コンクリートは55%以下とすること。

下水道施設における水密性や耐久性が求められる構造物の水セメント比は55%以下とする。それに伴い、原則として呼び強度24Nのコンクリートを設計・施工に採用することとする。浮力に対する対応や施工幅などを設計条件が決定される場合は24N以外のコンクリートを設計・施工へ採用することができることとする。

（下水道施設における土木コンクリート構造物の設計についてH13. 8. 23国交省都市・地域整備局下水道部）

## 2) セメント材

分 類	単 位	セメント(kg)	砂(m <sup>3</sup> )	備 考
モルタル (1:2)	m <sup>3</sup>	720.0	0.95	インバート上塗工、二次製品目地モルタル工等
モルタル (1:3)	//	530.0	1.05	マンホール用ブロック据付工、二次製品敷モルタル工等

※マンホール用蓋据付工は、流動性特殊モルタルとする。

## 3) 基礎工

人孔、管渠、側溝等の基礎工においては、原則として再生クラッシャーラン基礎とする。ただし、地下水が多い場合や軟弱地盤等において、特別の配慮が必要な場合においては別途考慮すること。

- ・普通土地盤 …………… クラッシャーラン基礎（再生材を標準とする）
- ・軟弱地盤 …………… 栗石基礎（再生材を標準とする）
- ・超軟弱地盤 …………… 杭基礎等

公共下水道台帳凡例（施設平面図）

記号	種別	記号寸法	説明	記号	種別	記号寸法	説明
	処理区域	8号線 (0.4mm)	認可区域		立上がり人孔	3号線 (0.15mm)	構造図を併記する。
	処理区	〃	告示区域		灯孔	〃	〃
	排水区域	〃	認可区域		矩形人孔	〃	内寸法が150cm未満で枝線。
	排水区	〃	告示区域		特殊矩形人孔	〃	上記以外の矩形人孔。構造図を併記する。
	合流区域界	3号線 (0.15mm)			雨水吐室	〃	構造図を併記する。
	円形小人孔 内径60cm	〃			防潮扉室	〃	〃
	円形人孔 内径75cm	〃			副管付人孔	〃	〃
	特1号人孔 内径60cm×90cm	〃			トップ人孔	5号線 (0.25cm)	
	円形1号人孔 内径90cm	〃			振分人孔	〃	
	円形2号人孔 内径120cm	〃			小口径汚水ます 内径20cm	2号線 (0.10cm)	平成11年8月基準改訂より内径20cm (以前は内径15cm)
	円形3号人孔 内径150cm	〃			A型汚水ます 内径45cm (蓋 30cm)		
	円形4号人孔 内径180cm	〃	S57年度以前の施工分 については内径200cm		汚水ます 内径45cm	2号線 (0.10mm)	
	円形5号人孔 内径200cm	〃	S57年度以前の施工分 については内径250cm		汚水ます 内径60cm	〃	
	円形特人孔 5号人孔以上	〃	構造図を併記する。		特殊汚水ます 上記以外の汚水ます	〃	
	楕円形人孔	〃	〃		雨水ます 内径45cm	〃	

公共下水道台帳凡例（施設平面図）

記号	種別	記号寸法	説明	記号	種別	記号寸法	説明
	特殊雨水ます 上記以外の雨水ます	2号線 (0.10 mm)	側溝のますを含む。		開水路	3号線 (0.15 mm)	
	伏越	3号線 (0.15 mm)	構造図を併記する。		蓋付水路	〃	
	汚水管	7号線 (0.35 mm)	汚水幹線以外の枝線。	UA	水路側溝 180×180	PLNO ITEM 60CL 0000	
	汚水幹線	5号線 (0.25 mm)	幹線のみ。	UB	〃 240×240	〃	
	雨水管	7号線 (0.35 mm)	雨水幹線以外の枝線。	UC	〃 300×240	〃	
	雨水幹線	5号線 (0.25 mm)	幹線のみ。	UD	〃 300×300	〃	
	L型側溝	3号線 (0.15 mm)		UE	〃 300×360	〃	
	U型側溝（蓋あり）	〃		UF	〃 360×300	〃	
	U型側溝（蓋なし）	〃		UG	〃 360×360	〃	
	水路（暗きよ）	4号線 (0.20 mm)	巾は現寸。	UH	〃 450×450	〃	
	下水処理場	〃	名称を併記する。	UI	〃 600×600	〃	
	ポンプ場	〃	〃		圧送管		5 cm間隔に⊕を記入する。
	円形管	3号線 (0.15 mm)		H	ヒューム管	PLNO ITEM 80CL 00	
	馬蹄形渠	〃		C	コンクリート管	〃	
	矩形渠	〃		T	陶管	〃	

公共下水道台帳凡例（施設平面図）

記号	種別	記号寸法	説明	記号	種別	記号寸法	説明
V	硬質塩化ビニル管	PLNO ITEM 80CL 00			階段、石段	4号線(0.2mm) 2号線(0.1mm)	
FRP	強化プラスチック複合管	〃			石積(大)	3号線 (0.15mm)	
RCP	ビョンコンクリート管	〃			石積(小)	〃	
CIP	铸铁管	〃			コンクリート(大)	〃	
	人孔番号及び地盤高 (T. P)	PLNO ITEM線 140CL 0 3号線 100CL 00(0.15mm)	雨水人孔は人孔番号の左 に〔ウ〕の字を記入する。		〃 (小)	〃	
	水路底高(T. P)	PLNO ITEM線 60CL 00003号線 (0.15mm)			ブロック積(大)	〃	
	人孔の深さ	PLNO ITEM 50CL 0000			〃 (小)	〃	
57 ◎250T 5.2‰ 30.00	年度、管種、管径、 勾配、延長	PLNO ITEM 80CL 00	雨水管については年度の前に 〔ウ〕の字を記入する。		いそ、岩礁	〃	
	側溝種別、延長	PLNO ITEM 60CL 0000			海岸線(砂浜)	〃	
	水準点	3号線 000 (0.25mm) 80CL			湖、沼、溜池	〃	
	家屋	3号線 (0.15mm)			等高線、標高	〃 PLNO ITEM 60CL 0000	
	道路	〃			神社	4号線 (0.2mm)	
	切土部	〃			寺院	〃	
	盛土	〃 (0.50mm)		文	学校	〃	
	鉄道	10号線 (0.50mm)	単線の場合。 (複線の場合は並列)	田	病院	2号線 4号線(十字) (0.2mm)	

公共下水道台帳凡例（施設平面図）

記号	種別	記号寸法	説明	記号	種別	記号寸法	説明
×	駐在所、派出所	4号線 (0.2mm)					
Y	消防署	4号線 (0.2mm)					
⊕	郵便局	〃					
⊕	電報電話局	〃					
	下水道用地	赤により ボカシ	整理番号を記入する。				
	地上権設定	赤により ボカシ2号線	〃				
	番地	PLNO ITEM 60CL 00 (白ヌキ)					

初 版	昭和 5 7 年	4 月	1 日
改訂版	昭和 5 8 年	4 月	1 日
改訂版	昭和 5 9 年	9 月	1 日
改訂版	昭和 6 1 年	4 月	1 日
改訂版	昭和 6 3 年	2 月	1 日
改訂版	平成 3 年	4 月	1 日
改訂版	平成 5 年	4 月	1 日
改訂版	平成 9 年	9 月	8 日
改訂版	平成 1 1 年	1 2 月	
改訂版	平成 1 6 年	7 月	1 日
改訂版	平成 1 9 年	5 月	
改訂版	平成 3 0 年	3 月	
改訂版	令和 8 年	4 月	